

大富団地（I棟・M棟）建替工事（建築）（R8）

（I・M棟 2LDK）

令和 8 年度

竹富町建設課

| | | | |
|------|----------------------------|-------|-----------------|
| 工事名称 | 大富団地建替工事（建築） | 工事年度 | 令和 7 年度 |
| 工事場所 | 竹富町宇南風見仲地内 | 図面名称 | 2LDK表紙 |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | - |
| 摘要 | | 図面番号 | A - 000 |
| 審査 | 課長 (副参事) (設備事業監) 班長 主幹 担当者 | 名称 | (有)朝吹設計事務所 |
| | | 資格者氏名 | 代表者 朝吹 一郎 |
| | | 登録番号 | 一級建築士 第114962号 |
| | | 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 |

| 建築工事特記仕様書 [建築工事編] 沖縄県土木建築部 | |
|---|-----------------------|
| 令和6年7月改定版 | |
| 1 工事概要 | |
| (1) 工事名 : 大富団地建替工事 | |
| (2) 工事場所 : 八重山郡竹富町字南風見仲地内(地域地区等:都市計画区域外) | |
| (3) 敷地面積 : _____ m ² | |
| (4) 工事種目 : 改築工事 | |
| ア 建築物 | |
| 建築物の名称 | 大富団地建替工事 |
| 主要用途 | 公営住宅 |
| 構造及び階数 | 鉄筋コンクリート造 平屋建て |
| 工事種別 | 建築工事一式 |
| 建築面積 | 143.04 m ² |
| 延べ面積 | 114.07 m ² |
| イ 工作物及び立木 | |
| 工作物等の名称 | |
| 数量 | |
| 2 本工事の設計時期 | |
| 本工事の設計書は、令和 6 年 12月時点での沖縄県土木建築部建築工事積算基準及び公共工事設計労務単価等に基づいて作成している。 | |
| 3 建築工事仕様 | |
| (1) 標準仕様 | |
| 図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)」[令和4年版(最新版)](以下「標準仕様書」という。)による。 | |
| (2) 特記仕様 | |
| ア 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。 | |
| イ 特記事項は、「・」に○印の付いたものを適用する。「・」に○印がつかない場合は「※」の付いたものを適用する。「・」と「※」に○印がついた場合は共に適用する。 | |
| ウ 項目及び特記事項に記載の()内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。 | |
| エ 特記事項に記載の(参-)は、標準仕様書の参考資料4各部配筋参考図の当該項目を示す。 | |
| 4 その他 | |
| (1) 公共事業労務費調査に対する協力 | |
| ア 本工事が公共事業労務費調査の対象工事となった場合、調査票等に必要事項を正確に記入し、必要な協力を行わなければならない。また、本工事の完成後においても、同様とする。 | |
| イ 調査票等を提出した事業所を事後に訪問して行う調査・指導等の対象になった場合、その実施に協力しなければならない。また、本工事の完成後においても、同様とする。 | |
| ウ 公共事業労務費調査の対象工事となった場合に正確な調査票等の提出が行えるよう、労働基準法等に従って就業規則を作成するとともに、賃金台帳を調製・保存する等、日頃より雇用している現場労働者の賃金時間管理を適切に行っておかなければならない | |
| エ 本工事の一部について下請契約を締結する場合には、当該下請工事の受注者(当該下請工事の一部に係る二次以降の下請負人を含む。)がアからウまでと同様の義務を負う旨を定めなければならない。 | |
| (2) 暴力団員等による不当介入の排除対策 | |
| 受注者は、当該工事の施工に当たって「沖縄県土木建築部発注工事における暴力団員等による不当介入の排除手続きに関する合意書(平成19年7月24日)に基づき、次に関する事項を遵守しなければならない。なお、違反したことが判明した場合は、指名停止等の措置を行うなど、厳正に対処するものとする。 | |
| ア 暴力団員等から不当要求を受けた場合は、毅然として拒否し、その旨を速やかに監督員に報告するとともに、所轄の警察署等に被害の届出を行い、捜査上必要な協力を行うこと。 | |
| イ 暴力団員等から不当要求による被害又は工事妨害を受けた場合は、速やかに監督員に報告するとともに所轄の警察署等に被害の届出を行うこと。 | |
| ウ 暴力団員等に対する排除対策を講じたにもかかわらず、工事に遅れが生じるおそれがある場合は、速やかに監督員と工程に関する協議を行うこと。 | |
| (3) ウィークリースタンスの実施 | |
| 工事現場環境に関しては、ウィークリースタンス実施要領の3.取組内容について、業務着手時の打合せ時に確認、調整し、取組内容を設定すること。なお、取組内容は打合せ記録簿へ記録し、受発注者で設定すること。なお、取組内容は打合せ記録簿へ記録し、受発注者で共有すること。 | |
| 当該要領については、沖縄県技術・建設業課のホームページ(下記アドレス)を参照すること。 https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/doboku/gijiken/kankeitosyo.html | |
| (4) 工事監理業務への協力等 | |
| ア 本工事の工事監理業務(建築工事監理業務委託契約に基づき、建築士法第2条第8項並びに同法第18条第3項に掲げる工事監理を行う業務をいう。以下同じ。)は、別途委託契約を締結することとしており、本工事の現場代理人等は、当該工事監理業務の履行に協力すること。 | |

| | | |
|--|---|--|
| イ 工事監理業務の受注者が配置した管理技術者、主任担当技術者並びに担当技術者(以下「管理技術者等」という。)の氏名等は、発注者から通知する。なお、管理技術者等は本工事に関する指示・承諾・協議の権限は有しない。 | ウ 設計図書において監督員に提出することとなっている書類は、原則として管理技術者等に提出すること。 | エ 建設業法第23条の2の規程に基づく工事監理に対する報告の書類は、監督員に提出すること。 |
| (5) 本工事の請負代金額の変更協議をする場合及び本工事と関連する工事を本工事受注者と随意契約する場合の取扱いについて 本工事の請負代金額の変更協議をする場合又は本工事と関連する工事を本工事受注者と随意契約する場合にあたって、変更協議または関連する工事の予定価格の算定は、本工事の請負比率(元契約額÷元設計額)を変更設計額または関連工事の設計額に乗じた額で行う。 | (6) 県産資材の優先使用 本工事に使用する資材等のうち、沖縄県内で生産、製造され、かつ、規格、品質、価格等が適正である場合はこれを優先して使用するよう努めなければならない。なお、主要建設資材の使用状況を「県産建設資材使用状況報告書」にて報告すること。 | (7) 下請業者の県内企業優先活用 請負業者は、下請契約の相手方を県内企業(主たる営業所を沖縄県内に有する者。)から選定するように努めなければならない。 |
| (8) 不発弾等発見時の処理について 本工事において、不発弾等が発見された場合には、警察署(交番、駐在所)に報告すると共に、監督員を通して関連市町村(防災主管課)、沖縄県知事室防災危機管理課及び沖縄県土木建築部技術・建設業課に報告すること。 | また、発見された不発弾等については、警察署または自衛隊より指示等があるまでは、触れずにそのままの状態で保存すること。 なお、これについては、下請業者へも周知すること。 | (9) ダンプトラック等の過積載等の防止について ア 工事用資機材等の積載超過がないようにするとともに交通安全管理を十分に行うこと。 イ 過積載を行っている資材納入者から資材購入をしないこと。 ウ 資材等の過積載を防止するため、資材の購入等に当たっては、資材納入業者等の利益を不当に害することのないようにすること。 エ さし枠の装置または物品積載装置の不正改造をしたダンプカーが工事現場に入ることがないようにすること。 オ 「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止に関する特別措置法(以下「法」という。)の目的に鑑み、法第12条に規定する団体等の設立状況を踏まえ、同団体等の加入者の使用を促進すること。 カ 下請契約の相手方又は資材納入者を選定するにあたっては、交通安全に関する配慮に欠けるもの又は業務に関しダンプトラック等によって悪質かつ重大な事故を発生させたものを排除すること。 キ アからカの事につき、下請契約における受注者を指導すること。 |
| (10) 不正軽油の使用の禁止等について ア 受注者は、工事の施工に当たり、工事現場で使用し、若しくは使用させる車両(資機材等の搬出入車両を含む。)又は建設機械等の燃料として、不正軽油(地方税法第144条の32の規定に違反する燃料をいう。)を使用し、又は使用させてはならない。 イ 受注者は、県の税務当局が実施する使用燃料の抜取調査に協力しなければならない。 | (11) 設計図書における資材等の取扱いについて ア 本工事の設計図書及び参考図に示す資材等については、特定企業の製品又は工法を指定するものではない。 イ 本工事で使用する資材等については、設計図書及び参考図のとおり品の品質規格・仕様等で積算しており、その品質規格・仕様等と同等品以上の資材を使用すること。なお、使用にあたっては監督職員の承諾を得るものとする。 ウ 「参考図」は建設工事請負契約約款第1条に定める設計図書ではなく、発注者の積算の透明性を確保し入札者の積算、工事費内訳書作成の効率化を図ることを目的に「参考資料」として提示するものである。 | (12) ガイドライン等の遵守について 設計変更等については、契約書18条から24条に記載しているところであるが、その具体的な考え方や手続きについては、「工事請負契約における設計変更ガイドライン(営繕工事編)」(沖縄県土木建築部)によるものとする。 |
| (13) 本工事の予定価格に占める法定福利費概算額について ア 受注者は、契約締結後15日以内に、監督員を経由して請負代金内訳書を提出し、請負代金内訳書には、工事現場に従事する現場労働者に係る社会保険料(健康保険、厚生年金保険及び雇用保険をいう。)の内の事業主が納付義務を負う保険料(以降「法定福利費」という。)を明示すること。 また、明示する法定福利費の算出に当たっては、各専門工事業団体が作成した標準見積書に沿って作成された法定福利費を内訳明示した下請企業の見積りの活用等の方法により適正に見積もることが必要であり、「法定福利費を内訳明示した見積書の作成手順」に準拠する等により適切に算出すること。 イ 発注者は、受注者から提出された請負代金内訳書に明示された法定福利費と予定価格に占める法定福利費概算額について確認を行い、「一定以上の乖離がある場合」は、受注者に対して説明を求め、場合によっては、建設業法第19条の3に違反するおそれがないか確認します。 【法定福利費を内訳明示した見積書の作成手順(国土交通省HP)】 https://www.mlit.go.jp/common/001090440.pdf 【法定福利費を内訳明示した見積書の作成手順(簡易版)(国土交通省HP)】 https://www.mlit.go.jp/common/001203247.pdf 【各団体が作成した標準見積書(国土交通省HP)】 ホーム>政策・仕事>土地・建設産業>建設産業・不動産業>各団体が作成した標準見積書 https://www.mlit.go.jp/totikensangyo/const/totikensangyo_const_tk2_000082.html | | |

| 章 項 目 | 特 記 事 項 |
|--------------------------|--|
| ① ① 適用基準等 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 建築工事監理指針(令和4年版)国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 ○ 建築工事標準詳細図(令和4年版)国土交通省大臣官房官庁営繕部 ○ 敷地調査共通仕様書(令和4年版)国土交通省大臣官房官庁営繕部 ○ 建築材料・設備機材等品質性能評価事業 建築材料等評価名簿(令和6年版)(一社)公共建築協会 ○ 営繕工事写真撮影要領(令和5年版) ○ 磁気探査実施要領(令和2年1月)沖縄県土木建築部 ○ 沖縄県土木建築部における公共建設工事の分別解体再資源化および再生資源活用に関する実施要領(平成25年12月)沖縄県土木建築部 ○ 構造計画・施工計画・建築設備計画の留意事項(令和4年4月)沖縄県土木建築部 |
| ② ② 工事実績情報の登録(1.1.4) | 登録する。ただし、工事請負代金額が500万円未満の工事については、登録を要しない。 |
| ③ ③ 工事の一時中止に関する事項(1.1.9) | <p>工事の一時中止に係る計画の作成</p> <p>(1) 契約書第20条の規定により工事の一時中止の通知を受けた場合は、中止期間中における工事現場の管理に関する計画(以下「基本計画書」という。)を発注者に提出し、承諾を受けるものとする。 なお、基本計画書には、中止時点における工事の出来形、職員の体制、労務者数、搬入材料及び建設機械器具等の確認に関すること、中止に伴う工事現場の体制の縮小と再開に関すること及び工事現場の維持・管理に関する基本的事項を明らかにする。</p> <p>(2) 工事の施工を一時中止する場合は、工事の続行に備え工事現場を保全すること。</p> |
| 4 工事の余裕期間 | <p>・ 余裕期間を設定する工事【 _____ 方式】 【以下から選択:発注者指定方式/任意着手方式/フレックス方式】</p> <p>(1) 本工事は余裕期間として【 _____ 日間】を設定した工事である。 このため、受注者は、落札結果通知を受けた日の翌日までに「工期通知書(様式-1)」を作成し、発注者(契約担当者)に通知(提出)すること。</p> <p>(2) その他事項は、「余裕期間を設定する工事実施要領」による。</p> |
| 5 概成工期(1.2.1) | 図示された範囲は【令和 _____ 年 _____ 月 _____ 日】までに完了すること。 |
| ⑥ ⑥ 品質計画等(1.2.2) | <p>建築基準法に基づく風圧区分等を必要とする場合は次による。</p> <p>(1) 風速:V0= 46 m/s (平12建告第1454号第2)</p> <p>(2) 地表面粗度区分: III (8.4.3)(8.5.3)(9.4.4)(10.5.3)(13.2.3)(13.3.3)(13.4.3)(14.7.3)(16.14.5)(23.5.4)</p> |
| ⑦ ⑦ 施工図等(1.2.3) | <p>(1) 施工図等の著作権に関わる当該建築物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする。</p> <p>(2) 現場代理人等は、施工に先立ち、各工事間の施工計画を調整、検討するため、各室の平面図、展開図、天井伏図(各1/50程度)及び必要な部位の断面図を作成の上、各工事の必要な内容を記載した総合図を作成する。なお、総合図は監督員に提出し、確認を受ける。</p> <p>(3) 施工計画書及び施工図等は監督員の指示する時期に提出する。ただし監督員の指示がない場合は、原則として施工計画書は契約後30日以内、施工図等は工事着手前までに提出し、承諾を受ける。</p> |
| ⑧ ⑧ 工事の記録(1.2.4) | 沖縄県土木建築部工事関係標準様式を用いる。 |
| ⑨ ⑨ 電気保安技術者(1.3.3) | 電気工作物の工事を行う場合、その工事期間において電気保安技術者を配置し、保安業務を行うこと。 |
| ⑩ ⑩ 施工条件(1.3.5) | <p>施工順序等の制約 : 無し</p> <p>○有リ【○現場説明書による・図示】</p> <p>工事車両の駐車場所 : ・図示 ○現場説明書による 資材、機材置場 : ・図示 ○現場説明書による 建設発生土の仮置場 : ・図示 ○現場説明書による その他の施工条件 : ・図示 ○現場説明書による</p> |

| ⑪ ⑪ 施工中の安全確保及び環境保全等(1.3.7)(1.3.10) | <p>(1) 「低騒音型、低振動型建設機械の指定に関する規程」(平成9年7月31日建設省告示第1536号 最終改正平成13年4月9日 国土交通省告示第487号)による建設機械を使用する。</p> <p>(2) 本工事において以下に示す建設機械を使用する場合は原則として「排出ガス対策型建設機械指定要領(平成3年10月8日付け建設省経機発第249号最終改正平成22年3月18日付け国総施設第291号)」に基づき指定された排出ガス対策型建設機械を使用するものとする。 一般工用建設機械(ディーゼルエンジン出力7.5~260kW) ア バックホウ イ 車輪式トラクタショベル ウ ブルドーザ エ 発動発電機 オ 空気圧縮機 カ 油圧ユニット(基礎工用機械で独立したもの) キ ローラ類 ク ホイールクレーン</p> | | | | | | | | |
|------------------------------------|---|-----------------|--------------|------------|--|--------------------|----------|----------------|--|
| 12 交通安全管理(1.3.8) | <p>国道6路線及び県道7路線における警備業者が交通誘導警備業務を行う場合は、一級又は二級検定合格警備員を配置すること。(平成27年4月3日 沖縄県公安委員会告示第36号)</p> <p>(1) マニフェストシステムを採用し、適正な収集、運搬及び処分を行う。</p> | | | | | | | | |
| ⑬ ⑬ 発生材の処理等(1.3.11) | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>発生材の種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>発注者に引き渡すもの</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特別管理産業廃棄物の有無及び処理方法</td> <td>島外搬出適正処理</td> </tr> <tr> <td>現場において再利用を図るもの</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 本工事により発生する建設廃棄物のうち、県内の最終処分場に搬入する産業廃棄物は、産業廃棄物の処理に係る税(沖縄県産業廃棄物税)が課税されるので、適正に処理すること。</p> <p>(3) 受注者は、工事着手前に「建設副産物情報交換システム」(COBRIS)により作成した、「再生資源利用計画書」及び「再生資源利用促進計画書」を監督員に提出しなければならない。 また、受注者は、その計画書に従い建設廃棄物が適切に処理されたことを確認し、工事完成時に「建設副産物情報交換システム」(COBRIS)により作成した、「再資源化報告書」、「再生資源利用実施書」、「再生資源利用促進実施書」を監督員に提出しなければならない。</p> <p>(4) 受注者は、工事で発生した建設廃棄物について、ゆいぐる材の認定を受けた施設又はゆいぐる材の認定を受けていないが、再資源化後にゆいぐる材製造業者へ出荷している施設へ搬出するものとする。ただし、島内に当該施設がない場合はこの限りではない。</p> <p>(5) 本工事における再資源化に要する費用(運搬費を含む処分費)は、前に掲げる施設のうち、受入条件の合う中から運搬費と処分費(平日受入費用)の合計が最も経済的になるものを見込んでいる。したがって、正当な理由がある場合を除き、再資源化に要する費用の変更は行わない。</p> <p>(6) アスファルト舗装版切断に伴い発生する濁水及び粉体の取扱基準について ア 舗装切断作業に伴い、切断機械から発生する濁水及び粉体(以下、廃棄物という。)については、廃棄物吸引機能を有する切断機械等により回収するものとする。回収された廃棄物については、関係機関等と協議の上、適正に処理するものとし、必要と認められる経費については変更契約できるものとする。 「適正に処理」とは、「廃棄物処理及び清掃に関する法律」に基づき、産業廃棄物の排出事業者(請負業者)が産業廃棄物の処理を委託する際、適正処理のために必要な廃棄物情報(成分性状等)を処理業者に提供することが必要である。なお、工事に際して特別な混入物が無ければ、下記HPに掲載されている「濁水及び粉体の分析結果」を用いても差し支えない。 http://www.pref.okinawa.lg.jp/site/kankyo/seibi/sangyo/asufuruto.html なお、受注者は、廃棄物の処理に係る産業廃棄物管理票(マニフェスト)について、監督員から請求があった場合は提示しなければならない。 イ 発生する濁水(汚濁)に関しては「アスファルト舗装版切断に伴い発生する濁水の取扱基準について(通知)(平成24年3月28日付け土技第1257号)」に基づき、適正に処理すること。 ウ 発生する粉体に関しては「アスファルト舗装版切断に伴い発生する廃棄物の取扱いについて(通知)(平成25年1月17日付け土技第942号)」に基づき、適正に処理すること。</p> | | 発生材の種類 | 発注者に引き渡すもの | | 特別管理産業廃棄物の有無及び処理方法 | 島外搬出適正処理 | 現場において再利用を図るもの | |
| | 発生材の種類 | | | | | | | | |
| 発注者に引き渡すもの | | | | | | | | | |
| 特別管理産業廃棄物の有無及び処理方法 | 島外搬出適正処理 | | | | | | | | |
| 現場において再利用を図るもの | | | | | | | | | |
| 工事名称 | 大富団地建替工事(建築) | 工事年度 | 令和 7 年度 | | | | | | |
| 工事場所 | 竹富町字南風見仲地内 | 図面名称 | 建築工事特記仕様書(1) | | | | | | |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮 尺 | | | | | | | |
| 摘 要 | 図面番号 A - 002 | | | | | | | | |
| 検 印 | 管理建築士 | 設 計 | 製 図 | | | | | | |
| | 設 計 | 製 図 | 設 計 | | | | | | |
| | 名 称 | 南朝吹設計事務所 | | | | | | | |
| | 資格者氏名 | 代表者 南朝 一郎 | | | | | | | |
| | 登録番号 | 一級建築士 第114962号 | | | | | | | |
| | 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 | | | | | | | |

| | | |
|------------------------|---|---|
| ① 一般共通事項へ続き | ⑭ 主任技術者 監理技術者 | <p>(1) 工事請負代金額が4,000万円以上（建築一式工事の場合8,000万円以上）の工事については、主任技術者又は監理技術者を現場ごとに専任で配置する。なお、専任を要しない期間は、次のとおりとする。</p> <p>ア 現場施工に着手するまでの期間 【現場施工に着手する日が確定している場合】 請負契約の締結の日の翌日から令和 年 月 日までの期間については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任は要しない。 【現場施工に着手する日が確定していない場合】 請負契約の締結後、現場施工に着手するまでの期間（現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間）については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。 なお、工事施工に着手する日については、請負契約の締結後、監督員との打合せにおいて定める。</p> <p>イ 検査終了後の期間 工事完成後、検査が終了し（発注者の都合により検査が遅延した場合を除く。）、事務手続、後片付け等のみが残っている契約工期中の期間については主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。</p> <p>(2) 主任技術者及び監理技術者の雇用関係について ア 建設業法第26条の規定により、工事現場に専任で配置する主任技術者又は監理技術者は、受注者と入札執行日以前に3ヵ月以上の雇用関係が成立していなければならない。 イ 受注者は、着手届と共に工事現場に専任で配置する主任技術者又は監理技術者の雇用関係を証明する書類（健康保険被保険者証等の写し）を提出しなければならない。</p> |
| | ⑮ 主任技術者等の資格 | <p>(1) 主任技術者及び監理技術者の資格については、入札公告、現場説明資料等による。なお、入札公告、現場説明資料等で示されていない場合、主任技術者等の資格は、以下による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1級建築士、又は1級建築施工管理技士のいずれかの資格を有するもの ・ 1級建築士、2級建築士、1級建築施工管理技士、又は2級建築施工管理技士のいずれかの資格を有するもの <p>ア 監理技術者については、監理技術者資格証及び監理技術者講習修了証を有する者であること。 イ 配置予定技術者については、入札開始日前に3ヵ月以上の直接的かつ恒常的な雇用関係があること。 ウ 配置予定技術者の専任を要しない期間については設計図書等で確認すること。 (2) 発注者へ資格を証明する資料を提出すること。</p> |
| ⑯ 監理技術者の兼務（特例監理技術者の配置） | <p>※ 本工事は、建設業法第26条第3項ただし書の規定の適用を受ける監理技術者（特例監理技術者）の配置を認める。この場合の要件は、現場説明書による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本工事は、建設業法第26条第3項ただし書の規定の適用を受ける監理技術者（特例監理技術者）の配置を認めない。 | |
| ⑰ 工事の保険等 | <p>(1) 次の工事関係保険に加入すること。なお、保険の加入期間は、原則として工事着工日から工事完成期日後14日以上とする。 【 ・ 火災保険 ・ 建設工事保険 ・ 組立保険 ・ 請負業者賠償責任保険】 (2) 建設労災補償共済又はこれに準ずる共済、保険に加入し契約後1月以内に加入を証明する書類を発注者に提出する。 (3) 建設業退職金共済制度に加入し、次の項目を遵守すること。 ア 掛金収納書を契約後原則1ヶ月以内（電子申請方式による場合にあつては契約後原則40日以内）に発注者に提出する。 イ 当該建設現場に「建設業退職金共済制度適用事業主工事現場」標識を掲示する。 ウ 未加入下請事業者に対する加入を指導する。 エ 工事完成後、速やかに掛金充当実績総括表を作成し検査職員に提示しなければならない。</p> | |
| ⑱ ゆいぐる材について | <p>(1) 本工事で使用するリサイクル資材は、特定建設資材廃棄物を原材料とするゆいぐる材に限り、原則「ゆいぐる材」とする。それ以外を原材料とするゆいぐる材は率先して使用することとする。ただし、ゆいぐる材がない離島等での工事の場合は、ゆいぐる材以外の再生資材を使用できる。なお、ゆいぐる材以外の再生資材を使用する場合も「ゆいぐる材品質管理要領」に準じて品質管理を実施すること。また、ゆいぐる材の在庫がない等により使用することができない場合は、新材を使用すること。 (2) ゆいぐる材の品質管理 ア ゆいぐる材の品質管理にあたっては、「標準仕様書」等のほかに「ゆいぐる材品質管理要領」に基づいて行うこと。 イ 受注者は、工事請負代金額が500万円以上でゆいぐる材を使用する場合、着手後に一般財団法人沖縄県建設技術センター宛てに「ゆいぐる材品質管理依頼」を行い、必要書類の交付を受けなければならない。 ウ 受注者は、路盤材のサンプル送付試験のサンプル採取及び現場への資材初回搬入時と敷き均し転圧完了後の現場簡易試験を監督員の立会の下、実施しなければならない。 エ 受注者は、路盤材の現場簡易試験が終了した場合速やかに監督員に試験結果を報告しなければならない。</p> | |

| ⑲ 技能士(1.5.2) | <table border="1"> <thead> <tr> <th>適用工事種別</th> <th>技能検定作業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鉄筋工事</td> <td>1級鉄筋技能士</td> </tr> <tr> <td>型枠工事</td> <td>1級型枠施工技能士</td> </tr> <tr> <td>防水工事</td> <td>1級防水施工技能士（塗膜防水、シーリング）</td> </tr> <tr> <td>石工事</td> <td>1級石工技能士 1級石材施工技能士</td> </tr> <tr> <td>タイル工事</td> <td>1級タイル張り技能士</td> </tr> <tr> <td>木工事</td> <td>1級建築大工技能士</td> </tr> <tr> <td>屋根及びとい工事</td> <td>1級板金技能士、1級建築板金技能士</td> </tr> <tr> <td>金属工事</td> <td>1級天井仕上げ技能士、1級内装仕上げ技能士</td> </tr> <tr> <td>左官工事</td> <td>1級左官技能士</td> </tr> <tr> <td>建具工事、ガラス</td> <td>1級サッシ施工技能士、1級ガラス施工技能士</td> </tr> <tr> <td>塗装工事</td> <td>1級塗装技能士</td> </tr> <tr> <td>内装工事</td> <td>1級床仕上げ技能士、1級内装仕上げ技能士</td> </tr> </tbody> </table> | 適用工事種別 | 技能検定作業 | 鉄筋工事 | 1級鉄筋技能士 | 型枠工事 | 1級型枠施工技能士 | 防水工事 | 1級防水施工技能士（塗膜防水、シーリング） | 石工事 | 1級石工技能士 1級石材施工技能士 | タイル工事 | 1級タイル張り技能士 | 木工事 | 1級建築大工技能士 | 屋根及びとい工事 | 1級板金技能士、1級建築板金技能士 | 金属工事 | 1級天井仕上げ技能士、1級内装仕上げ技能士 | 左官工事 | 1級左官技能士 | 建具工事、ガラス | 1級サッシ施工技能士、1級ガラス施工技能士 | 塗装工事 | 1級塗装技能士 | 内装工事 | 1級床仕上げ技能士、1級内装仕上げ技能士 |
|---------------------------------|---|------------|--------|------|---------|------------|------------|------|-----------------------|-----|-------------------|-------|------------|-----|-----------|----------|-------------------|------|-----------------------|------|---------|----------|-----------------------|------|---------|------|----------------------|
| 適用工事種別 | 技能検定作業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 鉄筋工事 | 1級鉄筋技能士 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 型枠工事 | 1級型枠施工技能士 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 防水工事 | 1級防水施工技能士（塗膜防水、シーリング） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 石工事 | 1級石工技能士 1級石材施工技能士 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| タイル工事 | 1級タイル張り技能士 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 木工事 | 1級建築大工技能士 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 屋根及びとい工事 | 1級板金技能士、1級建築板金技能士 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 金属工事 | 1級天井仕上げ技能士、1級内装仕上げ技能士 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 左官工事 | 1級左官技能士 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 建具工事、ガラス | 1級サッシ施工技能士、1級ガラス施工技能士 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 塗装工事 | 1級塗装技能士 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 内装工事 | 1級床仕上げ技能士、1級内装仕上げ技能士 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑳ 化学物質の濃度測定(1.5.9) | <p>(1) 測定時期、測定対象室及び測定箇所数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>測定対象室</th> <th>測定箇所数</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>居室</td> <td>1室、2棟体/各工区</td> <td>測定室は監督員と調整</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 測定対象化学物質が濃度指針値を超えた濃度で検出された場合は、引渡は受けない。</p> <p>※ 完成図 ※ 保全に関する資料 (1) 本工事は完成時の提出図書は、「宮繕工事における工事関係図書等に関する効率化実施要領（案）」による。 (2) 完成図は、(表1.7.1)に次表を含むものとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>記入内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>詳細図</td> <td>監督員との協議による。</td> </tr> </tbody> </table> | 測定対象室 | 測定箇所数 | 備考 | 居室 | 1室、2棟体/各工区 | 測定室は監督員と調整 | 種類 | 記入内容 | 詳細図 | 監督員との協議による。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 測定対象室 | 測定箇所数 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 居室 | 1室、2棟体/各工区 | 測定室は監督員と調整 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 種類 | 記入内容 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 詳細図 | 監督員との協議による。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ㉑ 完成時の提出図書(1.7.1)(1.7.2)(1.7.3) | <p>(1) 本工事は電子納品対象工事とする。 電子納品とは、調査、設計、工事などの各段階の最終成果を電子データで納品することをいう。ここでいう電子データとは、各種電子納品要領・基準等（以下、「要領」）に示されたファイルフォーマットに基づいて作成されたものを指す。なお、書面における署名又は押印の取り扱いは、別途監督員と協議するものとする。 (4) 工事完成図書は、「要領」に基づいた電子データとなっているか（一財）沖縄県建設技術センターにて確認を受け、「電子納品確認登録証」の発行を受けること。 業務成果品（工事完成図書）は、電子媒体（CD-R等）で（正）1部提出すること。 「要領」で特に記載が無い項目については、監督員と協議の上、電子化のファイルフォーマットを決定すること。 なお、「紙」による提出物は、監督員と協議の上決定すること。 (5) 受注者は、完成通知書の添付書類として以下の書類及び電子データを監督員に提出しなければならない。 ア ゆいぐる材利用状況報告書 イ ゆいぐる材出荷量証明書 (6) 建築物等の利用に関する説明書について ・ 「建築物等の利用に関する説明書」を作成する。作成の手引き（国土交通省ホームページに掲載）を参考にして、記載事項は監督員との協議により決定する。 (7) 受注者は、監督員より「長期保全計画書」の作成の指示があった場合、これを作成し監督員に提出しなければならない。なお、この計画書の内容等は監督員との協議により決定する。 本工事は発注者から受注者に対し設計図CADデータを貸与する。なお、貸与されたCADデータを本工事における施工図又は完成図の作成のため以外に使用してはならない。 (1) 現場事務所等に、情報共有システムが使用可能な以下に示す程度のインターネット環境を整えること。なお、現場条件等により当該整備が不可能な場合は、監督員と協議すること。 【インターネット環境】：ブロードバンド回線 【パソコンOS】：Microsoft Windows 8.1/10 【推奨ブラウザ】：Microsoft Edge 情報共有システムとは、工事期間中において受発注者間でインターネットを介して協議簿、図面等の各種データのやり取りを行い、情報共有サーバーを用いてそれらのデータを共有・交換するものである。 (2) 受注者は、沖縄県CALSシステムの利用にあつては、沖縄県とCALS運営会社で定めた使用承諾書を沖縄県CALSシステムを運営している者に支払うこと。 (3) 沖縄県CALSシステムの使用許諾料を支払ったときは速やかに監督員に支払いの事実を報告し、確認を受けること。（支払いの事実を証明する書類（銀行振り込みの写し等）を提出） ・ 墜落制止用器具は、フルハーネス型とする。ただし、墜落時に着用者が地面に到達するおそれのある場合は、胴ベルト型の使用を認めるものとする。また、墜落制止用器具の安全な使用に関するガイドライン（平成30年6月22日付け基発0622第2号）を遵守すること。 本工事は、「労務費見積り尊重宣言」促進モデル工事の対象工事である。 実施については、「沖縄県「労務費見積り尊重宣言」促進モデル工事試行要領」及び「「労務費見積り尊重宣言」実施要領」（2018.12.21 日本建設業連合会）等を参照し実施するものとする。 本工事は、建設キャリアアップシステム（以下「CCU S」という。）活用工事の試行対象であり、実施については、受注者における希望型とする。 受注者は、工事着手前までにCCUS活用について、実施の有無を工事打合簿にて発注者へ報告するものとする。 実施については、「沖縄県 建設キャリアアップシステム（CCUS）活用工事試行要領」及び「建設キャリアアップシステム現場運用マニュアル」（一般財団法人建設業振興基金）等を参照し実施するものとする。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ㉒ 設計図CADデータの貸与 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ㉓ 情報共有システム | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ㉔ 墜落制止用器具 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ㉕ 「労務費見積り尊重宣言」促進モデル工事 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ㉖ 建設キャリアアップシステム活用について | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| ① 工事用水 | 構内既存の施設：【○利用不可・利用できる（・有償・無償）】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------------|---|-----------|------------|-------|----------|----------|-------------------|----|------------------|-----------|------------------------|------|------|----|----------|------|------|------|------|--------|----|------------------------------|--------------------------|-------------------------|---|--------|-----------------------|-----|----|-------|----|-----|--------|----|----|--|--|--|--|--|----------|-------|------------|-----------|------|-------|--|--|--|--|--|--------|--------|-----------|------------|--|--|--|--|----|------------|----|-------------------|--|--|--------|----|----|--|--|--|
| ② 工事用電力 | 構内既存の施設：【○利用不可・利用できる（・有償・無償）】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ③ 環境対策について | <p>(1) 受注者は、本工事の施工にあたり、「沖縄県赤土等流出防止条例」、「水質汚濁防止法」及びその他環境保全に関する法令等を遵守し、その対策については工事着手前に現場状況の調査、検討を十分に行い、監督員の確認を得た上で施工すること。 (2) 赤土等流出防止対策を行う場合、その対策範囲は図示による。</p> <p>○ 「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ④ 足場その他(2.2.4) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑤ 監督員事務所(2.3.1) | <table border="1"> <thead> <tr> <th>規模 (㎡)</th> <th>30㎡程度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>床</td> <td>ビニルシート貼り</td> </tr> <tr> <td>仕上げ</td> <td>内壁・天井 プリント合板貼り</td> </tr> <tr> <td>屋根</td> <td>長尺金属板葺き又は金属瓦葺き</td> </tr> <tr> <td>備品の種類及び数量</td> <td>PC、プリンター、事務備品、空調機器、什器他</td> </tr> </tbody> </table> | 規模 (㎡) | 30㎡程度 | 床 | ビニルシート貼り | 仕上げ | 内壁・天井 プリント合板貼り | 屋根 | 長尺金属板葺き又は金属瓦葺き | 備品の種類及び数量 | PC、プリンター、事務備品、空調機器、什器他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 規模 (㎡) | 30㎡程度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 床 | ビニルシート貼り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 仕上げ | 内壁・天井 プリント合板貼り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 屋根 | 長尺金属板葺き又は金属瓦葺き | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備品の種類及び数量 | PC、プリンター、事務備品、空調機器、什器他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ③ 土工事 | <p>① 埋戻し及び盛土(3.2.3)(表3.2.1)</p> <p>埋戻し及び盛土の種類： 【 ・ A種 適用場所（ ） ○ B種 適用場所（ 全て ） ・ C種 適用場所（ ） 土質（ ） 受渡場（ ） ・ D種 適用場所（ ） 】</p> <p>建設発生土の処分(3.2.5) 建設発生土の処分は次による。 ※ 構外搬出適切処理 搬出先名称（ ） 搬出先所在地（ ） 運搬距離（ km） 搬出先基準(条件)（ ） ・ 構内堆積 ○ 構内敷きならし</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ④ 地業工事 | <p>① 載荷試験(4.2.3)(4.2.4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>載荷試験の種類</th> <th>試験の方法</th> <th>試験の位置</th> <th>載荷荷重</th> <th>報告書の記載事項</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>杭</td> <td>・ 水平試験 ・ 鉛直試験</td> <td>・ 図示</td> <td>・ 図示</td> <td>・ 図示</td> <td>・ 図示</td> </tr> <tr> <td>地盤</td> <td>・ 平板載荷試験</td> <td>・ 図示</td> <td>・ 図示</td> <td>・ 図示</td> <td>・ 図示</td> </tr> </tbody> </table> <p>② 杭地業</p> <p>(1) 杭地業の種類と工法(4.3.1)(4.4.4)(4.5.1)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>杭地業の種類</th> <th>工法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ 遠心力高強度プレストレストコンクリート杭(PHC杭)</td> <td>・ セメントミルク工法 ・ 特定埋設杭工法</td> </tr> <tr> <td>・ プレストレス鉄筋コンクリート杭(PRC杭)</td> <td>・ フレポーリング拡大根固め工法 ・ 中堀り拡大根固め工法 ・ ()工法</td> </tr> <tr> <td>・ 鋼杭地業</td> <td>○ アースドリル工法 ・ ()工法</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 杭の寸法等(4.2.2)(4.3.3)(4.4.3)(4.5.4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>試験杭</th> <th>杭径</th> <th>杭長(m)</th> <th>種類</th> <th>継手数</th> <th>先端部の形状</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>位置は図示による</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 杭の品質等(4.3.4)~(4.3.8)(4.4.4)~(4.4.6)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設計支持力</th> <th>推定支持力の算定方法</th> <th>水平方向のずれ精度</th> <th>継手工法</th> <th>杭頭の処理</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(4) 支持層(4.3.4)(4.3.5)(4.5.5)(4.5.6)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>支持層の位置</th> <th>支持層の種類</th> <th>支持層への掘削深さ</th> <th>支持層への根入れ深さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(5) 場所打ちコンクリートにおける材料等(4.5.4) ア 鉄筋</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>帯筋</th> <th>鉄筋の最小かぶり厚さ</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>【 ・ (参-2.2) ・ 図示】</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>イ セメントの種類【 ・ 普通種「ポルトセメント」 ・ 図示】 ウ コンクリート</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設計基準強度</th> <th>種別</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>防湿層の範囲は、図示による。</p> | | 載荷試験の種類 | 試験の方法 | 試験の位置 | 載荷荷重 | 報告書の記載事項 | 杭 | ・ 水平試験 ・ 鉛直試験 | ・ 図示 | ・ 図示 | ・ 図示 | ・ 図示 | 地盤 | ・ 平板載荷試験 | ・ 図示 | ・ 図示 | ・ 図示 | ・ 図示 | 杭地業の種類 | 工法 | ○ 遠心力高強度プレストレストコンクリート杭(PHC杭) | ・ セメントミルク工法 ・ 特定埋設杭工法 | ・ プレストレス鉄筋コンクリート杭(PRC杭) | ・ フレポーリング拡大根固め工法 ・ 中堀り拡大根固め工法 ・ ()工法 | ・ 鋼杭地業 | ○ アースドリル工法 ・ ()工法 | 試験杭 | 杭径 | 杭長(m) | 種類 | 継手数 | 先端部の形状 | 備考 | 本杭 | | | | | | 位置は図示による | 設計支持力 | 推定支持力の算定方法 | 水平方向のずれ精度 | 継手工法 | 杭頭の処理 | | | | | | 支持層の位置 | 支持層の種類 | 支持層への掘削深さ | 支持層への根入れ深さ | | | | | 帯筋 | 鉄筋の最小かぶり厚さ | 備考 | 【 ・ (参-2.2) ・ 図示】 | | | 設計基準強度 | 種別 | 備考 | | | |
| | 載荷試験の種類 | 試験の方法 | 試験の位置 | 載荷荷重 | 報告書の記載事項 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 杭 | ・ 水平試験 ・ 鉛直試験 | ・ 図示 | ・ 図示 | ・ 図示 | ・ 図示 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地盤 | ・ 平板載荷試験 | ・ 図示 | ・ 図示 | ・ 図示 | ・ 図示 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 杭地業の種類 | 工法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○ 遠心力高強度プレストレストコンクリート杭(PHC杭) | ・ セメントミルク工法 ・ 特定埋設杭工法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・ プレストレス鉄筋コンクリート杭(PRC杭) | ・ フレポーリング拡大根固め工法 ・ 中堀り拡大根固め工法 ・ ()工法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・ 鋼杭地業 | ○ アースドリル工法 ・ ()工法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 試験杭 | 杭径 | 杭長(m) | 種類 | 継手数 | 先端部の形状 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 本杭 | | | | | | 位置は図示による | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 設計支持力 | 推定支持力の算定方法 | 水平方向のずれ精度 | 継手工法 | 杭頭の処理 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 支持層の位置 | 支持層の種類 | 支持層への掘削深さ | 支持層への根入れ深さ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 帯筋 | 鉄筋の最小かぶり厚さ | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 【 ・ (参-2.2) ・ 図示】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 設計基準強度 | 種別 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ③ 床下防湿層(4.6.5) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| ⑤ 鉄筋工事 | <p>① 鉄筋(5.2.1)</p> <p>2 溶接金網(5.2.29)</p> <p>③ 継手及び定着(5.3.4)</p> <p>④ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔(5.3.5)</p> <p>⑤ 各部配筋(5.3.7)</p> <p>6 機械式継手</p> | <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類の記号</th> <th>呼び名 (mm)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>図示による。</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>網目の形状</th> <th>寸法</th> <th>鉄線の経</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>図示による。</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(1) 継手の種類等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工部位</th> <th>継手の種類</th> <th>備考(重ね継手の長さ等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>構造図による。</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 柱、梁の主筋の継手を同一箇所には、応力集中やコンクリートの充填性等について十分検討し監督員の承諾を受けて施工すること。 (3) 鉄筋の定着長さ【 ※ 図示による ・ 】</p> <p>(1) 軽量コンクリートの場合の最小かぶり厚さ： (2) 塩害を受けるおそれのある部分等の位置及び最小かぶり厚さ： 構造図による。 (3) 機械式継手及び溶接継手の場合のあきの寸法：</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>配筋の方法</th> <th>その他特記すべき事項</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>【 ・ (参-)による。○ 図示】</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>【 ・ (参-)による。○ 図示】</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>機械式継手の種類： ・ 図示 ・</p> | 種類の記号 | 呼び名 (mm) | 備考 | 図示による。 | | | 網目の形状 | 寸法 | 鉄線の経 | 備考 | 図示による。 | | | | 施工部位 | 継手の種類 | 備考(重ね継手の長さ等) | 構造図による。 | | | 施工箇所 | 配筋の方法 | その他特記すべき事項 | | 【 ・ (参-)による。○ 図示】 | | | 【 ・ (参-)による。○ 図示】 | | |
|--------------------------|---|---|---------------|----------|------------|--------|--------------------------|---------------|--------------|--------|--------------------------|---------------|--------|----|--------------------------|---------------|------|-------|--------------|---------|------|----|------|-------|------------|--|--------------------|----|----------|--------------------|-----------|--|
| 種類の記号 | 呼び名 (mm) | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 図示による。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 網目の形状 | 寸法 | 鉄線の経 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 図示による。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 施工部位 | 継手の種類 | 備考(重ね継手の長さ等) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 構造図による。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 施工箇所 | 配筋の方法 | その他特記すべき事項 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 【 ・ (参-)による。○ 図示】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 【 ・ (参-)による。○ 図示】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑤ コンクリート工事 | <p>① コンクリートの強度</p> <p>② コンクリートの材料</p> <p>③ コンクリートの強度試験</p> <p>④ コンクリート打放し仕上げ(6.2.5)(6.8.1)</p> <p>⑤ コンクリートの品質管理</p> <p>⑥ 打継ぎ(6.6.4)</p> <p>⑦ 型枠(6.8.1)(6.8.2)</p> <p>8 軽量コンクリート(6.10.1)(6.10.2)</p> <p>⑨ 暑中コンクリート</p> <p>⑩ 品質確保</p> | <table border="1"> <thead> <tr> <th>気乾単位容積質量による種類</th> <th>類別等</th> <th>設計基準強度(Fc)</th> <th>施工部位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ 普通コンクリート ・ 軽量コンクリート</td> <td>※ I類 ・ II類</td> <td>構造図による</td> <td>構造図による</td> </tr> <tr> <td>・ 普通コンクリート ・ 軽量コンクリート</td> <td>※ I類 ・ II類</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 普通コンクリート ・ 軽量コンクリート</td> <td>※ I類 ・ II類</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(6.2.1)(6.2.2)(6.2.3)(6.10.1)(6.13.1)(6.14.1)(6.15.1)</p> <p>(1) セメントの種類 【 ※普通種「ポルトセメント」 ・ フライアッシュセメントB種 ・ 】 (2) フライアッシュセメントB種の適用箇所：【 ・ 図示 ・ 】 (3) 骨材のアルカリシリカ反応性による区分：※ A ・ B (6.3.1)</p> <p>材齢28日圧縮強度の推定に用いる供試体は現場における「水中養生」とする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>仕上げの種別</th> <th>打増し厚さ</th> <th>施工部位</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>B種</td> <td>図示による</td> <td>図示による</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>工事に使用するコンクリートは事前に試し練りを行い、その品質等が設計図書の規定に適合していることを確認し監督職員に報告する。</p> <p>打継ぎ目地の寸法は、図示による。</p> <p>(1) 外部に面する打放し仕上げの打増し厚さ 【 ○20mm ・ () mm 】 (2) ひび割れ誘発目地の位置、形状及び寸法は、図示による。 (3) MCR工法の適用： ・ 有り【 使用箇所： ・ 図示 ・ 】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工部位</th> <th>種類</th> <th>気乾単位容積質量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>・ 1種 ・ 2種</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>水又は土に接する軽量コンクリートの使用 ・ 有り【 使用箇所： ・ 図示 ・ 】</p> <p>暑中コンクリートの適用は【 石垣市 】の日平均気温の平年値が25℃を超える【 6月 2日】から【 10月 17日】までとする。 (注)適用する場合は、気象庁HPより日平均気温の平年値を確認し、【 】を記載すること。</p> <p>レディーミクストコンクリートの品質確保については、「レディーミクストコンクリートの品質確保について」（平成15年11月10日付け国営建第95号）及び「レディーミクストコンクリートの品質確保について」の運用について」（平成15年11月10日付け国営技第71号）を適用する。</p> | 気乾単位容積質量による種類 | 類別等 | 設計基準強度(Fc) | 施工部位 | ○ 普通コンクリート ・ 軽量コンクリート | ※ I類 ・ II類 | 構造図による | 構造図による | ・ 普通コンクリート ・ 軽量コンクリート | ※ I類 ・ II類 | | | ・ 普通コンクリート ・ 軽量コンクリート | ※ I類 ・ II類 | | | 仕上げの種別 | 打増し厚さ | 施工部位 | 備考 | B種 | 図示による | 図示による | | 施工部位 | 種類 | 気乾単位容積質量 | | ・ 1種 ・ 2種 | |
| 気乾単位容積質量による種類 | 類別等 | 設計基準強度(Fc) | 施工部位 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○ 普通コンクリート ・ 軽量コンクリート | ※ I類 ・ II類 | 構造図による | 構造図による | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・ 普通コンクリート ・ 軽量コンクリート | ※ I類 ・ II類 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・ 普通コンクリート ・ 軽量コンクリート | ※ I類 ・ II類 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 仕上げの種別 | 打増し厚さ | 施工部位 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| B種 | 図示による | 図示による | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 施工部位 | 種類 | 気乾単位容積質量 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ・ 1種 ・ 2種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑤ 大富岡地建替工事(建築) | <table border="1"> <thead> <tr> <th>工事名称</th> <th>大富岡地建替工事(建築)</th> <th>工事年度</th> <th>令和7年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>工事場所</td> <td>竹富町字南風見仲地内</td> <td>図面名称</td> <td>建築工事特記仕様書(2)</td> </tr> <tr> <td>発注機関</td> <td>竹富町まちづくり課</td> <td>縮尺</td> <td></td> </tr> <tr> <td>摘要</td> <td colspan="3">図面番号 A - 003</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">検印</td> <td>管理建築士</td> <td>設計</td> <td>製図</td> </tr> <tr> <td>設計</td> <td>製図</td> <td></td> </tr> <tr> <td>設計者</td> <td>名称 南朝吹設計事務所 資格者氏名 代表者 南朝 一郎 登録番号 一級建築士 第114962号 所在地 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 工事名称 | 大富岡地建替工事(建築) | 工事年度 | 令和7年度 | 工事場所 | 竹富町字南風見仲地内 | 図面名称 | 建築工事特記仕様書(2) | 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | | 摘要 | 図面番号 A - 003 | | | 検印 | 管理建築士 | 設計 | 製図 | 設計 | 製図 | | 設計者 | 名称 南朝吹設計事務所 資格者氏名 代表者 南朝 一郎 登録番号 一級建築士 第114962号 所在地 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 | | | | | | |
| 工事名称 | 大富岡地建替工事(建築) | 工事年度 | 令和7年度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 工事場所 | 竹富町字南風見仲地内 | 図面名称 | 建築工事特記仕様書(2) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 摘要 | 図面番号 A - 003 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 検印 | 管理建築士 | 設計 | 製図 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 設計 | 製図 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 設計者 | 名称 南朝吹設計事務所 資格者氏名 代表者 南朝 一郎 登録番号 一級建築士 第114962号 所在地 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | |
|------------------------|---|---|
| 7 鉄骨工事 | 1 鋼材(7.2.1)(表7.2.1) | 記号の種類 適用箇所 備考 形状及び寸法は、図示による。 |
| | 2 高力ボルト(7.2.2)(7.3.2)(7.4.2)(7.4.7) | 種類 径 縁端距離 間隔 ゲージ 備考 すべり係数試験：【 ・ 実施する ・ 実施しない】 試験の方法、試験片の摩擦面の処理：【 ・ 図示 ・ 】 |
| | 3 普通ボルト(7.2.3)(7.3.2) | 径 縁端距離 間隔 ゲージ 備考 |
| | 4 アンカーボルト(7.2.4)(7.3.2)(7.10.3)(表7.10.1) | ・ 構造用アンカーボルト 種類 縁端距離 間隔 ゲージ 形状及び寸法 保持及び埋込み工法 |
| | | ・ 建方用アンカーボルト 種類 縁端距離 間隔 ゲージ 形状及び寸法 保持及び埋込み工法 |
| | 5 デッキプレート(7.2.7)(7.7.8) | 施工部位 材質 形状 寸法 備考 デッキプレートと鉄骨部材の溶接方法：【 ・ 図示 ・ 】 |
| | 6 スタッド(7.2.8) | 施工部位 材質 形状 寸法 備考 |
| | 7 柱底均しモルタル(7.2.9) | 材料 厚さ 種別 備考 |
| | 8 材料試験等(7.2.10) | 引張りを受ける材料の試験等：【 ・ 実施する【図示()】】 |
| | 9 仮組(7.3.10) | 仮組の実施：【 ・ 実施する ・ 実施しない 】 |
| | 10 溶接(7.6.3)(7.6.4)(7.6.7)(7.6.12) | 開先の形状 エンドタブの有無及び適用箇所 スクラップの形状 溶接部の試験 |
| | 11 塗料の種類(7.8.4)(表18.3.1) | 錆止め塗料の種類：【 ・ A種 ・ B種 】 |
| | 12 耐火被覆の種類及び性能(7.9.2)(7.9.3) | 種類 所要性能及び摘要箇所 |
| 13 その他(7.11.2)(7.12.5) | (1) 軽量形鋼構造におけるボルトの接合方法： (2) 溶融亜鉛めっき高力ボルトを使用する場合の摩擦面の処理： 【 ・ プラスト処理 プラスト以外の特別な処理方法及びすべり耐力等の確認方法：【 ・ 図示 ・ 】】 | |

| | | |
|---------------------------|---|--|
| 8 コンクリートブロック・ALCパネル・ECP工事 | 1 補強コンクリートブロック造(8.2.2)(8.2.4)(8.2.5) | ブロックの種類及びモジュール呼び寸法 正味厚さ 各部の配筋 図示による 図示による 図示による |
| | 2 コンクリートブロック 帳壁及び塀(8.3.2)-(8.3.4) | ブロックの種類及びモジュール呼び寸法 正味厚さ 各部の配筋 塀の場合の化粧ブロックの有無：【 ・ 有り ・ 無し 】 |
| | 3 ALCパネル(8.4.2)-(8.4.5)(表8.4.2)(表8.4.3) | (1) パネルの種類等 パネルの種類 単位荷重 厚さ 長さ 構法 |
| | 4 押出成形セメント板(ECP)(8.5.2)-(8.5.4)(表8.5.1)(表8.5.2) | (2) 床パネルの耐火性能：【 ・ 1時間 ・ 2時間】 (3) 外壁パネル構法の場合の伸縮調整目地の目地幅：【 ・ 図示 ・ () mm】 (4) 耐火目地材の適用：【 ・ 適用する ・ 適用しない】 |
| | パネルの種類 表面形状 厚さ 幅 取付工法 | |

| | |
|-------------------------|--|
| 5 外壁パネル工法(8.4.3)(8.5.3) | (1) 地震に対する安全性 設計用震度(KH) 設計用震度 帳壁(仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材)の性能 設計用水平震度(K _H) 設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。ただし、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 設計用鉛直震度(K _v) 所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基準(製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。)が定める値とする。 ※1.0 ・ 設計用鉛直震度(K _v) ※1.0 ・ |
| | (2) 構造体の層間変形に対する追従性 層間変形 帳壁(仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材)の性能 ・ 1/100 ・ 1/200 設計用震度の地震力に対して、部材に生じる |

| | | |
|--------|---|--|
| 9 防水工事 | 1 防水の種類(9.2.2)(9.3.2)(9.4.2)(9.5.2)(9.6.1) | (1) 防水の種類等 (9.2.2)(9.3.2)(9.4.2)(9.5.2)(9.6.1) 防水の種類 厚さ 施工箇所 塗膜防水 3.0mm 屋根、シャワー室 |
| | 2 防水層の種類(9.2.3)(9.3.3)(9.4.3)(9.5.3)(9.6.3) | (2) 防水層の種類 (9.2.3)(9.3.3)(9.4.3)(9.5.3)(9.6.3) 防水層の種類 工法 備考 ウレタンゴム系 X-2 仕上げ塗材あり ゴムアスファルト系 X-2 押スコン(メタルス入り) ケイ酸質系 C-UP (表9.2.3)-(表9.2.9)(表9.3.1)-(表9.3.3) (表9.4.1)-(表9.4.3)(表9.5.1)(表9.5.2)(表9.6.2) |
| | 3 シーリング(9.7.2)(9.7.3)(9.7.5)(16.14.5)(17.3.2) | (3) その他の材料等 ・ 押え金物：(材質) (寸法) ・ 絶縁用シート：(材料) ・ 断熱材：(材質) (厚さ) ・ 立上り部保護：(材料) (工法等) ・ 脱気装置：(種類) (設置数) ○ 仕上げ塗料：(種類 塗料) (使用量0.2kg/m ²) |
| | 4 施工 ・ 下地の処理方法等：(標準仕様書 9.5.4による。) | |
| | シーリング材の種類 施工箇所 試験等 PU-2 ポリウレタン系 打継部 ※簡易接着性試験 MS-2 変成シリコン系 建具廻り ※簡易接着性試験 | |

| | | |
|--------|------------------------------------|---|
| 10 石工事 | 1 石材(10.2.1)(表10.2.1)(表10.2.2) | (1) 天然石 施工箇所 種類 表面仕上げの種類 図示 図示 図示 |
| | 2 壁の石張り工法(10.3.2)(10.4.2)(10.5.2) | (2) テラゾ 施工箇所 種石の種類、大きさ 形状及び寸法 表面仕上げの種類 |
| | 3 床及び階段の石張り(10.6.2)(10.6.3) | (1) 工法、加工等 工法 厚さ 石裏面処理 裏打ち処理 備考 |
| | 4 特殊部位の石張り(10.7.1)(10.7.2)(10.7.3) | (2) 乾式工法の方式：【 ・ スライド方式 ・ ロッキング方式】 (3) あと施工アンカーの材質及び寸法： (4) 外壁湿式工法に使用するドレンパイプの材質： 厚さ 石裏面処理 目地幅 備考 |
| | 施工箇所 工法 石材の厚さ 石裏面処理 裏打ち処理 備考 | |

| | | |
|----------|--|--|
| 11 タイル工事 | 1 タイル(11.2.2)(11.3.2) | (1) タイルの種類 施工箇所 形状・寸法 うわぐすり 吸水率 役物 色 耐滑り性 図示による 図示による |
| | 2 あと張り工法(11.2.6)(11.3.7)(表11.2.3)(表11.3.2) | (2) タイルの試験張り：【 ・ 行う ○ 行わない】 (3) タイルの見本焼き：【 ・ 行う ○ 行わない】 壁タイル張りの工法等 タイルの種類 大きさ 工法 張付け材料の種類、塗厚等 陶器質 100角 改良積み上げ モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理： 【 ・ MCR工法 ○ 目荒らし工法】 |

| | | |
|---------|--------------------------------|---|
| 12 木工工事 | 1 木材(12.1.4)(表12.1.1)(表12.1.2) | (1) 木材(下地材)の含水率： ※A種 ・ B種 木材(造作材)の含水率： ※A種 ・ B種 |
| | 2 製材(12.2.2) | (2) 製材 【○ 「製材の日本農林規格」による ・ 「製材の日本農林規格」以外による】 【 ・ 下地用針葉樹製材 ・ 造作用針葉樹製材 ・ 広葉樹製材 ・ 】 施工箇所 樹種 寸法 等級又は品質 含水率 防虫処理 図示による 図示 図示 上小節 A種 加圧注入 |
| | 3 造作用集成材(12.2.2) | (3) 造作用集成材 【○ 「集成材の日本農林規格」による ・ 「集成材の日本農林規格」以外による】 【 ・ 化粧ばり構造用集成材 ・ 化粧ばり構造用集成材 ・ 】 施工箇所 樹種 寸法 等級又は品質 含水率 化粧薄板の厚さ 図示による 図示 図示 1等 A種 図示による |
| | 4 造作用単板積層材(12.2.2) | (4) 造作用単板積層材 【 ・ 「単板積層材の日本農林規格」による ・ 「単板積層材の日本農林規格」以外による】 施工箇所 厚さ 表面の品質 含水率 防虫処理 |
| | 5 合板等【○ 普通合板 ・ 構造用合板】(12.2.2) | (5) 合板等【○ 普通合板 ・ 構造用合板】 施工箇所 樹種 厚さ品質、等級等 接着の程度 防虫・強度等 図示による 図示 2等・C-D以上 1類 防虫処理合板 |
| | 6 パーティクルボード(12.2.2) | (6) パーティクルボード 施工箇所 厚さ 表裏面の状態 曲げ強さ 接着剤 難燃性 |
| | 7 構造用パネル(12.2.2) | (7) 構造用パネル 施工箇所 厚さ 等級 |

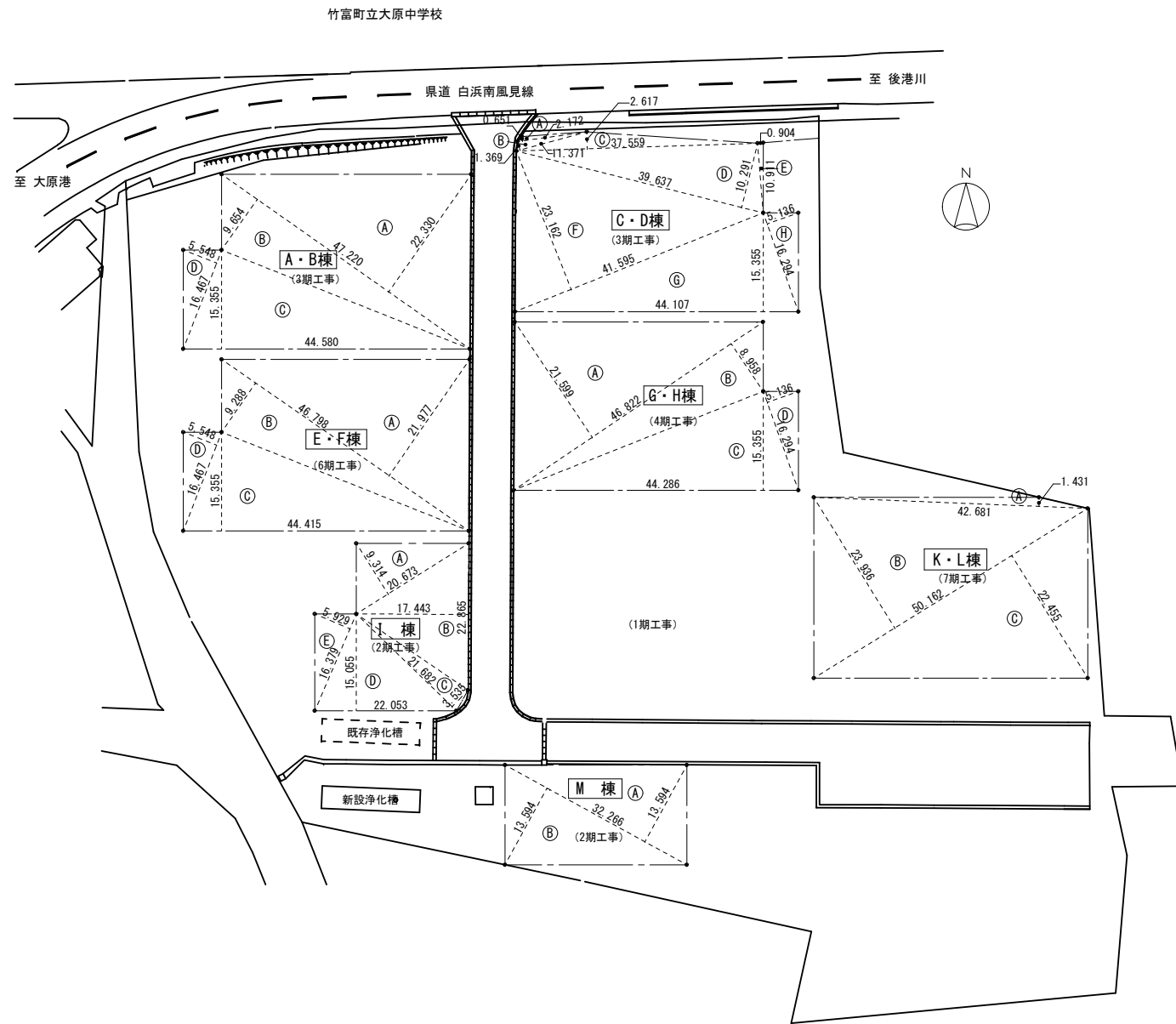
| | | |
|---------|------------------------------------|--|
| 13 左官工事 | 1 土壌の防蟻処理(13.2.4) | (1) 施工箇所：「防除施工標準仕様書」(公益社団法人日本しろあり対策協会発行)I 新築建築物しろあり予防処理標準仕様書 4 処理の箇所 に準ずることとし、建築物の外周処理を含む。 (2) 処理薬剤：(公社)日本しろあり対策協会又は(公社)日本木材保存協会の認定品とする。 (3) 処理方法：「防除施工標準仕様書」I 新築建築物しろあり予防処理標準仕様書 3 処理の方法 に準ずる。また、土間コンクリートを打設する部分には、薬剤処理後、厚さ0.15mmポリエチレンフィルム敷きを行う。 木材処理(防蟻・防虫) (1) 施工箇所：合板、集成材等を除く全ての木材 (2) 処理方法：工場における加圧式とし、十分に乾燥を行う。ただし、現場における加工が生じた場合には、加工した箇所に対し、現場にて木材保存剤を塗布する。 (3) 性能区分：性能区分は次による。ただし、監督員の指示を受けた部材については、その指示に従うものとする。 ア 造作材にラワン材等広葉樹を使用する場合は、JASの保存処理K1+保存処理K3とする。 イ 構造材、下地材については、JASの保存処理K3とする。 |
| | 2 防蟻・防蟻防虫処理(12.3.1)(12.3.2) | (1) 公益社団法人日本しろあり対策協会の認定した「しろあり防除施工士」とする。ただし、工場における処理及び監督員の承諾を受けた場合はこの限りではない。 (2) 元請業者と施工業者の連署による保証書を監督員に提出する。なお、期間は、処理施工後5年とする。 |
| | 3 防蟻処理、防虫処理の施工及び保証(12.3.1)(12.3.2) | |
| | 4 防蟻処理、防虫処理の施工及び保証(12.3.1)(12.3.2) | |

| | | |
|--------------|-----------------------|--|
| 14 屋根及びびとい工事 | 1 長尺金属板葺(13.2.2) | 施工箇所 屋根葺形式 板及びコイルの種類 塗膜の耐久性、めっき付着量の種類の表示記号 厚さ等 下葺材料：【 ・ アスファルトフイグ 940 ・ 改質アスファルトフイグ】 |
| | 2 折板(13.3.2) | 施工箇所 形式の区分 山 高 耐力による区分 材料による区分 厚さ 山ピッチ |
| | 3 県産瓦葺(13.3.2) | (1) 軒先面戸板の適用：【 ・ 有り ・ なし】 (2) 断熱材張り【 ・ 実施する ・ 実施しない】 (1) 瓦は沖縄県産の赤瓦とする。 (2) 沖縄県技能評価認定制度に基づく琉球赤瓦施工技能評価試験の瓦葺き作業及び漆喰塗り作業に合格した者を、適用する作業中において次の条件で配置し自ら施工すると共に、他の技能者に対して施工品質の向上を図るための作業指導を行うこと。 【 ・ 1名以上配置 ・ 施工面積 m ² につき、 級技能評価試験に合格した者を1名配置】 |
| | 4 瓦(13.4.3) | (1) 瓦の緊結方法() |
| | 5 とい(13.5.2)(表13.5.1) | 材種 規格名称 材質 備考 硬質塩化ビニル管 VP75φ 硬質塩化ビニル管 |

| | | |
|---------|--|--|
| 15 金属工事 | 1 あと施工アンカー(14.1.3) | あと施工アンカーの引抜試験：【 ・ 実施する ・ 実施しない】 |
| | 2 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理(14.2.2)(14.7.2)(14.8.2)(14.8.3)(表14.2.1) | 表面処理の種類をB-1種又はB-2種としたときの複合皮膜の種類：【 ○ A1 ・ A2 】(JIS H 8602) (14.2.2)(14.7.2)(14.8.2)(14.8.3)(表14.2.1) |
| | 3 鉄鋼の亜鉛めっき(14.2.3)(表14.2.2) | 施工箇所 種別 表面処理方法 |
| | 4 軽量鉄骨天井下地(14.4.3)(14.4.4) | 屋外の軽量鉄骨天井下地 野縁受、吊りボルト及びインサートの間隔 野縁の間隔 備考 90mm程度 300mm程度 耐風補強 ・ 補強方法等(図示による) |
| | 5 金属成形板張り(14.6.2)(14.6.3) | (1) 金属成形板の種類及び表面処理： (2) 長尺の場合における伸縮調整継手： |
| | 6 アルミニウム製笠木(14.7.2)(14.7.3)(表14.7.1) | (1) 構成部材による種類： (2) アルミニウム製笠木本体の材料の表面処理の種類及び複合皮膜の種類は次による。 種別：【 ・ A-1 ・ B-1】 種別をB-1とした場合の複合皮膜の種類： 【 ・ A1 ・ A2】(JIS H 8602) (3) 固定金具の間隔及び固定方法： |

| | | |
|---------|----------------------------|---|
| 16 左官工事 | 1 ラス系下地(15.2.4) | (1) 種類： ・ 通気工法(・ 二重下地 ・ 単層下地) ・ 直貼り工法(・ ラスモルタル下地 ・ ラスシートモルタル下地) ・ 外張断熱工法で断熱材の外側に胴縁を施工する形式の通気工法を行う場合() (2) 建築基準法に基づく耐力壁、防火構造、準耐火構造等の指定がある場合の下地の仕様() |
| | 2 セッコウボードその他のボード下地(15.2.5) | 材料 種類 厚さ |
| | 3 モルタル塗り(15.3.2)(15.3.5) | (1) モルタル： ・ 現場調合材料 ・ 既調合材料() (2) 既製目地材の適用及び形状：図示による (3) 床の目地の設置及び工法：ペランダ：押し目地 (4) 外装タイル張り下地等の下地モルタルの接着力試験：【 ・ 実施する ・ 実施しない】 |
| | 4 仕上塗材仕上げ(15.6.2)(表15.6.1) | 種類 呼び名 仕上げの形状・工法等 複層仕上塗材 複層塗材Si 凹凸状 吹付工法 複層仕上塗材 複層塗材Si 吹付工法 |

| | | | |
|------|-----------------|----------|--------------|
| 工事名称 | 大富団地建替工事(建築) | 工事年度 | 令和7年度 |
| 工事場所 | 竹富町字南風見仲地内 | 図面名称 | 建築工事特記仕様書(3) |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | |
| 摘要 | 図面番号 A - 004 | | |
| 検印 | 管理建築士 | 設計 | 製図 |
| | 名称 | 南朝吹設計事務所 | |
| | 資格者氏名 | 代表者 | 南朝 一郎 |
| | 登録番号 | 一級建築士 | 第114962号 |
| 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 | | |



敷地求積図 S=1:500

A・B棟 敷地求積表

| 符号 | 計算式 | 計 (㎡) |
|----|-----------------------------------|-----------|
| Ⓐ | $47.220 \times 22.330 \times 1/2$ | 527.2113 |
| Ⓑ | $47.220 \times 9.654 \times 1/2$ | 227.9310 |
| Ⓒ | $44.580 \times 15.355 \times 1/2$ | 342.2630 |
| Ⓓ | $16.467 \times 5.548 \times 1/2$ | 45.6795 |
| | 計 | 1143.0848 |
| | | (1143.08) |

C・D棟 敷地求積表

| 符号 | 計算式 | 計 (㎡) |
|----|-----------------------------------|-----------|
| Ⓐ | $2.172 \times 0.651 \times 1/2$ | 0.7070 |
| Ⓑ | $11.371 \times 1.369 \times 1/2$ | 7.7834 |
| Ⓒ | $37.559 \times 2.617 \times 1/2$ | 49.1460 |
| Ⓓ | $39.637 \times 10.291 \times 1/2$ | 203.9522 |
| Ⓔ | $10.911 \times 0.904 \times 1/2$ | 4.9318 |
| Ⓕ | $41.595 \times 23.162 \times 1/2$ | 481.7117 |
| Ⓖ | $44.107 \times 15.355 \times 1/2$ | 338.6315 |
| Ⓗ | $16.294 \times 5.136 \times 1/2$ | 41.8430 |
| | 計 | 1128.7066 |
| | | (1128.70) |

E・F棟 敷地求積表

| 符号 | 計算式 | 計 (㎡) |
|----|-----------------------------------|-----------|
| Ⓐ | $46.798 \times 21.977 \times 1/2$ | 514.2398 |
| Ⓑ | $46.798 \times 9.288 \times 1/2$ | 217.3299 |
| Ⓒ | $44.415 \times 15.355 \times 1/2$ | 340.9962 |
| Ⓓ | $16.467 \times 5.548 \times 1/2$ | 45.6795 |
| | 計 | 1118.2454 |
| | | (1118.24) |

G・H棟 敷地求積表

| 符号 | 計算式 | 計 (㎡) |
|----|-----------------------------------|-----------|
| Ⓐ | $46.822 \times 21.599 \times 1/2$ | 505.6542 |
| Ⓑ | $46.822 \times 8.958 \times 1/2$ | 209.7157 |
| Ⓒ | $44.286 \times 15.355 \times 1/2$ | 340.0058 |
| Ⓓ | $16.294 \times 5.136 \times 1/2$ | 41.8430 |
| | 計 | 1097.2187 |
| | | (1097.21) |

I棟 敷地求積表

| 符号 | 計算式 | 計 (㎡) |
|----|-----------------------------------|----------|
| Ⓐ | $20.673 \times 9.314 \times 1/2$ | 96.2742 |
| Ⓑ | $22.865 \times 17.433 \times 1/2$ | 199.3028 |
| Ⓒ | $21.682 \times 3.535 \times 1/2$ | 38.3229 |
| Ⓓ | $22.053 \times 15.055 \times 1/2$ | 166.0040 |
| Ⓔ | $16.379 \times 5.929 \times 1/2$ | 48.5554 |
| | 計 | 548.4593 |
| | | (548.45) |

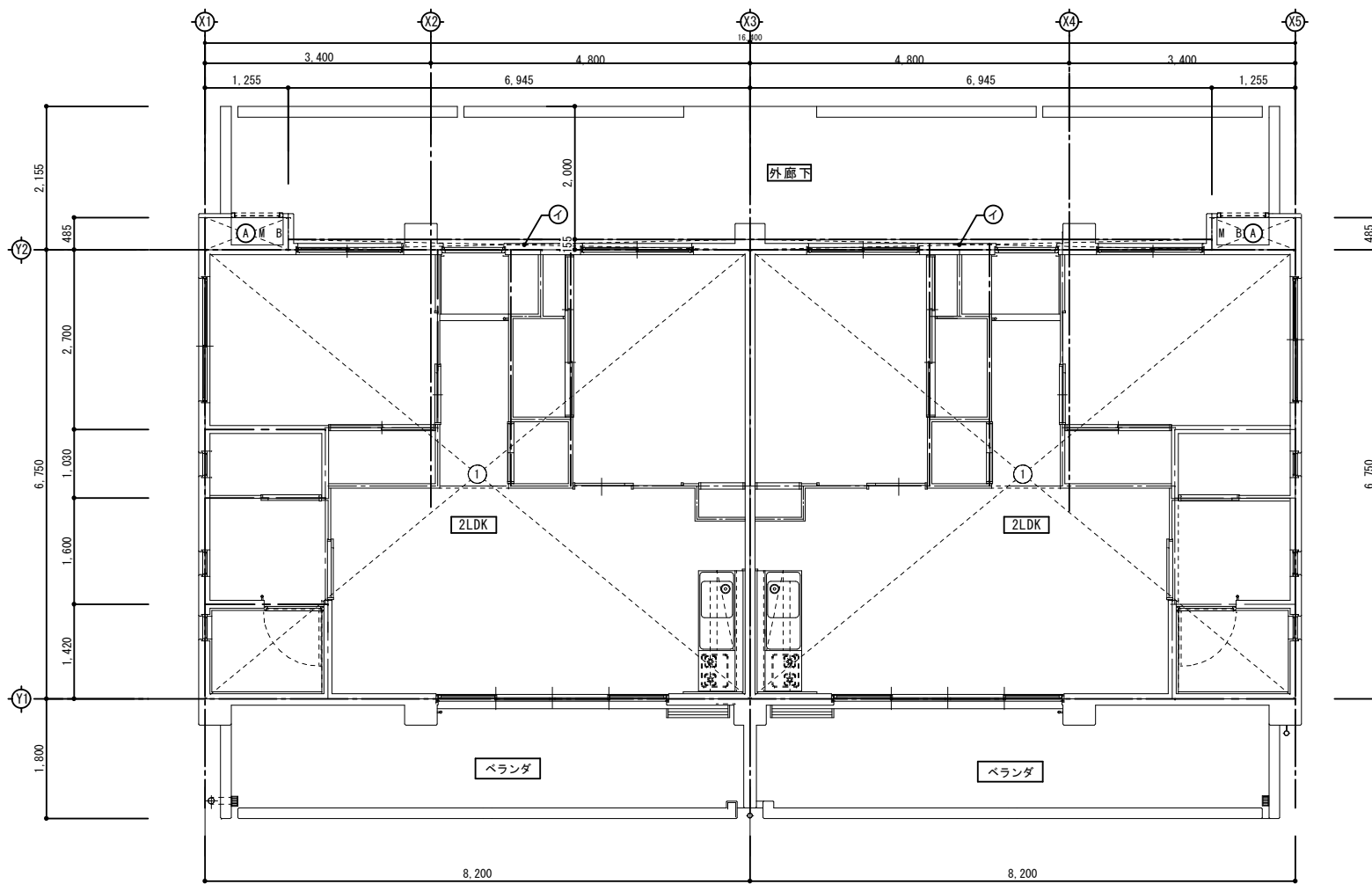
K・L棟 敷地求積表

| 符号 | 計算式 | 計 (㎡) |
|----|-----------------------------------|-----------|
| Ⓐ | $42.681 \times 1.431 \times 1/2$ | 30.5383 |
| Ⓑ | $50.162 \times 23.936 \times 1/2$ | 600.3388 |
| Ⓒ | $50.162 \times 22.455 \times 1/2$ | 563.1939 |
| | 計 | 1194.071 |
| | | (1194.07) |

M棟 敷地求積表

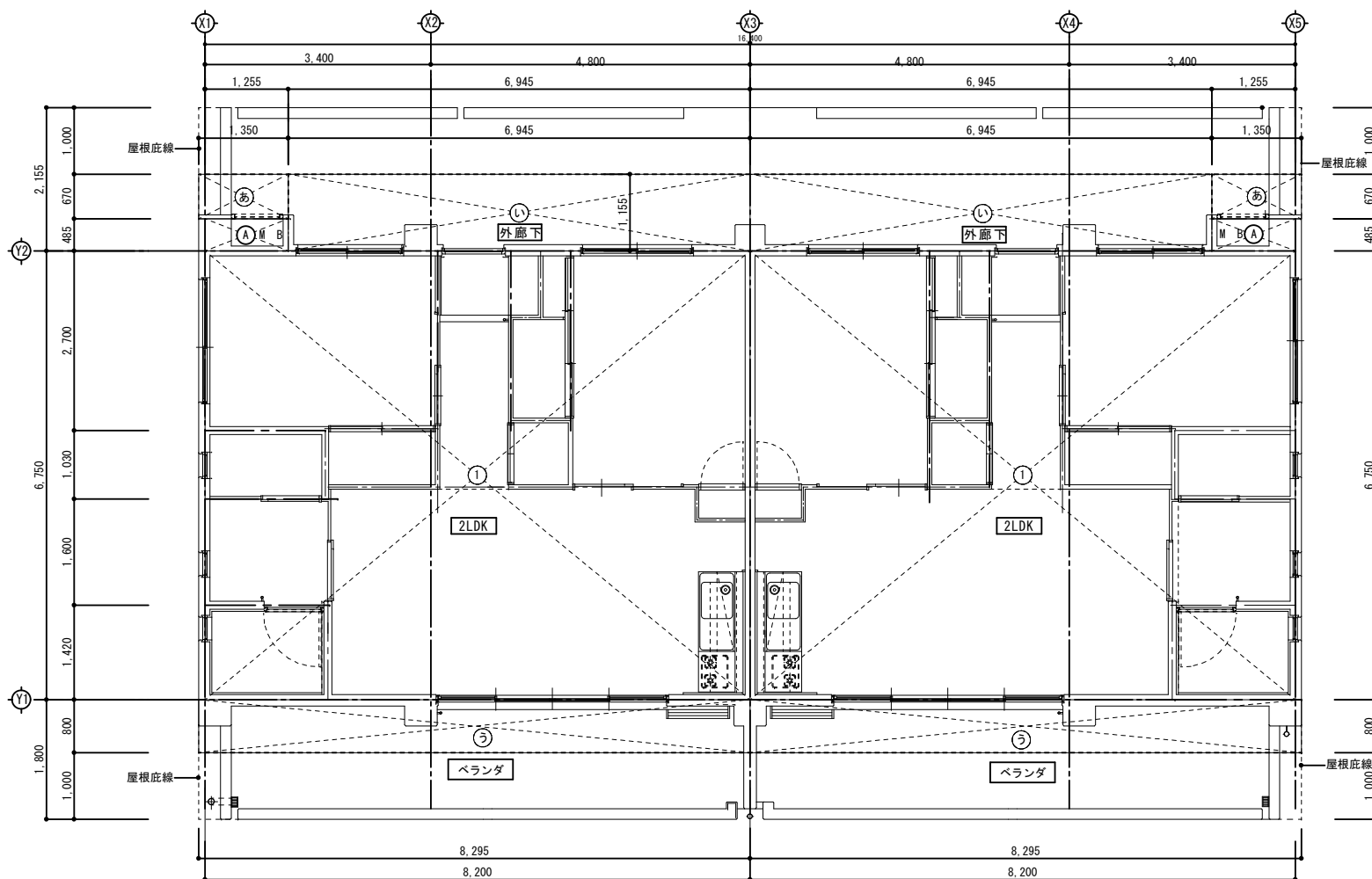
| 符号 | 計算式 | 計 (㎡) |
|----|-----------------------------------|----------|
| Ⓐ | $32.266 \times 13.594 \times 1/2$ | 219.3120 |
| Ⓑ | $32.266 \times 13.594 \times 1/2$ | 219.3120 |
| | 計 | 438.6240 |
| | | (438.62) |

| | | | | |
|------|--------------|------|---------------|-----------------|
| 工事名称 | 大富団地建替工事(建築) | 工事年度 | 令和7年度 | |
| 工事場所 | 竹富町字南風見仲地内 | 図面名称 | 2LDK棟 敷地求積図 | |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | S=1:500 | |
| 摘要 | | 図面番号 | A-006 | |
| 設計者 | 管理建築士 | 設計 | 名称 朝吹設計事務所 | |
| | | 製図 | | |
| | | | | |
| | | | | |
| 検印 | | | 資格者氏名 | 代表者 朝吹 一郎 |
| | | | 登録番号 | 一級建築士 第114962号 |
| | | | 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 |
| | | | | |



床面積算定図

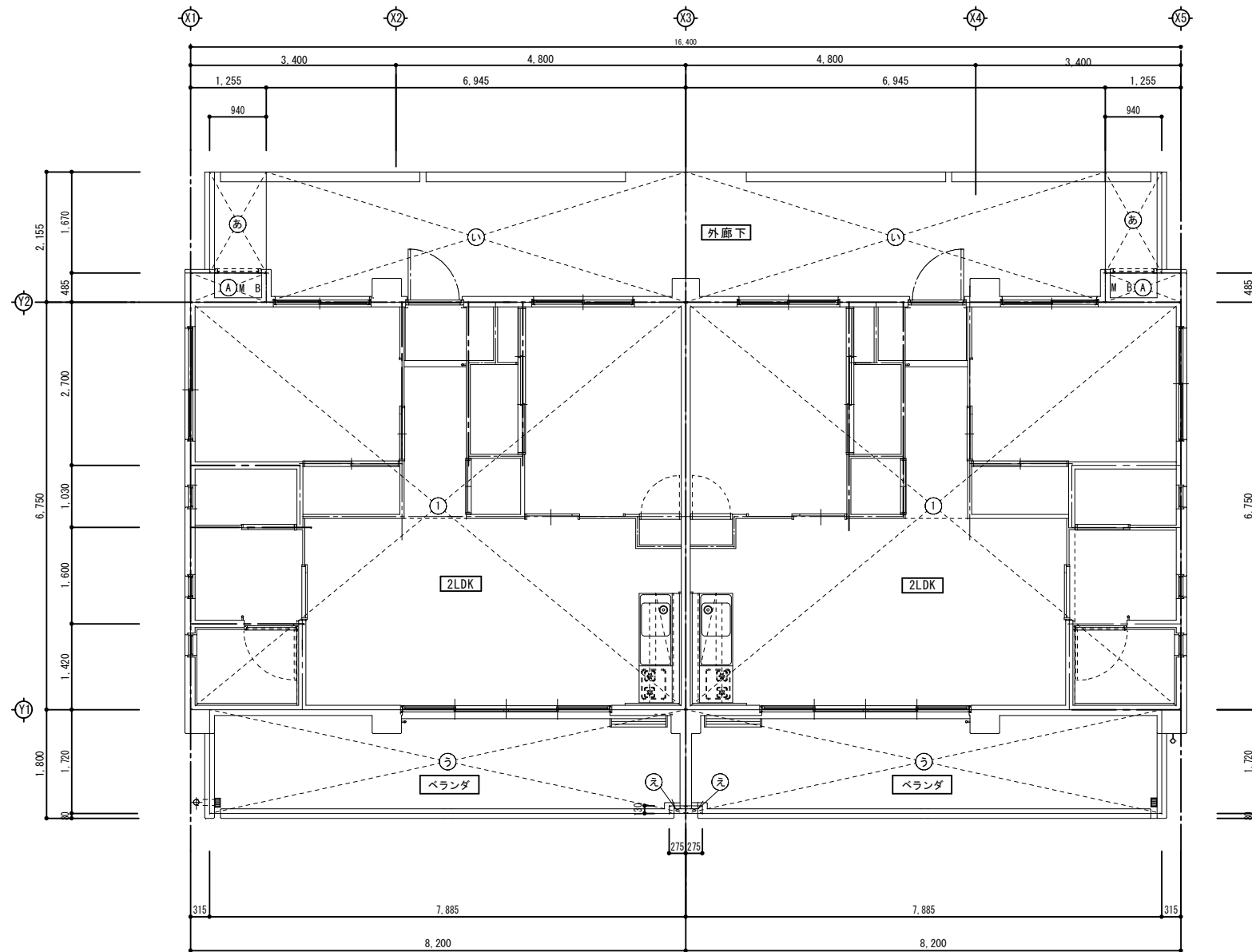
| 工区 | 記号 | 室名 | 計算式 | 面積 (㎡) | 住戸部分 (㎡) (専用) | 共用部分 (㎡) | |
|---------|----|--------|---------------------------------|------------|------------------|-----------|----------|
| | | | | | | MB・PS・EPS | 廊下 |
| 2LDK | ① | 2LDK-A | $8.200 \times 6.750 \times 2 =$ | 110.700000 | 110.700000 | | |
| | Ⓐ | 2LDK-A | $1.255 \times 0.485 \times 2 =$ | 1.217400 | | 1.217400 | |
| | ㉔ | 2LDK-A | $6.945 \times 0.155 \times 2 =$ | 2.153000 | | | 2.153000 |
| 合計 (工区) | | | | 114.070400 | 110.700000 | 1.217400 | 2.153000 |
| | | | | = (114.07) | (110.70) | (3.37) | |



建築面積算定図

| 工区 | 記号 | 室名 | 計算式 | 面積 (㎡) |
|------|----|-------------|---------------------------------|------------|
| 2LDK | ① | 2LDK | $8.200 \times 6.750 \times 2 =$ | 110.7000 |
| | Ⓐ | 2LDK (MB) | $1.255 \times 0.485 \times 2 =$ | 1.2174 |
| | ㉔ | 2LDK (外廊下) | $1.350 \times 0.670 \times 2 =$ | 1.8090 |
| | ㉕ | 2LDK (外廊下) | $6.945 \times 1.155 \times 2 =$ | 16.0430 |
| | ㉖ | 2LDK (ベランダ) | $8.295 \times 0.800 \times 2 =$ | 13.2720 |
| 合計 | | | | 143.0414 |
| | | | | = (143.04) |

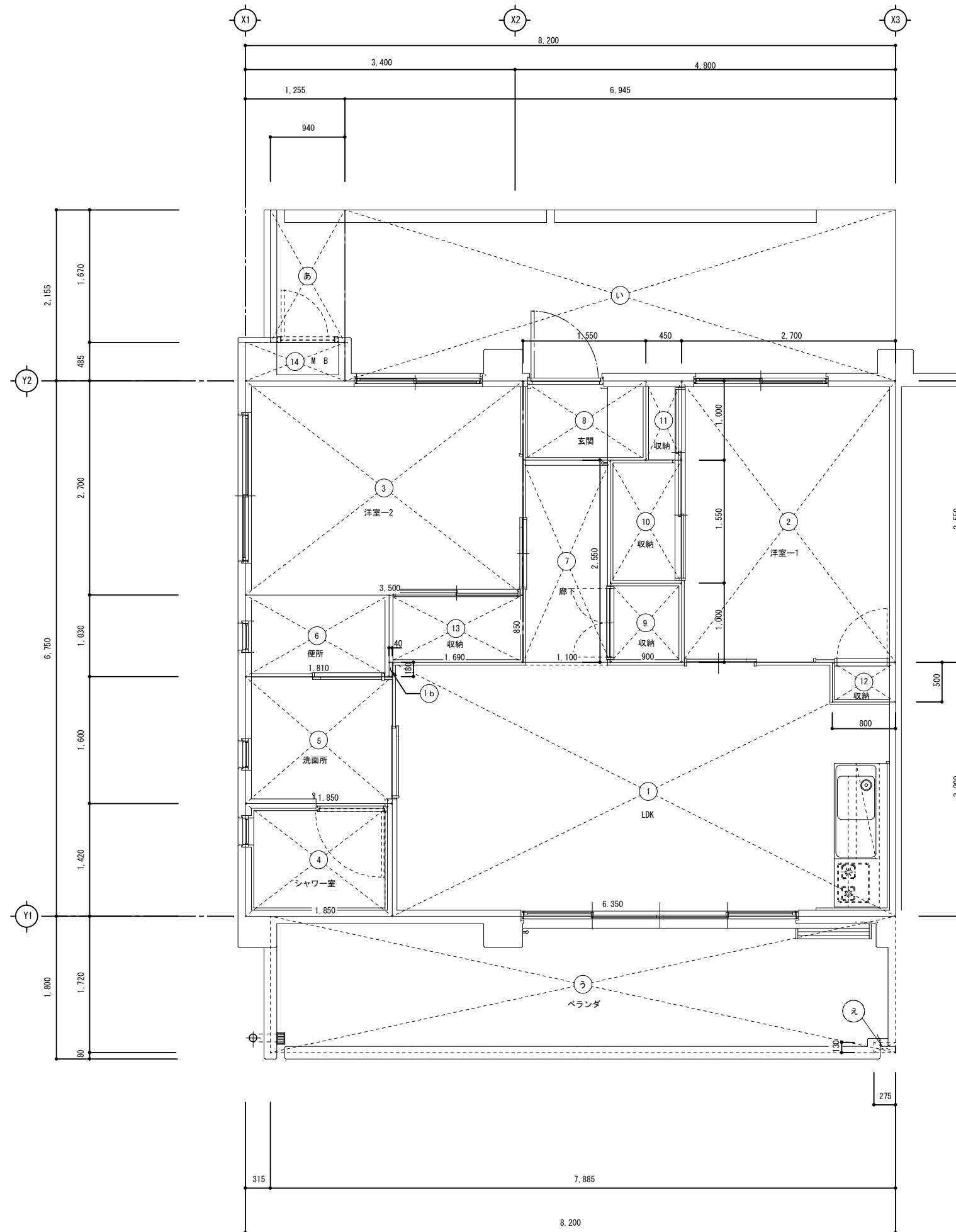
| | | | |
|------|-----------------|-------|----------------------|
| 工事名称 | 大富団地建替工事 (建築) | 工事年度 | 令和 7 年度 |
| 工事場所 | 竹富町字南風見仲地内 | 図面名称 | 2LDK棟 床面積、建築面積 (基準法) |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | S=1:50 |
| 摘要 | | 図面番号 | A - 007 |
| 検印 | 管理建築士 | 設計 | 製図 |
| | 設計者 | 名称 | ㈱朝吹設計事務所 |
| | 資格者氏名 | 代表者 | 朝吹 一郎 |
| | 登録番号 | 一級建築士 | 第114962号 |
| 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 | | |



2LDK棟 求積表

| 符号 | 計算式 | 面積 (㎡) |
|----|---|-----------------|
| ① | $8.200 \times 6.750 \times 2 =$ | 110.7000 |
| | 専用面積 小計 | 110.7000 |
| Ⓐ | $1.255 \times 0.485 \times 2 =$ | 1.2174 |
| Ⓑ | $0.940 \times 1.670 \times 2 =$ | 3.1396 |
| ① | $6.945 \times 2.155 \times 2 =$ | 29.9330 |
| ③ | $7.885 \times 1.720 \times 1/3 \times 2 =$ | 9.0415 |
| ④ | $\nabla 0.275 \times 0.130 \times 1/3 \times 2 =$ | $\nabla 0.0238$ |
| | 共有面積 小計 | 43.3077 |
| | 床面積 (公営住宅法) | 154.0077 |
| | | 154.00㎡ |
| | (専用面積) | 110.7000 |
| | | 110.70㎡ |
| | (共有面積) | 43.3077 |
| | | 43.30㎡ |

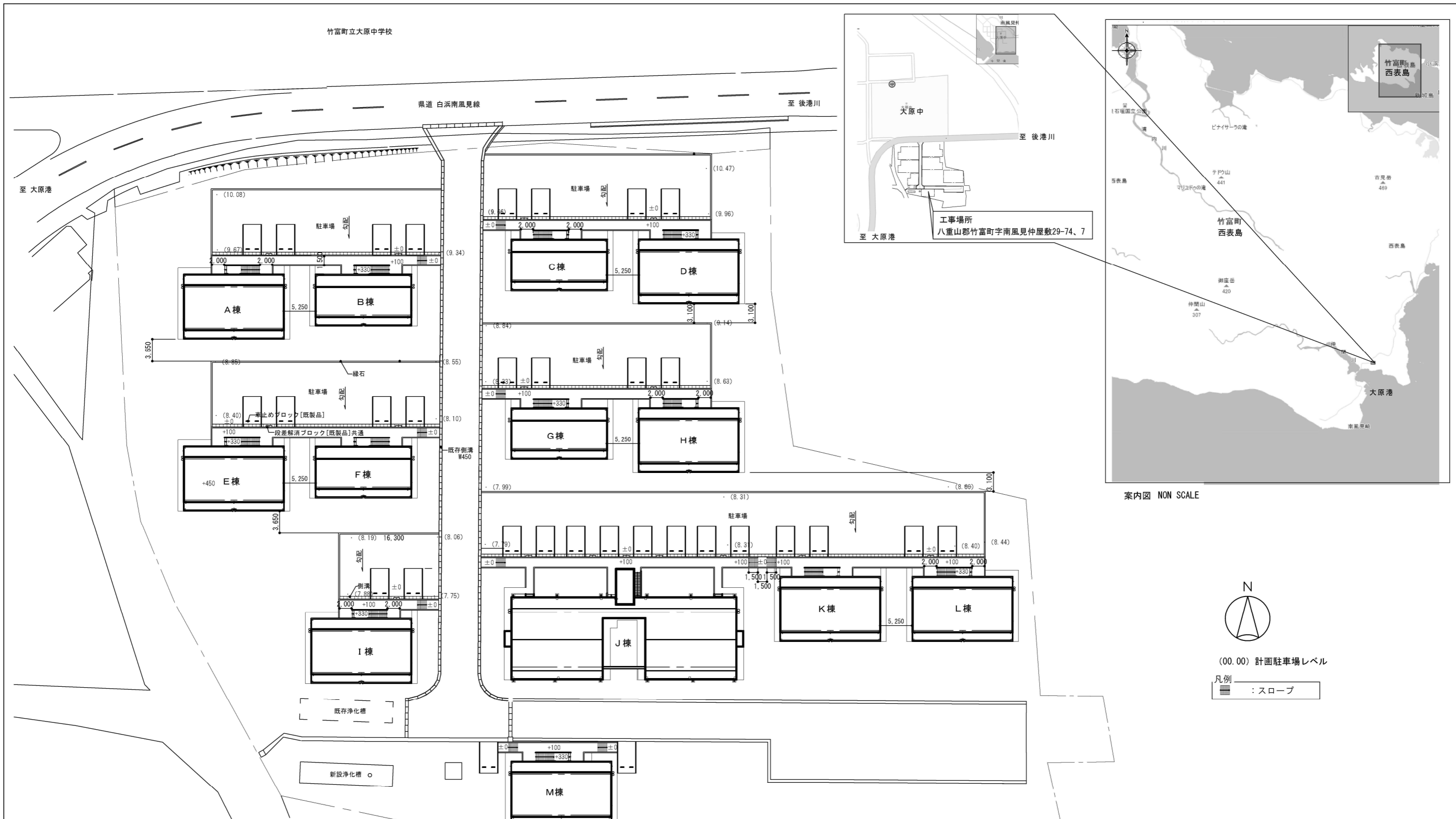
| | | | |
|------|---------------|-----------------|-----------------|
| 工事名称 | 大富団地建替工事 (建築) | 工事年度 | 令和 7 年度 |
| 工事場所 | 竹富町字南風見仲地内 | 図面名称 | 2LDK棟 求積図 (公営法) |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | S=1:50 |
| 摘要 | | 図面番号 | A - 008 |
| 検印 | 管理建築士 | 設計 | 製図 |
| | 名称 | 南朝設計事務所 | |
| | 資格者氏名 | 代表者 朝吹 一郎 | |
| | 登録番号 | 一級建築士 第114962号 | |
| | 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 | |



2LDK 室面積求積表

| 符号 | 室名 | 計算式 | 面積 (㎡) |
|----|----------|-----------------------|-------------------------------------|
| ① | LDK | 6.350 x 3.200 = | 20.3200 |
| ①b | LDK | 0.040 x 0.180 = | 0.0072 |
| ⑫ | LDK | ▼ 0.800 x 0.500 = | ▼ 0.4000 |
| ② | 洋室-1 | 2.700 x 3.550 = | 9.5850 |
| ③ | 洋室-2 | 3.500 x 2.700 = | 9.4500 |
| ④ | シャワー室 | 1.850 x 1.420 = | 2.6270 |
| ⑤ | 洗面所 | 1.850 x 1.600 = | 2.9600 |
| ⑥ | 便所 | 1.810 x 1.030 = | 1.8643 |
| ⑦ | 廊下 | 1.100 x 2.550 = | 2.8050 |
| ⑧ | 玄関 | 1.550 x 1.000 = | 1.5500 |
| ⑨ | 収納 | 0.900 x 1.000 = | 0.9000 |
| ⑩ | 収納 | 0.900 x 1.550 = | 1.3950 |
| ⑪ | 収納 | 0.450 x 1.000 = | 0.4500 |
| ⑫ | 収納 | 0.800 x 0.500 = | 0.4000 |
| ⑬ | 収納 | 1.690 x 0.850 = | 1.4365 |
| ⑭ | M B | 1.255 x 0.485 = | 0.6087 |
| あ | 外廊下 | 0.940 x 1.670 = | 1.5698 |
| い | 外廊下 | 6.945 x 2.155 = | 14.9665 |
| う | ベランダ | 7.885 x 1.720 x 1/3 | 4.5207 |
| え | ベランダ | ▼ 0.275 x 0.130 x 1/3 | ▼ 0.0119 |
| | | | (77.0038) |
| | 居室床面積 | ①+①b+②+③-⑫ | 20.3200+0.0072+9.5850+9.4500-0.4000 |
| | | | (38.96㎡) |
| | 公営住宅法床面積 | | 77.0038 |
| | | | (77.00㎡) |

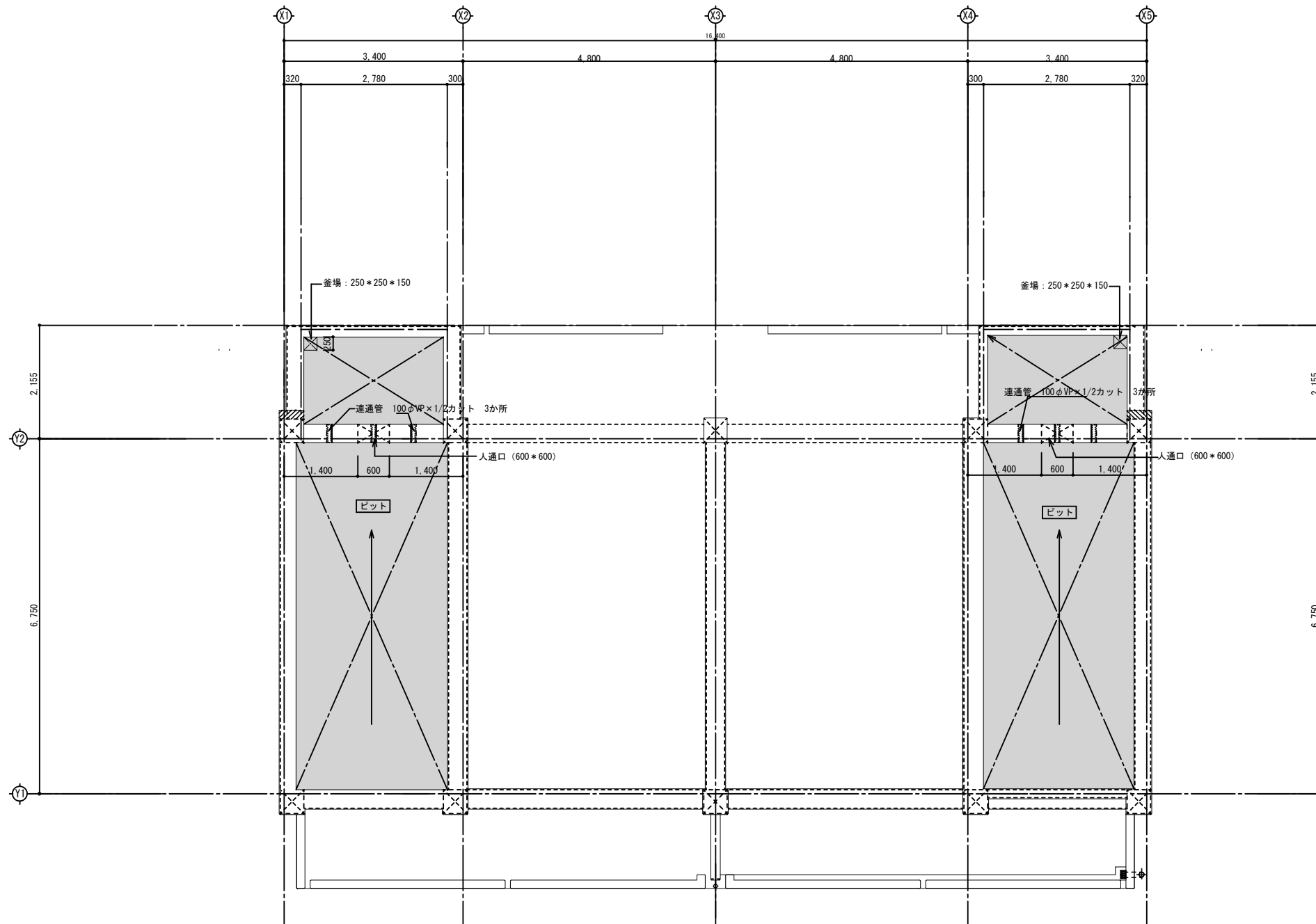
| | | | |
|------|-----------------|------------|-----------------|
| 工事名称 | 大富団地建替工事 (建築) | 工事年度 | 令和 7 年度 |
| 工事場所 | 竹富町字南風見仲地内 | 図面名称 | 2LDK棟 求積図 (室面積) |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | S=1:50 |
| 摘要 | | 図面番号 | A - 009 |
| 設計者 | 管理建築士 | 設計 | 製図 |
| | 名称 | (有)朝吹設計事務所 | |
| | 資格者氏名 | 代表者 | 朝吹 一郎 |
| | 登録番号 | 一級建築士 | 第114962号 |
| 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 | | |



● 計画概要 A, D, E, H, I, K, L, M 棟 2LDK棟

| | | | | | | | | |
|------|--------|-------------------|---------|------------------|----------|---------------|------------|--------|
| 敷地概要 | 地名地番 | 竹富町字南風見仲屋敷29-74、他 | 建物概要 | 共同住宅 | | | | |
| | 住居表示 | | 工事の種類 | 改築工事 | | | | |
| | 敷地面積 | | 構造 | 鉄筋コンクリート造 | | | | |
| | 都市計画区域 | 都市計画区域外 | 階数 | 平屋建て | | | | |
| | 用途地域 | 未指定 | 平均地盤面 | 設計GL+ 0 | | | | |
| | 防火地域 | 指定なし | 最高の高さ | 4.30m | | | | |
| | 指定建ぺい率 | 実施: | 軒高さ | 3.80m | | | | |
| | 指定容積率 | 実施: | 建築面積 | 143.04㎡ | | | | |
| | 高さ制限 | | 2LDKタイプ | 床面積 (㎡) | 専有部分 (㎡) | 共用面積 (㎡) (廊下) | 容積対象面積 (㎡) | |
| | 日影規制 | | | 1階 | 114.07 | 110.70 | 3.37 | 111.91 |
| | 道路 | 前面道路幅員 接道長さ | 床面積 | 計 | 114.07 | 110.70 | 3.37 | 111.91 |
| 設備概要 | 給水 | 給水本管より | 浄化槽へ接続 | 住宅用防災機器 | | | | |
| | 給温水 | ガス湯沸器 | 雨水 | 居室: 煙感知器 | | | | |
| | | | | 換気: 自然換気、第3種機械換気 | | | | |

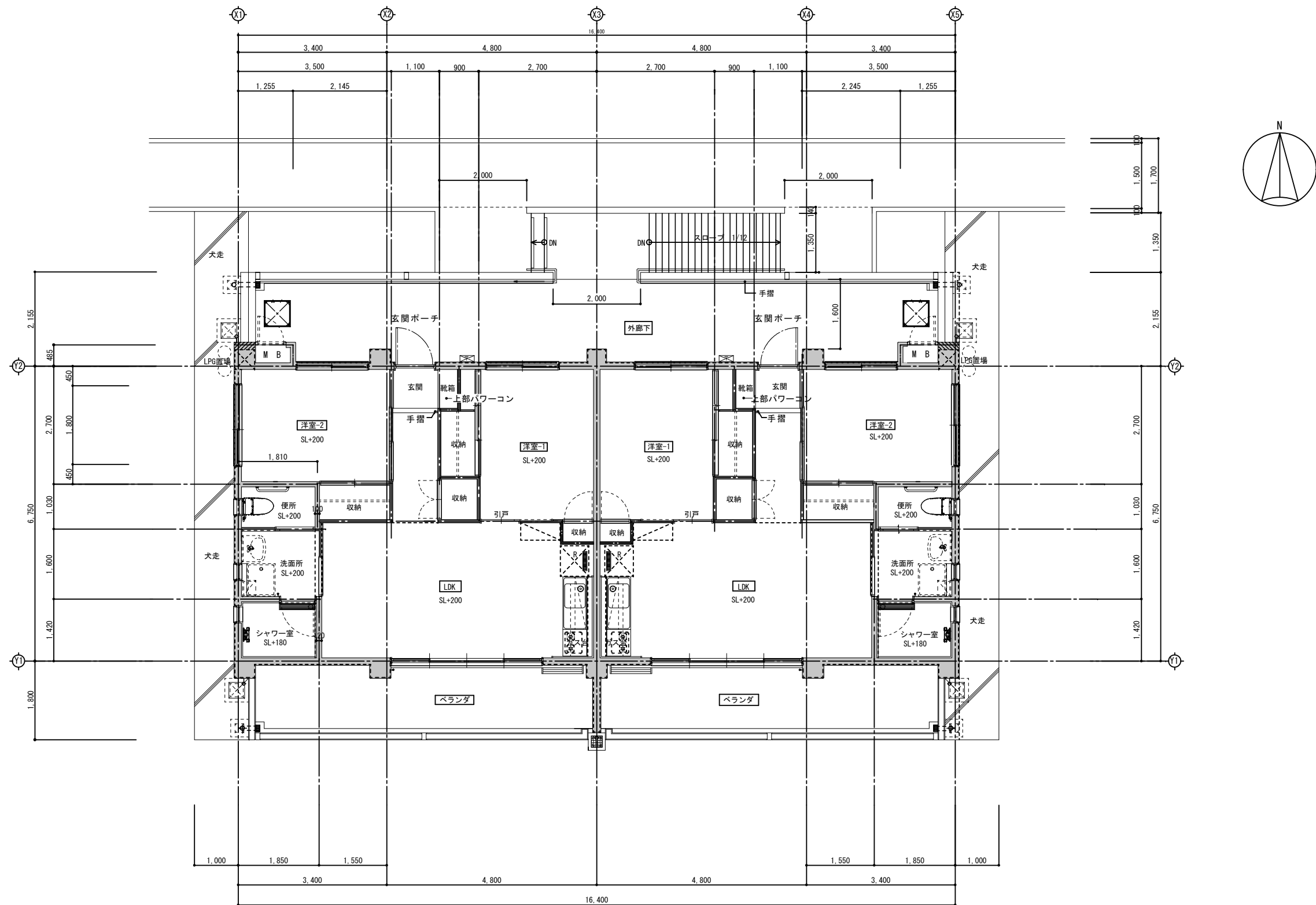
| | | | |
|------|--------------|------|---|
| 工事名称 | 大富団地建替工事(建築) | 工事年度 | 令和7年度 |
| 工事場所 | 竹富町字南風見仲地内 | 図面名称 | 配置図・計画概要 |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | S=1:300 |
| 摘要 | | 図面番号 | A-011 |
| 検印 | 管理建築士 | 設計製図 | 設計者 名称 南朝吹設計事務所 資格者氏名 代表者 朝吹 一郎 登録番号 一級建築士 第114962号 所在地 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |



ピット平面図 S=1/50

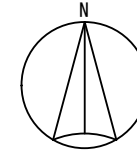
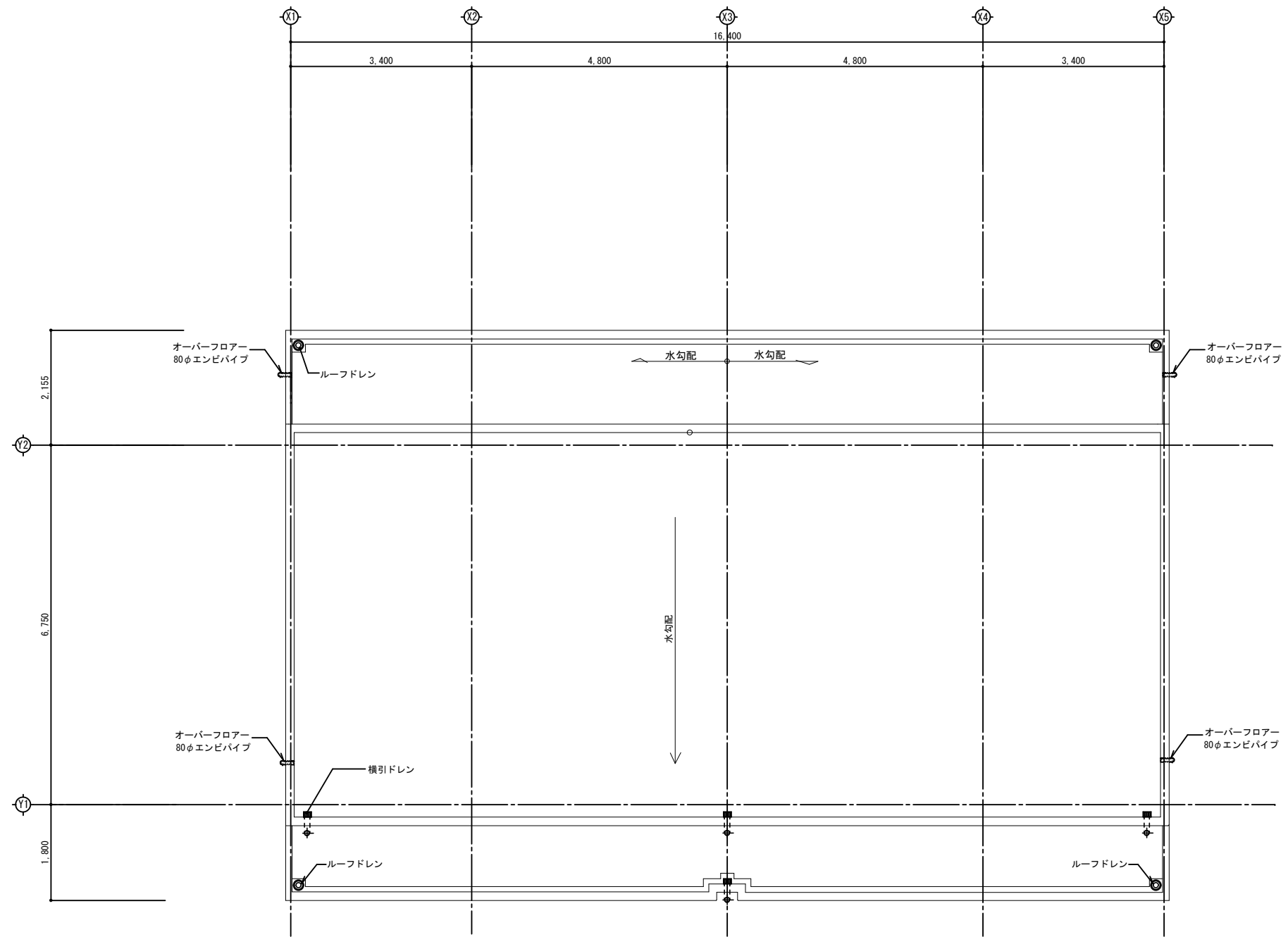
凡例 ■ : 部分はピット

| | | | |
|------|-----------------|----------------|--------------|
| 工事名称 | 大富団地建替工事 (建築) | 工事年度 | 令和 7 年度 |
| 工事場所 | 竹富町字南風見仲地内 | 図面名称 | 2LDK棟 ピット平面図 |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | S=1:50 |
| 摘要 | | 図面番号 | A - 012 |
| 設計者 | 管理建築士 | 設計 | 製図 |
| | 名称 | 衛朝吹設計事務所 | |
| | 資格者氏名 | 代表者 | 朝吹 一郎 |
| | 登録番号 | 一級建築士 第114962号 | |
| 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 | | |



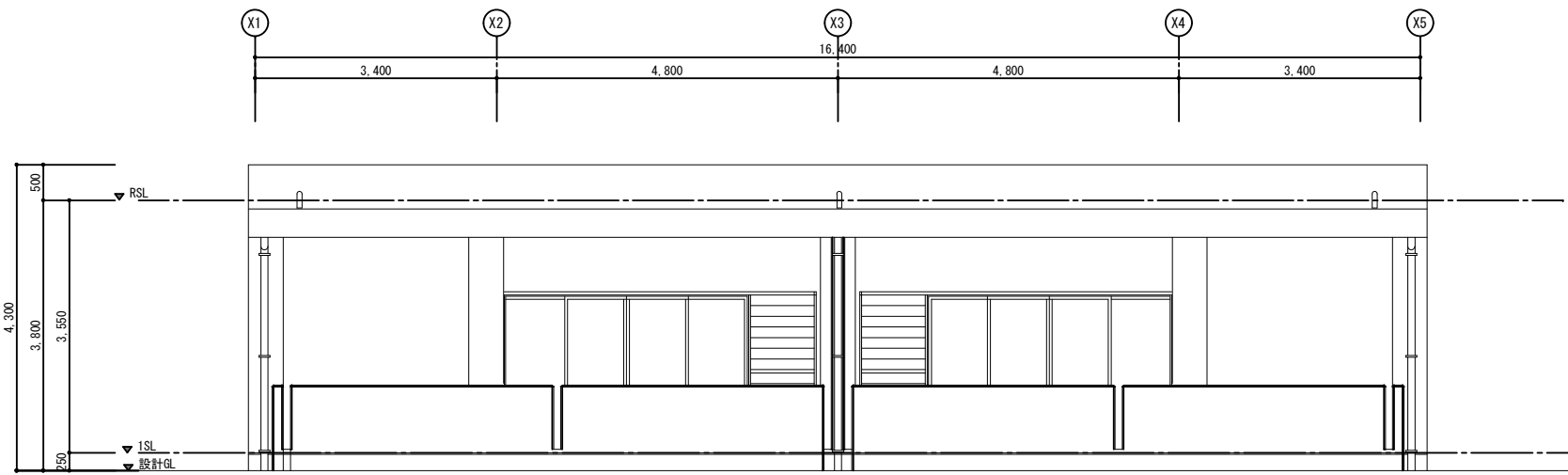
1階平面図 S=1/50

| | | | |
|------|---------------|-----------------|-------------|
| 工事名称 | 大富団地建替工事 (建築) | 工事年度 | 令和 7 年度 |
| 工事場所 | 竹富町字南風見仲地内 | 図面名称 | 2LDK棟 1階平面図 |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | S=1:50 |
| 摘要 | | 図面番号 | A - 013 |
| 検印 | 管理建築士 | 設計 | 製図 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| 設計者 | 名称 | ㈱朝吹設計事務所 | |
| | 資格者氏名 | 代表者 朝吹 一郎 | |
| | 登録番号 | 一級建築士 第114962号 | |
| | 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 | |

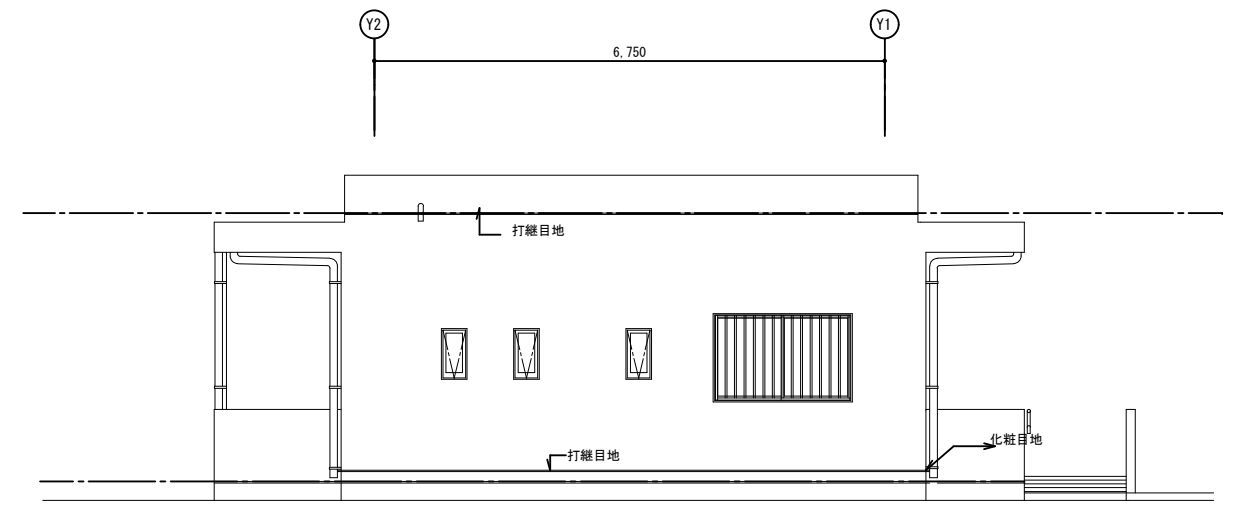


屋根平面図 S=1/50

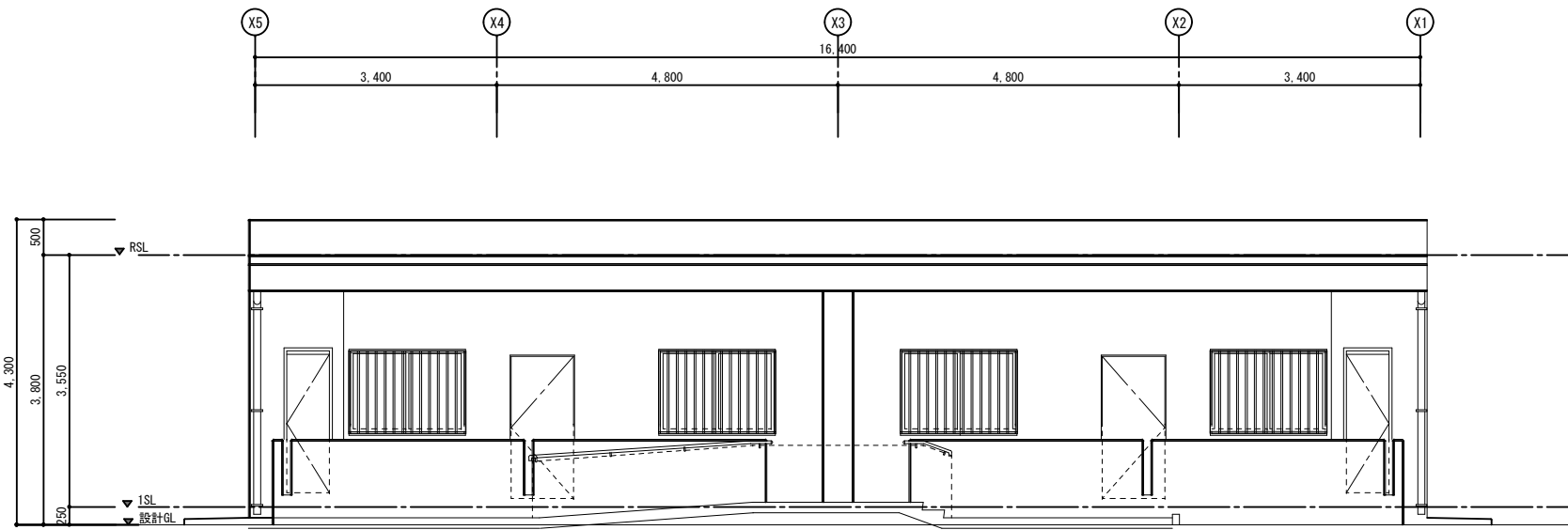
| | | | |
|------|-----------------|----------------|-------------|
| 工事名称 | 大富団地建替工事（建築） | 工事年度 | 令和7年度 |
| 工事場所 | 竹富町字南風見仲地内 | 図面名称 | 2LDK棟 屋根平面図 |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | S=1:50 |
| 摘要 | | 図面番号 | A - 014 |
| 設計者 | 管理建築士 | 設計 | 製図 |
| | 名称 | 南朝吹設計事務所 | |
| | 資格者氏名 | 代表者 朝吹 一郎 | |
| | 登録番号 | 一級建築士 第114962号 | |
| 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 | | |



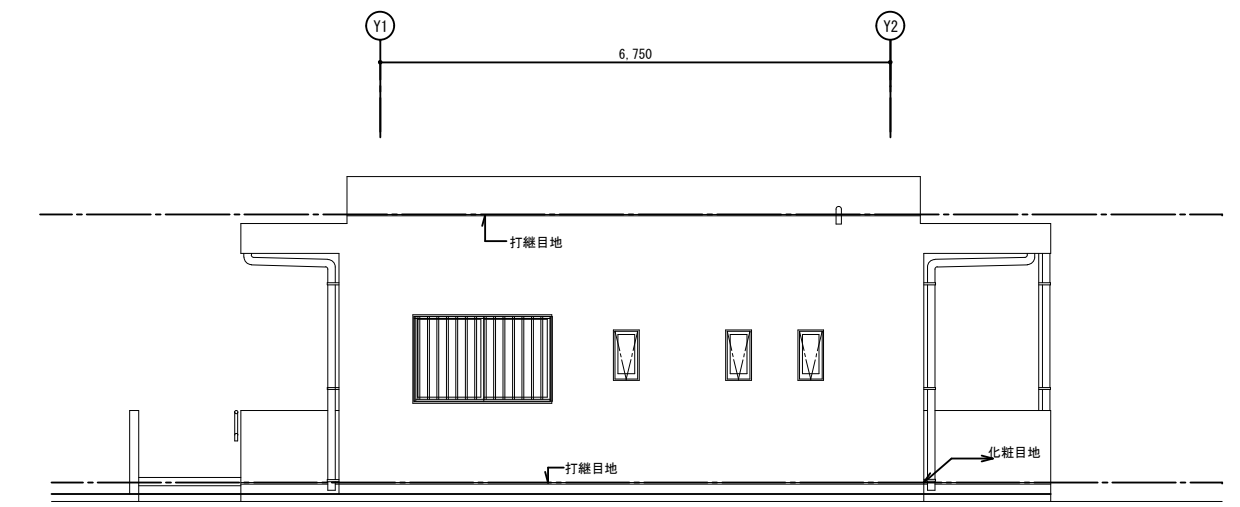
北側立面図 S=1/50



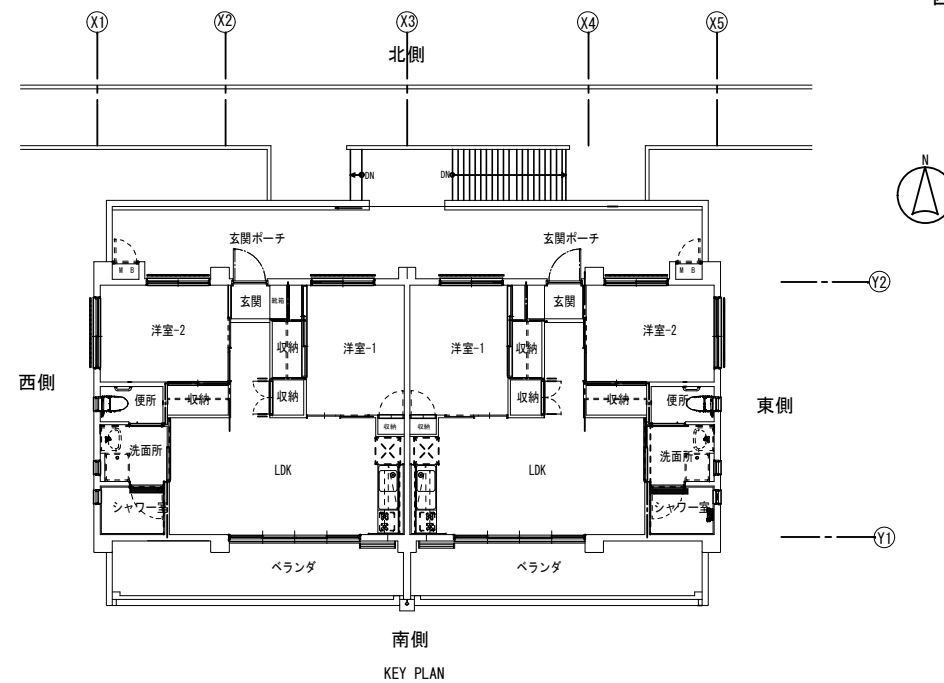
東側立面図 S=1/50



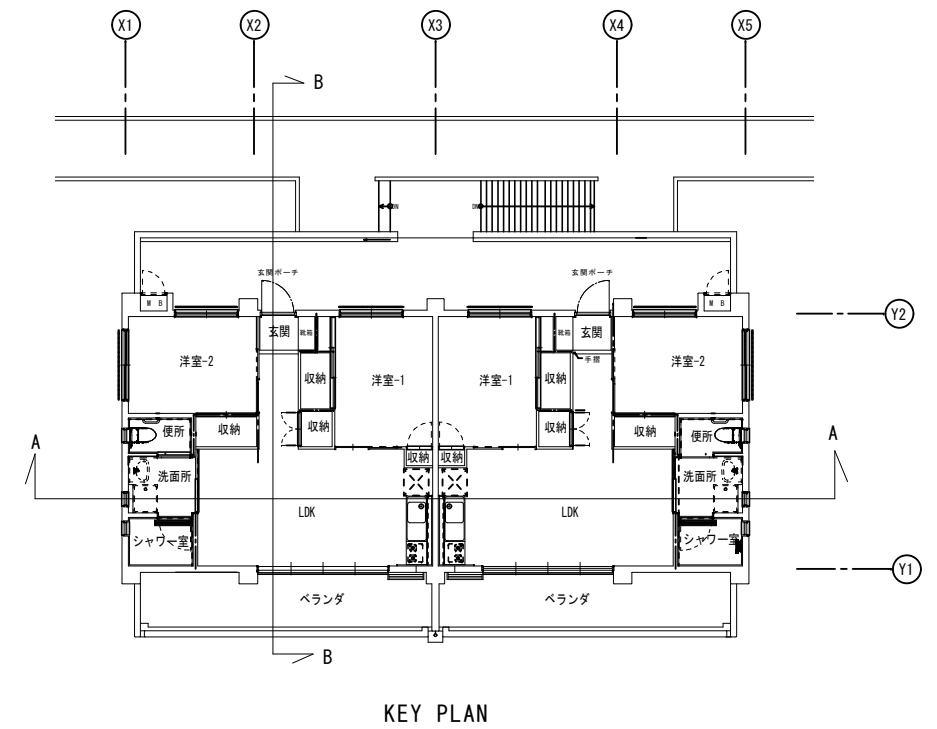
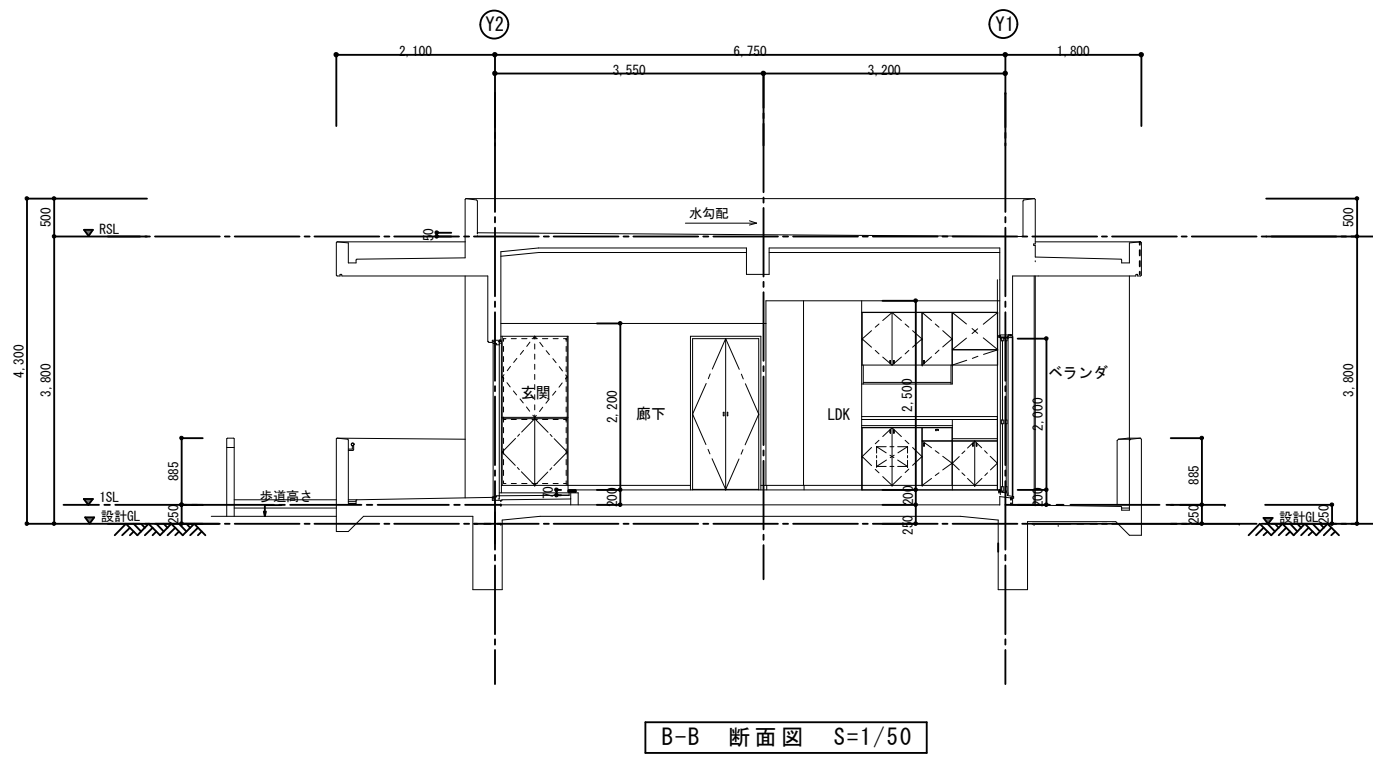
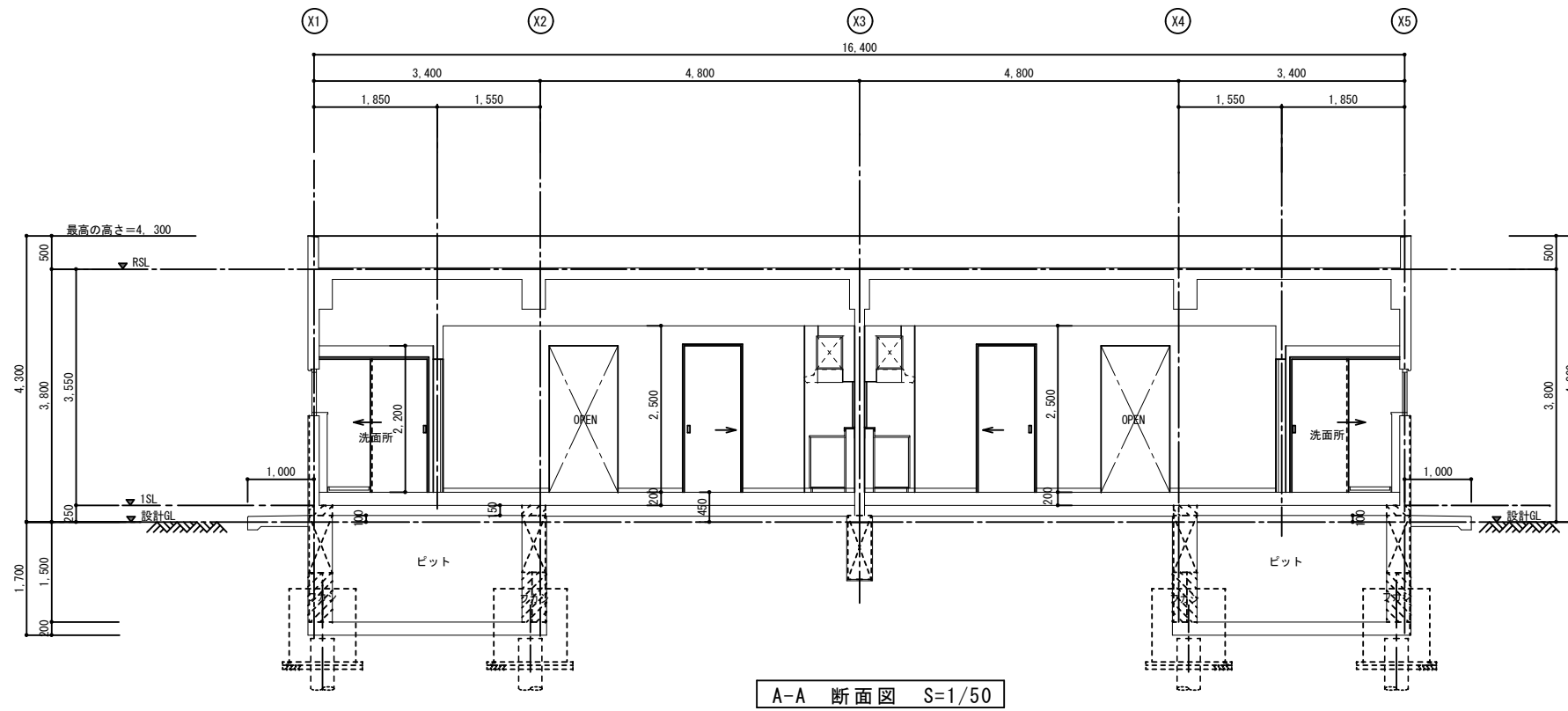
南側立面図 S=1/50



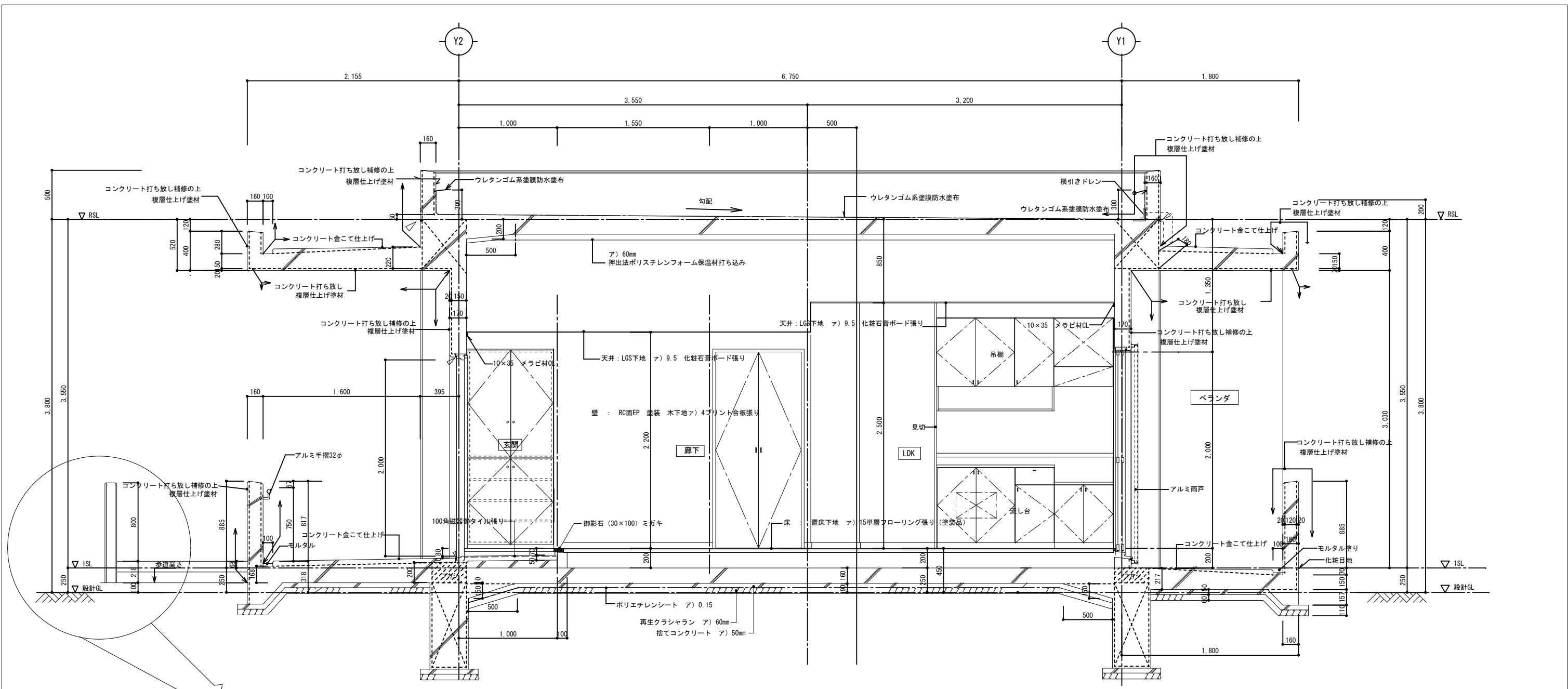
西側立面図 S=1/50



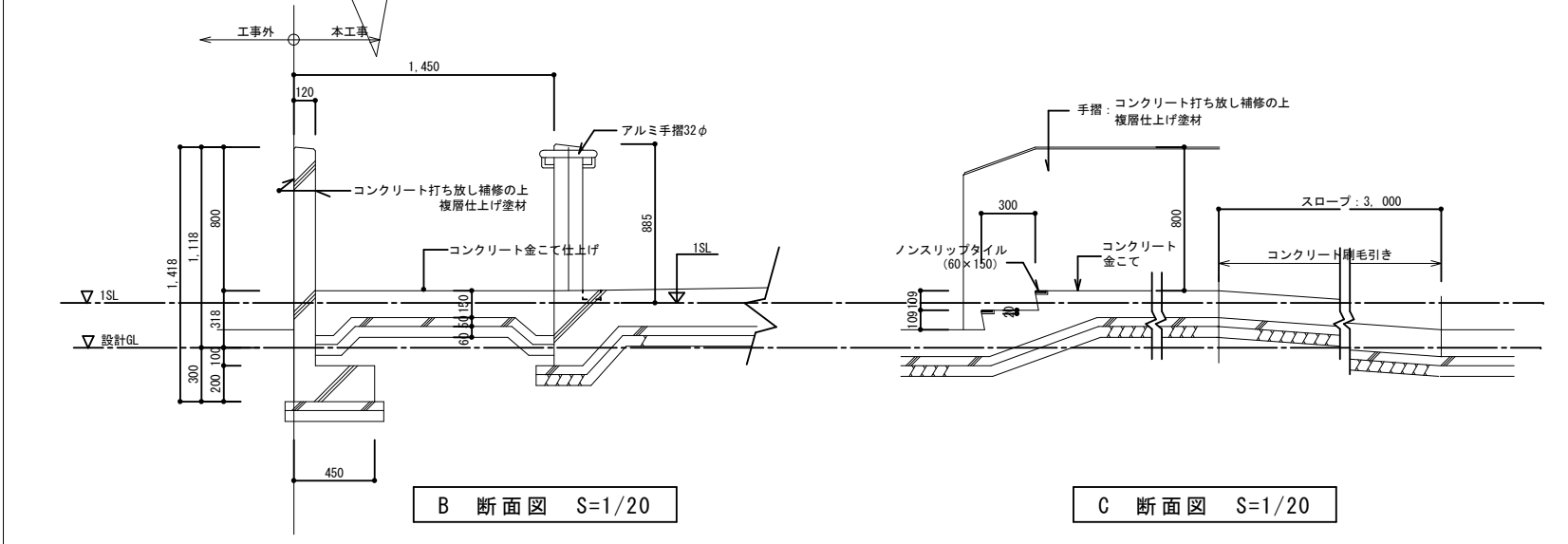
| | | | |
|------|--------------|-----------------|-----------|
| 工事名称 | 大富団地建替工事（建築） | 工事年度 | 令和7年度 |
| 工事場所 | 竹富町字南風見仲地内 | 図面名称 | 2LDK棟 立面図 |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | S=1:50 |
| 摘要 | | 図面番号 | A - 015 |
| 検印 | 管理建築士 | 設計 | 製図 |
| | 名称 | 南朝吹設計事務所 | |
| | 資格者氏名 | 代表者 朝吹 一郎 | |
| | 登録番号 | 一級建築士 第114962号 | |
| | 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 | |



| | | | |
|------|--------------|-----------------|-----------|
| 工事名称 | 大富団地建替工事（建築） | 工事年度 | 令和7年度 |
| 工事場所 | 竹富町字南風見仲地内 | 図面名称 | 2LDK棟 断面図 |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | S=1:50 |
| 摘要 | | 図面番号 | A - 016 |
| 検印 | 管理建築士 | 設計 | 製図 |
| | 名称 | 南朝吹設計事務所 | |
| | 資格者氏名 | 代表者 朝吹 一郎 | |
| | 登録番号 | 一級建築士 第114962号 | |
| | 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 | |

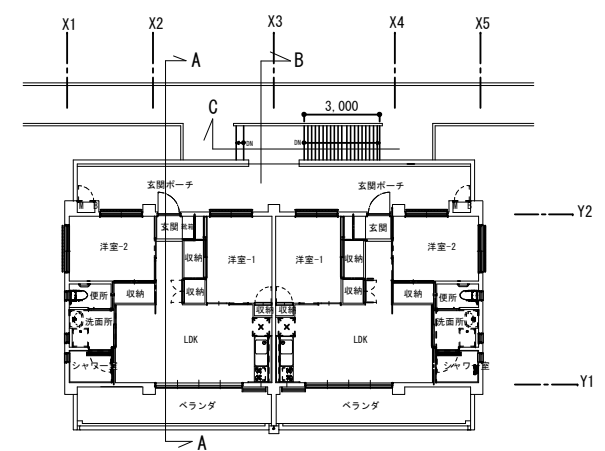


A-A 矩形図 S=1/20



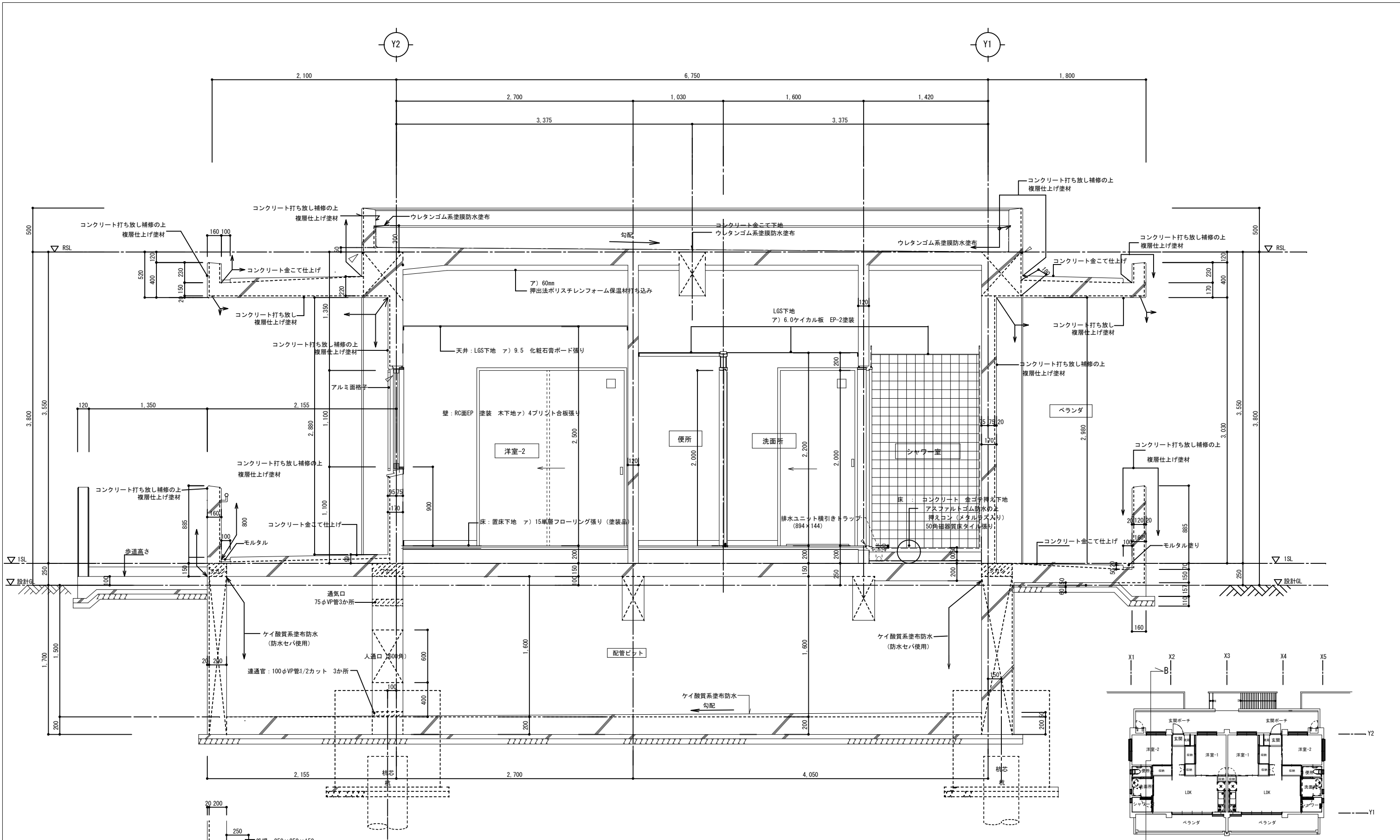
B 断面図 S=1/20

C 断面図 S=1/20

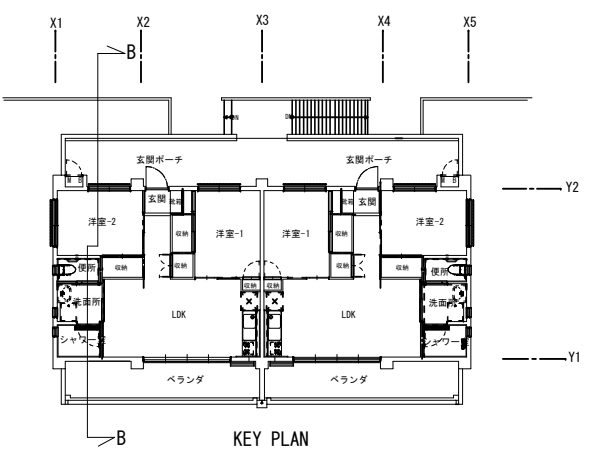


KEY PLAN

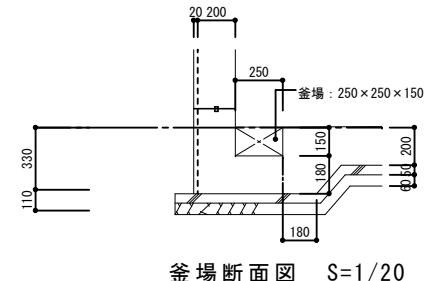
| | | | |
|------|-----------------|----------------|---------------|
| 工事名称 | 大富田地建替工事 (建築) | 工事年度 | 令和 7 年度 |
| 工事場所 | 竹富町宇南風見仲地内 | 図面名称 | 2LDK棟 矩形図 (1) |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮 尺 | S=1:20 |
| 摘 要 | | 図面番号 | A - 017 |
| 検 印 | 管理建築士 | 設 計 | 製 図 |
| | 名 称 | 南朝吹設計事務所 | |
| | 資格者氏名 | 代表者 朝吹 一郎 | |
| | 登録番号 | 一級建築士 第114962号 | |
| 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 | | |



B-B 矩形図 S=1/20

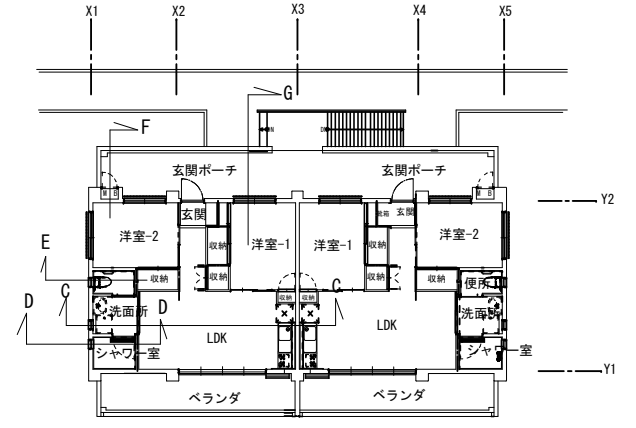
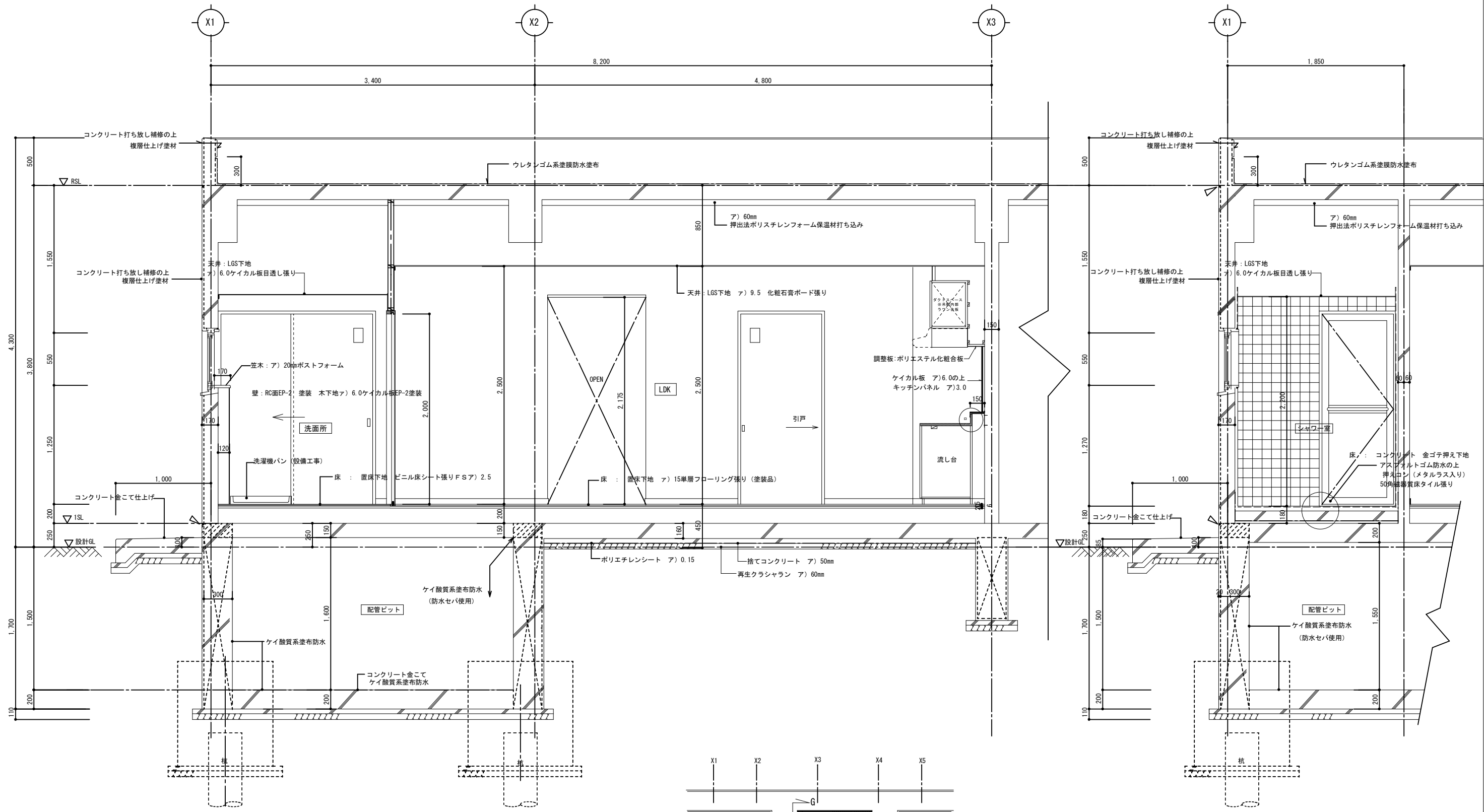


KEY PLAN

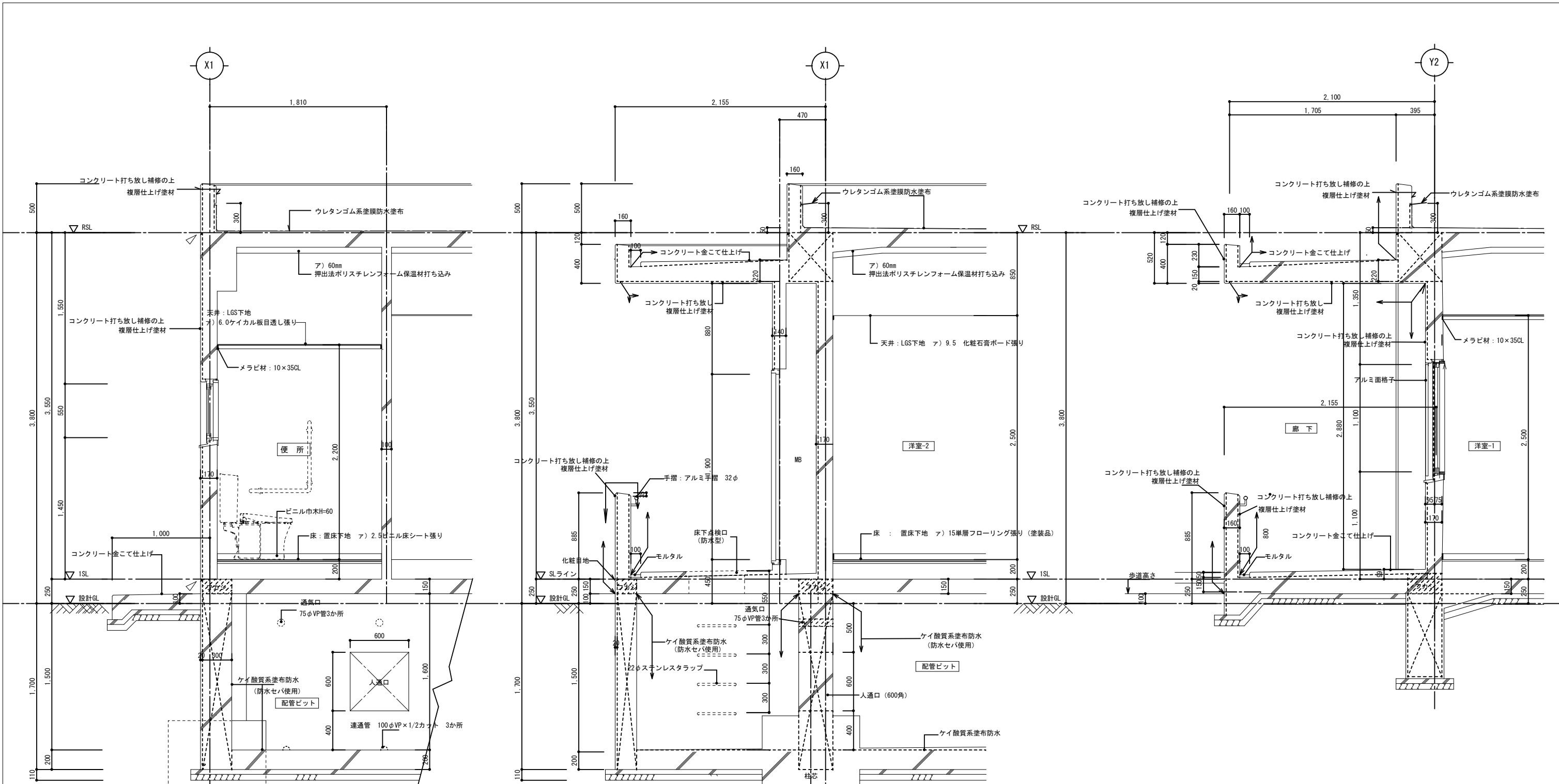


釜場断面図 S=1/20

| | | | |
|------|--------------|-------|-----------------|
| 工事名称 | 大富団地建替工事(建築) | 工事年度 | 令和7年度 |
| 工事場所 | 竹富町字南風見仲地内 | 図面名称 | 2LDK棟 矩形図-2 |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | S=1:20 |
| 摘要 | | 図面番号 | A-018 |
| 検印 | 管理建築士 | 設計 | 製図 |
| | | 名称 | 衛朝吹設計事務所 |
| | | 資格者氏名 | 代表者 朝吹 一郎 |
| | | 登録番号 | 一級建築士 第114962号 |
| | | 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 |



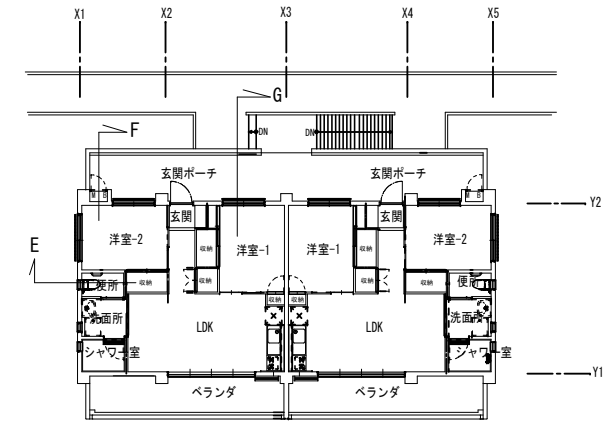
| | | | |
|------|---------------|-----------------|-------------|
| 工事名称 | 大富田地建替工事 (建築) | 工事年度 | 令和 7 年度 |
| 工事場所 | 竹富町字南風見仲地内 | 図面名称 | 2LDK棟 矩計図-3 |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | S=1:20 |
| 摘要 | | 図面番号 | A - 019 |
| 検印 | 管理建築士 | 設計 | 製図 |
| | 名称 | ㈱朝吹設計事務所 | |
| | 資格者氏名 | 代表者 | 朝吹 一郎 |
| | 登録番号 | 一級建築士 第114962号 | |
| | 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 | |



E 矩形図 S=1/20

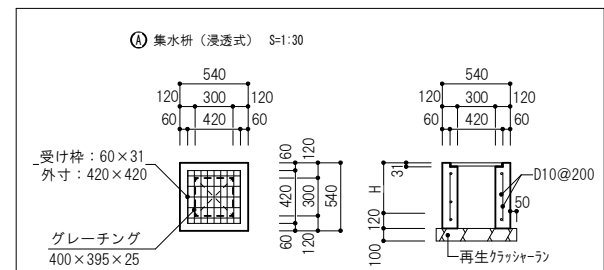
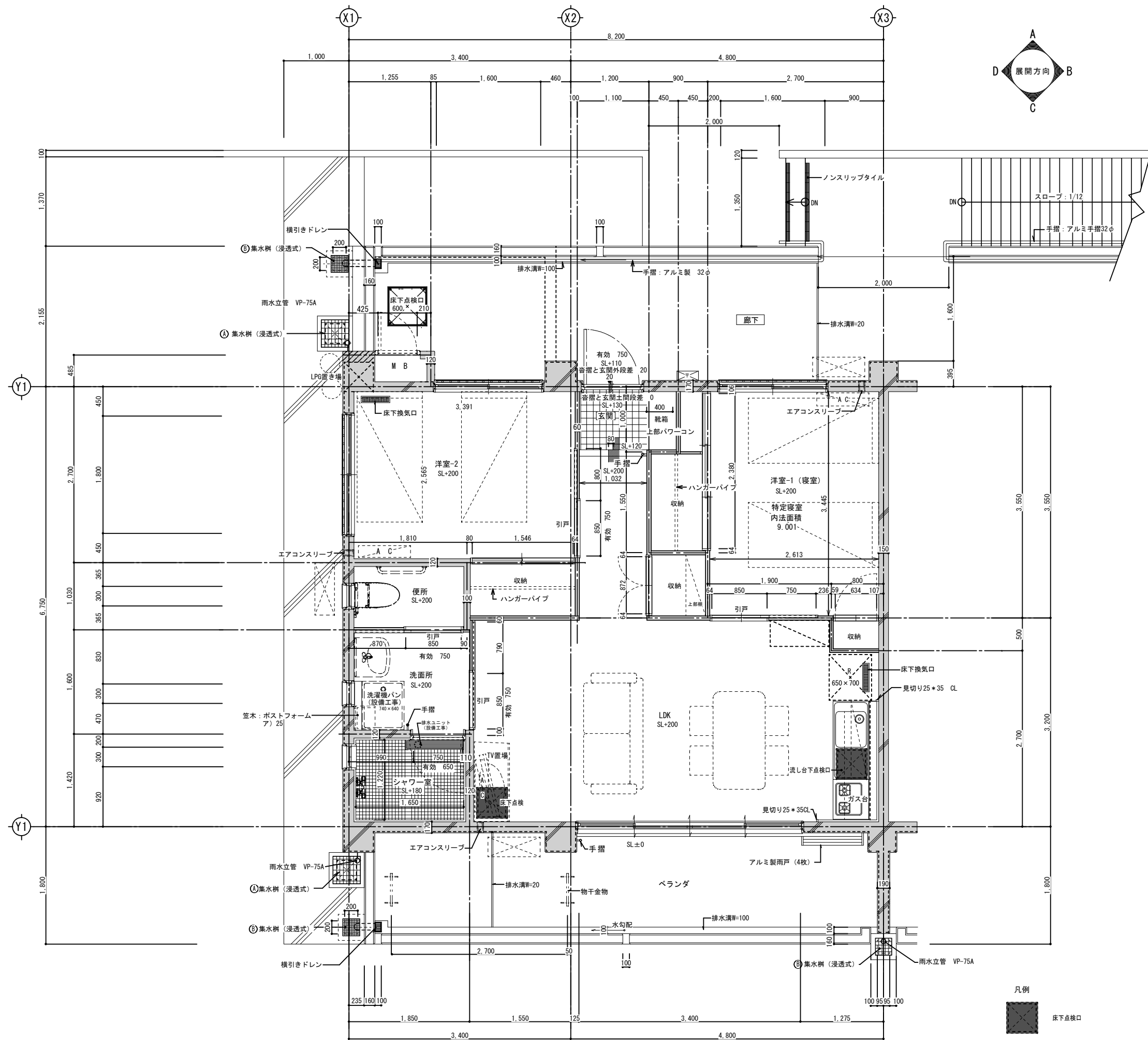
F 矩形図 S=1/20

G 矩形図 S=1/20

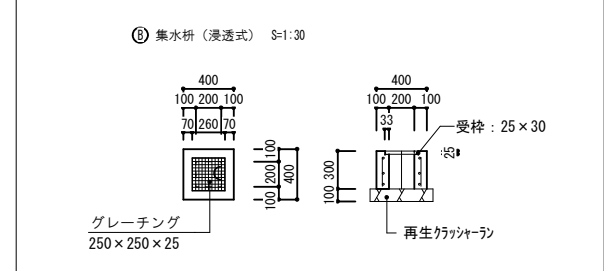


KEY PLAN

| | | | |
|------|---------------|-------|-----------------|
| 工事名称 | 大富団地建替工事 (建築) | 工事年度 | 令和 7 年度 |
| 工事場所 | 竹富町字南風見仲地内 | 図面名称 | 2LDK棟 矩形図-4 |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | S=1:20 |
| 摘要 | | 図面番号 | A - 020 |
| 検印 | 管理建築士 | 設計 | 製図 |
| | | 名称 | 衛朝吹設計事務所 |
| | | 資格者氏名 | 代表者 朝吹 一郎 |
| | | 登録番号 | 一級建築士 第114962号 |
| | | 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 |



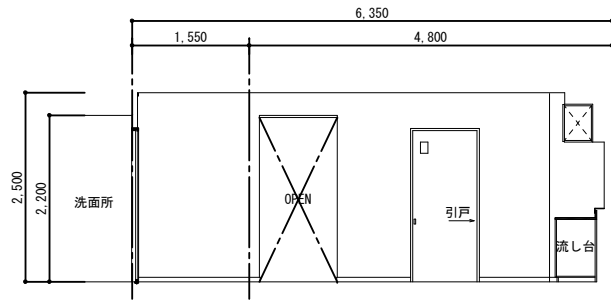
仕様
 スチール製グレーチング 枠付正方形
 滑り止め模様付
 材質：SS400
 処理：溶融亜鉛めっき
 スチール製受枠 L-25（四方受四方枠）
 材質：SS400
 処理：樹脂系塗装



仕様
 スチール製グレーチング 枠付正方形
 滑り止め模様付
 材質：SS400
 処理：溶融亜鉛めっき
 スチール製受枠 L-25（四方受四方枠）
 材質：SS400
 処理：樹脂系塗装

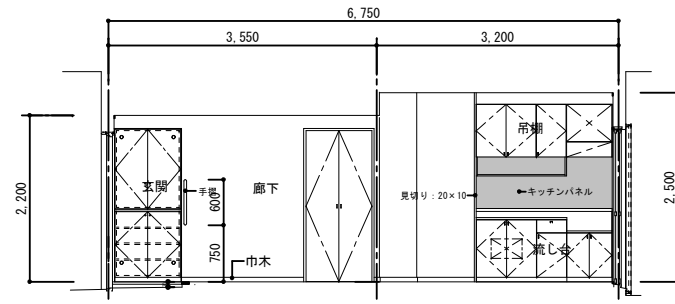
2LDK 平面詳細図 S=1/30

| | | | |
|------|-----------------|----------|-------------|
| 工事名称 | 大富団地建替工事（建築） | 工事年度 | 令和7年度 |
| 工事場所 | 竹富町字南風見仲地内 | 図面名称 | 2LDK棟 平面詳細図 |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | S=1:30 |
| 摘要 | | 図面番号 | A - 021 |
| 検印 | 管理建築士 | 設計 | 製図 |
| | 名称 | 衛朝吹設計事務所 | |
| | 資格者氏名 | 代表者 | 朝吹 一郎 |
| | 登録番号 | 一級建築士 | 第114962号 |
| 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 | | |

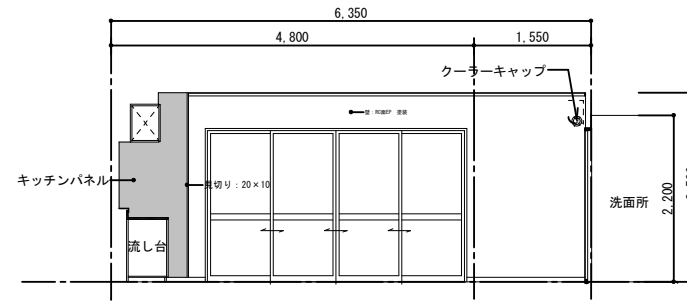


L D K

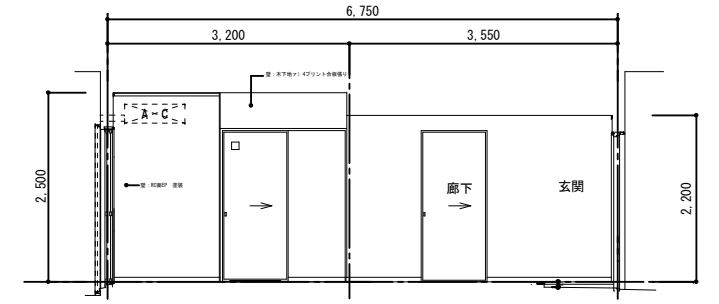
A



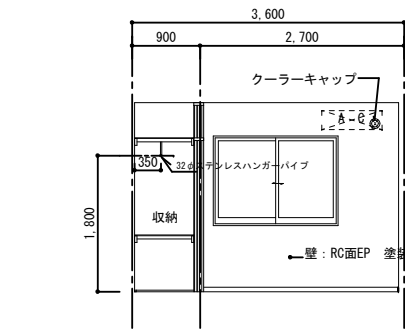
B



C

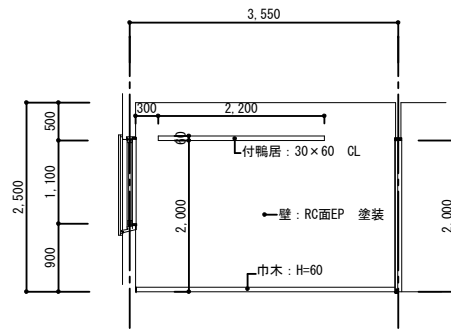


D

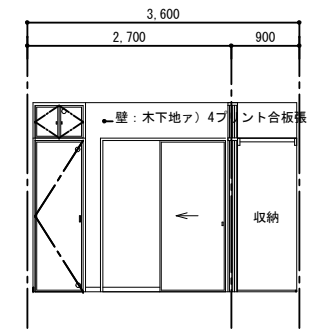


洋室-1

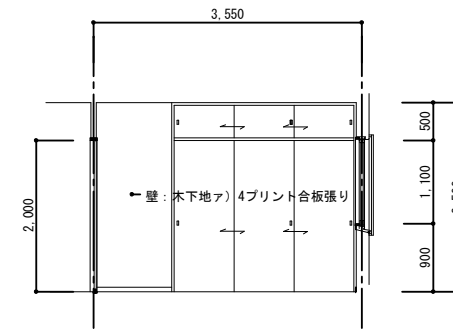
A



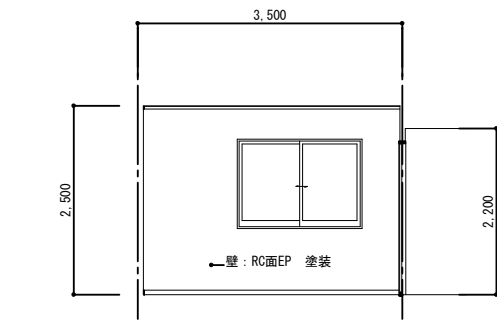
B



C

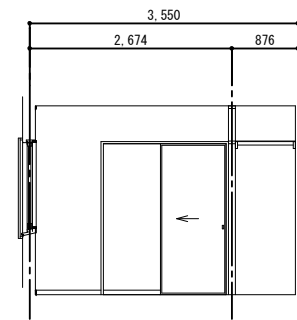


D

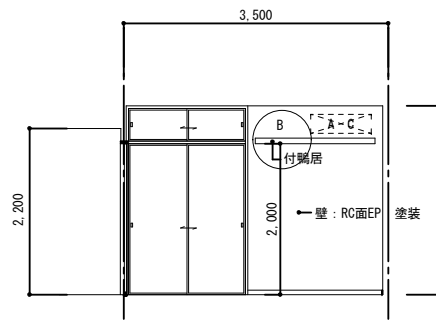


洋室-2

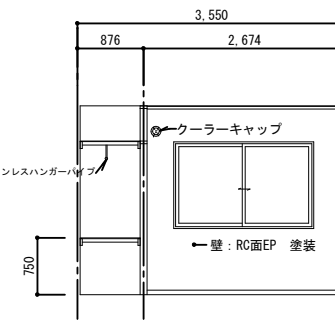
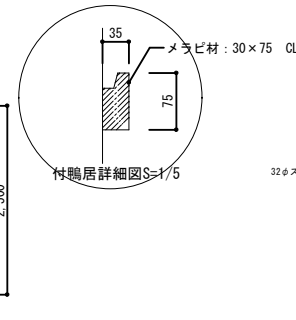
A



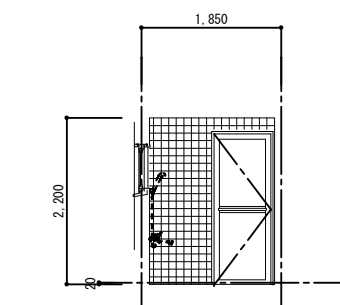
B



C

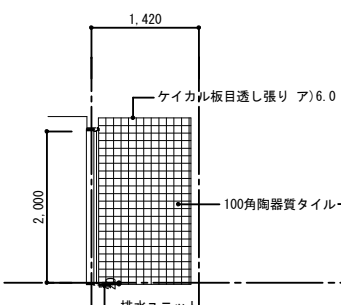


D

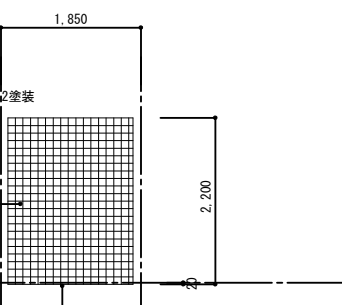


シャワー室

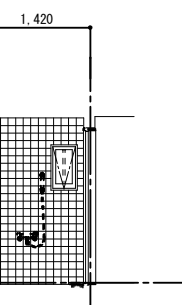
A



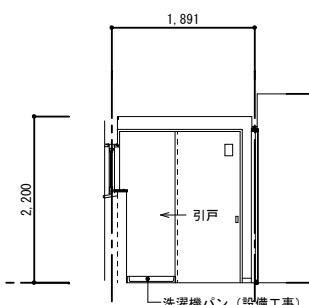
B



C

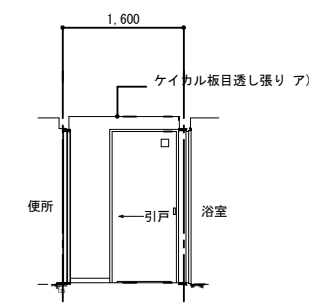


D

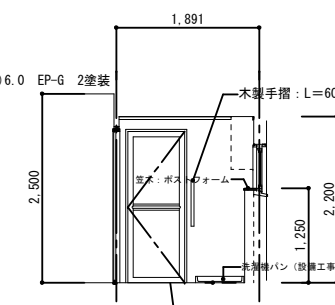


洗面所

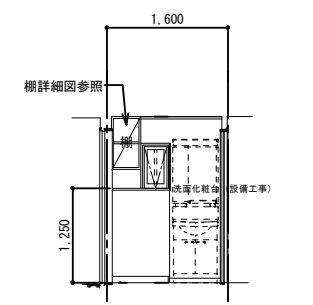
A



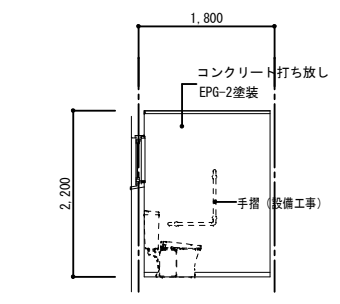
B



C

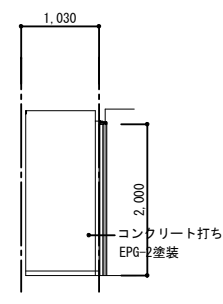


D

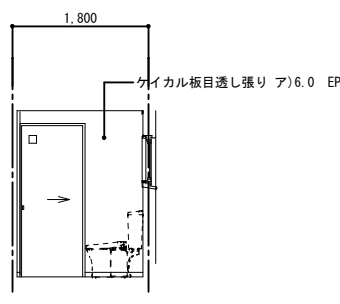


便所

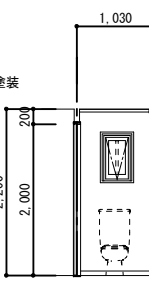
A



B

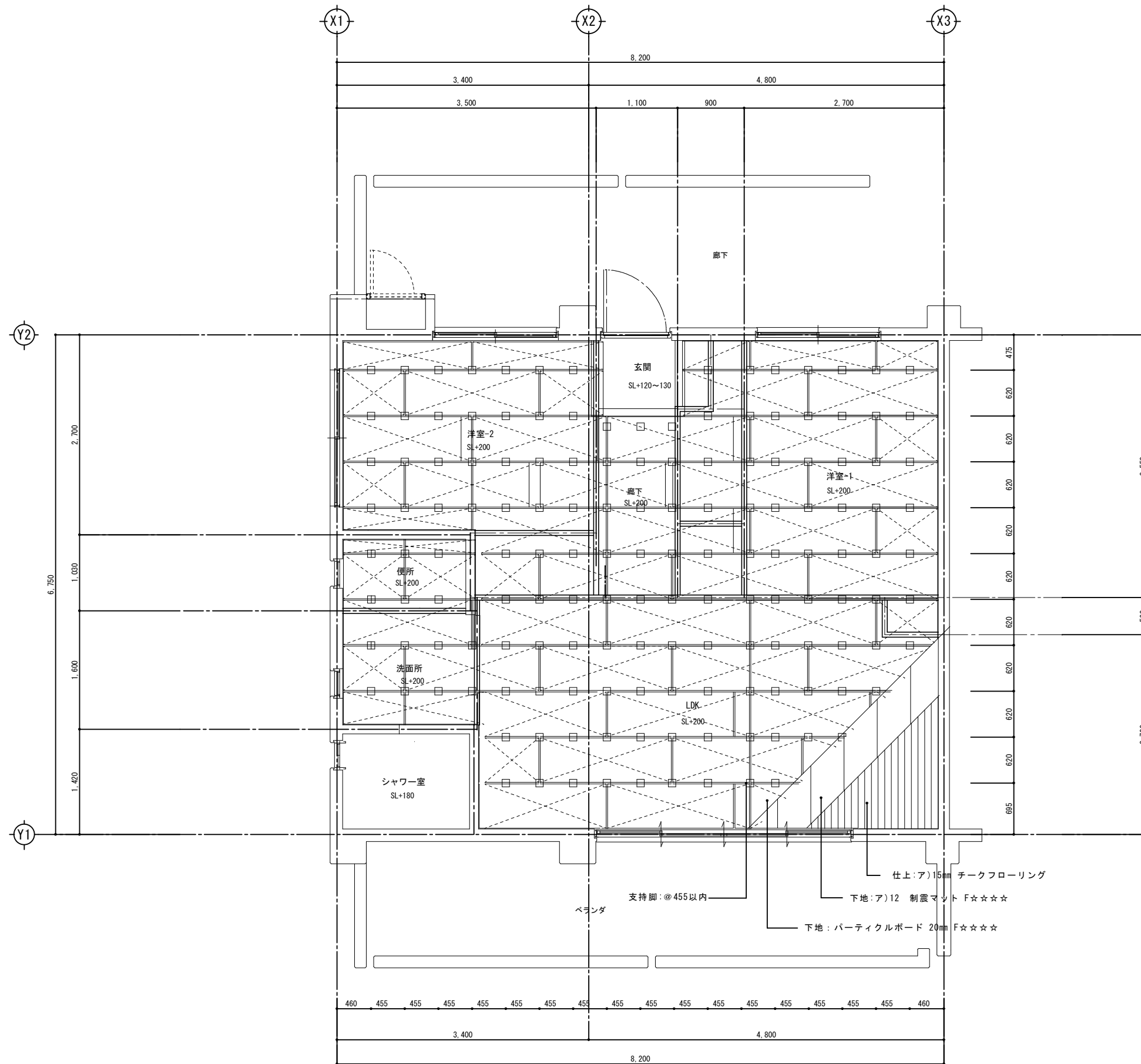


C



D

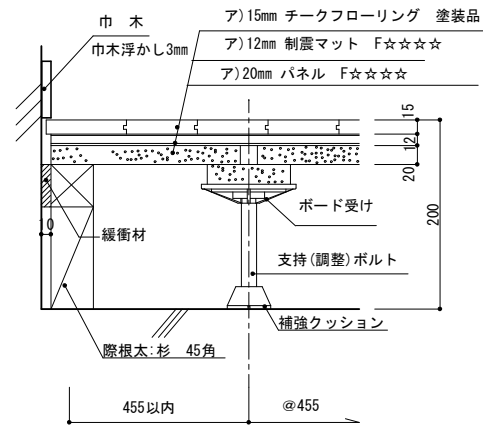
| | | | |
|------|---------------|-----------------|-----------|
| 工事名称 | 大富団地建替工事 (建築) | 工事年度 | 令和 7 年度 |
| 工事場所 | 竹富町字南風見仲地内 | 図面名称 | 2LDK棟 展開図 |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | S=1:50 |
| 摘要 | | 図面番号 | A - 022 |
| 検印 | 管理建築士 | 設計 | 製図 |
| | 名称 | (株)朝吹設計事務所 | |
| | 資格者氏名 | 代表者 朝吹 一郎 | |
| | 登録番号 | 一級建築士 第114962号 | |
| | 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 | |



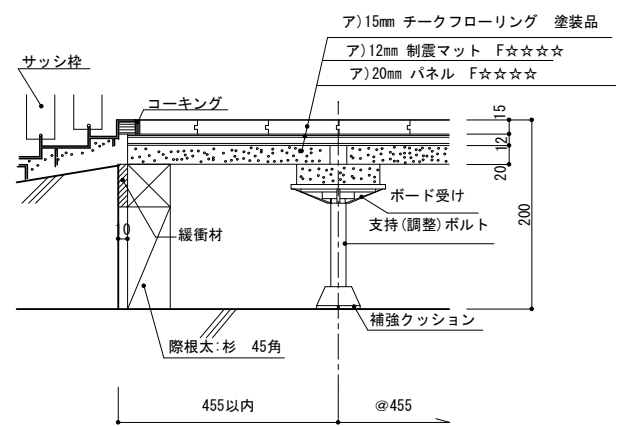
床伏図(2) S=1/30

特記事項
 * 性能表示対応乾式二重床システム
 フクビ化学工業 フリーフロー-CPR-SE
 集合住宅性能評価表示制度
 重量床対策 ΔL=1
 同等品

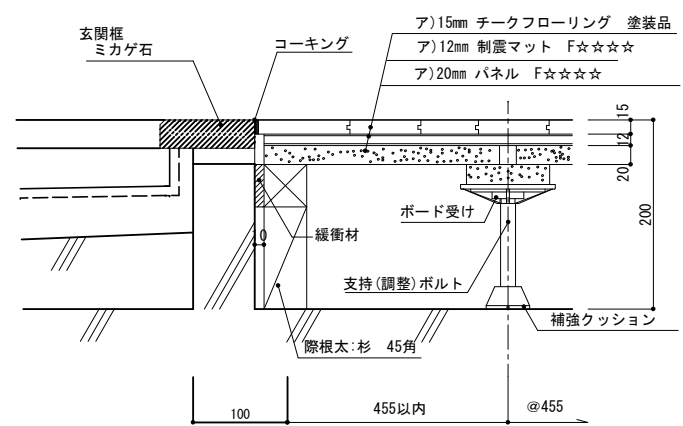
| | | | |
|------|--------------|-----------------|--------------|
| 工事名称 | 大富団地建替工事(建築) | 工事年度 | 令和7年度 |
| 工事場所 | 竹富町字南風見仲地内 | 図面名称 | 2LDK棟 床伏図(1) |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | S=1:50 |
| 摘要 | | 図面番号 | A-023 |
| 検印 | 管理建築士 | 設計 | 製図 |
| | | | |
| | 名称 | (有)朝吹設計事務所 | |
| | 資格者氏名 | 代表者 朝吹 一郎 | |
| | 登録番号 | 一級建築士 第114962号 | |
| | 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 | |



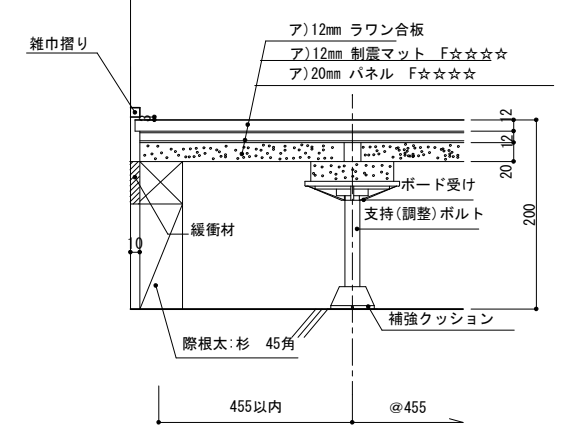
洋室 断面詳細図 S=1:8



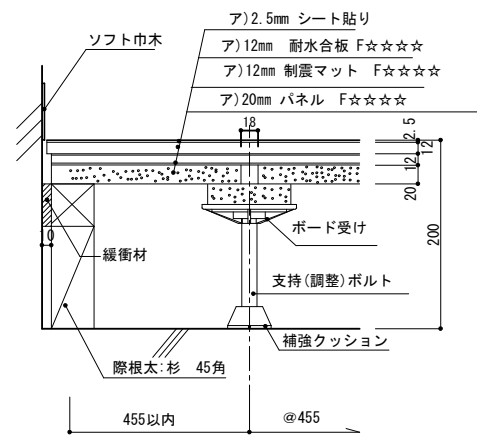
サッシ廻り 断面詳細図 S=1:8



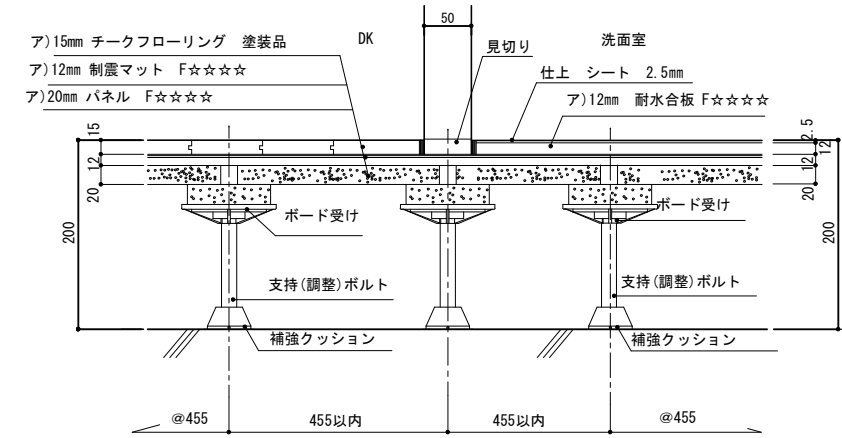
玄関 断面詳細図 S=1:8



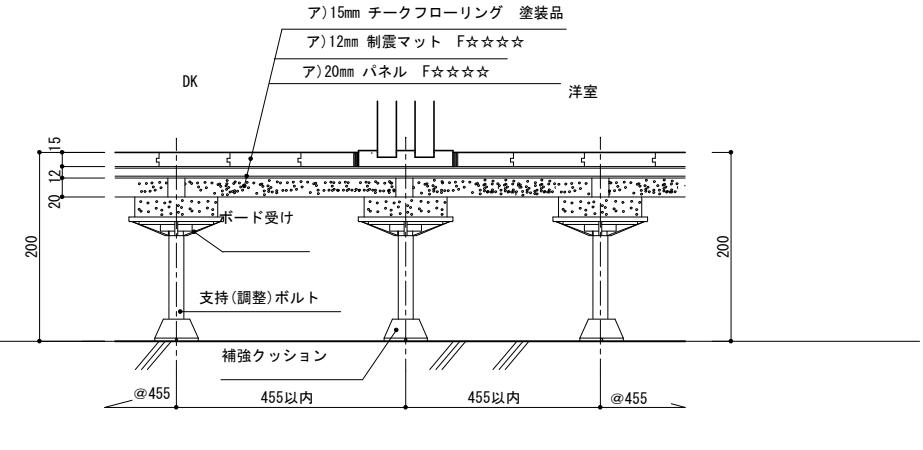
挿入 断面詳細図 S=1:8



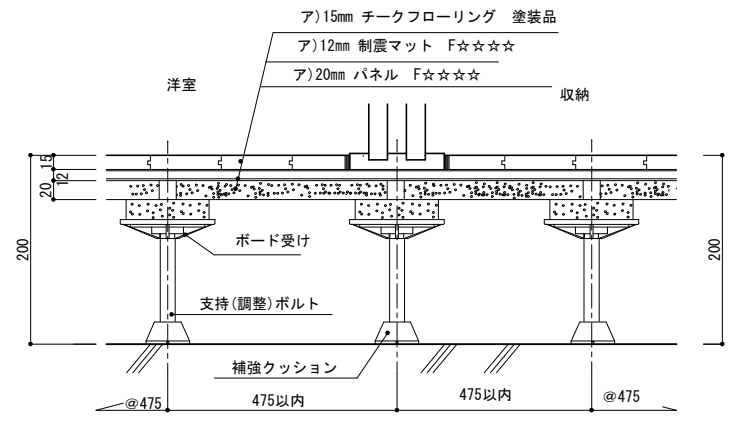
洗面室 断面詳細図 S=1:8



DK、洗面室 断面詳細図 S=1:8



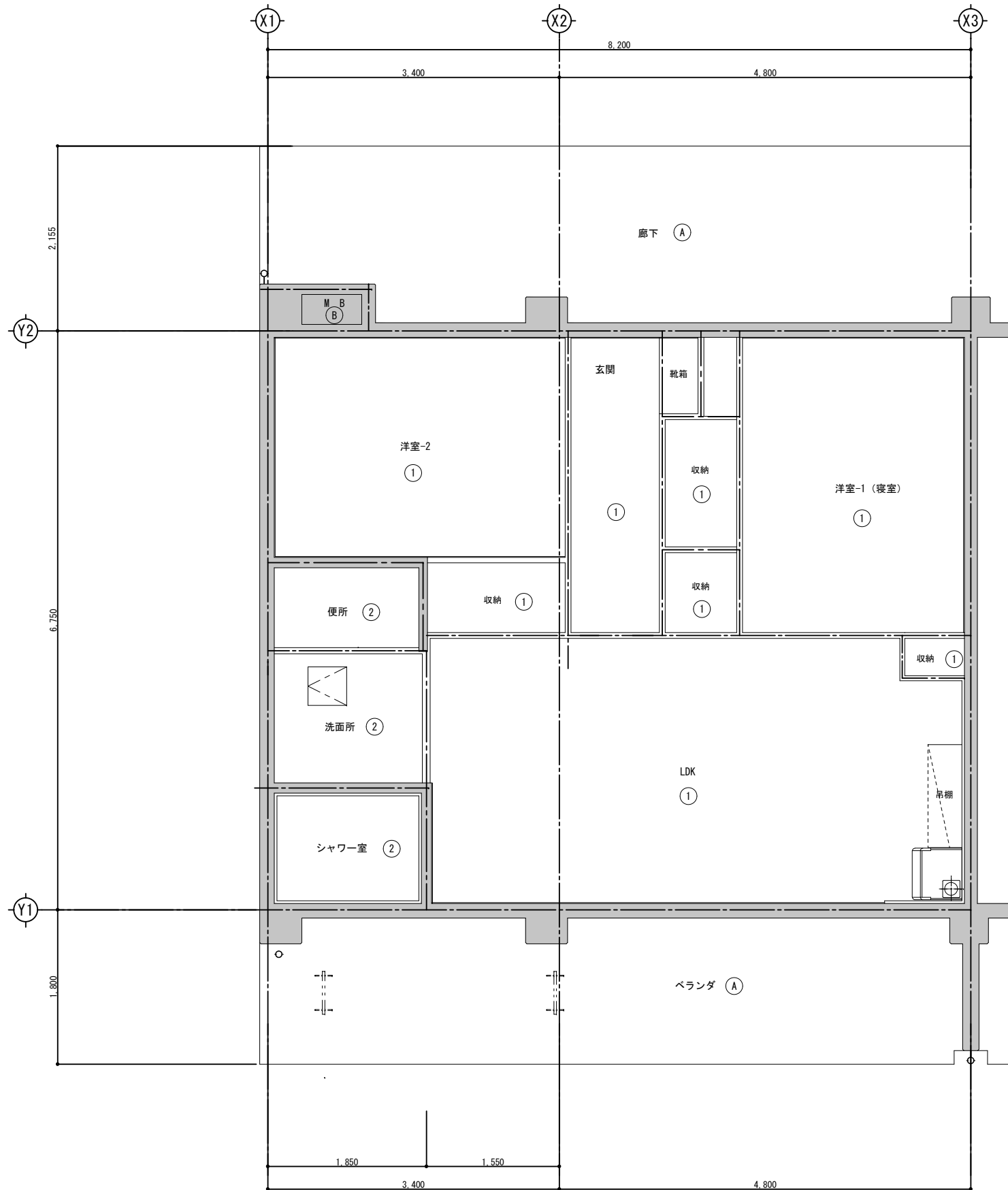
DK、洋室 断面詳細図 S=1:8



洋室、収納、タンス置場 断面詳細図 S=1:8

特記事項
 * 性能表示対応乾式二重床システム
 フクビ化学工業 フリーフロー-CPR-SE
 認定番号 1178
 8-1重量床衝撃音対策
 認定をした特別評価方法の内容
 法第59条第2項に規定する証明GBRC品特-12-81-001
 性能表示対応 遮音性能 ΔL=1
 同等品

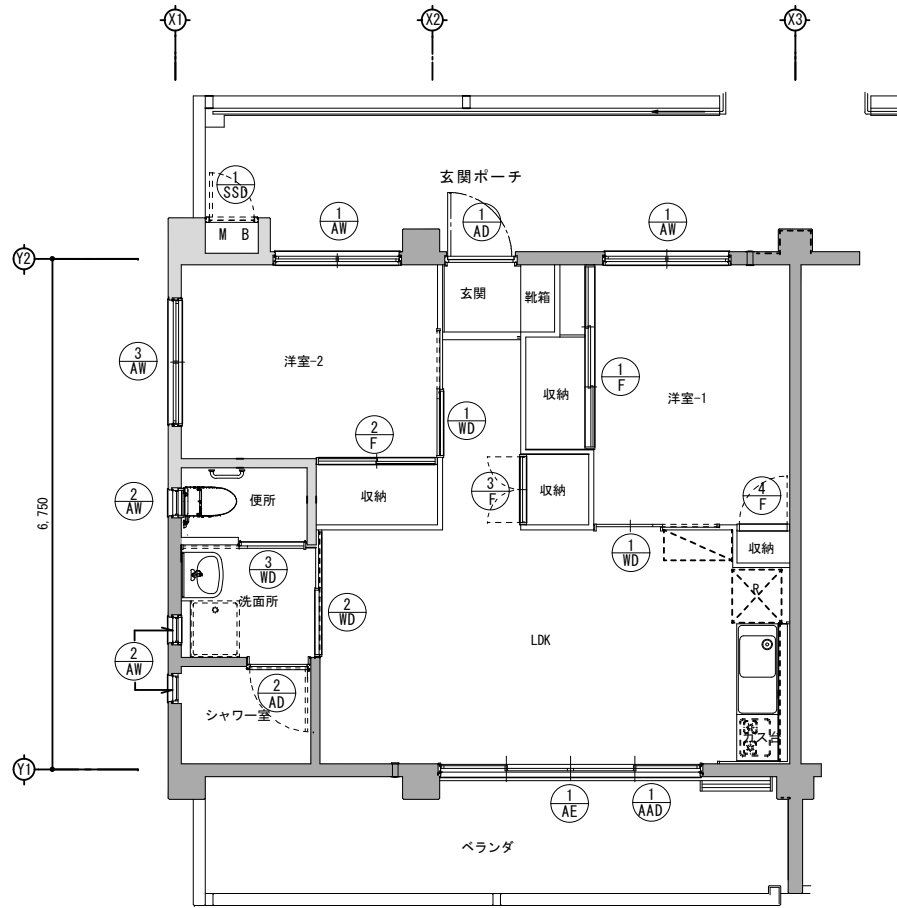
| | | | |
|------|--------------|-----------------|--------------|
| 工事名称 | 大富団地建替工事(建築) | 工事年度 | 令和7年度 |
| 工事場所 | 竹富町字南風見仲地内 | 図面名称 | 2LDK棟 床伏図(2) |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | S=1:4 |
| 摘要 | | 図面番号 | A-024 |
| 検印 | 管理建築士 | 設計 | 製図 |
| | 名称 | (有)朝吹設計事務所 | |
| | 資格者氏名 | 代表者 朝吹 一郎 | |
| | 登録番号 | 一級建築士 第114962号 | |
| | 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 | |



2LDK 平面詳細図 S=1/30

| 天井仕上表 | |
|-------|---------------------------------------|
| Ⓐ | 軒裏:コンクリート打放し補修の上 複数仕上げ塗材(トップコートのみ) |
| Ⓑ | コンクリート打放し素地 |
| ① | LGS(19形)下地、化粧石膏ボード張り ア)9.5 |
| ② | LGS(19形)下地、ケイカル板目透し張り ㊦)6.0 EP-G 2塗装 |
| △ | アルミ天井点検口(450×450) |
| ↑ ↓ | 天吊り物干し金物 |

| | | | |
|------|--------------|-----------------|------------|
| 工事名称 | 大富団地建替工事(建築) | 工事年度 | 令和7年度 |
| 工事場所 | 竹富町字南風見仲地内 | 図面名称 | 2LDK棟 天井伏図 |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | S=1:30 |
| 摘要 | | 図面番号 | A - 025 |
| 検印 | 管理建築士 | 設計 | 製図 |
| | 名称 | 南朝吹設計事務所 | |
| | 資格者氏名 | 代表者 朝吹 一郎 | |
| | 登録番号 | 一級建築士 第114962号 | |
| | 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 | |



※特記事項
 ・ステンレスについては、全てSUS304とする。
 ・外部に面する建具の性能等級(基準風速46M/S、地表面粗度区分Ⅲ)
 ・外部に面する建具の性能等級(等級2、T-1以上)
 ・アルミ面格子25角は、アルミ四方枠面格子とする。
 ・サッシ廻りはポリサルファイド系シール打ちとする。

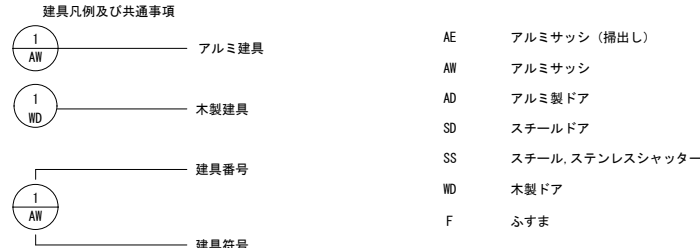
| 施工箇所 | 耐風圧性 (Pa) | 気密性 (等級) | 水密性 (Pa) | 遮音性 (等級) |
|------|-----------|----------|----------|----------|
| 1階 | S-6(2800) | A-4(2) | W-5(500) | T-1(25) |

金属製建具表

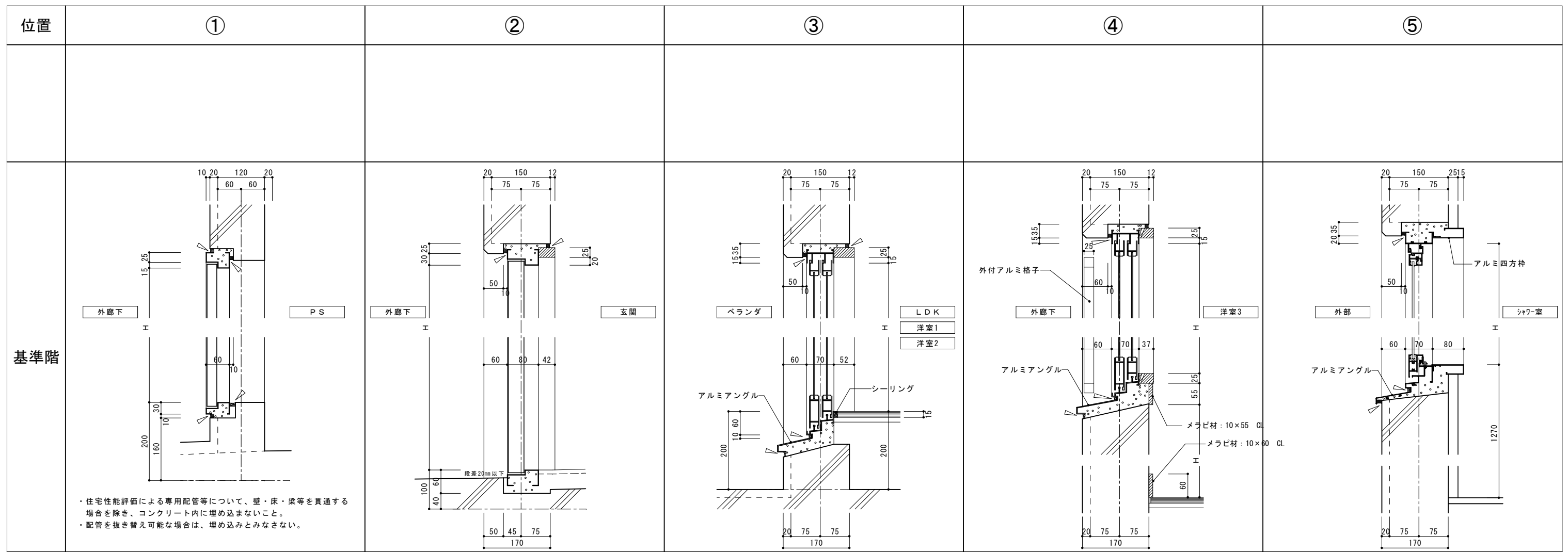
| 記号・数量 | ① AE ×2か所 | LDK | ① AW ×4所 | 洋室1、2 | ② AW ×6所 | シャワー室・洗面所・便所 | ③ AW ×2所 | 洋室2 |
|-------|-----------------------------------|-----|----------------------------------|-------|-------------------------------------|--------------|----------------------------------|-----|
| 形状・寸法 | | | | | | | | |
| 名称・見込 | アルミ引違い戸 100mm | | アルミ引違い窓 70mm | | アルミ内倒し窓 70mm | | アルミ引違い窓 70mm | |
| 仕上 | シルバー | | シルバー | | シルバー | | シルバー | |
| ガラス | 合わせガラス (FL3+中間膜30mil+FL3) FL:フロート | | 合わせガラス (FL3+中間膜30mil+FLK4) FLK:霧 | | 合わせガラス (FL3+中間膜30mil+FLK4) FLK:乳白色 | | 合わせガラス (FL3+中間膜30mil+FLK4) FLK:霧 | |
| 金物 | アルミアングル、アルミ水切板、付属金物一式 | | アルミアングル、アルミ水切板、付属金物一式 | | ステンレス丸棒φ6、取手付 | | アルミアングル、アルミ水切板、付属金物一式 | |
| 備考 | 網戸付き | | 換気框、アルミ面格子25角 | | 網戸付き | | 換気框、アルミ面格子25角 | |
| 記号・数量 | ① AD ×2か所 | 玄関 | ① SSD ×2か所 | M B | ② AD ×2か所 | シャワー室 | ① AAD ×2か所 | |
| 形状・寸法 | | | | | | | | |
| 名称・見込 | ステンレス片開き戸 80mm | | ステンレスPS戸 40mm | | リクシル:アルミ浴室ドア換気窓付き (タオル掛け付き仕様) 又は同等品 | | アルミ両戸 (4枚引き) | |
| 仕上 | 内側:塩ビ化粧鋼板t0.6、外側:塩ビ化粧ステンレス鋼板t0.5 | | ふっ素樹脂焼付塗装 | | | | シルバー | |
| ガラス | | | | | 樹脂パネルt3.5 | | | |
| 金物 | レバーハンドル錠 (サムターン、シリンダー) | | ケースハンドル、ステンレス丁番3枚、戸当り、気密材 | | 内結露 (非常解放装置付)、ステンレス丁番 (2枚) | | フランス落とし、その他 付属金物一式 | |
| 備考 | ドアクローザー (BL-II型)、下枠:SUS304 t2.0 | | 4方枠ステンレス、給湯器扉内取付型 | | | | | |

木製建具表

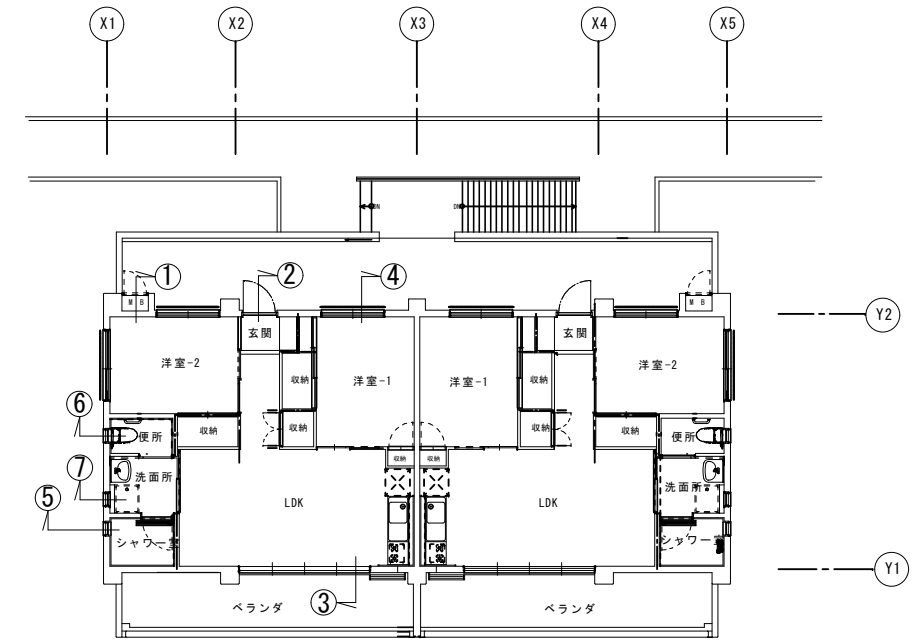
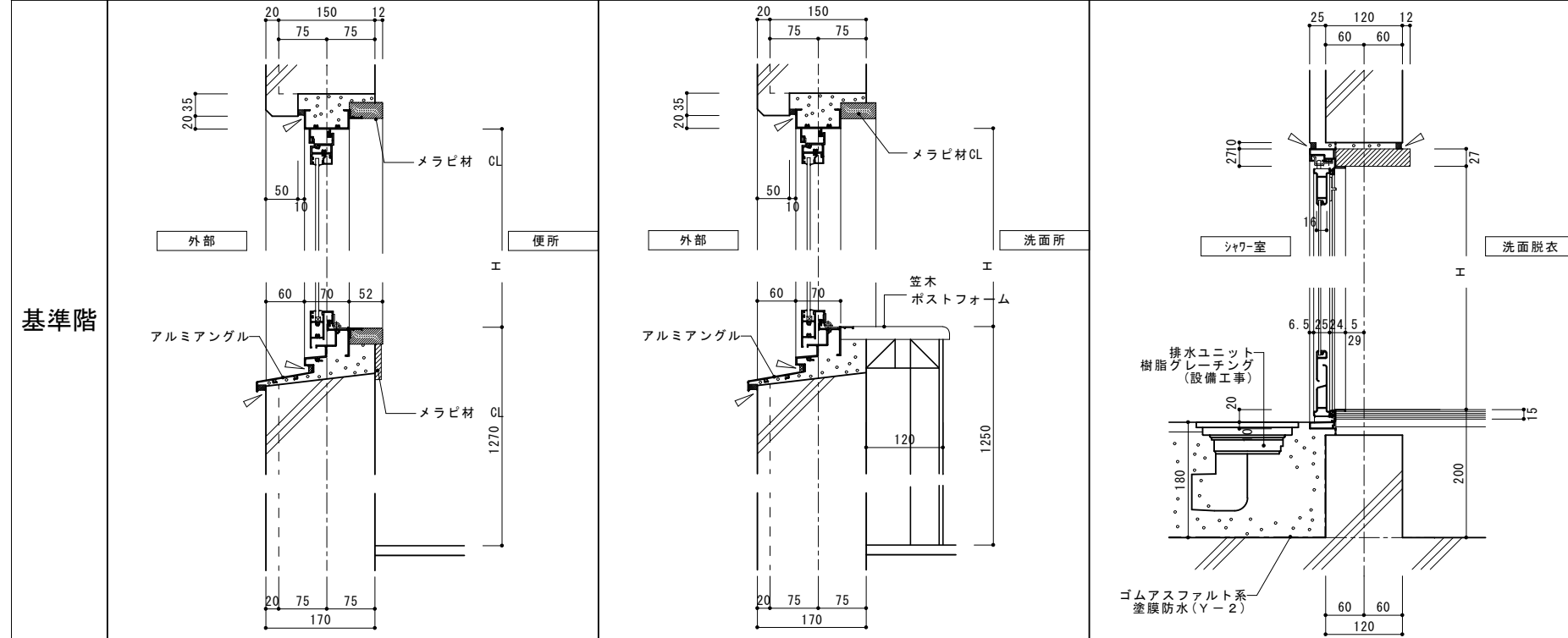
| 記号・数量 | ① WD ×4か所 | 洋室-1、2 | ② WD ×2か所 | 洗面所 | ③ WD ×2か所 | 便所 | ① F ×2か所 | 洋室-1 | ② F ×2か所 | 洋室-2 | ③ F ×2か所 | 廊下収納 | ④ F ×2か所 | 洋室-1 |
|-------|-----------------|--------|--------------------------|-----|--------------------------|----|-----------------------------|------|-----------------------------|------|-----------------------------|------|-----------------------------|------|
| 形状・寸法 | | | | | | | | | | | | | | |
| 名称・見込 | 木製片引フラッシュ戸 30mm | | 木製片引フラッシュ戸 30mm | | 木製片引フラッシュ戸 30mm | | 木製3枚引違い襖戸 (天袋付) 27mm | | 木製2枚引違い襖戸 (天袋付) 27mm | | 木製両開きフラッシュ戸 27mm | | 木製片開きフラッシュ戸 27mm | |
| 仕上 | プリント合板張りt4 | | プリント合板張りt4 | | プリント合板張りt4 | | 表:プリント合板張りt4 裏:ラワン合板張りt4 | | 表:プリント合板張りt4 裏:ラワン合板張りt4 | | 表:プリント合板張りt4 裏:ラワン合板張りt4 | | 表:プリント合板張りt4 裏:ラワン合板張りt4 | |
| ガラス | | | 型板ガラスt4 | | 型板ガラスt4 | | | | | | | | | |
| 金物 | ステンレス製引手2個、引戸錠 | | ステンレス製引手2個、引戸錠 (非常開放装置付) | | ステンレス製引手2個、引戸錠 (非常開放装置付) | | 引手6個、敷居滑り | | 引手4個、敷居滑り | | ステンレス取手(L=90)2個、ステンレス丁番6枚 | | ステンレス取手(L=90)3個、ステンレス丁番7枚 | |
| 備考 | 緑材:メラビーCL | | 緑材:メラビーCL | | 緑材:メラビーCL | | 緑材:メラビーCL | | 緑材:メラビーCL | | 緑材:メラビーCL | | 緑材:メラビーCL | |



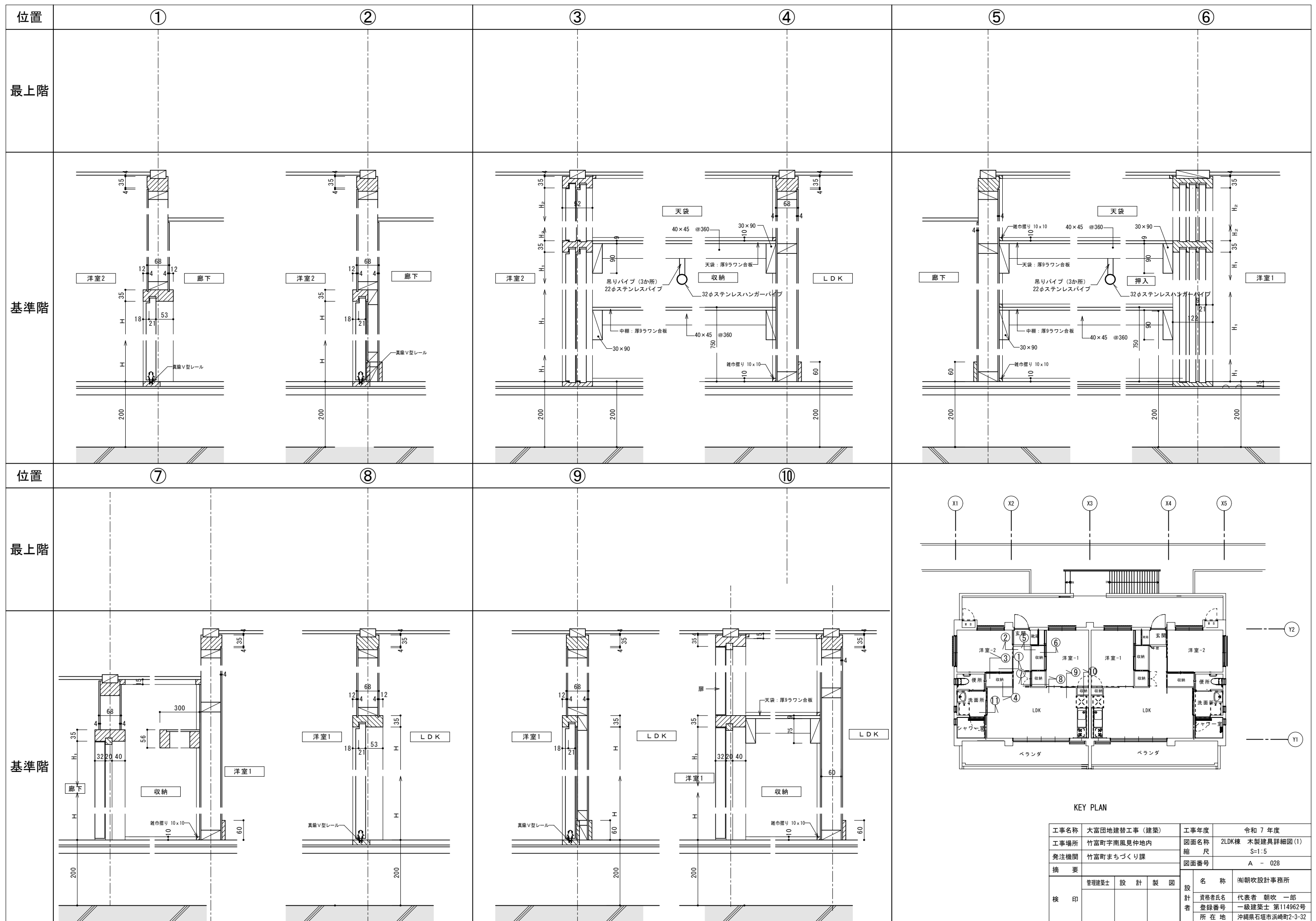
| | | | |
|------|---------------|-----------------|------------------|
| 工事名称 | 大富団地建替工事 (建築) | 工事年度 | 令和 7 年度 |
| 工事場所 | 竹富町字南風見仲地内 | 図面名称 | 2LDK棟 木製・金属製 建具表 |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | S=1:50 |
| 摘要 | | 図面番号 | A - 026 |
| 検印 | 管理建築士 | 設計 | 製図 |
| | | | |
| | | | |
| 設計者 | 名称 | (株)朝吹設計事務所 | |
| | 資格者氏名 | 代表者 朝吹 一郎 | |
| | 登録番号 | 一級建築士 第114962号 | |
| | 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 | |



・住宅性能評価による専用配管等について、壁・床・梁等を貫通する
 場合を除き、コンクリート内に埋め込まないこと。
 ・配管を抜き替え可能な場合は、埋め込みとみなさない。

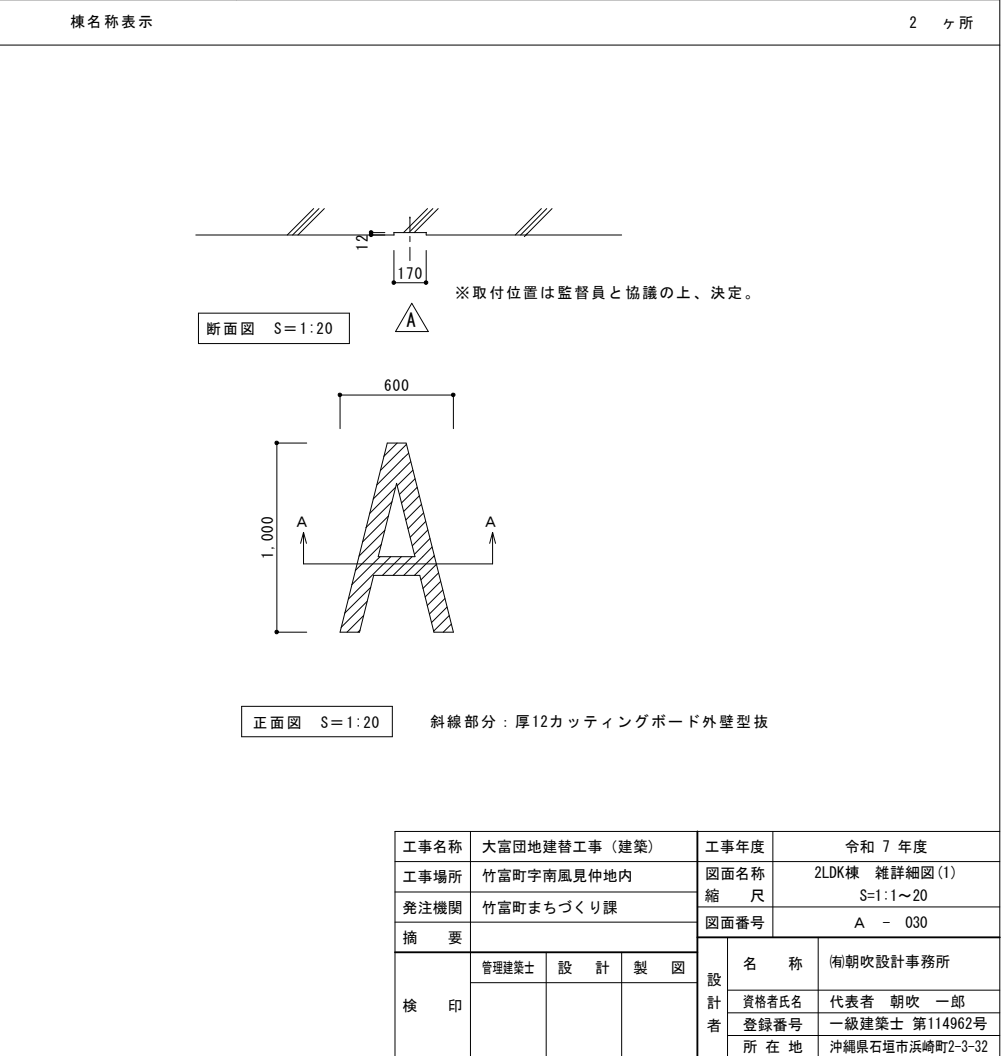
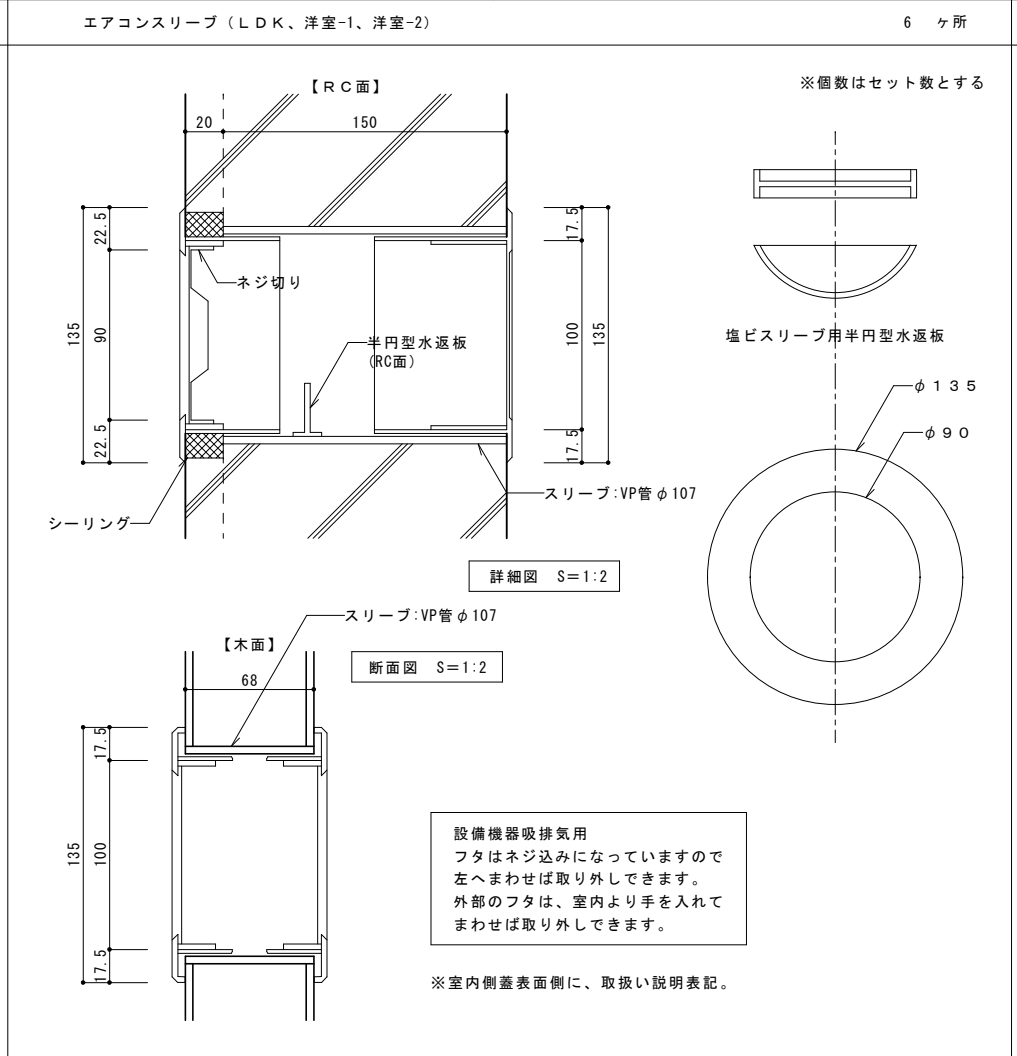
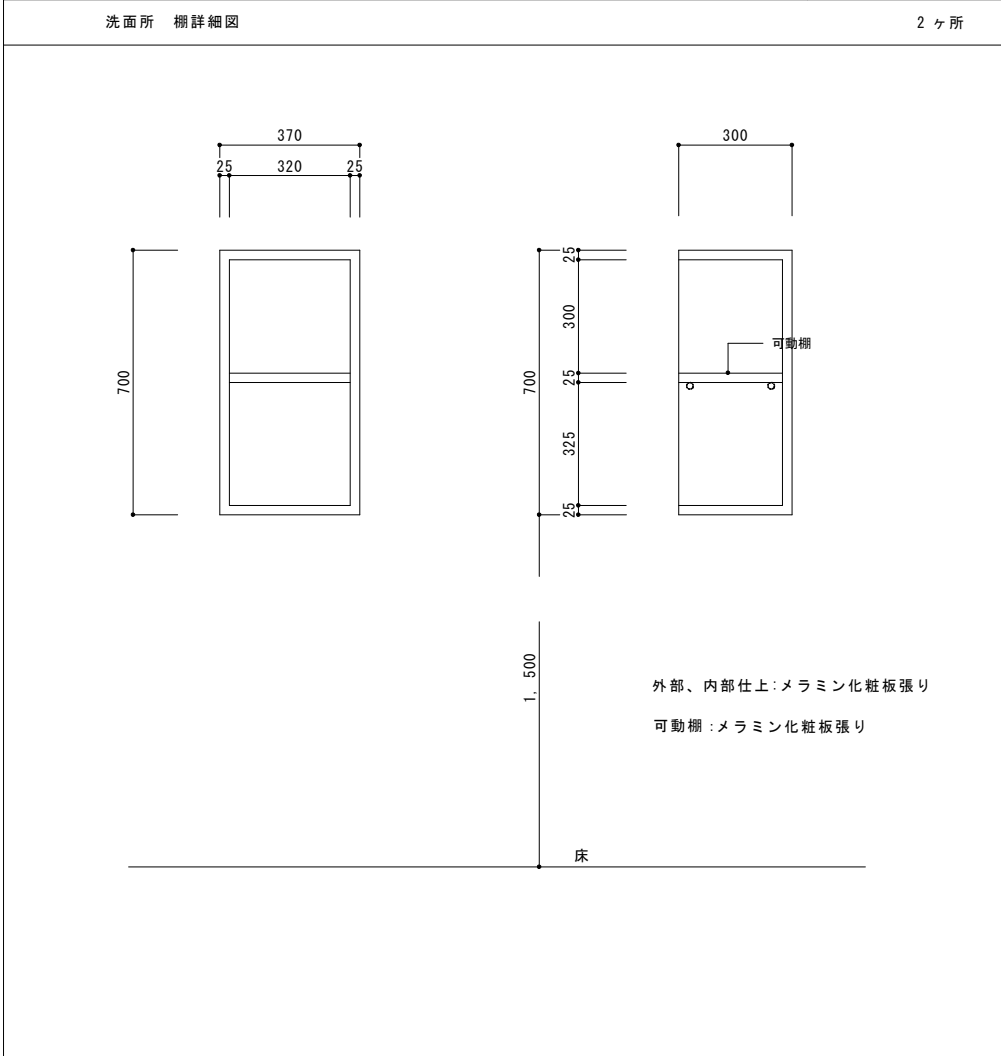
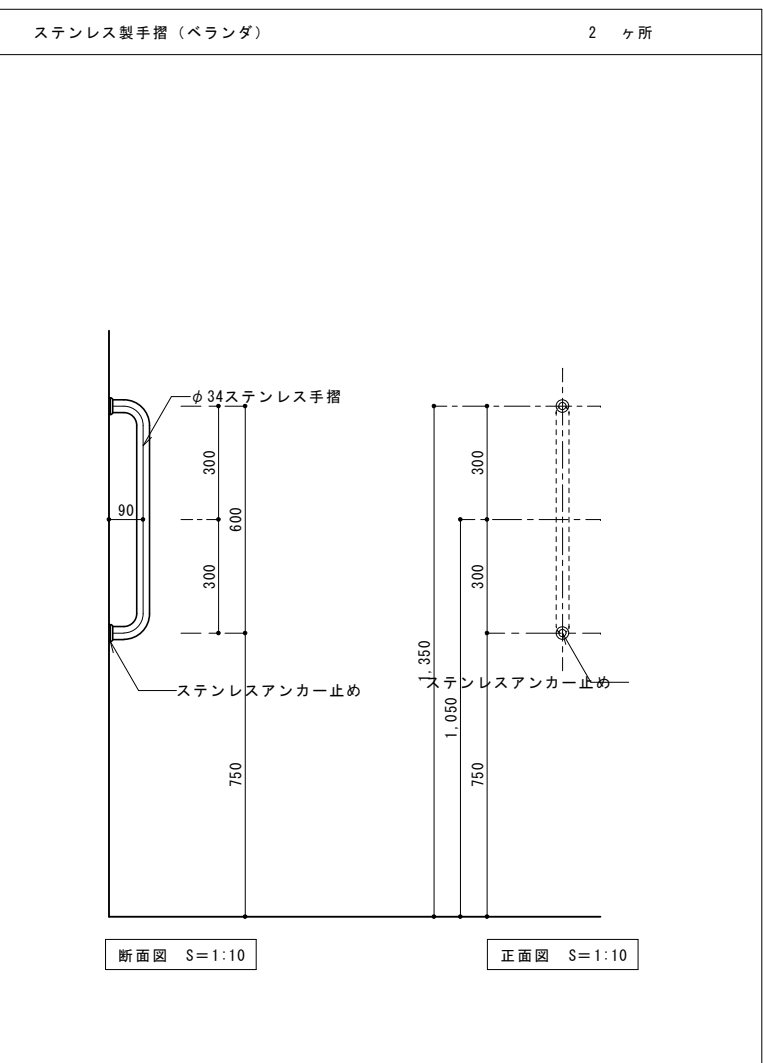
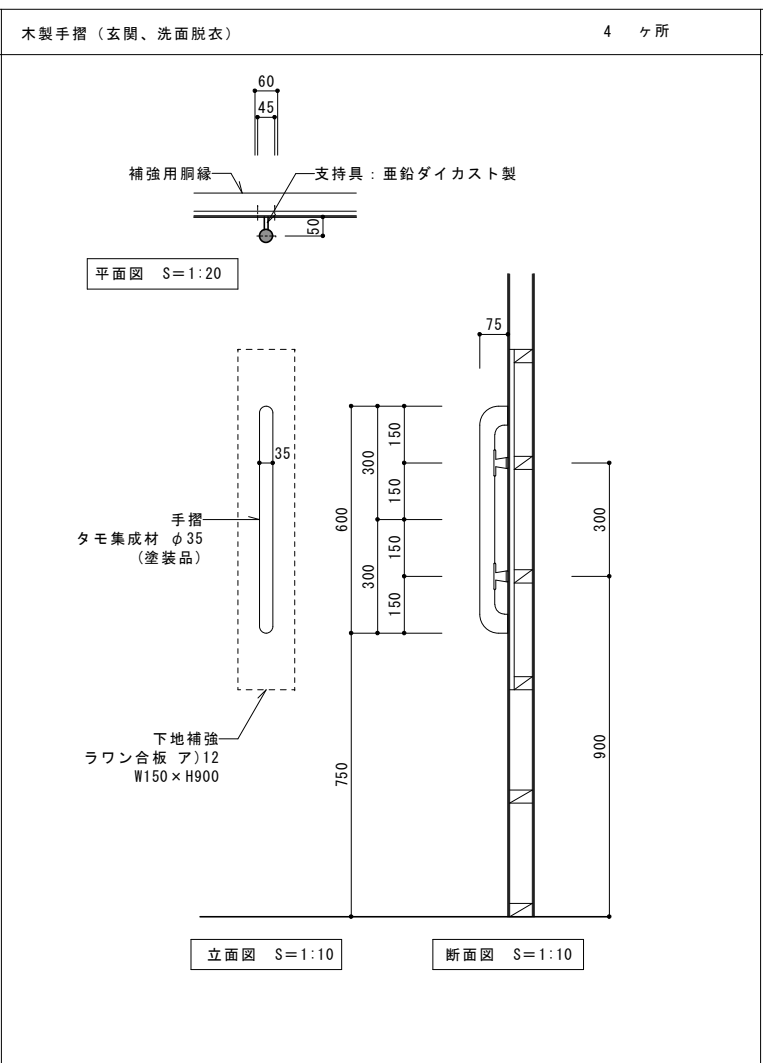
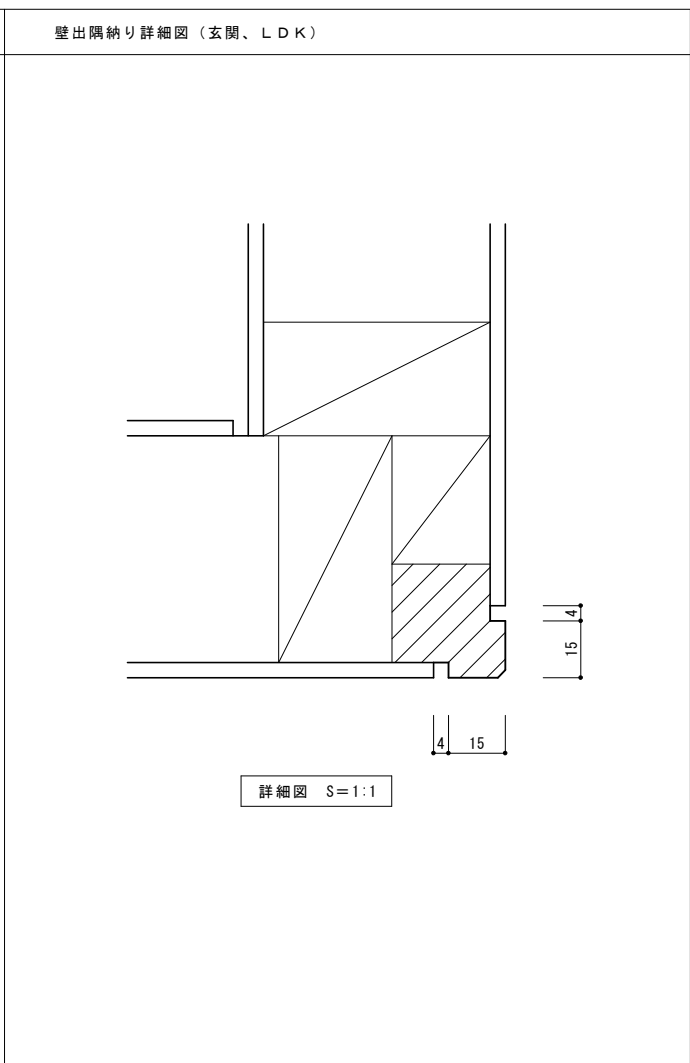
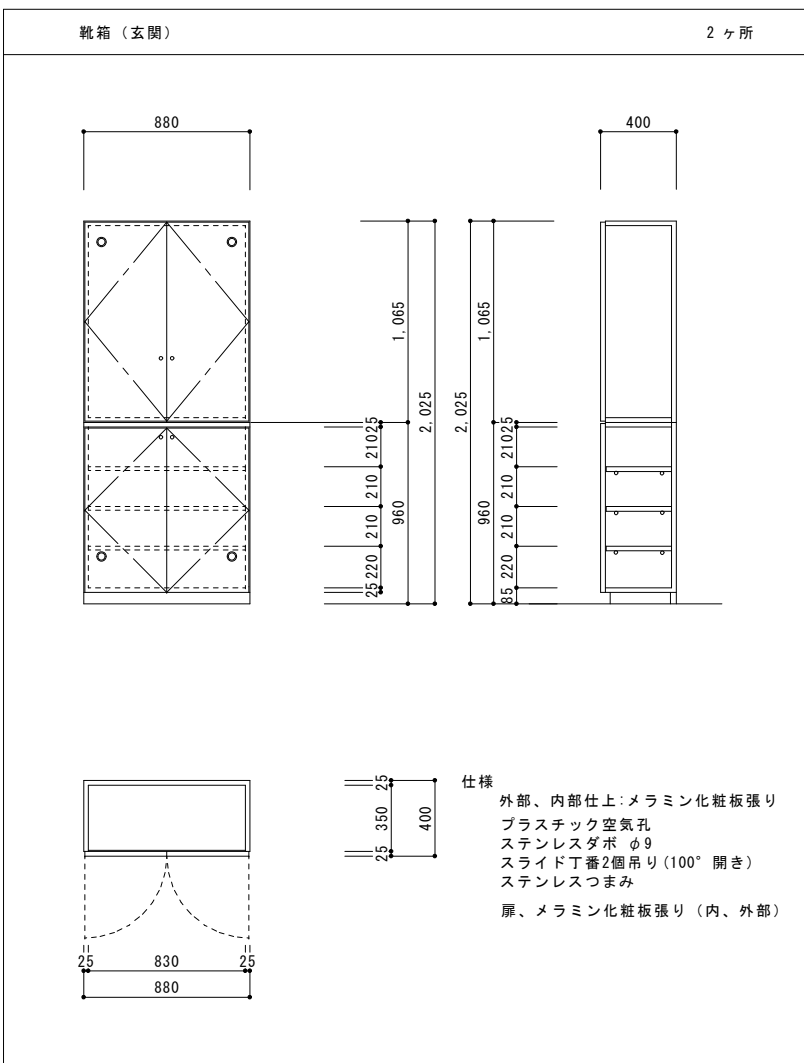


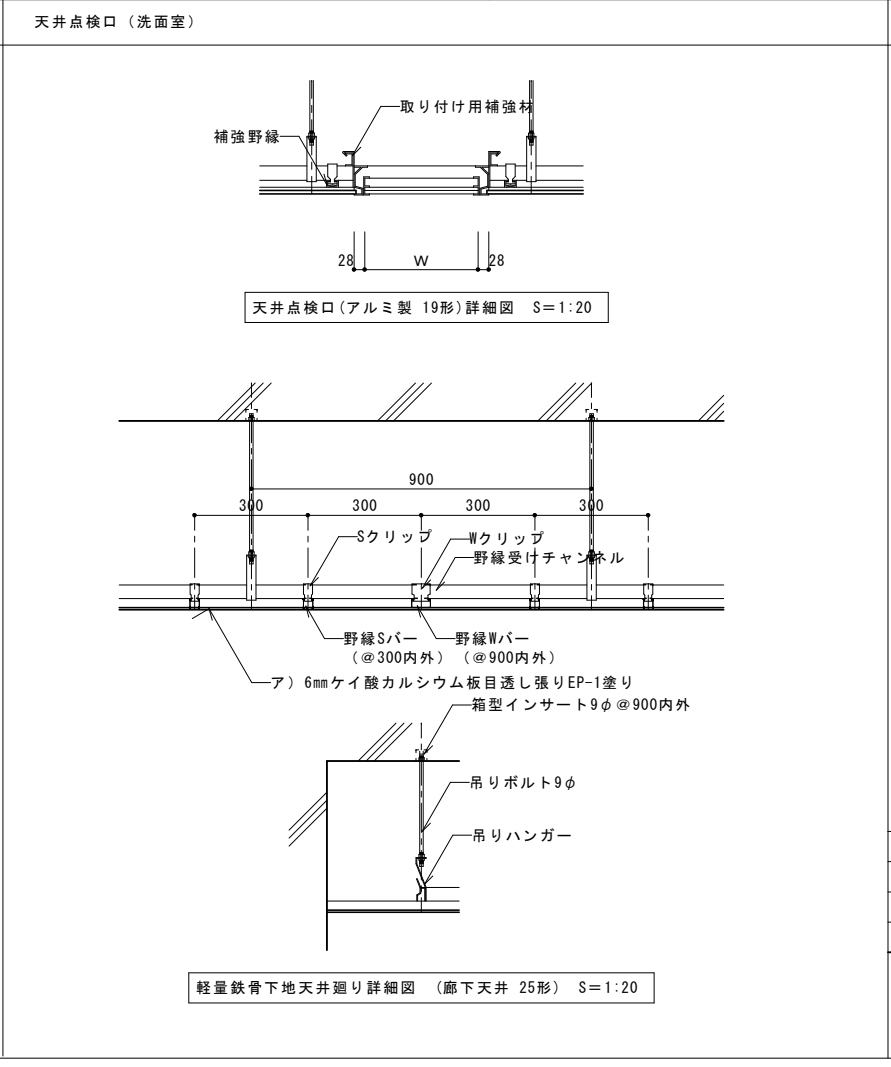
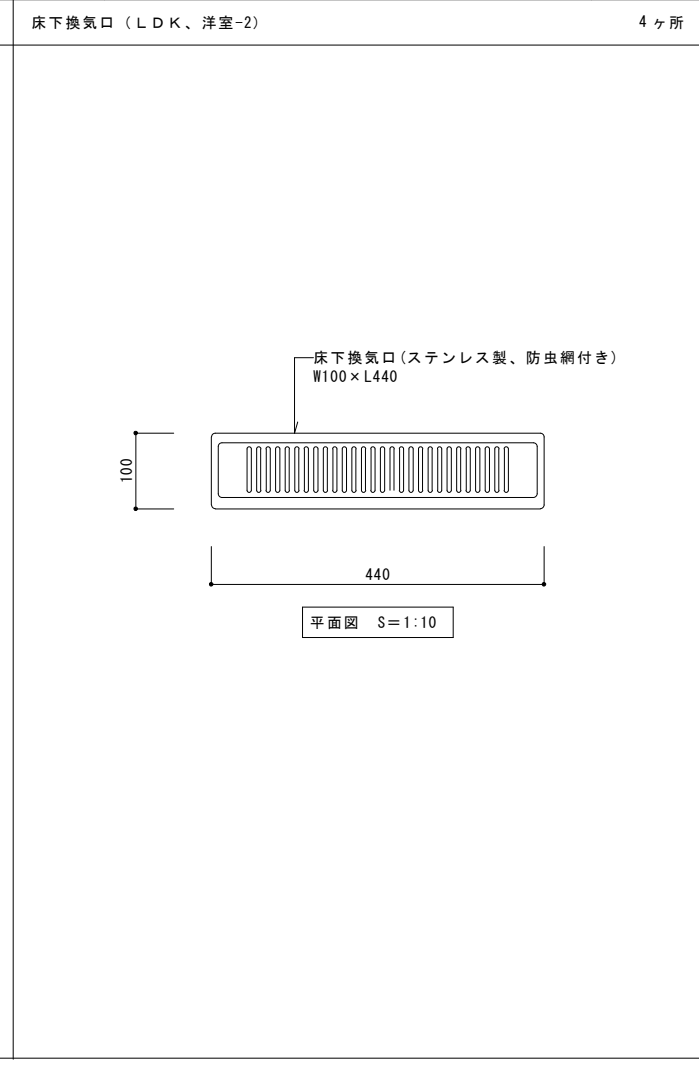
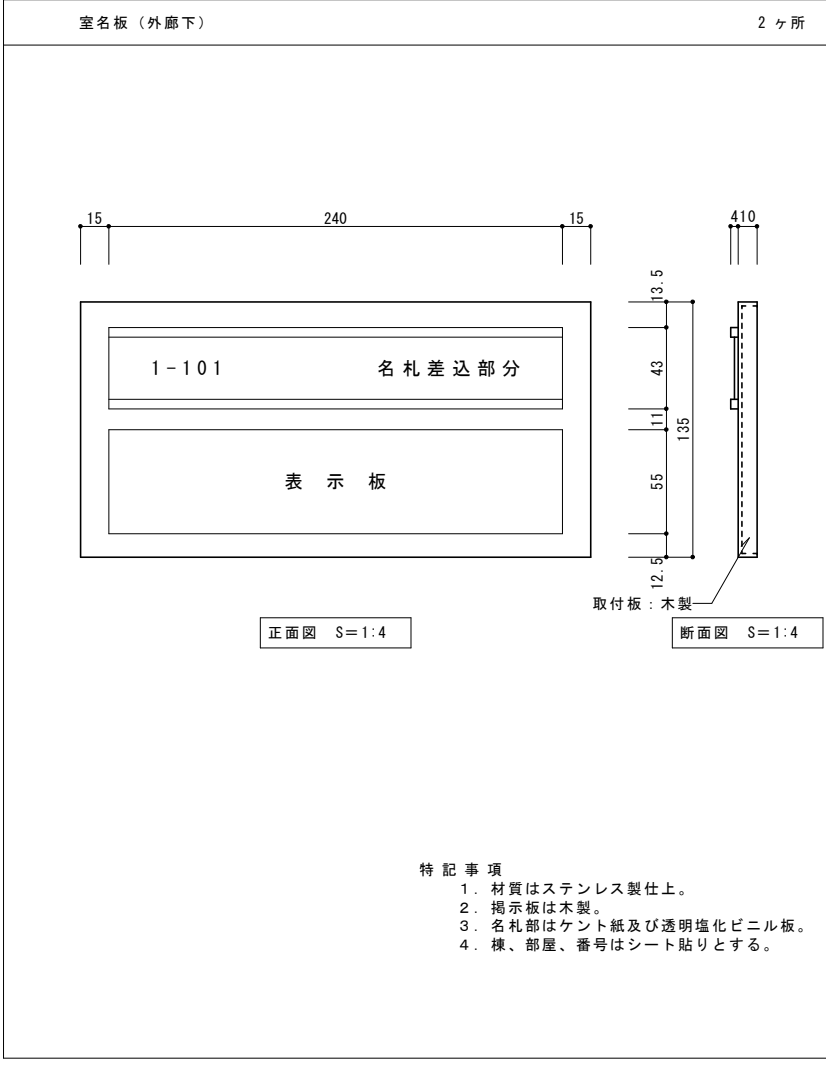
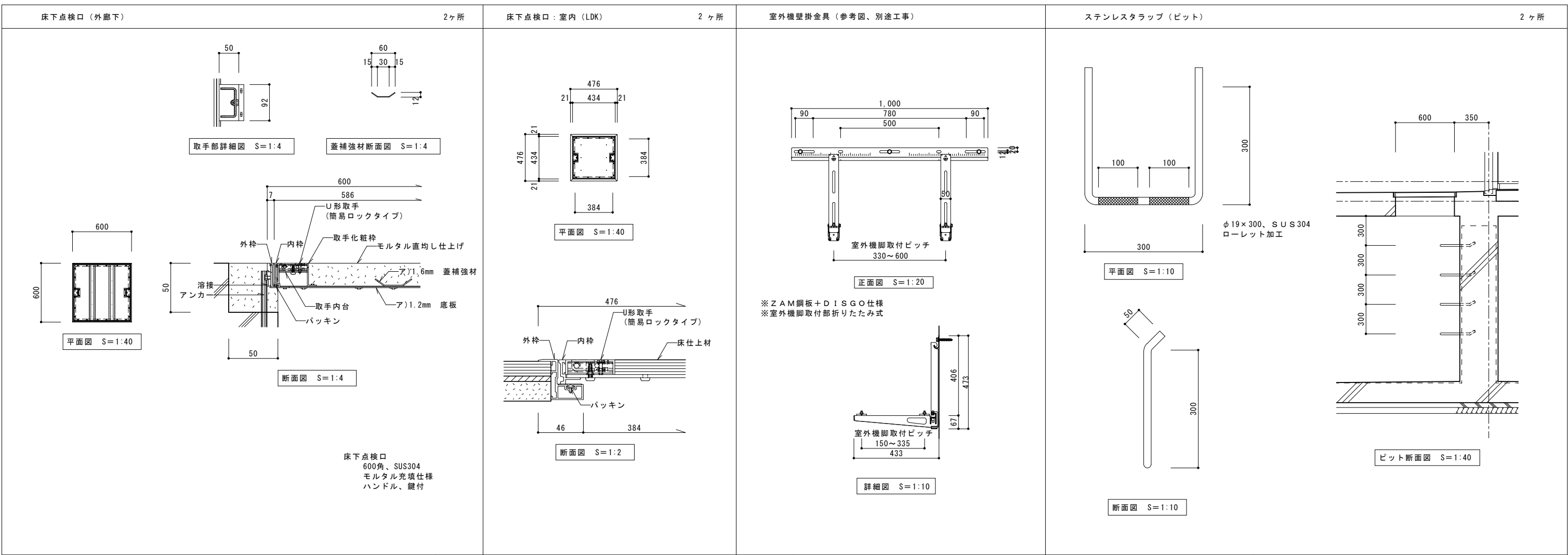
| | | | |
|------|-----------------|----------|------------------|
| 工事名称 | 大富団地建替工事(建築) | 工事年度 | 令和7年度 |
| 工事場所 | 竹富町字南風見仲地内 | 図面名称 | 2LDK棟 金属建具詳細図(1) |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | S=1:5 |
| 摘要 | | 図面番号 | A-027 |
| 検印 | 管理建築士 | 設計 | 製図 |
| | 名称 | 南朝吹設計事務所 | |
| | 資格者氏名 | 代表者 | 朝吹 一郎 |
| | 登録番号 | 一級建築士 | 第114962号 |
| 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 | | |



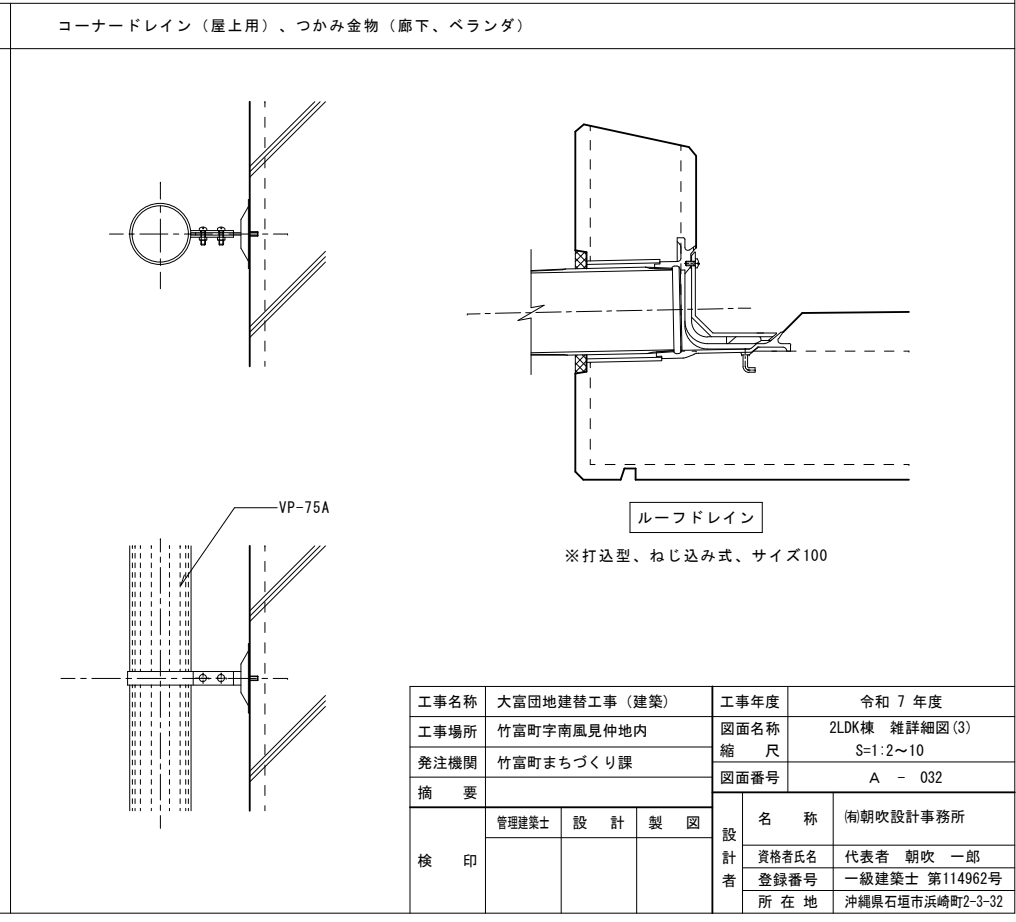
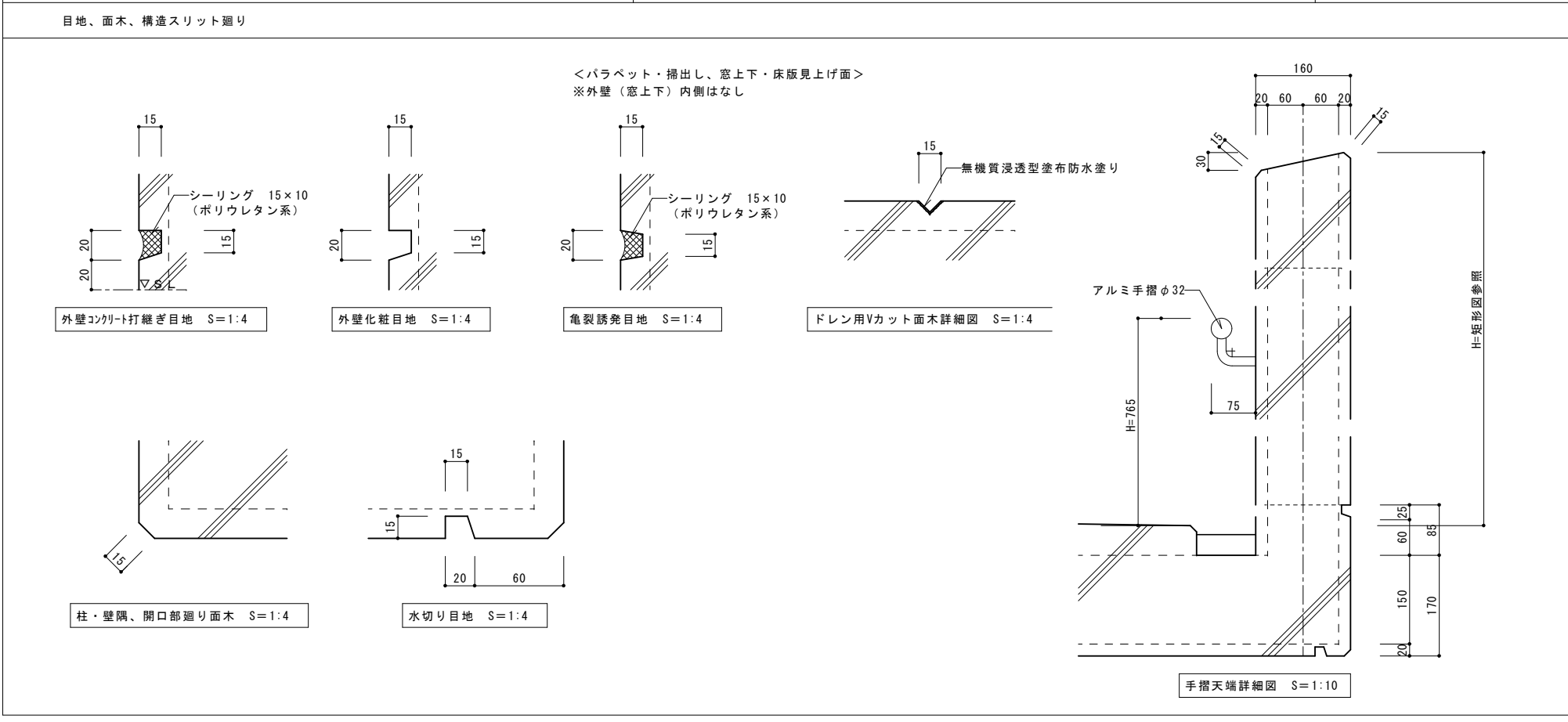
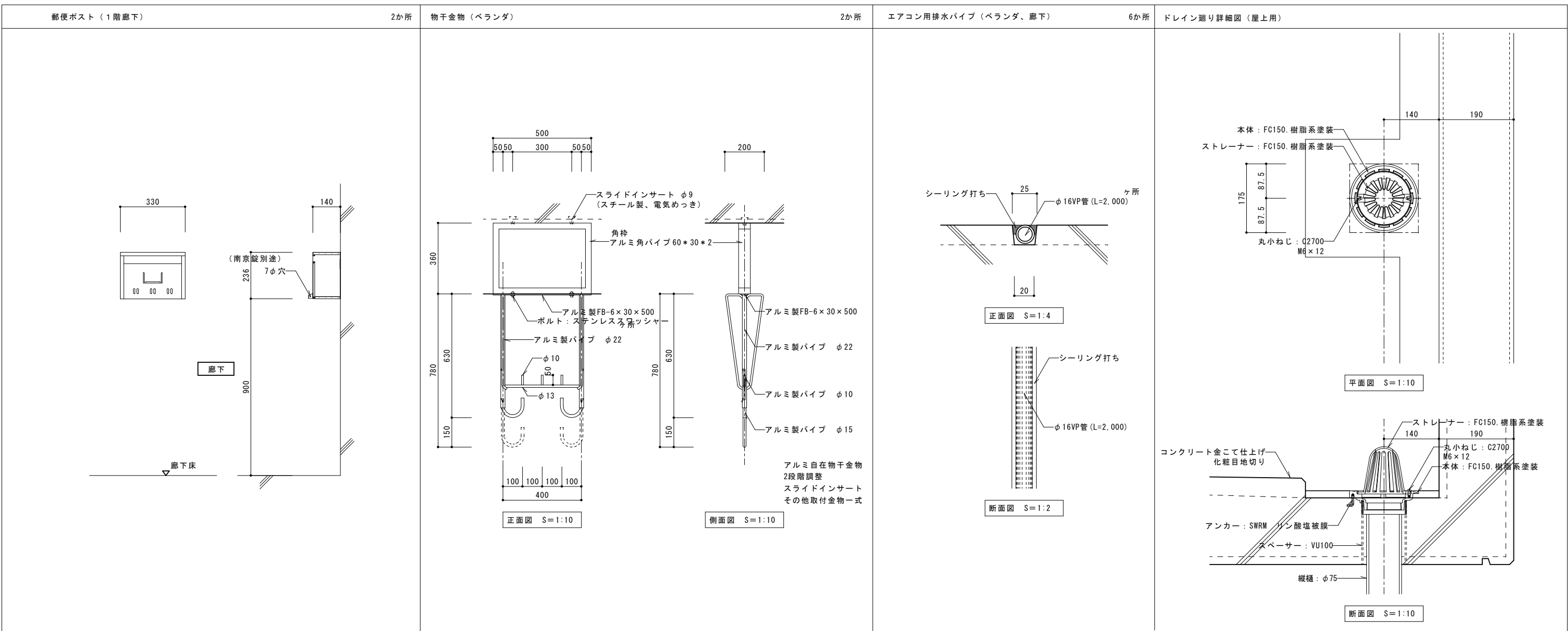
| | | | |
|------|---------------|-------|-------------------|
| 工事名称 | 大富団地建設工事 (建築) | 工事年度 | 令和 7 年度 |
| 工事場所 | 竹富町字南風見仲地内 | 図面名称 | 2LDK棟 木製建具詳細図 (1) |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮 尺 | S=1:5 |
| 摘 要 | | 図面番号 | A - 028 |
| 検 印 | 管理建築士 | 設 計 | 製 図 |
| | | 名 称 | 南朝吹設計事務所 |
| | | 資格者氏名 | 代表者 朝吹 一郎 |
| | | 登録番号 | 一級建築士 第114962号 |
| | | 所 在 地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 |

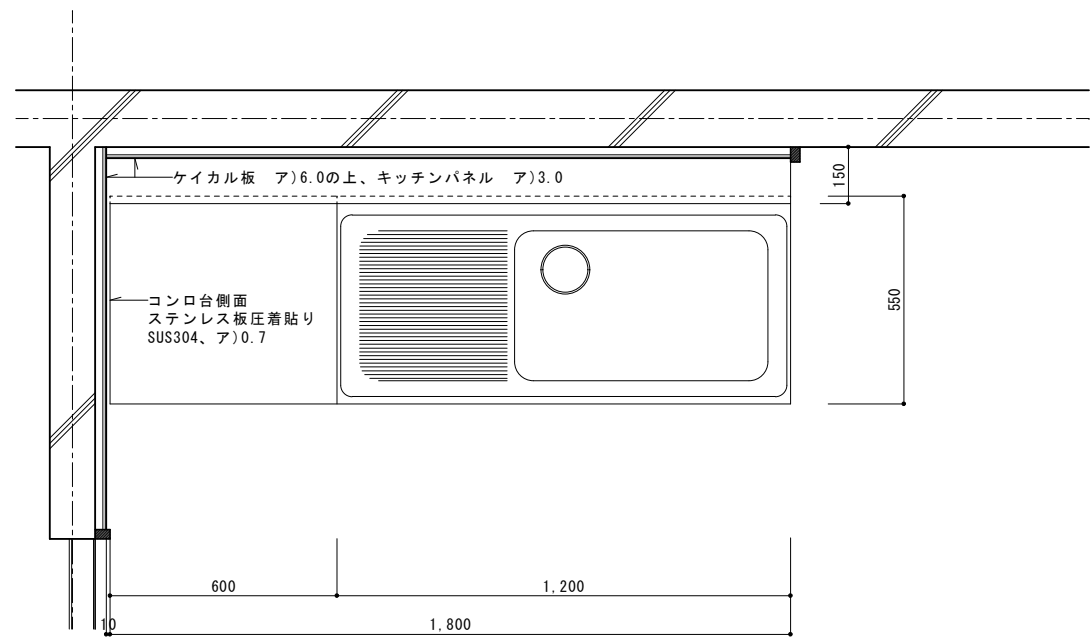
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-----------------|-------|------------------|---|---|------|--------------|------|-------|------|------------|------|------------------|------|-----------|----|-------|----|--|------|---------|----|-------|----|----|--|--|--|--|--|--|--|--|--|----|----------|--|--|-------|-----|-------|--|------|----------------|--|--|-----|-----------------|--|--|
| 位置 | ⑪ | ⑫ | ⑬ | ⑭ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 最上階 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基準階 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 位置 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 最上階 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基準階 | | | | | KEY PLAN | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | <table border="1"> <tr> <td>工事名称</td> <td>大富団地建替工事(建築)</td> <td>工事年度</td> <td>令和7年度</td> </tr> <tr> <td>工事場所</td> <td>竹富町字南風見仲地内</td> <td>図面名称</td> <td>2LDK棟 木製建具詳細図(2)</td> </tr> <tr> <td>発注機関</td> <td>竹富町まちづくり課</td> <td>縮尺</td> <td>S=1:5</td> </tr> <tr> <td>摘要</td> <td></td> <td>図面番号</td> <td>A - 029</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">検印</td> <td>管理建築士</td> <td>設計</td> <td>製図</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>名称</td> <td colspan="3">南朝吹設計事務所</td> </tr> <tr> <td>資格者氏名</td> <td>代表者</td> <td colspan="2">朝吹 一郎</td> </tr> <tr> <td>登録番号</td> <td colspan="3">一級建築士 第114962号</td> </tr> <tr> <td>所在地</td> <td colspan="3">沖縄県石垣市浜崎町2-3-32</td> </tr> </table> | 工事名称 | 大富団地建替工事(建築) | 工事年度 | 令和7年度 | 工事場所 | 竹富町字南風見仲地内 | 図面名称 | 2LDK棟 木製建具詳細図(2) | 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | S=1:5 | 摘要 | | 図面番号 | A - 029 | 検印 | 管理建築士 | 設計 | 製図 | | | | | | | | | | 名称 | 南朝吹設計事務所 | | | 資格者氏名 | 代表者 | 朝吹 一郎 | | 登録番号 | 一級建築士 第114962号 | | | 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 | | |
| 工事名称 | 大富団地建替工事(建築) | 工事年度 | 令和7年度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 工事場所 | 竹富町字南風見仲地内 | 図面名称 | 2LDK棟 木製建具詳細図(2) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | S=1:5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 摘要 | | 図面番号 | A - 029 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 検印 | 管理建築士 | 設計 | 製図 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 名称 | 南朝吹設計事務所 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 資格者氏名 | 代表者 | 朝吹 一郎 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 登録番号 | 一級建築士 第114962号 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |



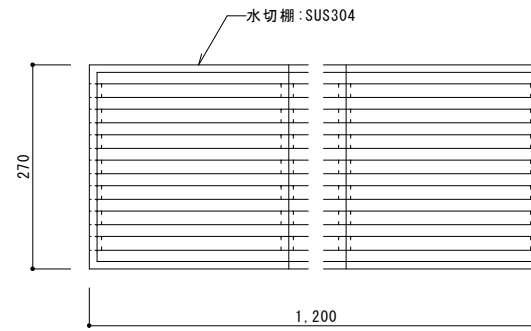


| | | | |
|------|-----------------|----------------|---------------|
| 工事名称 | 大富団地建替工事(建築) | 工事年度 | 令和7年度 |
| 工事場所 | 竹富町字南風見仲地内 | 図面名称 | 2LDK棟 雑詳細図(2) |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | S=1:2~40 |
| 摘要 | | 図面番号 | A-031 |
| 検印 | 管理建築士 | 設計 | 製図 |
| | 名称 | 南朝吹設計事務所 | |
| | 資格者氏名 | 代表者 | 朝吹 一郎 |
| | 登録番号 | 一級建築士 第114962号 | |
| 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 | | |

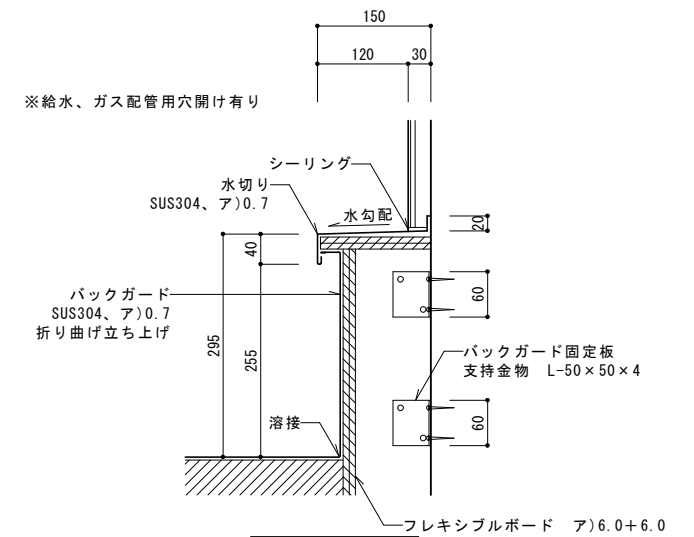




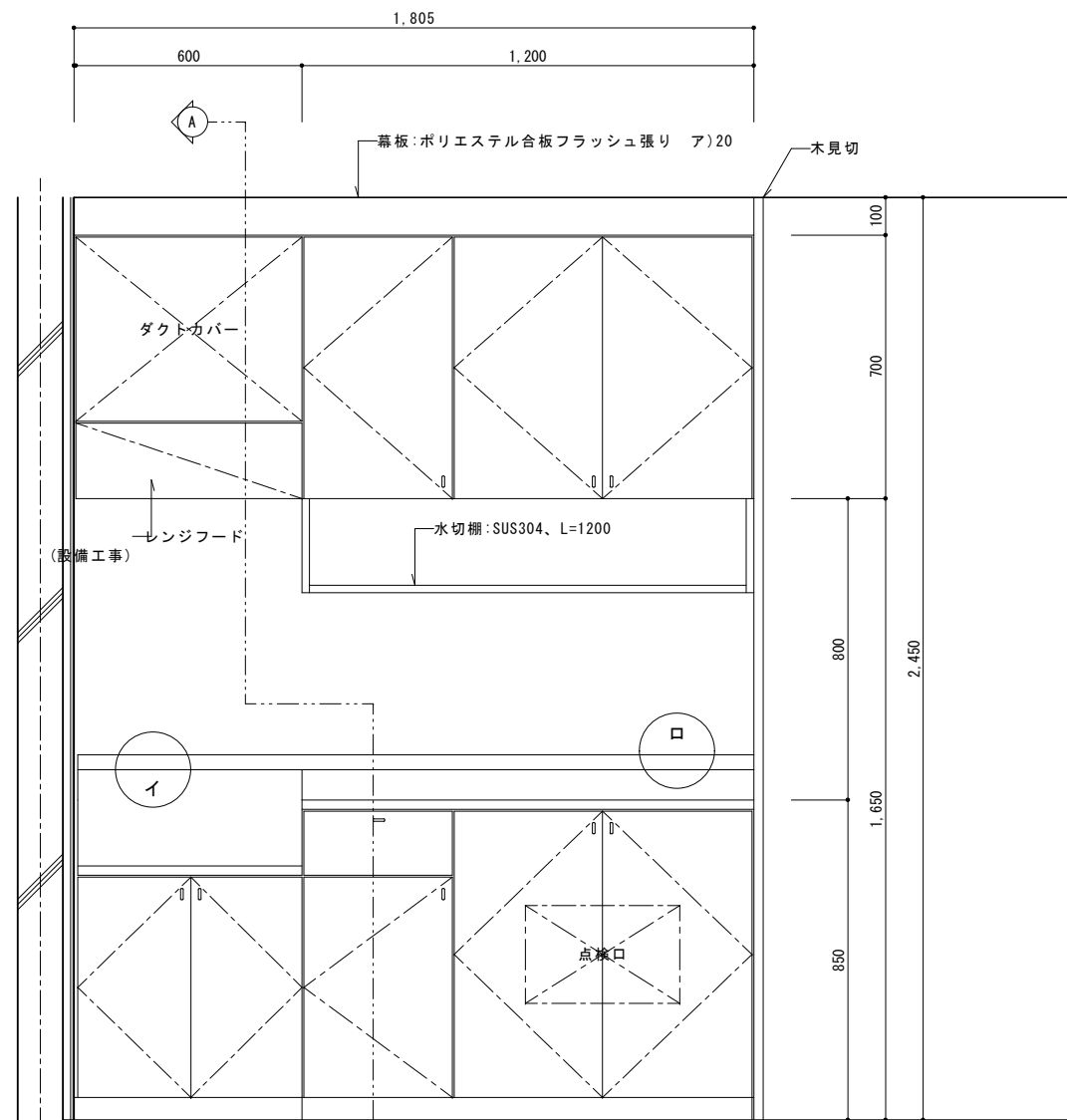
平面図 S=1:10



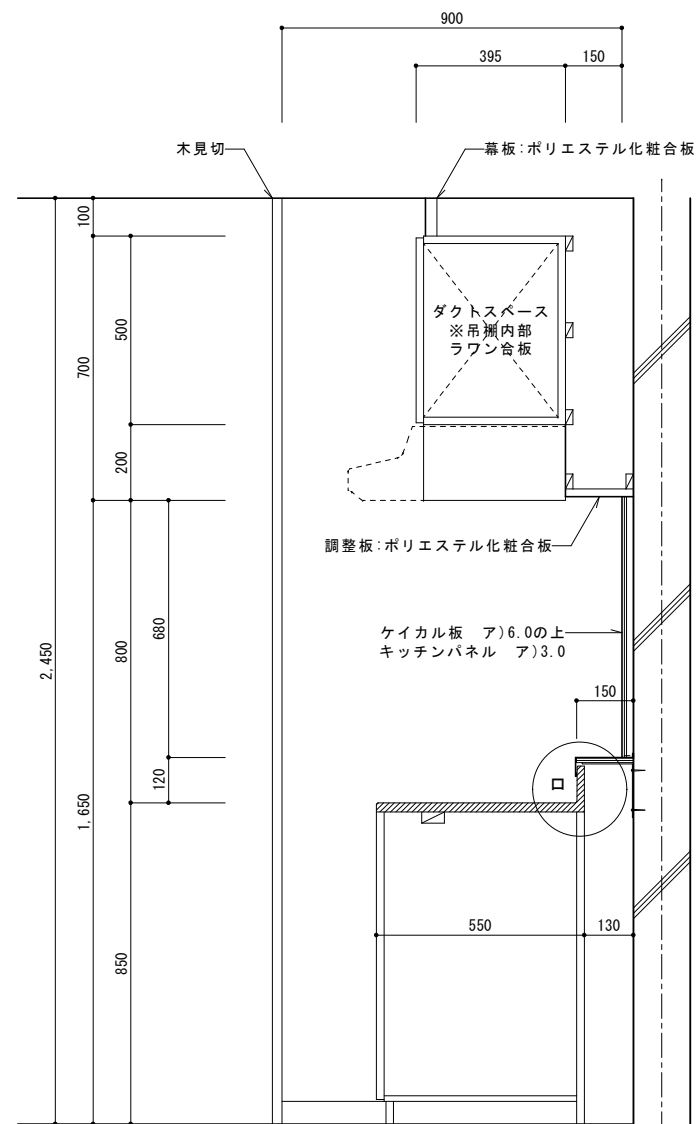
平面図 S=1:5



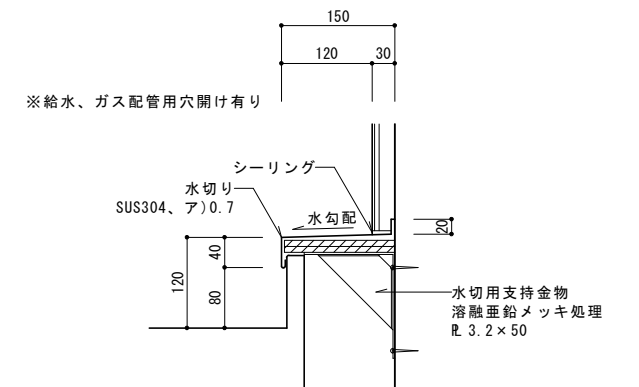
イ詳細図 S=1:5



正面図 S=1:10

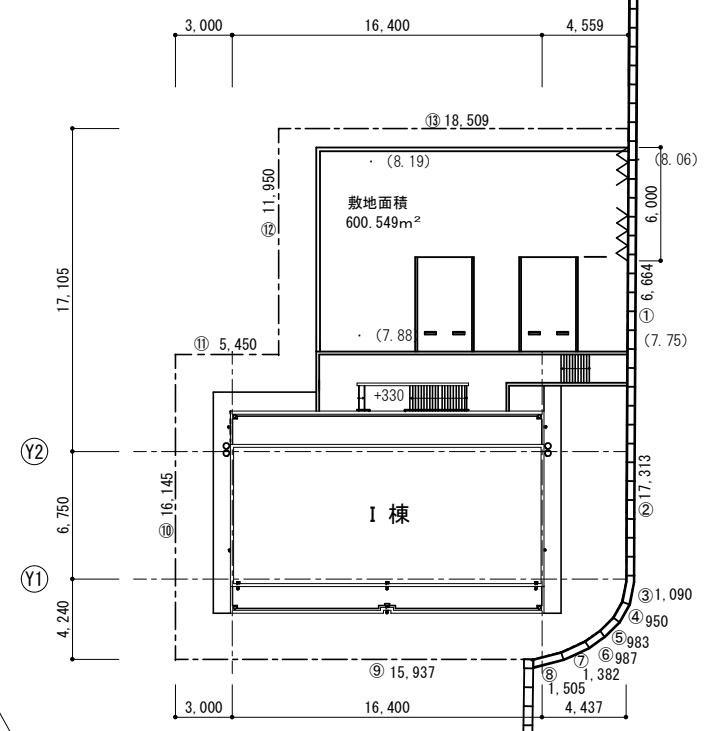
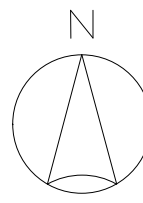


A断面図 S=1:10

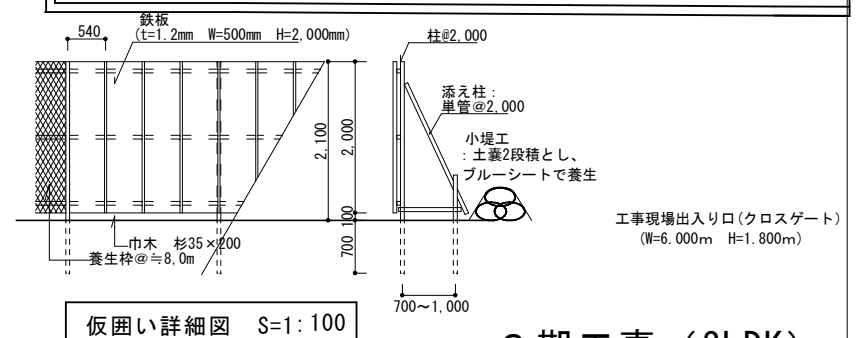
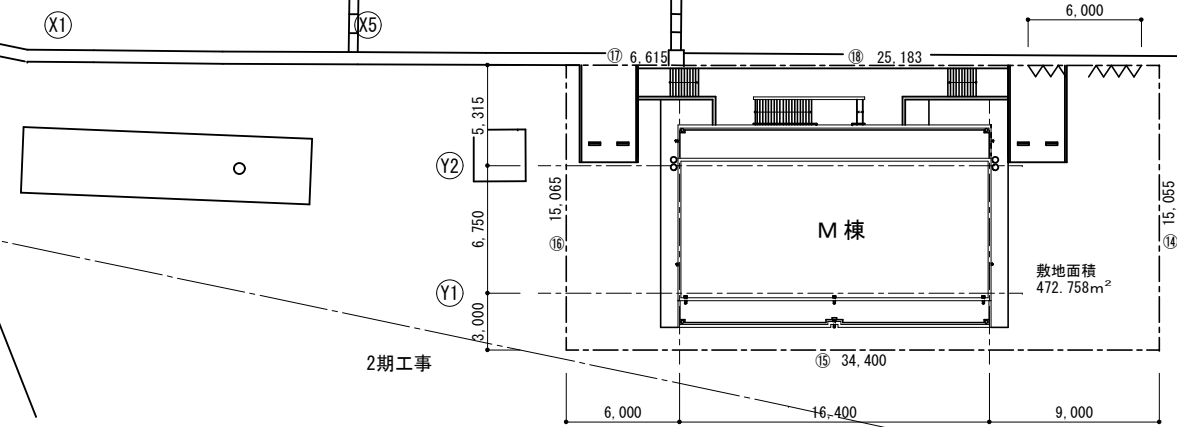


ロ詳細図 S=1:5

| | | | |
|------|---------------|-----------------|----------------|
| 工事名称 | 大富団地建替工事 (建築) | 工事年度 | 令和 7 年度 |
| 工事場所 | 竹富町字南風見仲地内 | 図面名称 | 2LDK棟 雑詳細図 (4) |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | S=1:5~10 |
| 摘要 | | 図面番号 | A - 033 |
| 検印 | 管理建築士 | 設計 | 製図 |
| | 名称 | 南朝吹設計事務所 | |
| | 資格者氏名 | 代表者 朝吹 一郎 | |
| | 登録番号 | 一級建築士 第114962号 | |
| | 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 | |



| 仮囲い・小堤工長さ | | 仮囲い・小堤工長さ | |
|-----------|--------|-----------|----------|
| ① | 6.664 | ⑭ | 15.055 |
| ② | 17.313 | ⑮ | 34.400 |
| ③ | 1.090 | ⑯ | 15.065 |
| ④ | 950 | ⑰ | 6.615 |
| ⑤ | 983 | ⑱ | 25.183 |
| ⑥ | 987 | | |
| ⑦ | 1.382 | ゲート | -6.000 |
| ⑧ | 1.505 | 小計 | 90.318 |
| ⑨ | 15.937 | | |
| ⑩ | 16.145 | 合計 | 183.183m |
| ⑪ | 5.450 | | |
| ⑫ | 11.950 | | |
| ⑬ | 18.509 | | |
| ゲート | -6.000 | | |
| 小計 | 92.865 | | |



2期工事 (2LDK)

| | | | |
|------|---------------|-----------------|-------------|
| 工事名称 | 大富団地建替工事 (建築) | 工事年度 | 令和 7 年度 |
| 工事場所 | 竹富町字南風見仲地内 | 図面名称 | 2LDK棟 仮設計画図 |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | S=1:400 |
| 摘要 | | 図面番号 | |
| 検印 | 管理建築士 | 設計 | 製図 |
| | 名称 | 南朝吹設計事務所 | |
| | 資格者氏名 | 代表者 朝吹 一郎 | |
| | 登録番号 | 一級建築士 第114962号 | |
| | 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 | |

構造設計特記仕様

※沖縄県土木建築部「構造計画・施工計画の留意事項」(平成25年4月)に準ずる。
構造設計特記仕様と差異がある場合、「構造計画・施工計画の留意事項」を優先する。

※修正箇所は下線を引くこと
適用は ■ 印を記入する。

1. 建築物の構造内容

| | |
|------------|--|
| (1) 建築物の概要 | |
| 建築場所 | 八重山郡竹富町宇南風見仲地内 |
| 工事種別 | 改築工事 |
| 構造種別 | 鉄筋コンクリート造 |
| 階数 | 地上1階 |
| 増築計画 | 無し |
| 構造計算ルート | 計算ルート1 |
| 重要度係数 | 構造体Ⅲ類(1=1.0) |
| 構造一級建築士の関与 | <input type="checkbox"/> 必要 <input checked="" type="checkbox"/> 必要としない |

2. 使用建築材料・使用構造材料一覧表

| | | | | | |
|---|---------|---|---|---|-------------|
| (1) コンクリート | | | | | |
| (レディーミクストコンクリート JIS Q 1001, JIS Q 1011, JIS A 5308) | | | | | |
| 適用箇所 | 種類 | 設計基準強度 F _c (N/mm ²) | 品質基準強度 F _q (N/mm ²) | 層中における強度 F _q (N/mm ²) | スラブ (cm) |
| 上部躯体 | ■普通 | 27 | 27+3=30 | 27+6=33 | 18 |
| 基礎・基礎梁・土間スラブ(S) | ■普通 | 27 | 27+3=30 | 27+6=33 | 15 |
| 外構・土間コン(FS) | ■普通 □軽量 | 21 | — | — | 15 |
| 捨てコンクリート | ■普通 □軽量 | 18 | — | — | 15 |

| | | |
|---------------|-----------------------------|------------------|
| 細骨材の種類 | ■砂 □山砂 □人工 | |
| 粗骨材の種類 | ■砂利 □砕石 □人工 | |
| 水の区分 | ■JIS A 5308 □水道水 □地下水 □工業用水 | |
| 混和材料の種類 (JIS) | ■AE減水剤 ■高性能AE減水剤 | |
| 圧縮強度試験 | 試験材齢 | ■28日 □56日 □91日 |
| | 養生方法 | ■現場水中 □現場封かん □標準 |

- コンクリートの空気量は、特記のない場合は4.5%とする。
ただし、AE剤、AE減水剤または高性能AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は、特記による。
- コンクリートの単位水量は、185kg/m³以下とする。

| |
|---|
| ■構造体の水セメント比は50%以下とする。 |
| ■スラブについては15cm以下を標準とし、十分締め固めが行える範囲でできるだけ小さい値とする。 ただし、高性能AE減水剤や流動化剤等の混和材料を用いて施工する場合はこの限りではない。 |
| ■混和材料の使用は、JIS A 5308 に準じたコンクリート配合計画書による。 |
| ■日平均気温の平均値が25°を超える期間に打ち込むコンクリートの呼び強度は、設計基準強度(F _c)に構造体強度補正值(S)の6N/mm ² を加えた値以上とする。 ※これは沖縄県土木建築部「構造計画・施工計画の留意事項」(平成25年4月)による。 |

| |
|---|
| (2) コンクリートブロック (JIS A 5406) |
| <input type="checkbox"/> A種 <input type="checkbox"/> B種 <input type="checkbox"/> C種 厚 <input type="checkbox"/> 100 <input type="checkbox"/> 120 <input type="checkbox"/> 150 <input type="checkbox"/> 190 |

(3) 鉄筋

| | | | | |
|---------------------|---------|---------|---------|-------------------------------|
| 異形鉄筋 (JIS G 3112) | 種類 | 径 | 使用箇所 | 継手工法 |
| | ■SD295 | D10~D16 | 部材リスト参照 | ■重ね継手 |
| | ■SD345 | D19 | 部材リスト参照 | ■圧接継手 |
| 高強度せん断補強筋 | ■SD390 | | | <input type="checkbox"/> 圧接継手 |
| スチール丸鋼 (JIS G 4321) | ■SUS304 | | | |
| 溶接金網 (JIS G 3551) | | | | |

※各継手の使用詳細については、本仕様5.(2)鉄筋の他の鉄筋の継ぎ手等参照とする。

(4) 鉄骨

| | | |
|---------|--|---|
| 使用箇所 | 種類 | 現場溶接 |
| 柱 | <input type="checkbox"/> BCR295 <input type="checkbox"/> BCP235 <input type="checkbox"/> BCP325 <input type="checkbox"/> STKR400 <input type="checkbox"/> SN400B | <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 大梁 | <input type="checkbox"/> SS400 <input type="checkbox"/> SM400 <input type="checkbox"/> SN400B <input type="checkbox"/> SN490B | <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 二次部材 | <input type="checkbox"/> SS400 <input type="checkbox"/> SS490 <input type="checkbox"/> STK400 <input type="checkbox"/> STKR400 | <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| ベースプレート | <input type="checkbox"/> SN490 B <input type="checkbox"/> SN490 C <input type="checkbox"/> SM490 A <input type="checkbox"/> SS400 | <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| | <input type="checkbox"/> 「ハイベースNEO」同等品 | <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| ダイヤフラム | <input type="checkbox"/> SN490 B <input type="checkbox"/> SN490 C <input type="checkbox"/> SM490 A | <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 溶接材料 | <input type="checkbox"/> JIS Z | |

(5) ボルト

| | | |
|-----------|---|--|
| 高力ボルト | 種類 | ボルト径 (<input type="checkbox"/> M16 <input type="checkbox"/> M20 <input type="checkbox"/> M22 <input type="checkbox"/> M24) <input type="checkbox"/> F10T (JIS B1186) <input type="checkbox"/> S10T 大臣認定番号 (※MBLT-0125同等品) <input type="checkbox"/> F8T 大臣認定番号 (※MBLT-0050同等品) |
| | ボルト (JIS B1180) | ボルト径 (<input type="checkbox"/> M12 <input type="checkbox"/> M16) |
| | アンカーボルト | SS400 (<input type="checkbox"/> M12 <input type="checkbox"/> M16 <input type="checkbox"/> M20) , ナット (ダブル) ABR490 (<input type="checkbox"/> M12 <input type="checkbox"/> M16 <input type="checkbox"/> M20 <input type="checkbox"/> M30) , ナット (ダブル) |
| 頭付スタットボルト | <input type="checkbox"/> φ=16, 19 L=80mm 使用箇所 (<input type="checkbox"/> 柱 <input type="checkbox"/> 大梁 <input type="checkbox"/> 小梁) | |
| | <input type="checkbox"/> φ=16, 19 L=120mm 使用箇所 (<input type="checkbox"/> 柱 <input type="checkbox"/> 大梁 <input type="checkbox"/> 小梁) | |

(6) 屋根、床、壁

| | | |
|------------------------|--|-------|
| 材種 | 使用箇所 | 型式・構法 |
| 折版 | <input type="checkbox"/> 屋根 <input type="checkbox"/> 庇 | |
| デッキプレート (JIS G 3352) | <input type="checkbox"/> 床版 <input type="checkbox"/> 庇 | |
| 押出成形シートの板 (JIS A 5441) | <input type="checkbox"/> 外壁 <input type="checkbox"/> | |
| 角波GL鋼板 | <input type="checkbox"/> 外壁 <input type="checkbox"/> | |
| サイディングボード | <input type="checkbox"/> 外壁 <input type="checkbox"/> | |
| ALC (JIS A 5416) | <input type="checkbox"/> 外壁 <input type="checkbox"/> | |

3. 地盤

(1) 地盤調査資料と調査計画

- 有 (敷地内 近隣) 無 (調査計画 有 無)

| 調査項目 | 資料有り | 調査計画 | 調査項目 | 資料有り | 調査計画 | 調査項目 | 資料有り | 調査計画 |
|---------------|--------------------------|--------------------------|--------|--------------------------|--------------------------|--------|--------------------------|--------------------------|
| ボーリング調査 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 静的貫入試験 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 標準貫入試験 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 水平地盤反力係数の測定 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 土質試験 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 物理探査 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 試験掘(支持層の確認) | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 平板載荷試験 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 液化化判定 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| スエーデン式サウンディング | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 現場透水試験 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | P-S検層 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

注) 上記表中の資料が有るもの、調査計画があるものに○を記入する。

(2) ボーリング標準貫入土、土質構成 (S-09、10参照)

4. 地業工事

(1) 基礎

| | | |
|-------|----------|--|
| ■直接基礎 | 種別 | <input type="checkbox"/> 独立基礎 <input type="checkbox"/> 布基礎 <input type="checkbox"/> べた基礎 |
| | 支持層 | () |
| ■地盤改良 | 長期許容支持力度 | () |
| | 試験掘 | <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| ■杭基礎 | 種別 | <input type="checkbox"/> 独立基礎 <input type="checkbox"/> 布基礎 <input type="checkbox"/> べた基礎 |
| | 支持層 | () |
| ■杭基礎 | 種別 | <input type="checkbox"/> 独立基礎 <input type="checkbox"/> 布基礎 <input type="checkbox"/> べた基礎 |
| | 支持層 | () |

※「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)令和4年度版」抜粋

- 1節 一般事項
- 4.1.2 基本要項
- 1) 地業工事に用いる材料は、所定のものであること。
- 2) 地業の位置、形状及び寸法は、上部の構造物に対して有害な影響を与えないものであること。
- 3) 地業は、所定の支持力を有するものであること。

- 4.1.3 施工一般
- 1) 工事現場において発生する騒音、振動等により、近隣に及ぼす影響を極力防止するとともに、排土、排水、油濁等が、飛散しないように養生を行う。また、排土、排水等は、関係法令等に基づき、適切に処理する。
- 2) 杭の施工に当たり、随時、杭心の位置を確認する。
- 3) 設置された杭には、有害な衝撃、荷重等を与えない。
- 4) 地中埋設物等については、3.2.1[根切り](2)から(4)までによる。
- 5) 施工状況等については、随時、監督職員に報告する。

- 2節 試験及び報告書
- 4.2.1 一般事項
- a) 工事の適切な時期に、設計図書に定められた杭又は支持地盤の位置及び土質について、この節に示す試験を行い、その結果に基づき、支持力又は支持地盤の確認を行う。
- b) 試験は、監督職員の立会いのもとで行い、その後の施工について、監督職員と協議する。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合は、この限りでない。

5. 鉄筋コンクリート工事 (施工方法等計画書)

本構造設計特記仕様はコンクリートの設計基準強度(F_c)が 36 N/mm²以下に適用し、鉄筋の材種は SD390 以下に適用する。

(1) コンクリート

- コンクリートは JIS A 5308 (レディーミクストコンクリート) に適合するJIS認定工場の製品とし、施工に関しては標準図に記載されている事項を除き、JASS 5 による。
- 耐久設計基準強度 F_d □短期 □標準 ■長期 □
- セメントは、JIS R 5210 の普通ポルトランドセメントを標準とする。
- 調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
- 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調合、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
- フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で(財)国土開発技術研究センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真(カラー)を保管し承認を得ること。
- 測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一資料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。
- 構造体コンクリートについて現場の圧縮強度試験方法はJASS 5T - 603によることとし、供試体は現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み直後と、打ち込み直後とする。また、打ち込み量が 150 m³を超える場合は 150 m³ごとまたは、その端数ごとに一回を標準とする。一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運転車からその必要本数を採取すること。尚、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当たり6本以上とし、そのうち4適用に3本を用いる。
- ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さはコンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技術または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間隔の限度は、外気温が 25 °C未満の場合は 150 分以内、25 °C以上の場合は 120 分以内とする。
- コンクリート打ち込み中及び打ち込み後5日間は、コンクリートの温度が2度を下回らないようにする。

・JASS 5「7節 コンクリートの運搬・打ち込みおよび締固め」抜粋

- コンクリートは、その種類・品質および施工条件に適した方法により、分離、漏れおよび品質の変化ができるだけ少ないように、荷卸し地点から打ち込み地点まで運搬する。
- コンクリートの打ち込みおよび締固めは、コンクリートが均質かつ密実な充填され、所要の強度・耐久性を有し、有害な打込み欠陥のない構造体コンクリートが得られるように行う。
- 打継ぎ部の位置・形状および処理方法は、構造耐力および耐久性を損なわないものとする。

・JASS 5「8節 養生」抜粋

- コンクリートは、打ち込み後直後からセメントの水和およびコンクリートの硬化が十分に進行するまでの間、急激な乾燥、過度の高湿または低温の影響、急激な温度変化、振動および外力の悪影響を受けないように養生を行う。
- 施工者は、養生の方法・期間および養生に用いる資材などの計画を定めて、工事監理者の承認を受ける。

(2) 鉄筋

- 鉄筋は JIS G 3112 の規格品を標準とする。施工は、標準図に記載されている事項を除き、コンクリートと同様に、JASS 5 による。
- 高強度せん断補強筋は、JIS G 3137 に限定されるD種1号適合品とする。
- 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」による。
- 鉄筋継手等

| | | |
|--------|---------------------|-----------|
| 鉄筋継手方法 | 継手の位置等の設計条件による仕様・等級 | 鉄筋の径 |
| | (1) 引張力最小部位 | |
| ■重ね継手 | 40d □ 35d □ ()d | A級 B級 SA級 |
| ■圧接継手 | 告示1463号第2項各号 | D(16)以下 |
| ■溶接継手 | 告示1463号第3項各号 | D(19)以上 |
| ■機械継手 | 告示1463号第4項各号 | D()以上 |

- 注) (1)以外の部位に用いる継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築センター等の認定・評定等を取付た継手工法の等級で、構造計算にあたって「鉄筋継手使用基準(建築物の構造関係技術基準解説書 2007)」によって検討した部材の条件・仕様によること。
- D19 未満は、すべて重ね継手とする。
- 継手部分の施工要領は(社)日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」(ガス圧接継手工事、溶接継手工事、機械式継手工事)による。
- 継手部分の検査方法：・外観検査 ■有 ■無・引張試験 □有 □無・超音波探傷試験 ■有 □無
- ガス圧接部分の検査を超音波探傷試験によって行う場合、1ロットは同一作業班が同一日に作業した圧接箇所で 200 箇所程度とする。
- 柱の帯筋(HOOP)の加工方法は、■H型(タガ型) □W型(溶接型) □S型(スパイラル型)とする。
- コンクリート及び鉄筋の試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」第4条の試験機関で行うこと。
- 試験・検査機関名 (都知事登録 号) 代行業者名 代行業者とは、試験・検査に伴う業務を代行するものを言う。

(3) 型枠

- 材料 合板厚 12 mm を標準とする。 ■施工 JASS 5 による。
- 型枠存置期間

| | | | | |
|-------------|----------------------|--------------|--------------|--------------|
| 種類 | 基礎、はり、柱、壁 | スラブ下、はり下 | スラブ上 | はり下 |
| | 基礎、はり、柱、壁 | スラブ下、はり下 | スラブ上 | はり下 |
| セメントの種類 | 早強ポルトランドセメント | 普通ポルトランドセメント | 早強ポルトランドセメント | 普通ポルトランドセメント |
| | 早強ポルトランドセメント | 普通ポルトランドセメント | 早強ポルトランドセメント | 普通ポルトランドセメント |
| コンクリートの圧縮強度 | 5.0N/mm ² | 設計基準強度の50% | 85% | 100% |

- 注) 1 片持ばり、庇、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。
- 注) 2 大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはり下は原則として行わない。
- 注) 3 支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
- 注) 4 盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
- 注) 5 支柱の盛りかえは、小ばりが終わってから、スラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
- 注) 6 直上階に著しく大きい積載荷重がある場合においては、支柱(大梁の支柱を除く)の盛りかえを行わないこと。
- 注) 7 支柱の盛りかえは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらすおそれのある振動又は衝撃を与えないように行うこと。

6. 鉄骨工事 (施工方法等計画書)

(1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による

- 日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
- (社)日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」
- 鉄骨製作管理技術者登録機構「実合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」

(2) 工事監理者の承認を必要とするもの

- 製作工事 □製作要領書 □工作図 □施工計画書
- 認定または登録工場(大臣認定 S ④ M R J グレード)
- 鉄骨製作工場の指定がない場合は、請負者が選定した適切な鉄骨製作工場について、加工能力が特記された文書等を確認し、監理者と協議の上決定すること。
- 特記事項は、「建築工事監理指針(上巻)7.1.3 鉄骨製作工場」を参照とする。
- 材料規格証明書 ■高力ボルト □特殊ボルト □頭付スタッド
- ※社)日本鋼構造協会「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン」の規格証明方法、または mills シート。
- 社内検査表

(3) 工事監理者が行う検査項目

- (印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること)
- 現寸検査 □組立・開先検査 □製品検査 □建方検査

(4) 接合部の溶接は下記によること

- 平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロ
- 日本建築学会「溶接工規準、同解説I、II、III、IV、V、VI、VII、VIII、IX」
- 日本建築学会「鉄骨工事技術指針 工事現場施工編」

(5) 接合部の検査

- 溶接部の検査(検査結果は後日工事監理者に報告すること)

| 検査箇所 | 検査方法 | 工場自主検査 | 第三者受入検査 | 工事監理者 | 備考 |
|---------------------|-----------|--------|---------|-------|----------------------------------|
| ■完全溶込み溶接部 (実合せ溶接) | 外観検査(※) | 100%個 | 100%個 | 100%個 | ※超音波探傷試験 |
| □内質検査(注) | ■硬さ試験 | 0%個 | 20%/ロット | 0%個 | AOL4.0%第6水準により、ロットの大きさは2.0以下とする。 |
| | ■示温塗料塗布 | %個 | %個 | %個 | (「公共建築工事標準仕様書」平成21年版に準じる) |
| ■溶接溶接部 | マクロ試験・その他 | 個 | 個 | 個 | |
| ■第三者検査機関名 (都知事登録 号) | | 100%個 | 100%個 | 100%個 | |

- 注1) 現場溶接部については原則として第三者検査機関による全数検査とし、外観検査、超音波探傷検査を100%行うこと
- 注2) 知事が定めた重大な不具合が発生した場合は、是正前に対応策を建築主事等に報告すること
- 高力ボルトの検査(検査結果は後日工事監理者に報告すること)
- 軸力導入試験 □有 □無 □有 □無
- 一次締め後にローキングを行い、二次締め後そのずれを見て、再回りの異常が無いことを確認する。
- トルシヤ形高力ボルトは二次締め後、ピンテールが破断していることを確認する。

(6) 防錆塗装

- 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。
- 錆止めペイントは、□JIS K 5621, □JIS K 5625, □ , □ を使用して、4 つ裏 2 回塗りを標準とするが、実状に応じて決定すること。
- 現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し、2 回塗りとする。

(7) 耐火被覆の材料

-

7. 設備関係

- 建築設備の構造は、構造耐力上安全な構造方法を用いるものとする。
- 建築設備の支持構造部および緊結金物には、錆止め等、腐蝕のための有効な措置を講ずること。
- 建築物に設ける屋上からの突出する水櫃・煙突・その他これらに類するものは、風圧・地震力等に対して構造耐力上主要な部分に緊結され、安全であること。
- 煙突は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造とする。
- 設備配管は、地震時等の建物変形に追従できること。また、地震力等に対して適切に支持されていること。
- 設備機器の架台及び基礎については、風圧・地震力等に対して構造耐力上安全であること。
- エレベーターの駆動装置等は、構造体に安全に緊結されていること。
- 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。
- 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を管径の3倍以上かつ5cm以上を原則とする。

8. その他

- 請書へへの届出書類は遅滞なく提出すること。
- 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
- 必要に応じて記録写真を撮り保管すること。

2LDK棟

有限会社 長嶺総合設計 長嶺 安一
一級建築士事務所 知事登録 第 128-2236号
一級建築士 第 141385号
構造設計一級建築士 第 9036号

| | | | |
|------|----------------|-----------------|----------|
| 工事名称 | 大富団地建替工事(建築) | 工事年度 | 令和7年度 |
| 工事場所 | 八重山郡竹富町宇南風見仲地内 | 図面名称 | 構造設計特記仕様 |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | NOSCALE |
| 摘要 | 図面番号 S-01 | | |
| | 管理建築士 | 設計 | 製図 |
| 検印 | 名称 | 衛朝吹設計事務所 | |
| | 資格者氏名 | 代表者 | 朝吹 一郎 |
| 設計者 | 登録番号 | 一級建築士 第114962号 | |
| | 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 | |

鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)

各部配筋 参考図

各部配筋参考図は、寸法の統一による設計の質の確保及び能率の向上並びに積算及び施工における業務の簡素化を図るものとして、各部配筋を特記する際に必要な事項を参考図として示すものである。
なお、公共建築工事標準仕様書(建築工事編)5章において特記することとしている各部配筋は、構造計算等に基づき適切に特記する必要がある。

1節 基礎及び基礎梁の配筋

- 1.1 直接基礎の配筋 ※S-06(2)参照
- 1.2 基礎接合部の配筋 ※S-06(2)参照
- 1.3 基礎梁主筋の継手、定着及び余長

【※】梁主筋の柱内定着長は、[S-06.2]による。

(a) 一般事項

- 梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合は図5.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部等では折り曲げて定着する。
- 梁筋を柱内に定着する場合は、3.1(a)(2)による。

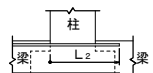
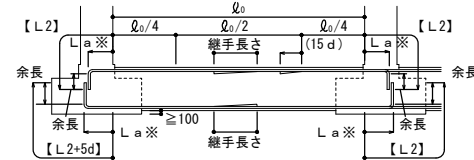


図1.4 梁筋の基礎梁内への定着

(b) 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長



- 図示のない事項は、3.1による。
- 印は、継手及び余長位置を示す。
- 破線は、柱内定着の場合を示す。
※Laの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

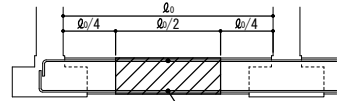
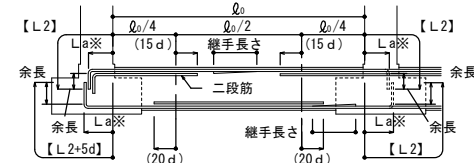


図1.5 主筋の継手、定着及び余長(その1)

(c) 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長



- 図示のない事項は、3.1による。
- 印は、継手及び余長位置を示す。
- 破線は、柱内定着の場合を示す。
※Laの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

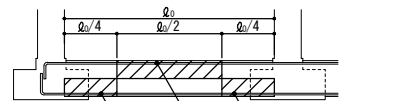
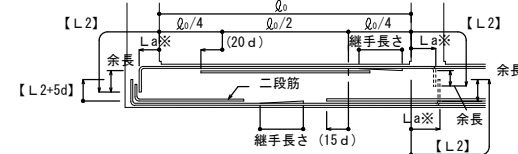


図1.6 主筋の継手、定着及び余長(その2)

(d) 連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長



- 図示のない事項は、3.1による。
- 印は、継手及び余長位置を示す。
- 破線は、柱内定着の場合を示す。
※Laの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

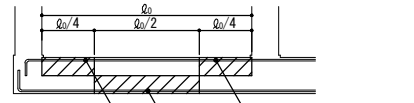


図1.7 主筋の継手、定着及び余長(その3)

1.4 基礎梁のあばら筋

あばら筋組立の形及びフックの位置は、3.2(a)による。ただし、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、図1.8によることができる。

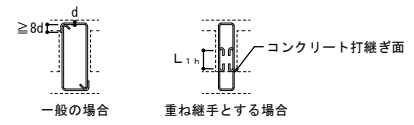


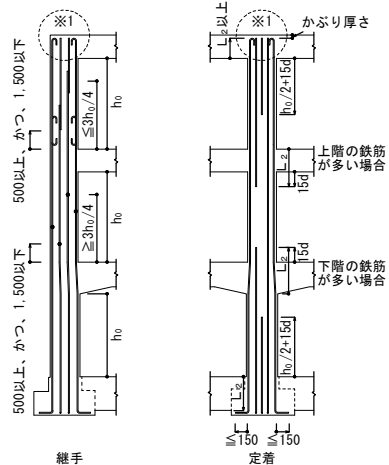
図1.8 あばら筋組立の形及びフックの位置

2節 柱の配筋

2.1 柱主筋の継手、定着及び余長

(a) 一般事項

- 継手の中心位置は、梁上端から500mm以上、1,500mm以下、かつ、 $3h_c/4$ (h_c は柱の内法高さ)以下とする。
- 継手、定着及び余長は図2.1による。ただし、柱頭定着長さL2を確保できない場合は、構造図による。



- 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合には、フックを付ける。
- 隣り合う継手の位置は、<表3>による。
- 継手及び定着は、すべての階に適用できる。

図2.1 柱主筋の継手、定着及び余長

※1. 柱頭部主筋の納まりは、[S-06.3.1]および柱リストによる。

2.2 帯筋組立の形及び割付け

- 帯筋の種類及び間隔は、構造図による。
- 帯筋組立の形は図2.2により、適用は構造図による。

- H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W-I形とする。
 - 溶接する場合の溶接長さLは、両面フラア溶接の場合は5d以上、片面フラア溶接の場合は10d以上とする。
 - S P形において、柱頭及び注脚の端部は、1.5巻以上の添巻きを行う。
- (c) フック及び継手の位置は交互とする。

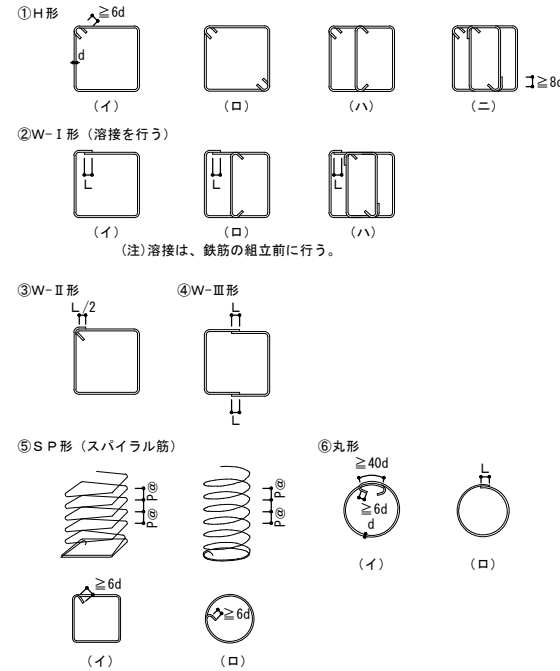
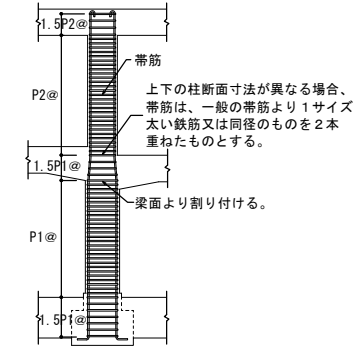


図2.2 帯筋組立の形

(d) 帯筋の割付けは、図2.3とし、それ以外の場合は構造図による。



- 図示のない事項については、一般の場合と同じ。
- 柱に取り付く梁に段差がある場合、帯筋の間隔を1.5P1@又は1.5P2@とする範囲は、その柱に取り付くすべての梁を考慮して適用する。
なお、P1@、P2@は、特記された帯筋の間隔を示す。

図2.3 帯筋の割付け

2.3 柱の打増し部 ※S-06(4)参照

3節 梁の配筋

3.1 大梁(5.1基礎梁以外の大梁に限る)主筋の継手、定着及び余長

【※】梁主筋の柱内定着長は、[S-06.2]による。

(a) 大梁主筋の継手及び定着の一般事項

- 梁主筋は、連続端で柱に接する梁の主筋が同数の時は、柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図3.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部等では折り曲げて定着する。

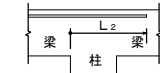


図3.1 梁主筋の梁内定着

(2) 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。

- 定着の方法は、S-02.4(a)(3)による。
上端筋：曲げ降ろす。
下端筋(一般)：原則、曲げ上げる。
下端筋(ハンチ付き)：原則、曲げ上げる。

(3) 段違い梁は、図3.2による。

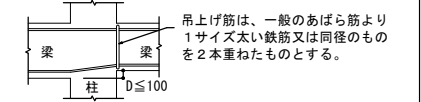
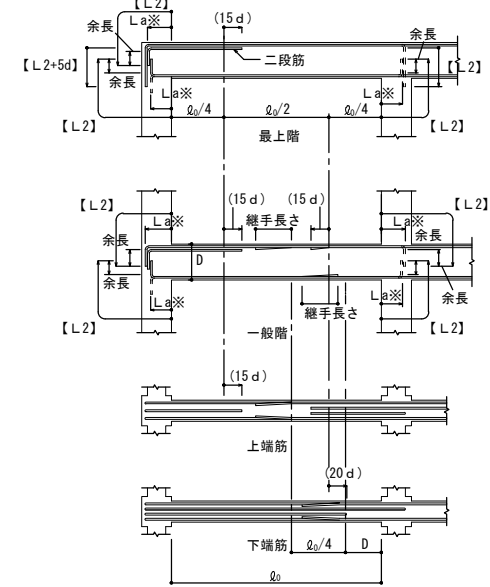


図3.2 段違い梁

(4) 継手中心位置は、次による。

- 上端筋：中央 $l_0/2$ 以内
- 下端筋：柱面より梁せい(D)以上離し、 $l_0/4$ を加えた範囲以内

(b) ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長



- 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合(基礎梁を除く)には、フックを付ける。
- 印は、継手及び余長位置を示す。
- 破線は、柱内定着の場合を示す。
※Laの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

図3.3 大梁の重ね継手、定着及び余長

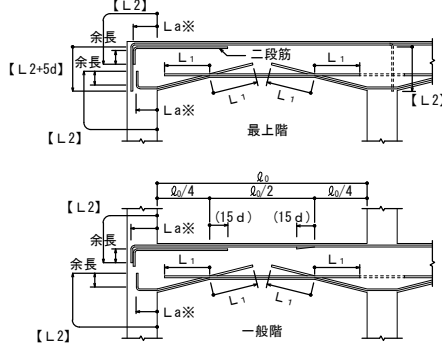
| | | | |
|------|----------------|------|---------------------|
| 工事名称 | 大富団地建替工事(建築) | 工事年度 | 令和7年度 |
| 工事場所 | 八重山郡竹富町宇南風見仲地内 | 図面名称 | 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2) |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | NOSCALE |
| 摘要 | | 図面番号 | S-03 |
| 検印 | 管理建築士 設計 製図 | 設計者 | 名称 衛朝吹設計事務所 |
| | | | 資格者氏名 代表者 朝吹 一郎 |
| | | | 登録番号 一級建築士 第114962号 |
| | | | 所在地 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 |

2LDK棟

有限会社 長嶺総合設計 長嶺 安一
一級建築士事務所 知事登録 第128-2236号
一級建築士 第141385号
構造設計一級建築士 第9036号

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (3)

(c) ハンチのある場合の重ね継手、定着及び余長



1. 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎梁を除く）には、フックを付ける。
2. 印は、継手及び余長を示す。
3. 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、.....のように引き通すことができる。
4. 破線は、柱内定着の場合を示す。
※Laの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

図3.4 ハンチのある大梁の定着及び余長

3.2 あばら筋 (1.4基礎梁のあばら筋以外に限る) の組立の形及び割付け等

(a) あばら筋組立の形及びフックの位置

- (1) 形は、図3.5(イ)とする。ただし、L形梁の場合は(ロ)又は(ハ)、T形梁の場合は、(ロ)~(ニ)とすることができる。
- (2) フックの位置
 - (イ)の場合、交互とする。
 - (ロ)の場合、L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。
 - (ハ)の場合、スラブの付く側を90°折曲げとする。

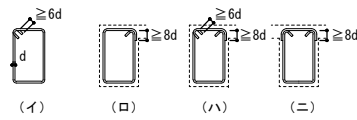
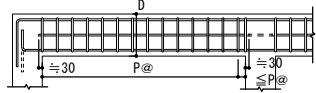


図3.5 あばら筋組立の形

(b) あばら筋の割付け

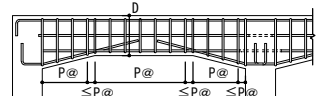
(1) 間隔が一樣でハンチのない場合



1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図3.6 あばら筋の割付け (その1)

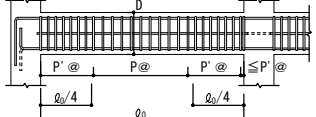
(2) 間隔が一樣でハンチがある場合



1. あばら筋は、柱面の位置及びハンチに切り替わる位置から割り付ける。
2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図3.7 あばら筋の割付け (その2)

(3) 梁の端部で間隔の異なる場合



1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2. 図中P'@、P@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図3.8 あばら筋の割付け (その3)

(c) 腹筋及び幅止め筋

- (1) 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。
- (2) 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10~1,000@程度とする。

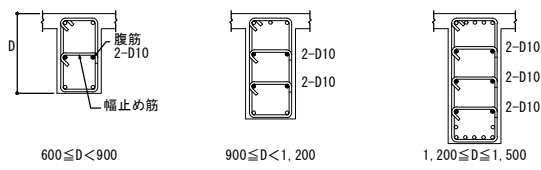
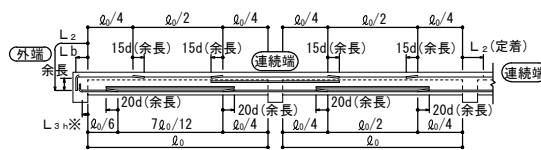


図3.9 腹筋及び幅止め筋

3.3 梁の打増し補強 ※S-06(4)参照

3.4 小梁主筋の継手、定着及び余長

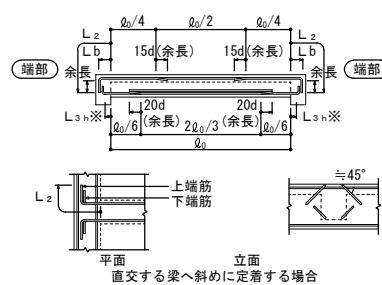
(a) 連続小梁の場合



1. 印は、余長位置を示す。
2. 図示のない事項は、1.3及び3.1に準ずる。
- ※L3hを確保できない場合は、<S-02.4(e)(3)>によることができる。

図3.11 小梁主筋の継手、定着及び余長(その1)

(b) 単独小梁の場合

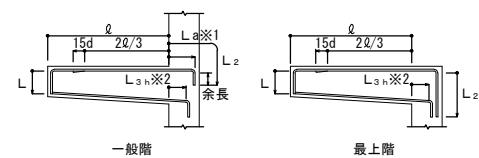


1. 印は、余長位置を示す。
2. 図示のない事項は、1.3及び3.1に準ずる。
- ※L3hを確保できない場合は、<S-02.4(e)(3)>によることができる。

図3.12 小梁主筋の継手、定着及び余長(その2)

3.5 片持梁主筋の継手、定着及び余長

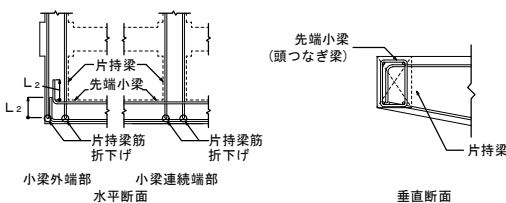
(a) 先端に小梁のない場合



1. 印は、余長位置を示す。
2. 先端の折曲げの長さL1は、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。
3. 図示のない事項は、3.1による。
- ※1. Laの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。
- ※2. L3hを確保できない場合は、<S-02.4(e)(3)>によることができる。

図3.13 片持梁主筋の定着及び余長

(b) 先端に小梁がある場合



1. 図示のない事項は、(a)による。
2. 先端小梁先端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
3. 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

図3.14 片持梁主筋の定着

4節 壁及びその他の配筋

4.1 壁の配筋

- (a) 壁の基準配筋は構造図による。

4.2 壁の継手及び定着

(a) 一般事項

- (1) 壁配筋の重ね継手及び定着の長さは、重ね継手長さをL1、定着長さをL2とする。
- (2) 幅止め筋は、縦横ともD10~1,000@程度とする。
- (3) 打増し部分に、壁及びスラブ筋等が取り付く場合は、壁及びスラブ筋等の定着長さには打増し部分を含めない。

(注) 図中のP@は、特記された壁筋の間隔を示す。

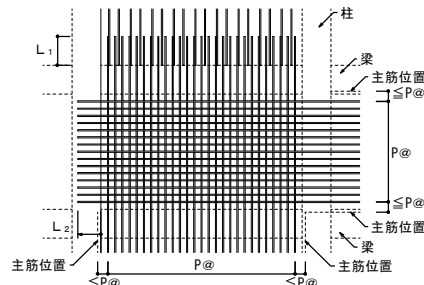


図4.1 壁の配筋

4.3 壁の交差部及び端部の配筋

(a) 壁の交差部及び端部の配筋

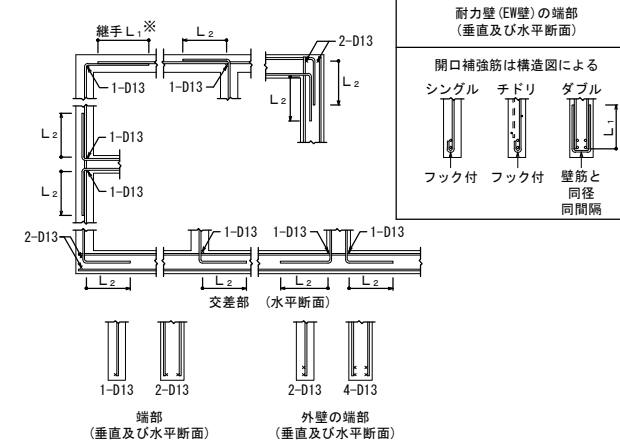


図4.2 壁の交差部及び端部の配筋

4.4 壁の開口部補強

- 壁の開口部の補強筋は、構造図による。
- 壁開口部補強筋の定着長さは図4.3による。
- コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、構造図による。

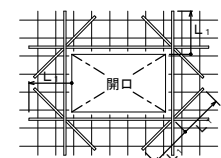


図4.3 壁開口部補強筋の定着長さ

4.5 壁の打増し補強

- 壁の打増し補強は、構造図による。

4.6 パラベット

- (a) コンクリート厚さ、縦筋、横筋の径及び間隔は構造図による。

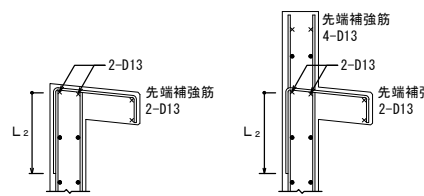


図4.5 パラベットの配筋

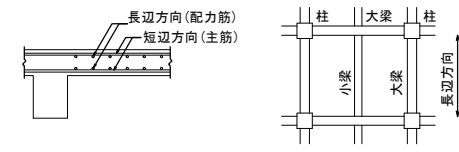
5節 スラブの配筋

5.1 スラブの配筋

(a) 一般事項

- (1) 土間スラブ下の砂利地床厚さ及び捨コンクリート地床厚さは、構造図による。
- (2) 土間コンクリート補強筋の配筋及びコンクリート厚さは、構造図による。

- (b) スラブの基準配筋は図5.1により、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。



1. 配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。
2. 鉄筋の重ね継手長さは、L1とする。

図5.1 スラブの配筋

5.2 スラブ筋の定着及び受け筋

- (a) 定着長さ及び受け筋は、図5.2による。ただし、引き通すことができない場合は、図5.3により梁内に定着する。

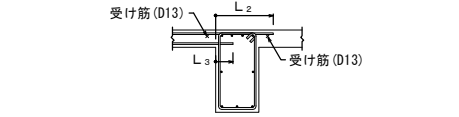


図5.2 スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その1)

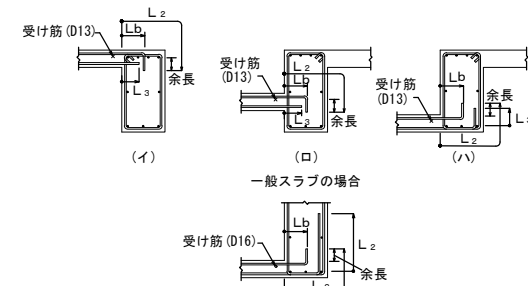
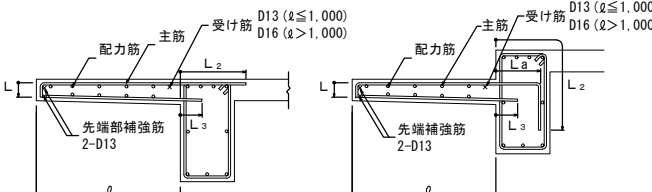


図5.3 スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その2)

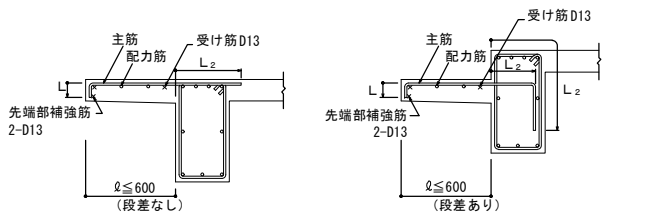
5.3 片持スラブの基準配筋

- (a) 片持スラブの基準配筋 (C形) は、図5.4及び図5.5により、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。



- (注) 先端の折曲げ長さは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

図5.4 片持スラブの配筋 (ℓ > 600の場合)



- (注) 先端の折曲げ長さは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

図5.5 片持スラブの配筋 (ℓ ≤ 600の場合)

| | | | |
|------|--|-------|--------------------|
| 工事名称 | 大富団地建替工事 (建築) | 工事年度 | 令和7年度 |
| 工事場所 | 八重山郡竹富町宇南風見仲地内 | 図面名称 | 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(3) |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | NOSCALE |
| 備考 | | 図面番号 | S-04 |
| 設計者 | 有限会社 長嶺総合設計 長嶺 安一 | 名称 | 衛朝吹設計事務所 |
| 検印 | 一級建築士事務所 知事登録 第128-2236号 一級建築士 第141385号 構造設計一級建築士 第9036号 | 資格者氏名 | 代表者 衛朝吹 一部 |
| | | 登録番号 | 一級建築士 第114962号 |
| | | 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 |

2LDK棟

鉄筋コンクリート構造配筋標準図(4)

5.4 片持スラブの先端に壁が付く場合の配筋 ※S-07(10)参照

5.5 スラブの開口部の補強

- (a) スラブ開口部の補強は構造図による。
 (1) スラブ開口の最大径が700mm以下の場合、図5.7により、開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13($\phi=2L_1$)シングルを上下筋の内側に配筋する。
 (2) スラブの開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

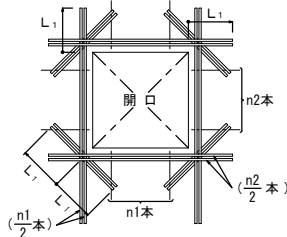


図5.7 スラブ開口部の補強配筋

5.6 出隅部及び入隅部の補強

- (a) 屋根スラブの出隅及び入隅部
 屋根スラブの出隅及び入隅部分には、図5.8により、補強筋を上端筋の下側に配置する。

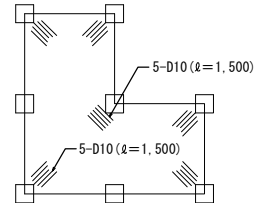


図5.8 出隅及び入隅部の補強配筋

(b) 片持スラブの出隅部

- (1) 補強の配筋は構造図により、配筋方法は、図5.9による。
 (2) 出隅受け部分(図5.9の斜線部分)の補強筋は構造図による。

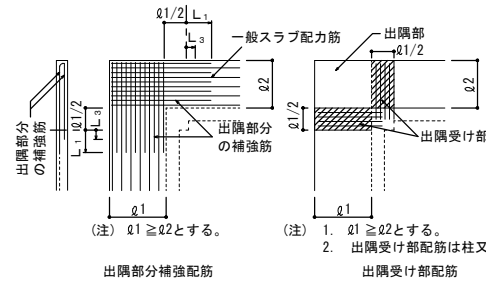


図5.9 片持スラブ出隅部の補強配筋

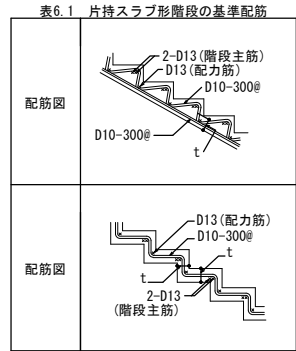
5.7 スラブの打継ぎ補強等 ※S-07(5)参照

5.8 段差のあるスラブの補強 ※S-07(8)参照

6節 階段の配筋

6.1 片持スラブ形階段の配筋

- (a) 片持スラブ形階段の基準配筋は、表6.1及び図6.1により、寸法及び配筋種別は、構造図による。



- (注) 1. 片持スラブ形階段を受ける壁配筋は、構造図による。
 2. 階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に下ろす。
 3. スラブ配筋の継手及び定着の長さは、<S-02、表4のL₃>とする。

図6.1 片持スラブ形階段配筋の定着

6.2 二辺固定スラブ形階段の基準配筋

- (a) 二辺固定スラブ形階段の基準配筋は、図6.2及び図6.3により、寸法及び配筋種別は構造図による。

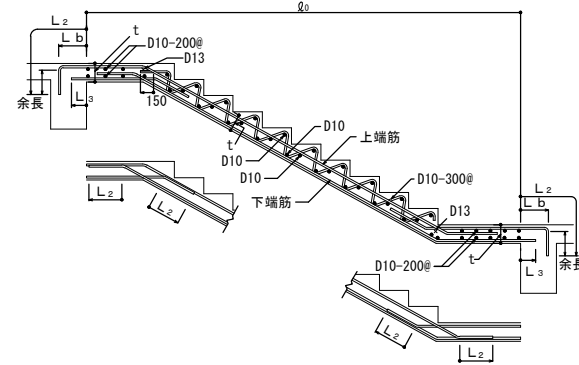


図6.2 二辺固定スラブ形階段配筋(その1)

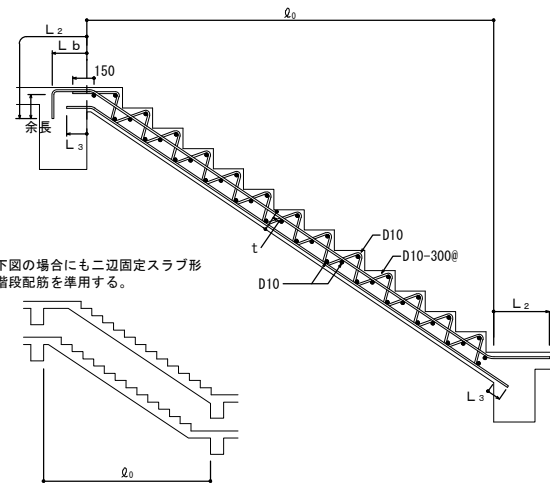


図6.3 二辺固定スラブ形階段配筋(その2)

- (注) 下図の場合にも二辺固定スラブ形階段配筋を準用する。

7節 梁貫通孔及びその他の配筋

7.1 梁貫通孔の配筋

- 梁貫通孔補強筋の名称等は、図7.1による。
- 孔の径は、梁せいの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこの外接円とする。
- 孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端よりD/3 (Dは梁せい)の範囲には設けてはならない。
- 孔は、柱面から、原則として、1.5D以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。
- 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
- 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
- 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図7.2による。
- 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のもの(軽微な開口)で鉄筋を緩やかに曲げることにより開口部を避けて配筋できる場合において構造図に特記されたものは、補強を省略することができる。
- 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
- 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-13φのリング筋を取り付ける。なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
- 溶接金網の割付け始点は、横筋であれば筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。

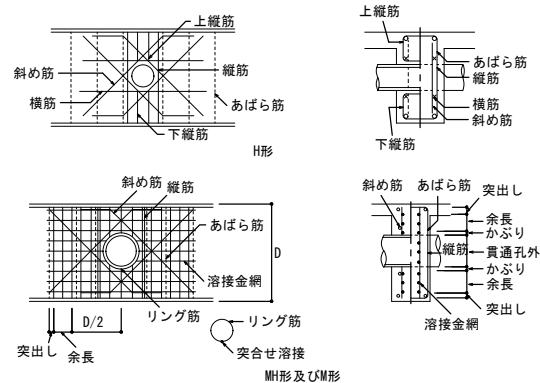


図7.1 梁貫通孔補強筋の名称等

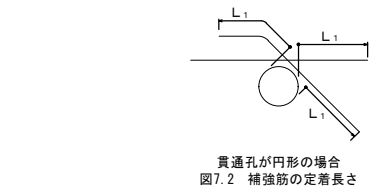


図7.2 補強筋の定着長さ

7.2 梁貫通孔の補強形式

基礎梁貫通孔の補強は、構造図参照とする。

- (a) 梁貫通孔の補強形式は表7.1により、配筋種別は構造図による。

表7.1 H形配筋

| 配筋種別 | 斜め筋 | 縦筋 | 横筋 | 上下縦筋 | 配筋図 |
|------|---------|---------|---------|---------|-----|
| H1 | なし | なし | なし | なし | |
| H2 | 2-2-D13 | 2-2-D13 | なし | なし | |
| H3 | 4-2-D13 | 2-2-D13 | 2-2-D13 | 2-2-D13 | |
| H4 | 4-2-D16 | 2-2-D13 | 2-2-D13 | 2-2-D13 | |
| H5 | 4-2-D16 | 4-2-D13 | 2-2-D13 | 3-2-D13 | |
| H6 | 4-2-D19 | 4-2-D13 | 2-2-D13 | 3-2-D13 | |
| H7 | 4-2-D22 | 4-2-D13 | 2-2-D13 | 3-2-D13 | |

- (注) は、一般部分のあばら筋を示す。

7.3 コンクリートブロック帳壁との取合い

- (a) 控壁の配筋

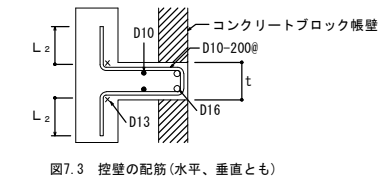


図7.3 控壁の配筋(水平、垂直とも)

- (b) 帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強

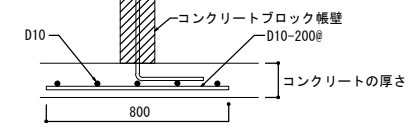


図7.4 壁付き土間コンクリートの補強配筋

| | | | |
|------|---|-------------------|--|
| 工事名称 | 大富団地建替工事(建築) | 工事年度 | 令和7年度 |
| 工事場所 | 八重山郡竹富町字南風見仲地内 | 図面名称 | 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(4) |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | NOSCALE |
| 摘要 | | 図面番号 | S-05 |
| 検印 | 有限会社 長嶺総合設計 長嶺 安一 一級建築士事務所 知事登録 第128-2236号 一級建築士 第141385号 構造設計一級建築士 第9036号 | 管理建築士 設計 製図 検印 | 名称 衛朝吹設計事務所 資格者氏名 代表者 朝吹 一郎 登録番号 一級建築士 第114962号 所在地 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 |

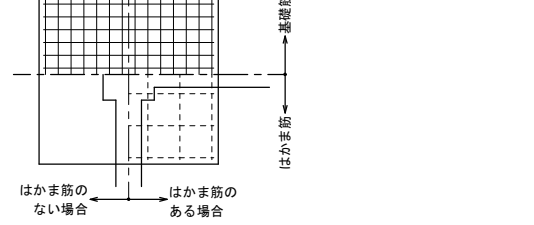
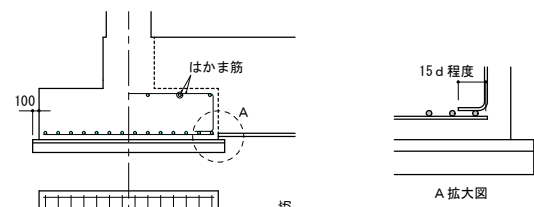
2LDK棟

雑配筋標準図(1)

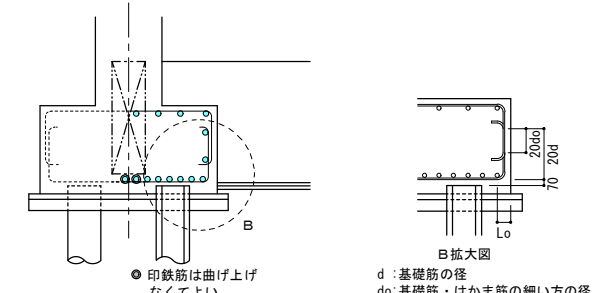
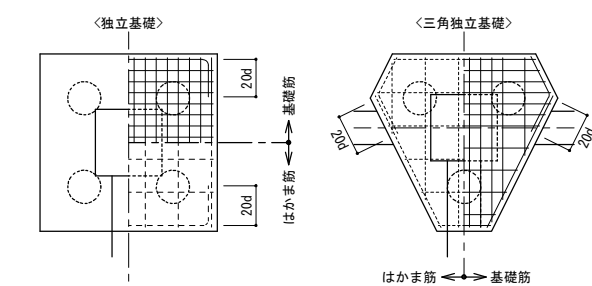
1. 基礎配筋

(a) 独立基礎

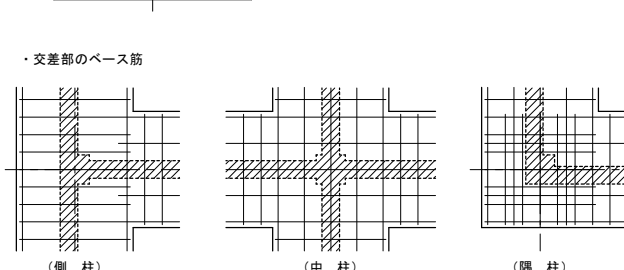
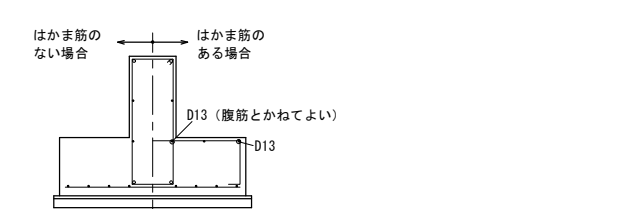
① 直接基礎



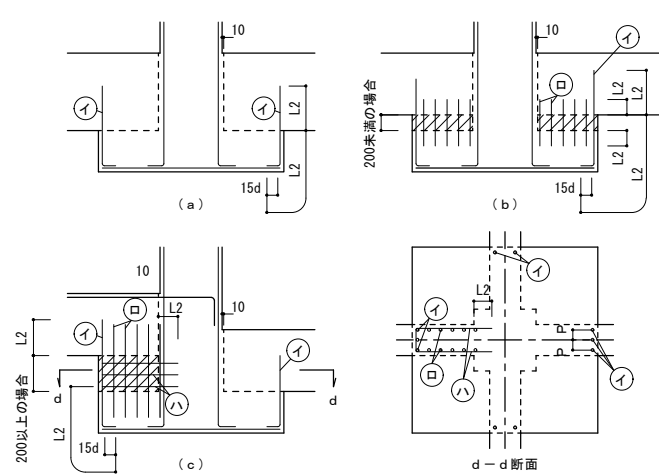
② 杭基礎



(b) 連続基礎



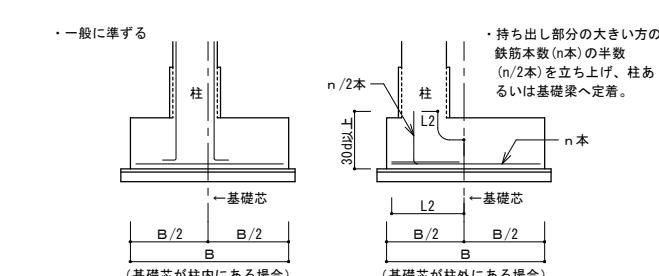
1. 2. 基礎と基礎梁の接合



部は基礎梁幅と同厚コンクリートの打ち増し部分
補強筋：基礎と基礎梁を一体とするために補強する。その詳細は設計図書に特記する。
(a)では鉄筋は一般に基礎梁の幅に応じて2-4-D16とする。
(b)では鉄筋は一般に基礎梁の幅に応じて2-4-D16とする。
(c)では鉄筋は基礎梁のあばら筋と同径・同間隔に配筋する。特記なき下表による。

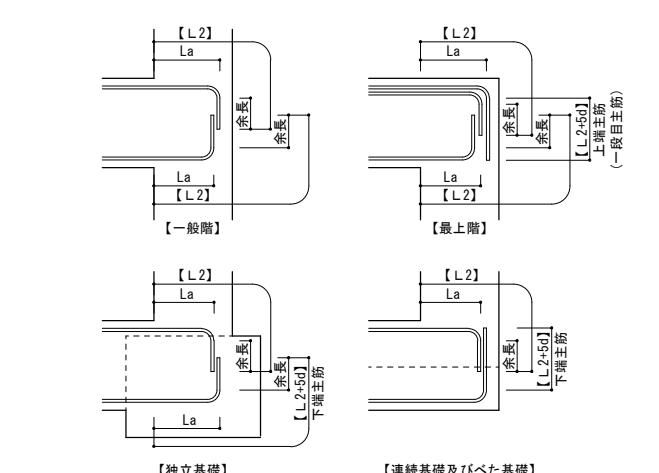
| 梁幅 | b ≤ 300 | 300 < b ≤ 400 | b > 400 |
|------|---------------------|---------------|----------------|
| ① 配筋 | 2-D16 | 3-D16 | D16, P ≤ 150mm |
| ② 配筋 | 基礎梁のあばら筋と同径・同間隔とする。 | | |
| ③ 配筋 | D13@200 | | |

1. 3. 偏心基礎



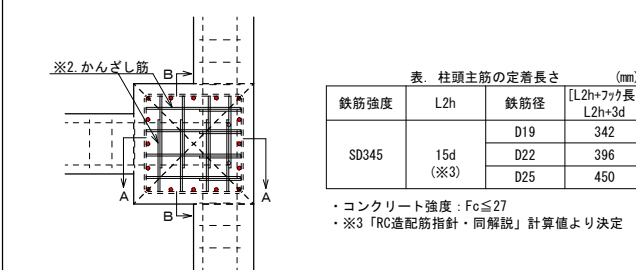
2. 梁主筋の柱内折曲げ定着長さ

1) 特記なき梁主筋の柱内折曲げ定着長さは、【L2】以上とする。
2) 仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さLaは、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

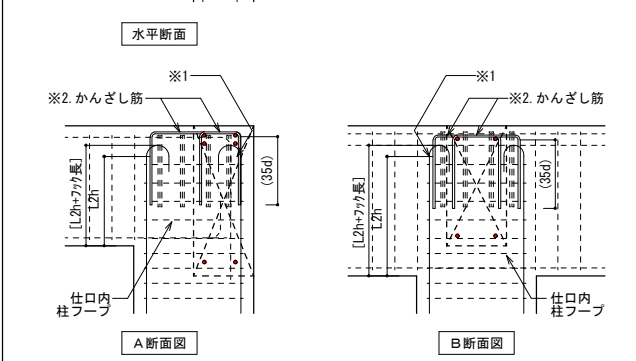


3. 1. 柱頭(最上階)の配筋

(a) 柱頭部主筋を直線定着とした場合の納まり
(1) 一般納まり

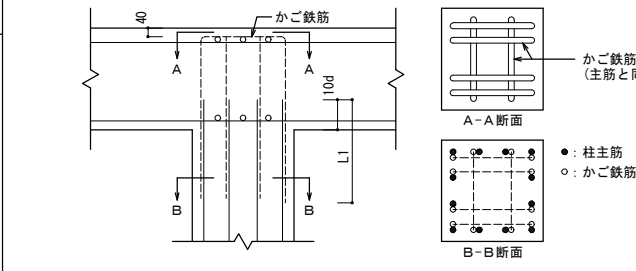


| 鉄筋強度 | L2h | 鉄筋径 | 【L2h+7*長さ】 【L2h+3d】 |
|-------|----------|-----|------------------------|
| SD345 | 15d (※3) | D19 | 342 |
| | | D22 | 396 |
| | | D25 | 450 |

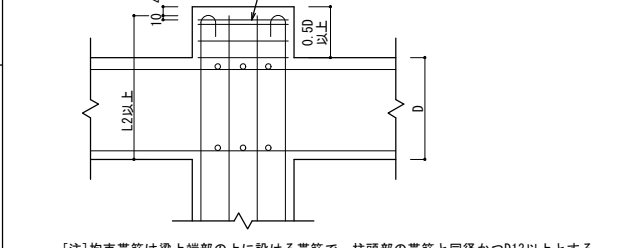


※1. 柱頭主筋は全数フック付きで定着長さ(L2h)を確保し、梁上端筋の下側まで延長すること。
※2. かんざし筋は、あばら筋と同径@200以下とする。

(b) 柱頭部主筋の定着長が不足した場合の納まり
(1) 柱頭補強かご筋による納まり

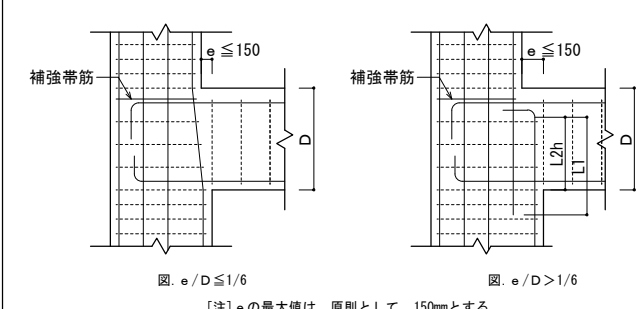


(2) 柱を突出させた場合の納まり



【注】拘束帯筋は梁上端部の上に設ける帯筋で、柱頭部の帯筋と同径かつD13以上とする。

3. 2. 接合部(一般階)の配筋

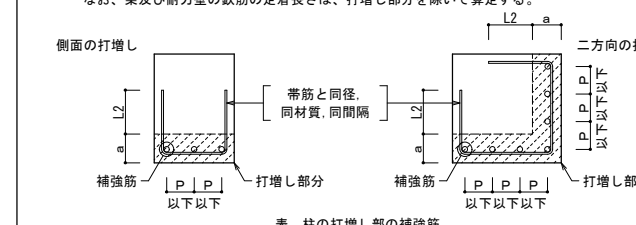


【注】eの最大値は、原則として、150mmとする。

4. 柱梁の打ち増し補強

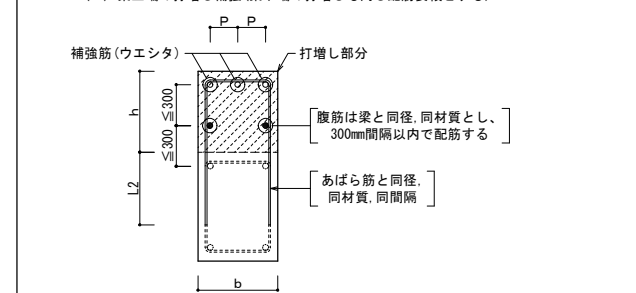
・打ち増し寸法が(70mm)未満の場合、補強は不要とする。

(a) 柱の打ち増し補強は、下図、下表による。下表を超える打ち増しの場合は、特記による。なお、梁及び耐力壁の鉄筋の定着長さは、打ち増し部分を除いて算定する。

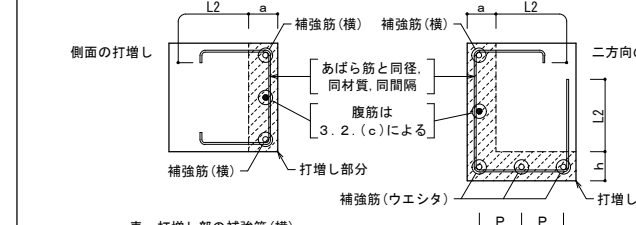


| 打ち増し幅 a | 補強筋 |
|-------------------|----------------|
| 70mm ≤ a ≤ 200mm | P ≤ 250mm -D16 |
| 200mm < a ≤ 300mm | P ≤ 200mm -D※ |

※は、柱主筋の1サイズ下の径とする。
(b) 梁の打ち増し補強は、下図、下表による。下表を超える打ち増しの場合は、特記による。なお、小梁、耐力壁及びスラブの鉄筋の定着長さは、打ち増し部分を除いて算定する。
(1) 梁上端の打ち増し補強(梁下端の打ち増しと同じ配筋要領とする)



(2) 梁側面、二方向の打ち増し補強

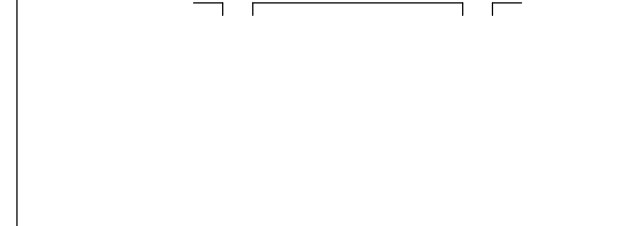
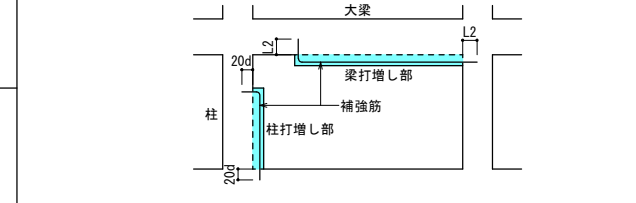


| 打ち増し幅 a | 補強筋(横) |
|-------------------|-------------|
| 70mm ≤ a ≤ 200mm | 1-D16(ウエシタ) |
| 200mm < a ≤ 300mm | 2-D※(ウエシタ) |

※は、梁主筋の1サイズ下の径とする。

| 打ち増し高 h | 補強筋(ウエシタ) | | |
|-------------------|-----------|---------------|---------------|
| | b ≤ 300 | 300 < b ≤ 400 | b > 400 |
| 70mm ≤ h ≤ 200mm | 2-D16 | 3-D16 | P ≤ 150mm -D※ |
| 200mm < h ≤ 300mm | 2-D※ | 3-D※ | |

(c) 打ち増し部補強筋の定着長さ



【注】eの最大値は、原則として、150mmとする。

2LDK棟

有限会社 長嶺総合設計 長嶺 安一
一級建築士事務所 知事登録 第 128-2236号
一級建築士 第 141385号
構造設計一級建築士 第 9036号

| | | | |
|------|----------------|-------|-----------------|
| 工事名称 | 大富団地建替工事(建築) | 工事年度 | 令和7年度 |
| 工事場所 | 八重山郡竹富町宇南風見仲地内 | 図面名称 | 雑配筋標準図(1) |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | NOSCALE |
| 備考 | | 図面番号 | S-06 |
| 検印 | 管理建築士 設計 製図 | 名称 | 衛朝吹設計事務所 |
| | | 資格者氏名 | 代表者 衛朝吹 一部 |
| | | 登録番号 | 一級建築士 第114962号 |
| | | 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 |

雑配筋標準図(2)

5. 土間の打継ぎ補強等

・土間は、地盤上に打設される床とし、ピット等上部にあるスラブと基礎梁接合部は、梁打増し補強とする。(雑配筋標準図(1)参照)
 ・土間スラブは、構造スラブとする。(S表記)
 ・土間コンクリートは、地盤に支持されるRC床とする。(FS表記)

a) 土間スラブの打継ぎ補強

基礎梁とスラブを一体打ちとして、打継ぎを設ける場合の補強は、図9.10による。ただし、土間スラブとは、土に接するスラブでS形の配筋によるものをいう。

S表記

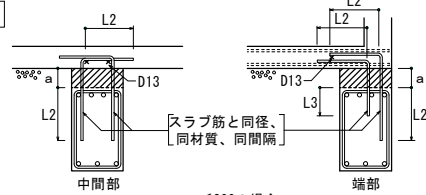


図9.10 打継ぎ補強配筋

b) 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

土間コンクリートの補強筋は、構造図による。なお、基礎梁との接合部は図9.11による。

FS表記

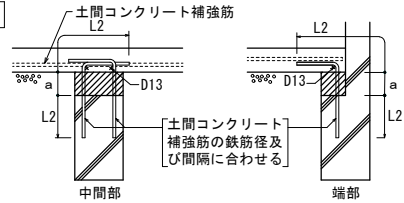


図9.11 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

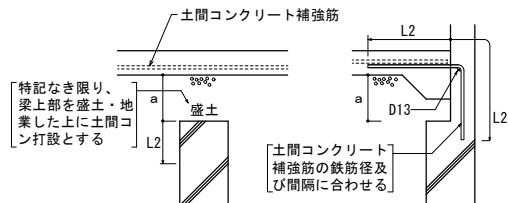
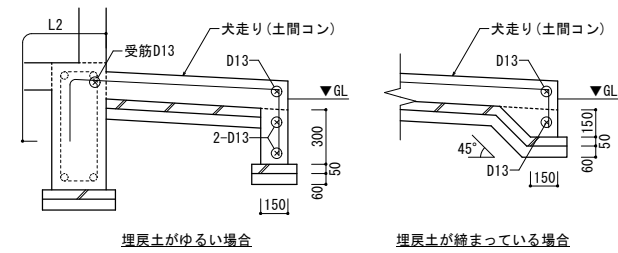


図9.12 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

6. 犬走り等スラブ配筋

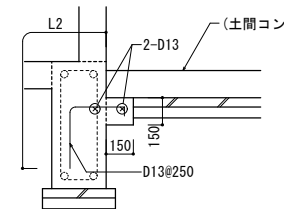
a) 犬走り ※土間コン配筋は、構造図による。



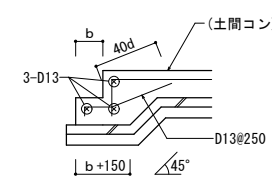
埋戻土がゆるい場合

埋戻土が締まっている場合

b) 土間スラブ受け



c) スラブ立下り



7. 土間補強

a) 土間コンクリートとRC壁との取り合い
 1) RC及びCB壁と土間コンクリートの取り合いは、下図による。
 2) 壁厚が150mmを超える場合、特記による。

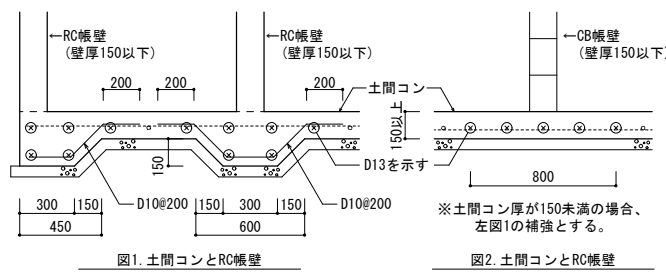


図1. 土間コンとRC壁

図2. 土間コンとRC壁

b) 釜場ピット土間配筋図

1) 釜場下のスラブ厚は、土間コンまたは土間スラブと同厚とする。

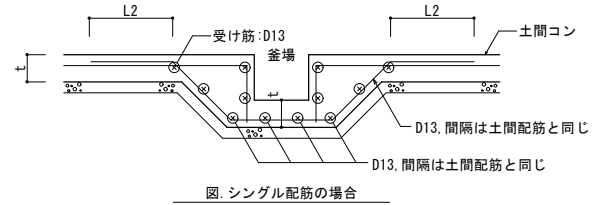


図. シングル配筋の場合

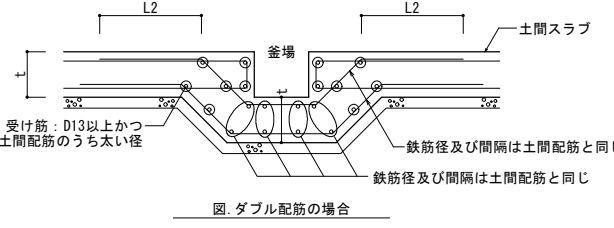
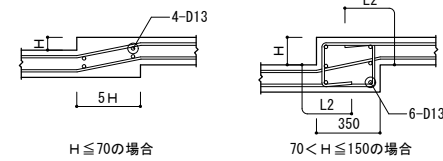


図. ダブル配筋の場合

8. 段差のあるスラブ・小梁補強

a) 段差のあるスラブの補強配筋



H ≤ 70の場合

70 < H ≤ 150の場合

b) スラブフカシ配筋

1) フカシ形状は構造図による。
 2) 特記なきフカシ幅Bは、5H以上とする。

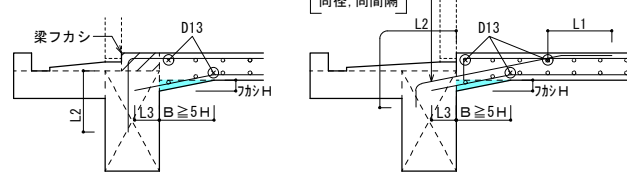
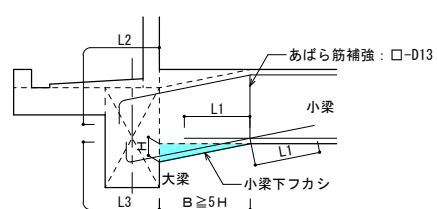


図. 梁にスラブ上筋が定着できる場合

図. 梁にスラブ上筋が定着できない場合

c) 段差のある小梁配筋

1) フカシ形状は構造図による。
 2) 特記なきフカシ幅Bは、5H以上とする。

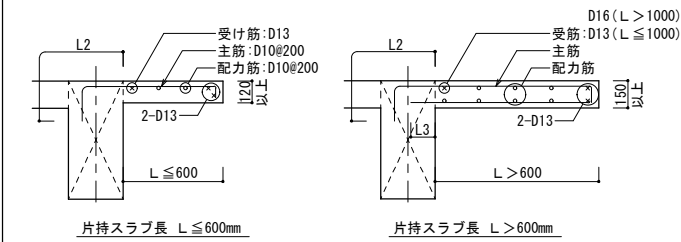


あばら筋補強: □-D13

9. 片持ちスラブ配筋

a) 片持ちスラブ配筋

1) 特記なき片持ちスラブの基準断面および配筋は、下図による。
 2) 片持ちスラブの出が600mmを超える場合、断面および配筋は構造図による。
 3) 先端の折り曲げ長さは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。
 4) スラブに段差がない場合、主筋を引き通してスラブに定着してよい。



片持ちスラブ長 L ≤ 600mm

片持ちスラブ長 L > 600mm

b) 片持ちスラブ出隅部補強

1) 出隅部手すり等にスリットを設けた場合のスラブ補強筋図は、下図による。
 ※1. 補強筋は短辺スラブ上端筋の間に配筋する。
 ※2. 手すり等のスリットの有無は、構造図による。

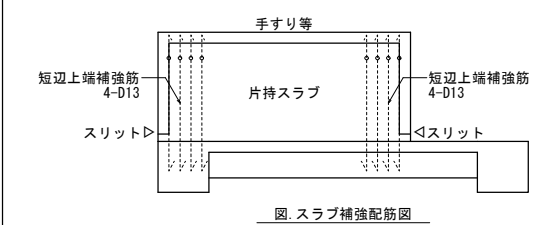


図. スラブ補強筋図

2) 出隅部手すり・パラベット等にスリットを設けない場合の配筋図は、下図による。

※1. 手すり・パラベットの横筋定着長は、壁筋と同じとする。

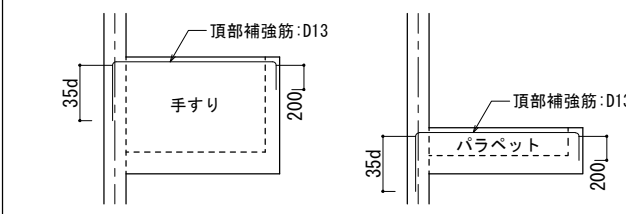
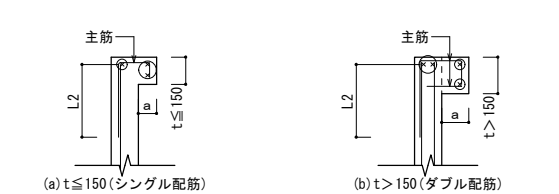


図. 頂部補強筋の定着長

10. 手すり・パラベット等配筋

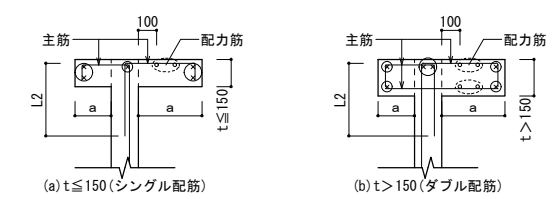
a) パラベット・出窓等返しスラブ配筋



(a) t ≤ 150 (シングル配筋)

(b) t > 150 (ダブル配筋)

図. 片側返しスラブ



(a) t ≤ 150 (シングル配筋)

(b) t > 150 (ダブル配筋)

図. 両側返しスラブ

表. 返しスラブ配筋

| a | 主筋 | 配力筋 |
|-------------------|---------|---------|
| a ≤ 0.25m | D10@150 | - |
| 0.25m < a ≤ 0.60m | D10@150 | D10@200 |

※ ⊙: 補強筋D13を示す。

b) テスリ・パラベット等立上り壁配筋

1) 手すり・パラベット等の配筋図は、下図による。
 2) 手すり・パラベット高が1.5mを超える場合は、特記による。

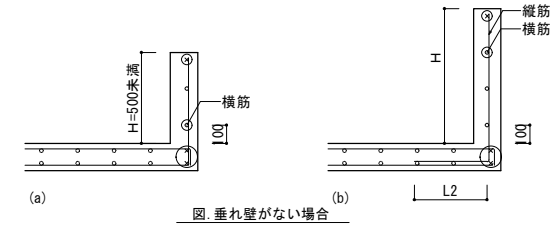


図. 垂れ壁がない場合

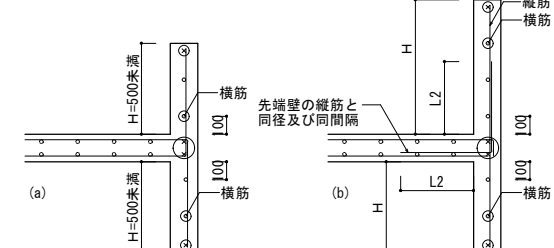


図. 垂れ壁がある場合

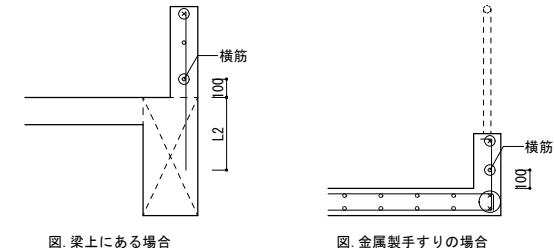


図. 梁上にある場合

図. 金属製手すりの場合

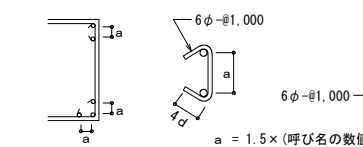
表. 先端壁配筋

| H | 縦筋 | 横筋 |
|-----------------|-----------|---------|
| H ≤ 1.2m | D10@150 | D10@150 |
| 1.2m < H ≤ 1.5m | D1013@150 | D10@150 |

※ ⊙: 補強筋D13を示す。

11. 柱梁配筋(柱寄せ筋、ハンチ梁、梁主筋位置)

a) 柱寄せ筋(二段筋)の保持

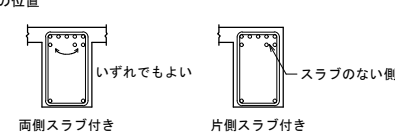


a = 1.5 × (呼び名の数値)

b) ハンチ梁のハンチ起点のあばら筋補強

| 主筋径 | ハンチ勾配(1/n) | | | | |
|-----|------------|-------|-------|-------|-------|
| | 1/3 | 1/3.5 | 1/4 | 1/4.5 | 1/5 |
| D19 | ①-D13 | ①-D13 | ①-D13 | ①-D13 | ①-D13 |
| D22 | ②-D13 | ②-D13 | ②-D13 | ②-D13 | ②-D13 |
| D25 | ③-D13 | ③-D13 | ③-D13 | ③-D13 | ③-D13 |
| D29 | ④-D13 | ④-D13 | ④-D13 | ④-D13 | ④-D13 |
| D32 | ⑤-D13 | ⑤-D13 | ⑤-D13 | ⑤-D13 | ⑤-D13 |

c) 梁主筋の位置



いずれでもよい

スラブのない側

両側スラブ付き

片側スラブ付き

2LDK棟

有限会社 長嶺総合設計 長嶺 安一
 一級建築士事務所 知事登録 第 128-2236号
 一級建築士 第 141385号
 構造設計一級建築士 第 9036号

| | | | |
|------|----------------|-------|-----------------|
| 工事名称 | 大富団地建替工事(建築) | 工事年度 | 令和7年度 |
| 工事場所 | 八重山郡竹富町宇南風見仲地内 | 図面名称 | 雑配筋標準図(2) |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | NOSCALE |
| 摘要 | | 図面番号 | S-07 |
| 検印 | | 名称 | 衛朝吹設計事務所 |
| | | 資格者氏名 | 代表者 朝吹 一郎 |
| | | 登録番号 | 一級建築士 第114962号 |
| | | 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 |

雑配筋標準図(3)

1 2. 機械基礎およびハト小屋等配筋

- 1) 機台基礎およびハト小屋等配筋図は、図4.1~図4.4による。
- 2) 各部材断面が図4.1~図4.4より大きくなる場合は、特記による。

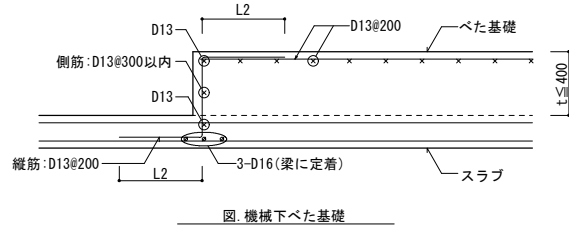


図. 機械下ベタ基礎

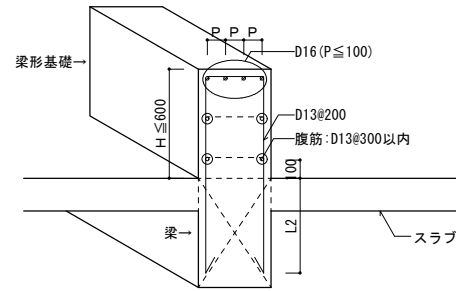


図. 機械下梁形基礎

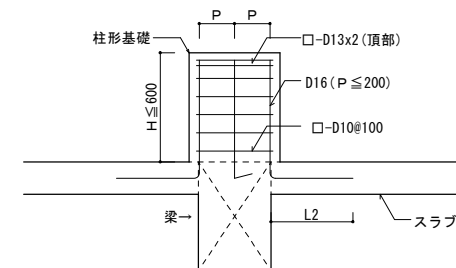
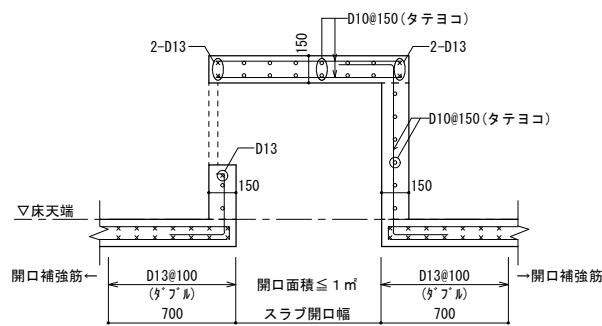


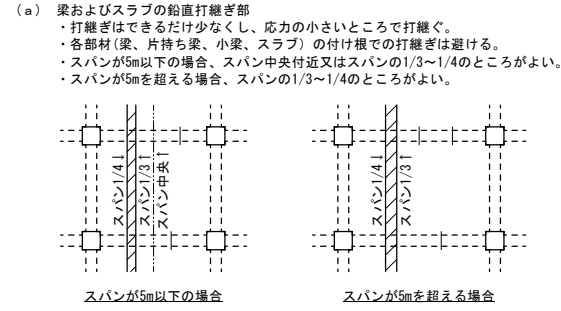
図. 機械下柱形基礎



- ※スラブの開口補強筋要領は、S-04参照とする。
- ※開口周囲は上図より鉄筋で補強し、隅角部に斜め方向に2-D13シングルを上下筋の内側に配筋する。

図. ハト小屋・トップライト等配筋図 (断面図)

1 3. コンクリート打継ぎ位置



- 梁およびスラブの鉛直打継ぎ部
 - ・打継ぎはできるだけ少なくし、応力の小さいところで打継ぐ。
 - ・各部材(梁、片持ち梁、小梁、スラブ)の付け根での打継ぎは避ける。
 - ・スパンが5m以下の場合、スパン中央付近又はスパンの1/3~1/4のところがよい。
 - ・スパンが5mを超える場合、スパンの1/3~1/4のところがよい。

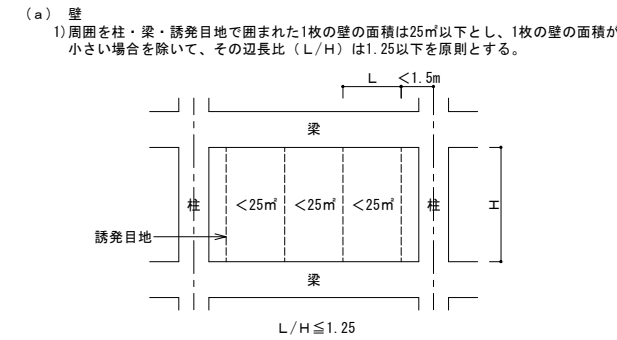
1 4. 地業の標準

| 構造部位 | 表 地業の標準 | | | | 備考 |
|---------------|---------|-------------|-----|-------|----|
| | 地盤・地業 | 地盤 | 地業 | 捨コン | |
| 直接基礎床版下 | 土質 | N値 | 種別 | 厚(mm) | |
| | 岩盤 | N \geq 10 | 地はだ | 100 | |
| | 土丹 | N $<$ 10 | 砂利 | 100 | |
| | 砂礫砂 | N \geq 10 | 砂利 | 60 | ※1 |
| 杭基礎床版下 | シルト | N $<$ 2 | 砂利 | 150 | |
| | 粘土 | N \geq 2 | 砂利 | 60 | |
| 基礎梁下 | - | - | 砂利 | 60 | ※1 |
| 土間コンクリート下 | 砂礫 | - | 砂利 | - | |
| | 砂等 | - | 砂利 | - | ※2 |
| 土間床版下 (構造スラブ) | - | - | 砂利 | 60 | ※3 |
| 玄関ポーチ下等 | - | - | 砂利 | 60 | ※4 |

- ※1. 地盤の状態によっては砂利地業を取り止めてもよい。
- ※2. 地業の上にポリエチレンシート厚0.15を敷く。
- ※3. 配筋の程度に支障が無ければ捨てコンクリートを取り止めてもよい。
- ※4. 土間床版形式とする場合は、上記(土間床版下)による。

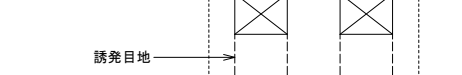
1 5. 誘発目地

コンクリートの主に乾燥収縮などによるひび割れについて、誘発目地の設置を推奨する。誘発目地の設置は、監督職員と協議のうえ決定することとする。



- 1) 周囲を柱・梁・誘発目地で囲まれた1枚の壁の面積は25㎡以下とし、1枚の壁の面積が小さい場合を除いて、その辺長比(L/H)は1.25以下を原則とする。

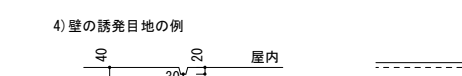
- 2) 開口部は下図のように開口端部に接するように目地を設ける。



- 3) 構造スリットと誘発目地

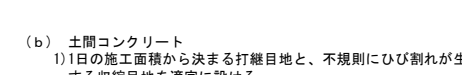


- 4) 壁の誘発目地の例



- 土間コンクリート

- 1) 1日の施工面積から決まる打継目地と、不規則にひび割れが生じないようにコントロールする収縮目地を適宜に設ける。

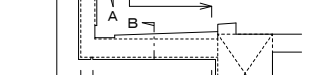


- 2) 土間コンクリートの誘発目地の例

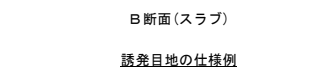
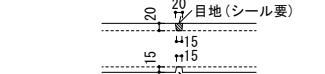
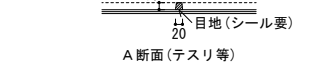
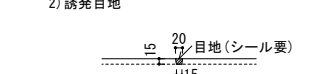


- バルコニー、外廊下、庇、パラベット等

- 1) 誘発目地の設け方

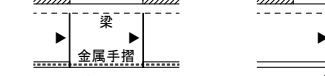


- 2) 誘発目地

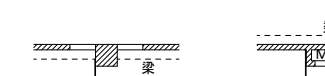


- 3) 誘発目地の設置位置

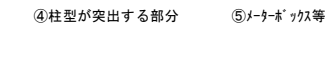
- 誘発目地(▼)の設置間隔は、3m以下とする。



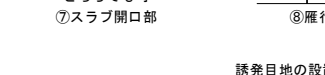
- ① RC手摺と金属手摺の境界部



- ② RC手摺スリット部



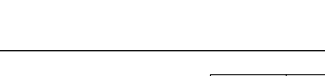
- ③ 床スラブ出が変化する境界部



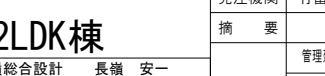
- ④ 柱型が突出する部分



- ⑤ マーキング等が突出する部分



- ⑥ 階段やE/V等を支える梁の際



- ⑦ スラブ開口部



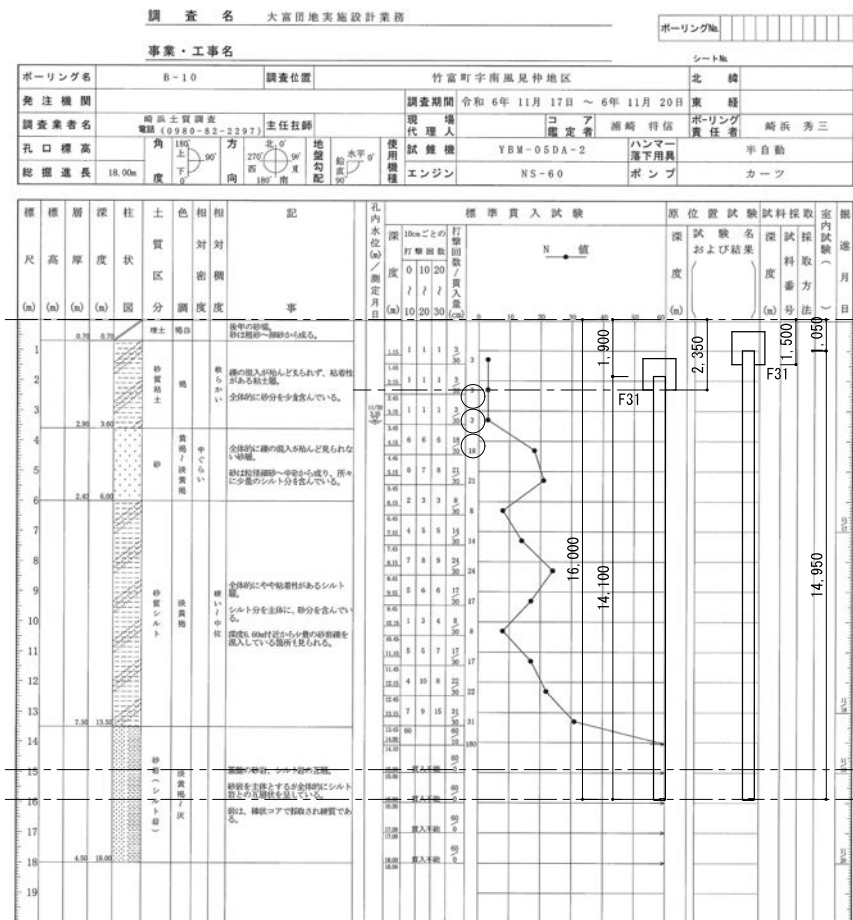
2LDK棟

有限会社 長嶺総合設計 長嶺 安一
一級建築士事務所 知事登録 第128-2236号
一級建築士 第141385号
構造設計一級建築士 第9036号

| | | | |
|------|----------------|-------|-----------------|
| 工事名称 | 大富団地建替工事(建築) | 工事年度 | 令和7年度 |
| 工事場所 | 八重山郡竹富町宇南風見仲地内 | 図面名称 | 雑配筋標準図(3) |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | NOSCALE |
| 摘要 | | 図面番号 | S-08 |
| 検印 | | 名称 | 衛朝吹設計事務所 |
| | | 資格者氏名 | 代表者 朝吹 一部 |
| | | 登録番号 | 一級建築士 第114962号 |
| | | 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 |

ボーリング柱状図

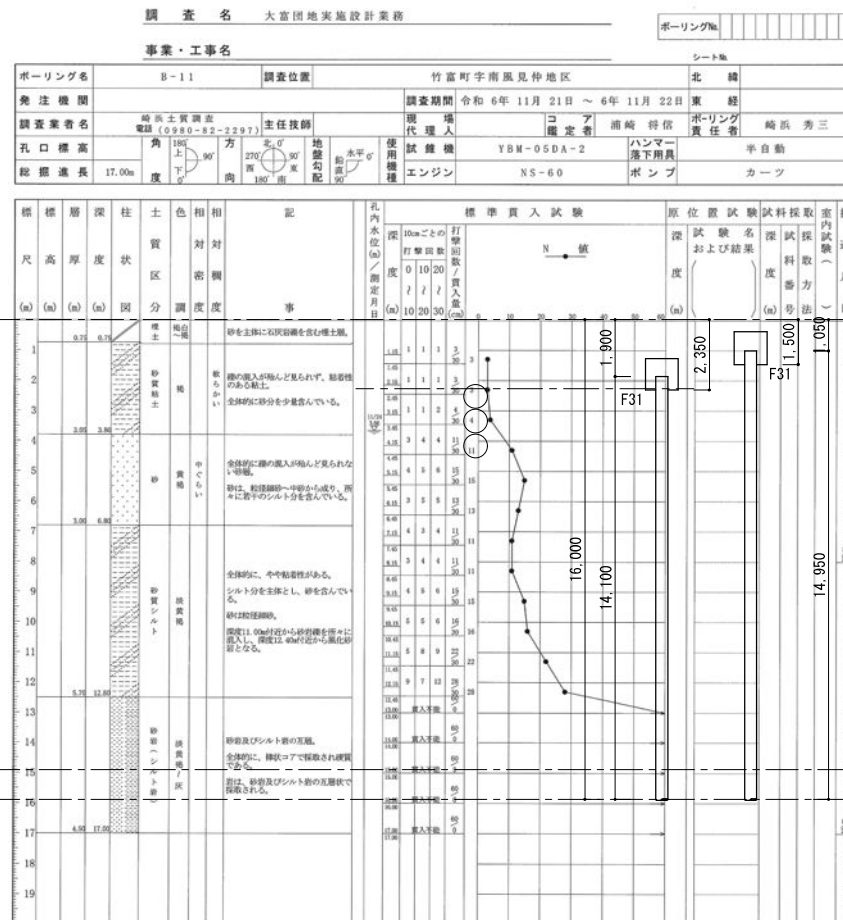
B-10



*基礎下3m程度、杭側面N値=2以上

ボーリング柱状図

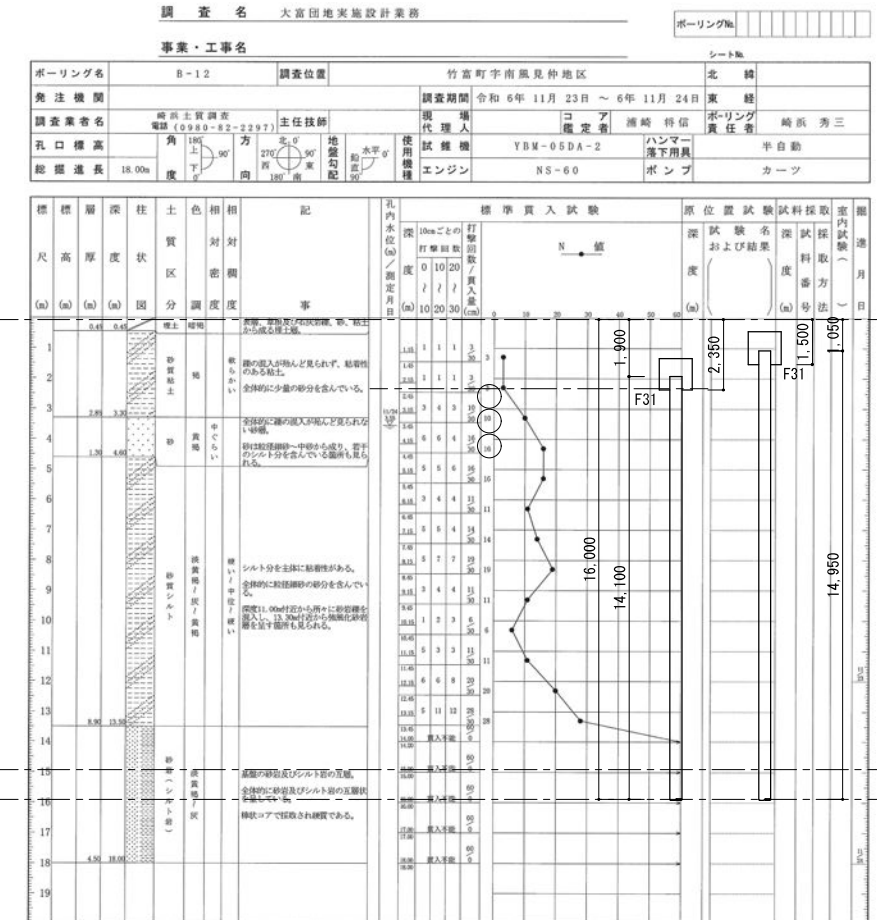
B-11



*基礎下3m程度、杭側面N値=2以上

ボーリング柱状図

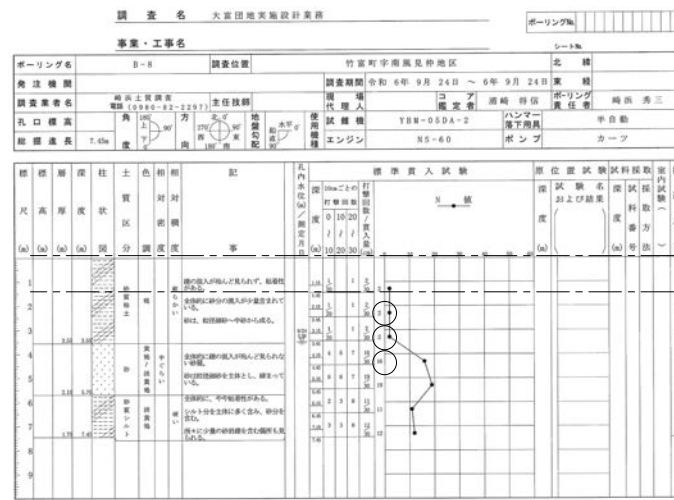
B-12



*基礎下3m程度、杭側面N値=2以上

B-8

ボーリング柱状図

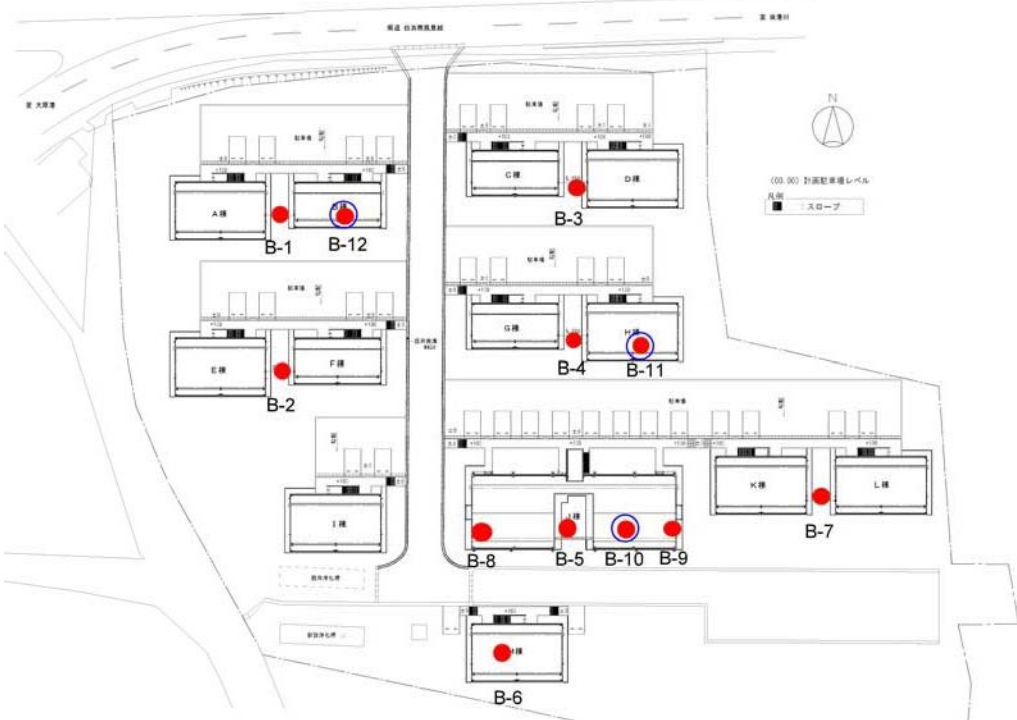


地盤設計用N値

| | |
|-------|---------------------|
| 杭側方N値 | N値 ≥ 2、粘土 |
| 支持層 | 杭先端N値 ≥ 50、砂岩（シルト岩） |

B-9

ボーリング柱状図



ボーリング調査位置図

2LDK棟

有限会社 長嶺総合設計 長嶺 安一
一級建築士事務所 知事登録 第 128-2236号
一級建築士 第 141385号
構造設計一級建築士 第 9036号

| | | | |
|-------|----------------|-------|-----------------|
| 工事名称 | 大富団地建替工事（建築） | 工事年度 | 令和 7 年度 |
| 工事場所 | 八重山郡竹富町宇南風見沖地内 | 図面名称 | 2LDK棟 地盤調査資料(1) |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | NOSCALE |
| 摘要 | | 図面番号 | S-09 |
| 管理建築士 | 設計 製 図 | 設 計 者 | 名称 (朝朝設計事務所) |
| 検 印 | | 資格者氏名 | 代表者 朝朝 一郎 |
| | | 登録番号 | 一級建築士 第 114962号 |
| | | 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 |

ボーリング柱状図

B-1



*基礎下3m程度、杭側面N値=2以上

ボーリング柱状図

B-2



*基礎下3m程度、杭側面N値=2以上

ボーリング柱状図

B-3



*基礎下3m程度、杭側面N値=2以上

ボーリング柱状図

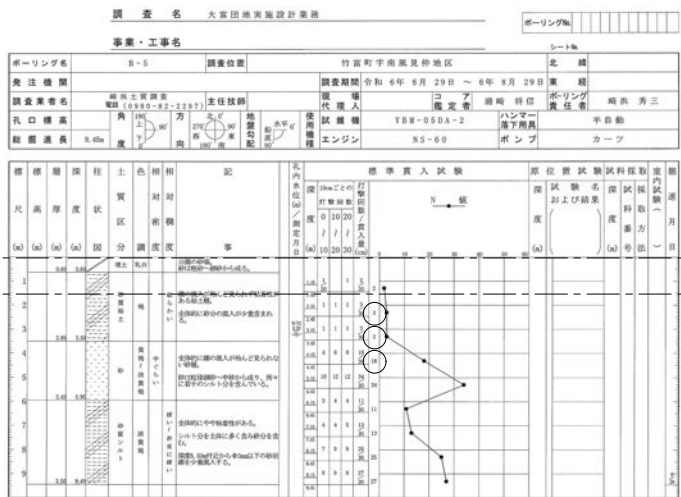
B-4



*基礎下3m程度、杭側面N値=2以上

ボーリング柱状図

B-5



*基礎下3m程度、杭側面N値=2以上

ボーリング柱状図

B-6



*基礎下3m程度、杭側面N値=2以上

ボーリング柱状図

B-7



*基礎下3m程度、杭側面N値=2以上

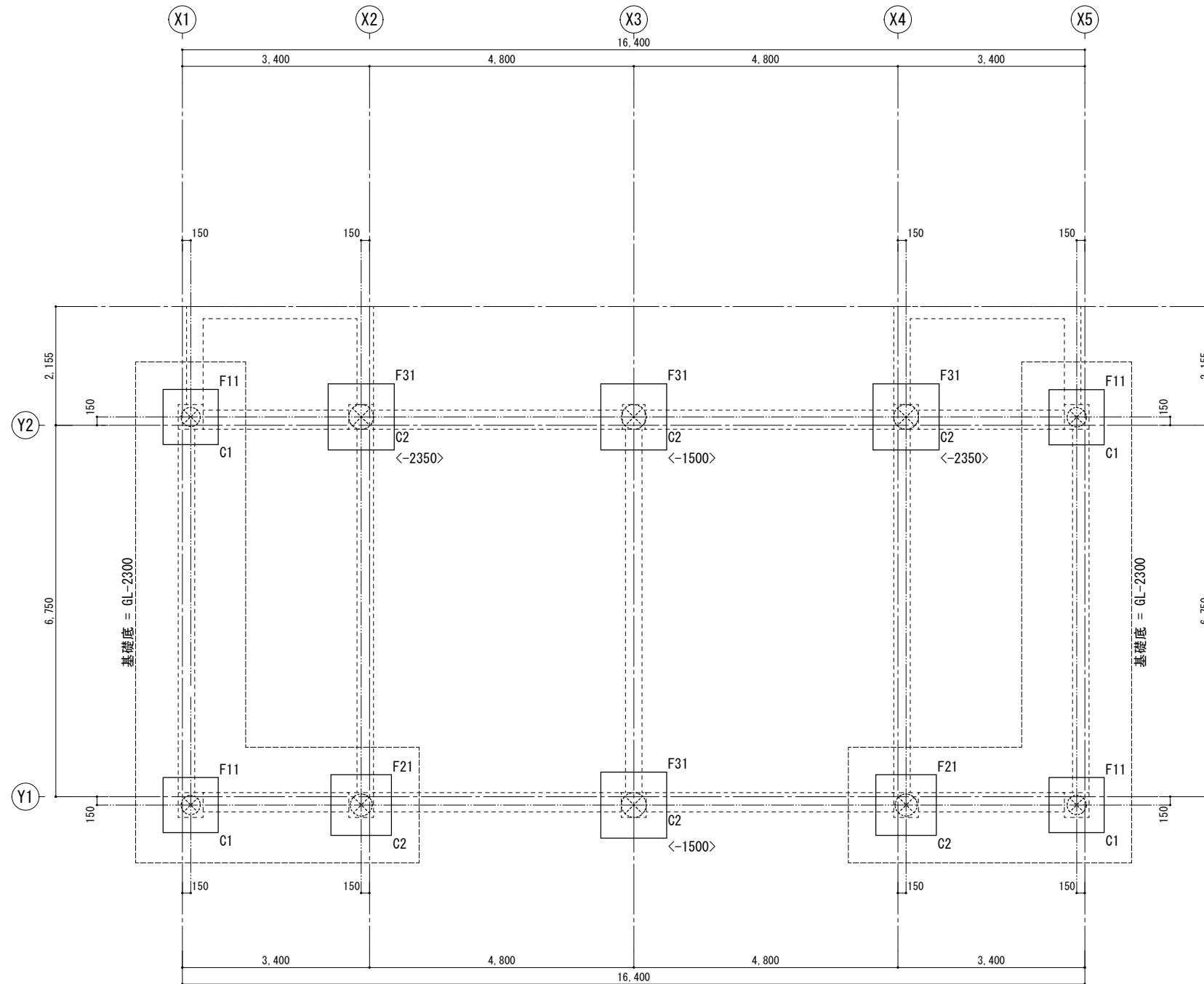
地盤設計用N値

| | |
|-------|---------------------------------------|
| 杭側方N値 | N値≥2、粘土 |
| 支持層 | 杭先端N値≥50、砂岩（シルト岩） ※支持層は、S-09参照とする。 |

2LDK棟

有限会社 長嶺総合設計 長嶺 安一
 一級建築士事務所 知事登録 第128-2236号
 一級建築士 第141385号
 構造設計一級建築士 第9036号

| | | | |
|-------|----------------|-------|-----------------|
| 工事名称 | 大富団地建替工事（建築） | 工事年度 | 令和7年度 |
| 工事場所 | 八重山郡竹富町字南風見仲地内 | 図面名称 | 2LDK棟 地盤調査資料(2) |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | NOSCALE |
| 摘要 | | 図面番号 | S-10 |
| 管理建築士 | 設計 製図 | 名称 | 朝吹設計事務所 |
| 検印 | | 資格者氏名 | 代表者 朝吹 一郎 |
| | | 登録番号 | 一級建築士 第114962号 |
| | | 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 |

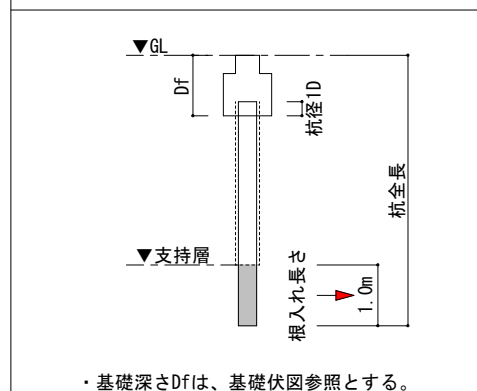


基礎伏図 S=1/50

杭基礎仕様

| | |
|------|---------------------|
| 工法 | アースオーガー併用打撃工法 |
| 支持層 | 杭先端N値=50以上、砂岩(シルト岩) |
| 材料 | PHC85杭 |
| 杭頭条件 | 杭頭固定、杭径1D埋込 |

杭施工要領図



2LDK棟 使用杭

Lqa: 杭の長期支持力

| 基礎符号 | 杭符号 | 杭径 φ (mm) | 杭全長 (m) | 杭の組合せ | | 本数 set | Lqa (kN/本) |
|------|-----|--------------|------------|-------|------------|-----------|---------------|
| | | | | 杭種 | 長さ | | |
| F11 | P35 | 350 | 16m | 上杭 | PHC85-C 8m | 4 | 480 |
| | | | | 下杭 | PHC85-A 8m | | |
| F21 | P40 | 400 | 16m | 上杭 | PHC85-B 8m | 2 | 620 |
| | | | | 下杭 | PHC85-A 8m | | |
| F31 | P45 | 450 | 16m | 上杭 | PHC85-B 8m | 4 | 790 |
| | | | | 下杭 | PHC85-A 8m | | |

特記事項 *特記なき下記による

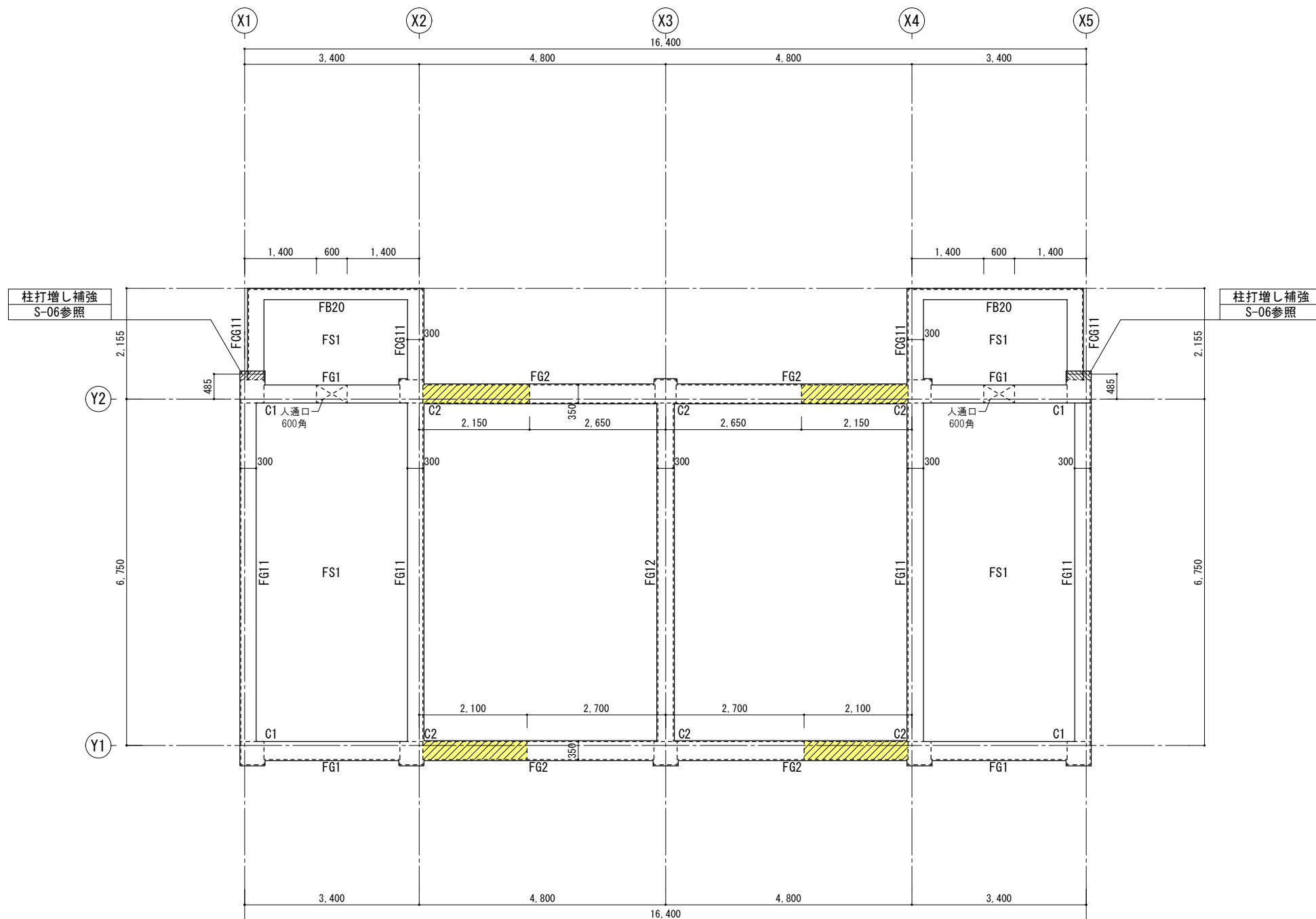
・支持層面が明確な場合、杭の埋入れ長さを支持層面から1m以上確保することで、先端N値を採用できるものとする。

共通事項 *特記なき下記による

・<>内数値 = GL~基礎底距離
 ・土に面する柱及び基礎梁は、[20mmフカシ]とする。


有限会社 長嶺総合設計 長嶺 安一
 一級建築士事務所 知事登録 第128-2236号
 一級建築士 第141385号
 構造設計一級建築士 第9036号

| | | | |
|------|-----------------|------------|------------|
| 工事名称 | 大富団地建替工事(建築) | 工事年度 | 令和7年度 |
| 工事場所 | 竹富町字南風見仲地内 | 図面名称 | 2LDK棟 基礎伏図 |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | S=1:50 |
| 摘要 | | 図面番号 | S-11 |
| 検印 | 管理建築士 | 設計 | 製図 |
| | 名称 | (株)朝吹設計事務所 | |
| | 資格者氏名 | 代表者 | 朝吹 一郎 |
| | 登録番号 | 一級建築士 | 第114962号 |
| 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 | | |



ピット伏図 S=1/50

凡例 *特記なき下記による

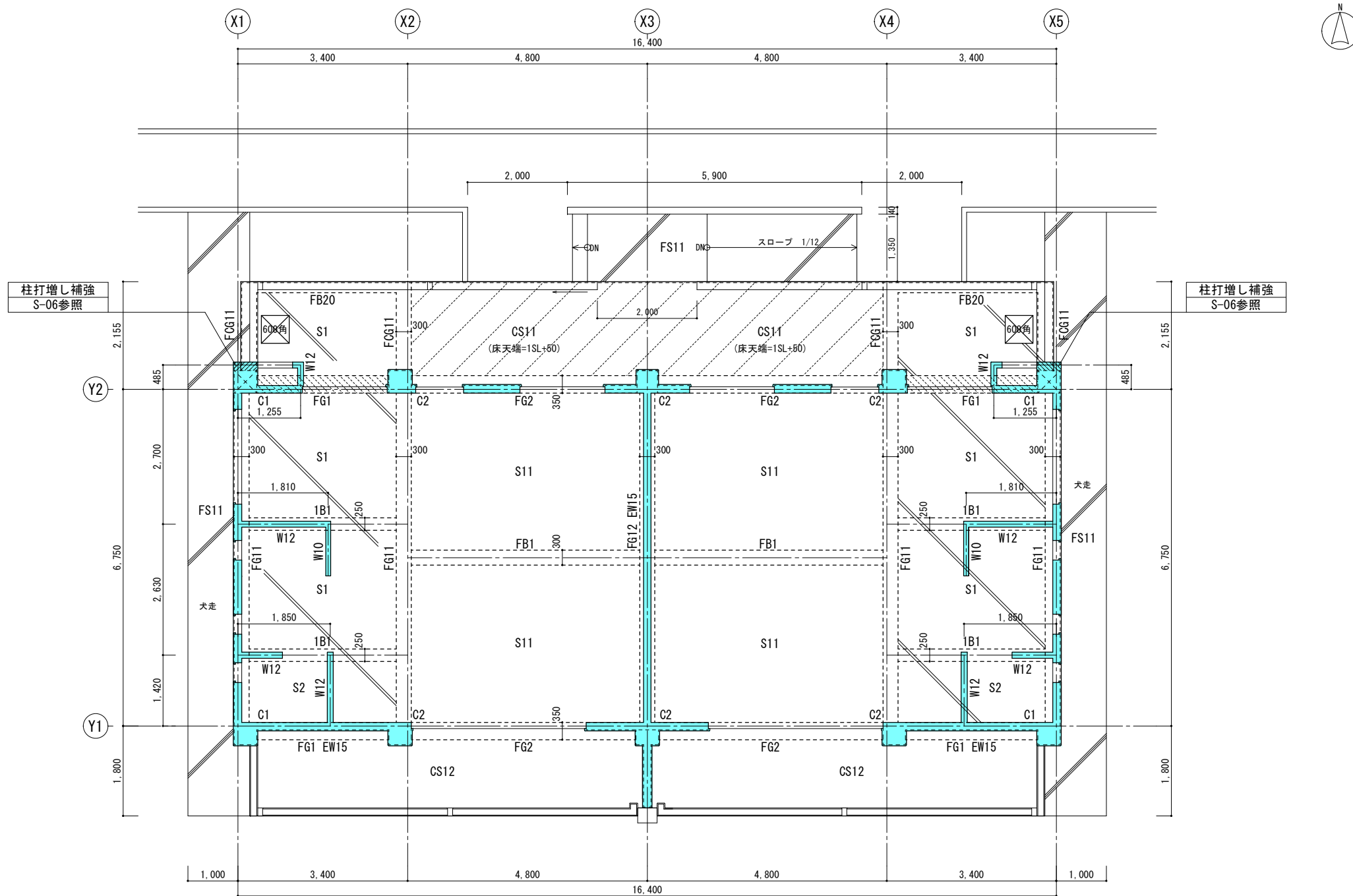
| | |
|---|---------------------------|
|  | 梁下打増しハンチ (h950) S-15参照 |
|---|---------------------------|

共通事項 *特記なき下記による

- ・土間下端 = 基礎梁下端
- ・基礎梁天端 = GL+100
- ・土に面する柱及び基礎梁は、[20mmフカシ]とする。
- ・仕上げフカシは、意匠図参照とする。

有限会社 長嶺総合設計 長嶺 安一
一級建築士事務所 知事登録 第 128-2236号
一級建築士 第 141385号
構造設計一級建築士 第 9036号

| | | | |
|------|-----------------|------------|-------------|
| 工事名称 | 大富団地建替工事 (建築) | 工事年度 | 令和 7 年度 |
| 工事場所 | 竹富町字南風見仲地内 | 図面名称 | 2LDK棟 ピット伏図 |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | S=1:50 |
| 摘要 | | 図面番号 | S-12 |
| 検印 | 管理建築士 | 設計 | 製図 |
| | 名称 | (有)朝吹設計事務所 | |
| | 資格者氏名 | 代表者 | 朝吹 一郎 |
| | 登録番号 | 一級建築士 | 第114962号 |
| 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 | | |



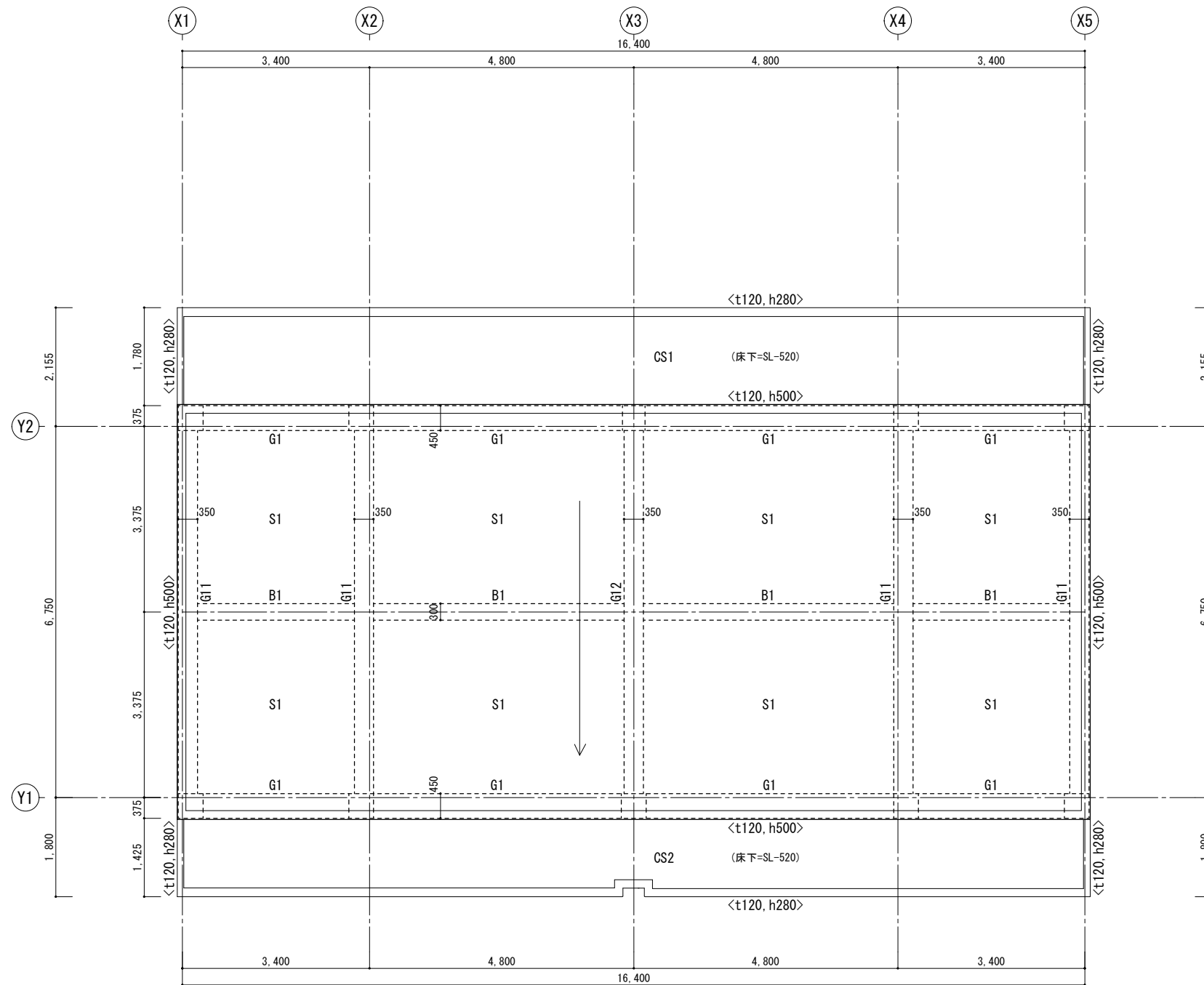
基礎梁伏図 S=1/50

- 凡例 *特記なき下記による
- RC柱壁
 - CS11床天端 = 1SL+50
 - ビット上床S1、S2
 - 周辺梁上打増し補強：S-06参照

- 共通事項 *特記なき下記による
- ・床天端 = 1SL = GL+250
 - ・基礎梁天端 = GL+100
 - ・土に面する柱及び基礎梁は、[20mmフカシ]とする。
 - ・仕上げフカシは、意匠図参照とする。
 - ・壁は、W15とする。
 - ・RCテスリは、t120(SL+h885)とする。

有限会社 長嶺総合設計 長嶺 安一
 一級建築士事務所 知事登録 第 128-2236号
 一級建築士 第 141385号
 構造設計一級建築士 第 9036号

| | | | |
|------|-----------------|------------|-------------|
| 工事名称 | 大富田地建替工事(建築) | 工事年度 | 令和7年度 |
| 工事場所 | 竹富町宇南風見仲地内 | 図面名称 | 2LDK棟 基礎梁伏図 |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | S=1:50 |
| 摘要 | | 図面番号 | S-13 |
| 検印 | 管理建築士 | 設計 | 製図 |
| | 名称 | (株)朝吹設計事務所 | |
| | 資格者氏名 | 代表者 | 朝吹 一郎 |
| | 登録番号 | 一級建築士 | 第114962号 |
| 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 | | |



R階梁伏図 S=1/50

凡例 *特記なき下記による

| | |
|-------|--------------|
| < > | RCパラペット厚t、高h |
| ----- | |
| ----- | |

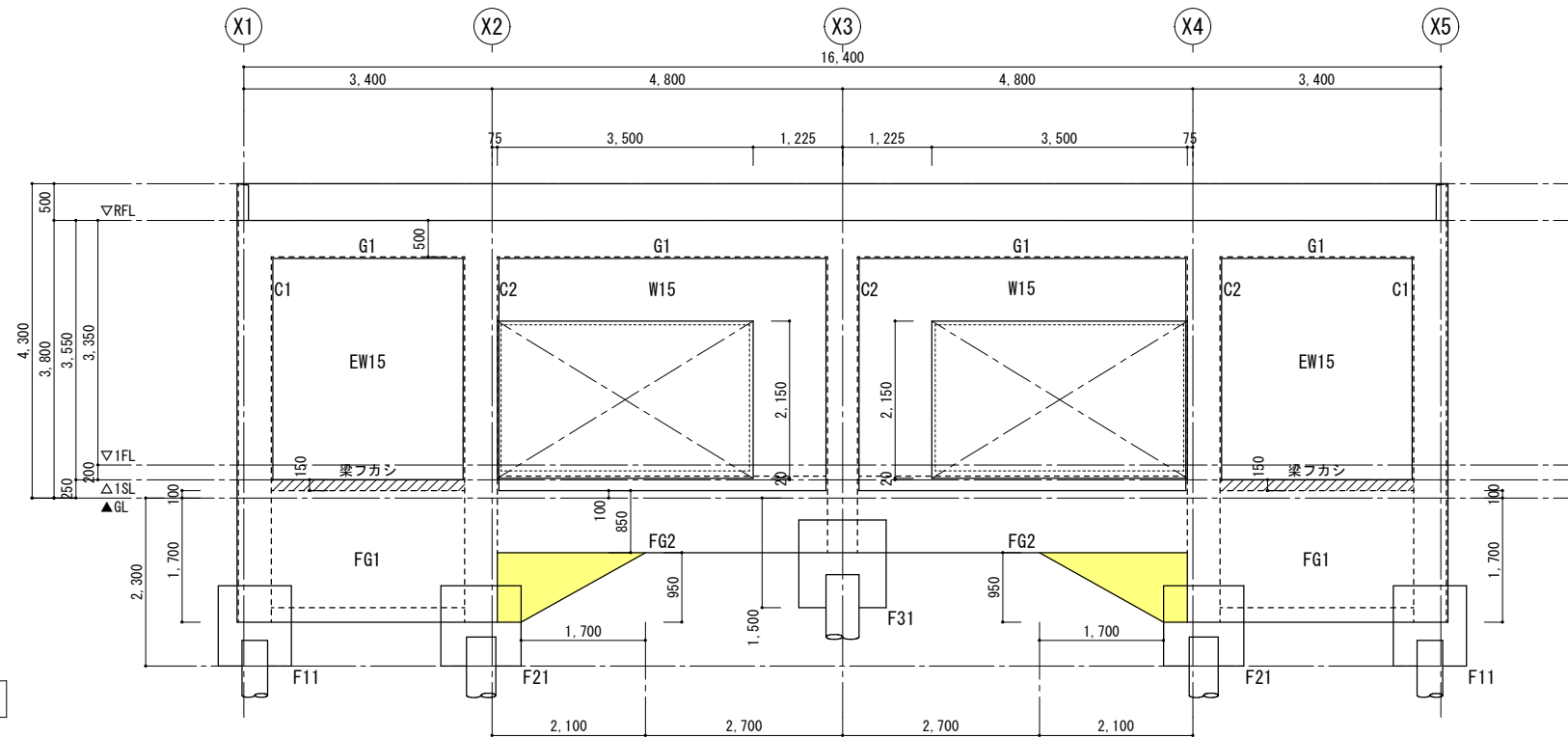
太陽光パネルRC架台

- ・RC架台は、本工事による。
- ・RC架台の位置及び寸法は、設備図面による。
- ・RC架台配筋は、[S-08.12]参照とする。

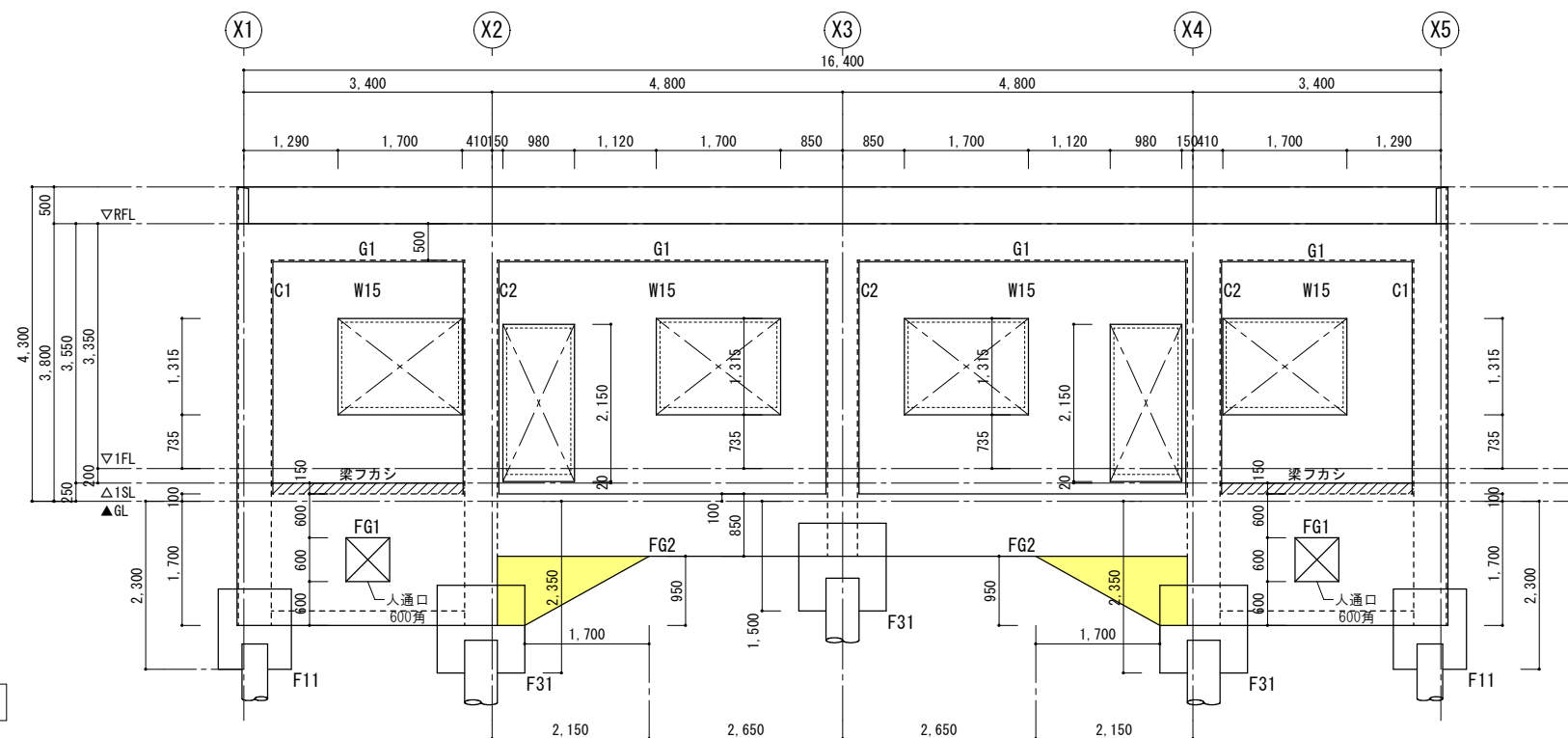
有限会社 長嶺総合設計 長嶺 安一
 一級建築士事務所 知事登録 第 128-2236号
 一級建築士 第 141385号
 構造設計一級建築士 第 9036号



| | | | |
|-------|-----------------|-------|-------------|
| 工事名称 | 大富田地建替工事(建築) | 工事年度 | 令和7年度 |
| 工事場所 | 竹富町字南風見仲地内 | 図面名称 | 2LDK棟 R階梁伏図 |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | S=1:50 |
| 摘要 | | 図面番号 | S-14 |
| 検印 | 管理建築士 | 設計 | 製図 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| 名称 | (有)朝吹設計事務所 | | |
| 資格者氏名 | 代表者 | 朝吹 一郎 | |
| 登録番号 | 一級建築士 第114962号 | | |
| 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 | | |

Y1通り軸組図



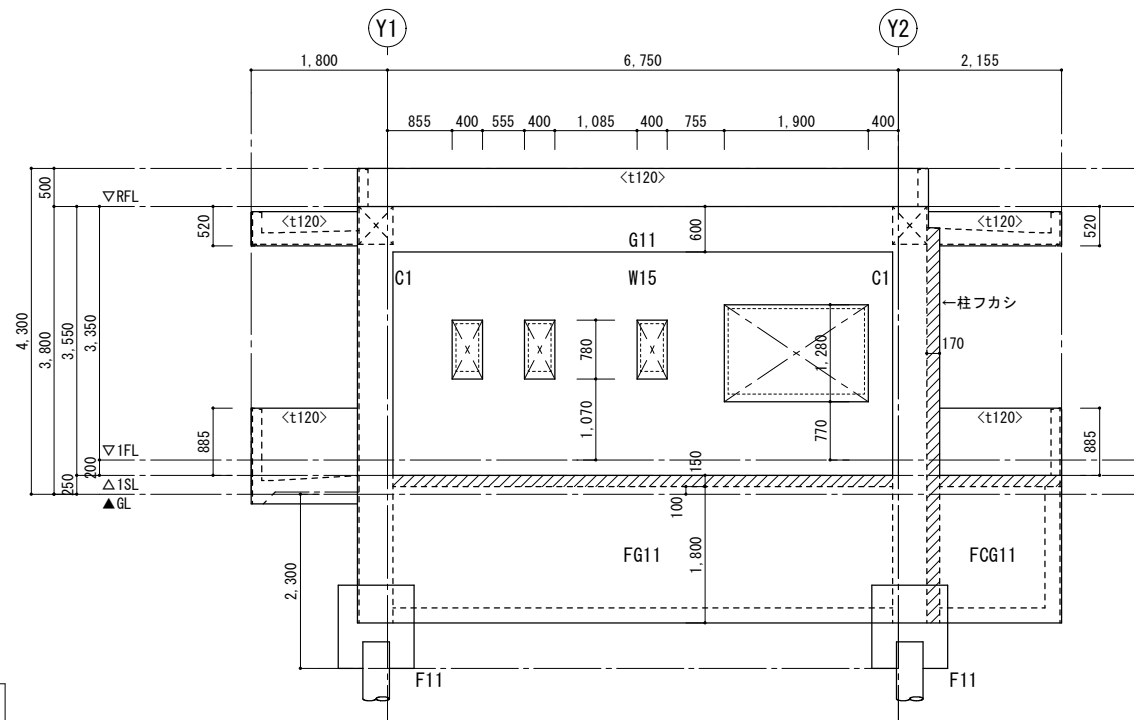
Y2通り軸組図



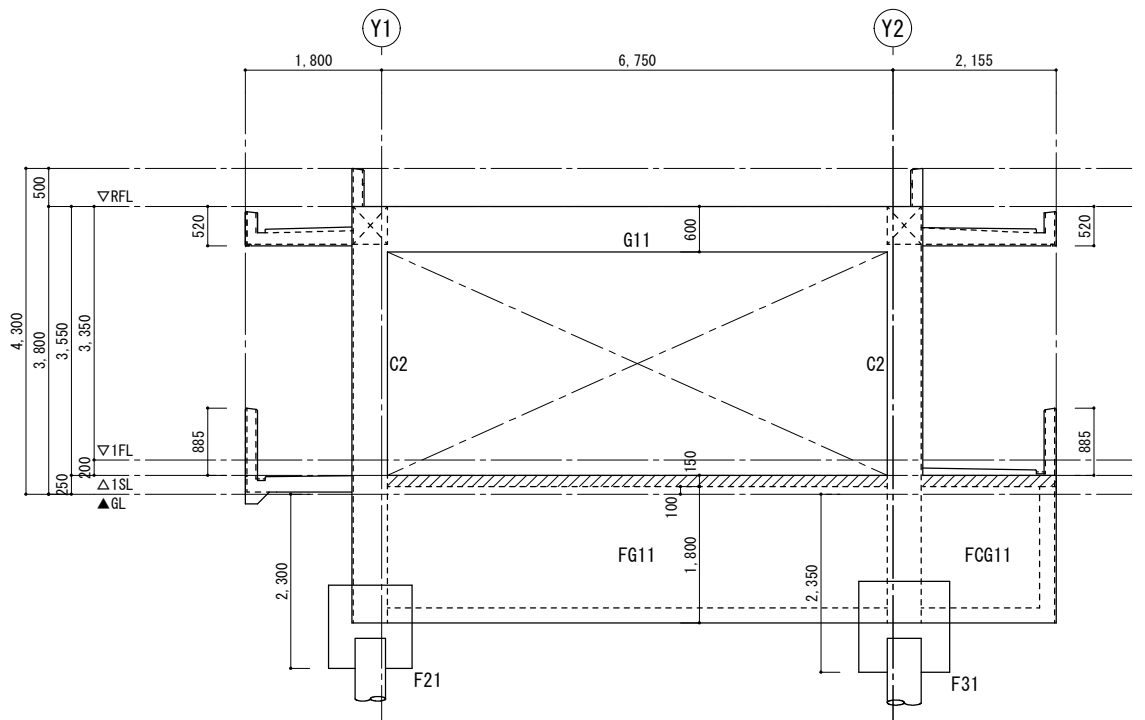
凡例 *特記なき下記による
 柱梁打増し補強 : [S-06]参照
 基礎接合部補強 : [S-18]参照

有限会社 長嶺総合設計 長嶺 安一
 一級建築士事務所 知事登録 第 128-2236号
 一級建築士 第 141385号
 構造設計一級建築士 第 9036号

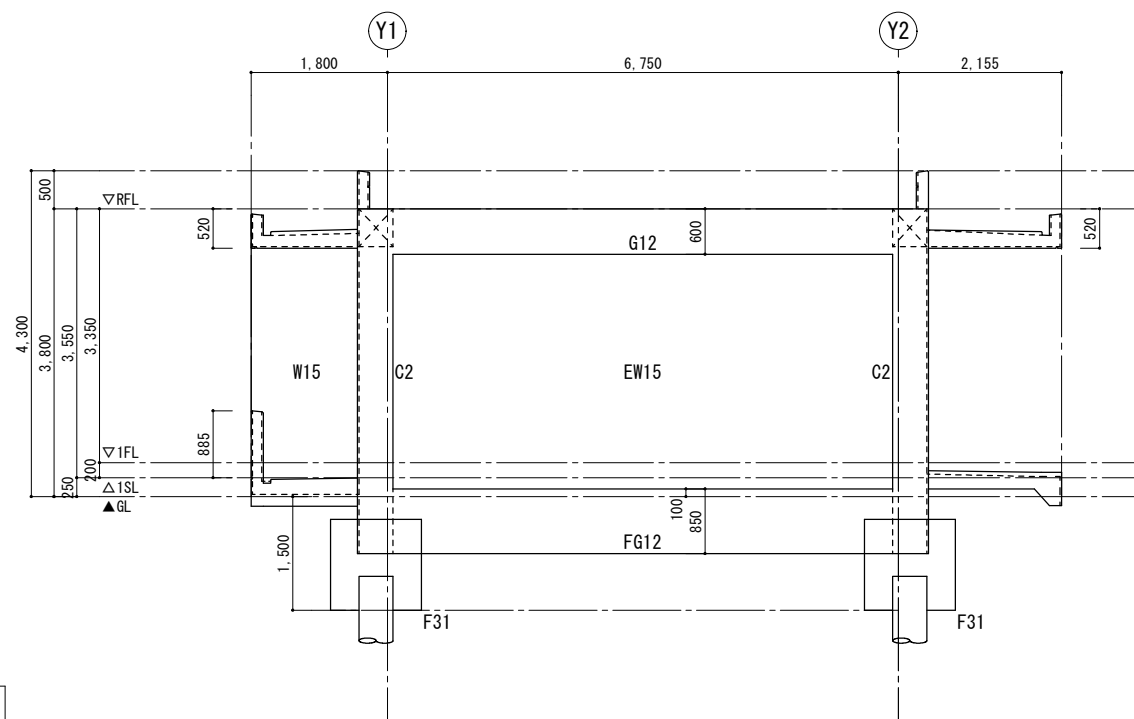
| | | | |
|------|-----------------|----------------|------------------|
| 工事名称 | 大富田地建替工事 (建築) | 工事年度 | 令和 7 年度 |
| 工事場所 | 竹富町宇南風見仲地内 | 図面名称 | 2LDK棟 Y1・Y2通り軸組図 |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | S=1:50 |
| 摘要 | | 図面番号 | S-15 |
| 検印 | 管理建築士 | 設計 | 製図 |
| | 名称 | (有)朝吹設計事務所 | |
| | 資格者氏名 | 代表者 | 朝吹 一郎 |
| | 登録番号 | 一級建築士 第114962号 | |
| 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 | | |




X1通り軸組図



X2通り軸組図

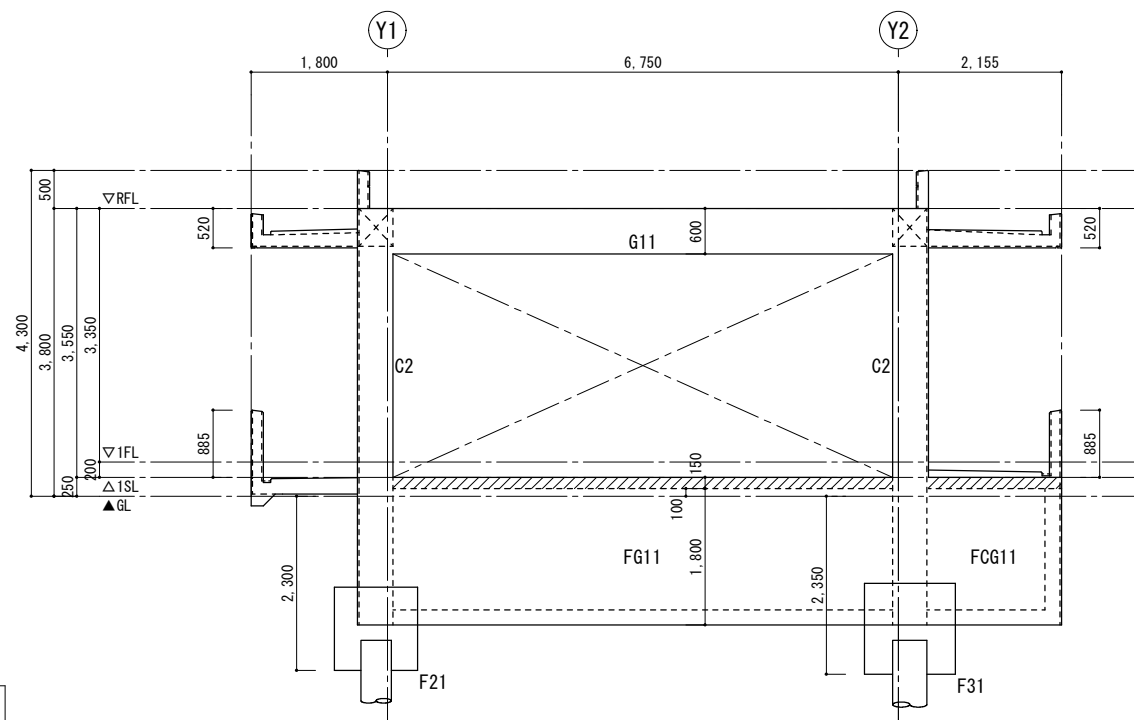


X3通り軸組図

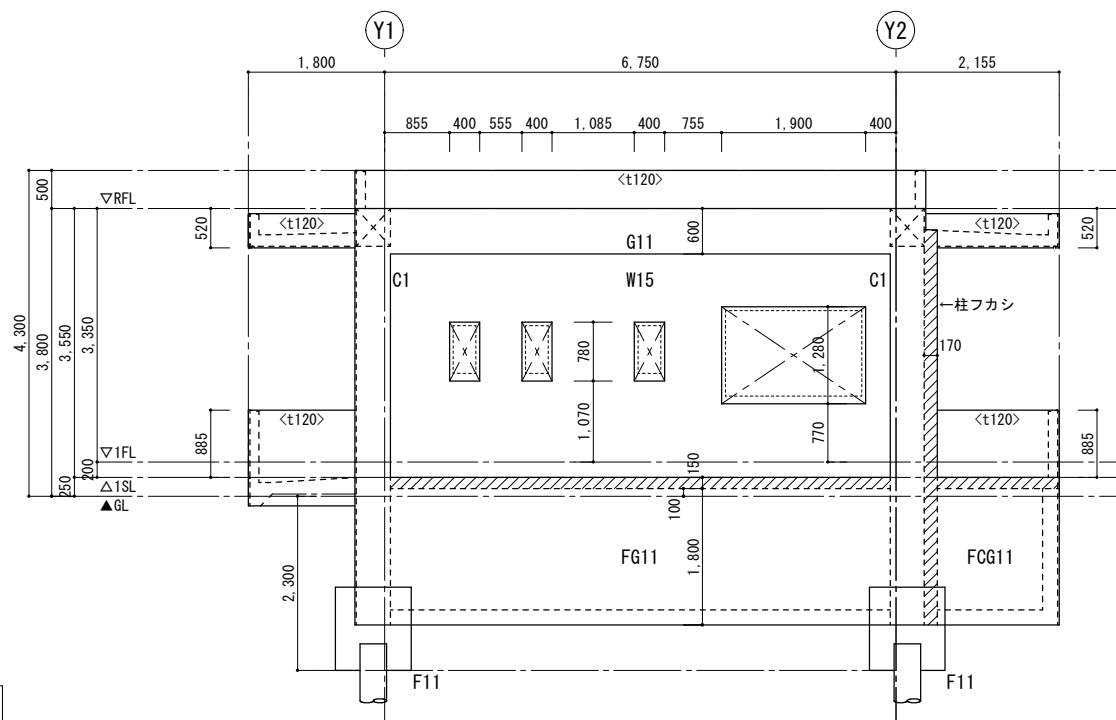
凡例 *特記なき下記による
 柱打増し補強 : [S-06]参照

有限会社 長嶺総合設計 長嶺 安一
 一級建築士事務所 知事登録 第 128-2236号
 一級建築士 第 141385号
 構造設計一級建築士 第 9036号


| | | | |
|-------|-----------------|-------|---------------------|
| 工事名称 | 大富団地建替工事(建築) | 工事年度 | 令和7年度 |
| 工事場所 | 竹富町字南風見仲地内 | 図面名称 | 2LDK棟 X1・X2・X3通り軸組図 |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | S=1:50 |
| 摘要 | | 図面番号 | S-16 |
| 検印 | 管理建築士 | 設計 | 製図 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| 名称 | (有)朝吹設計事務所 | | |
| 資格者氏名 | 代表者 | 朝吹 一郎 | |
| 登録番号 | 一級建築士 第114962号 | | |
| 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 | | |



X4通り軸組図

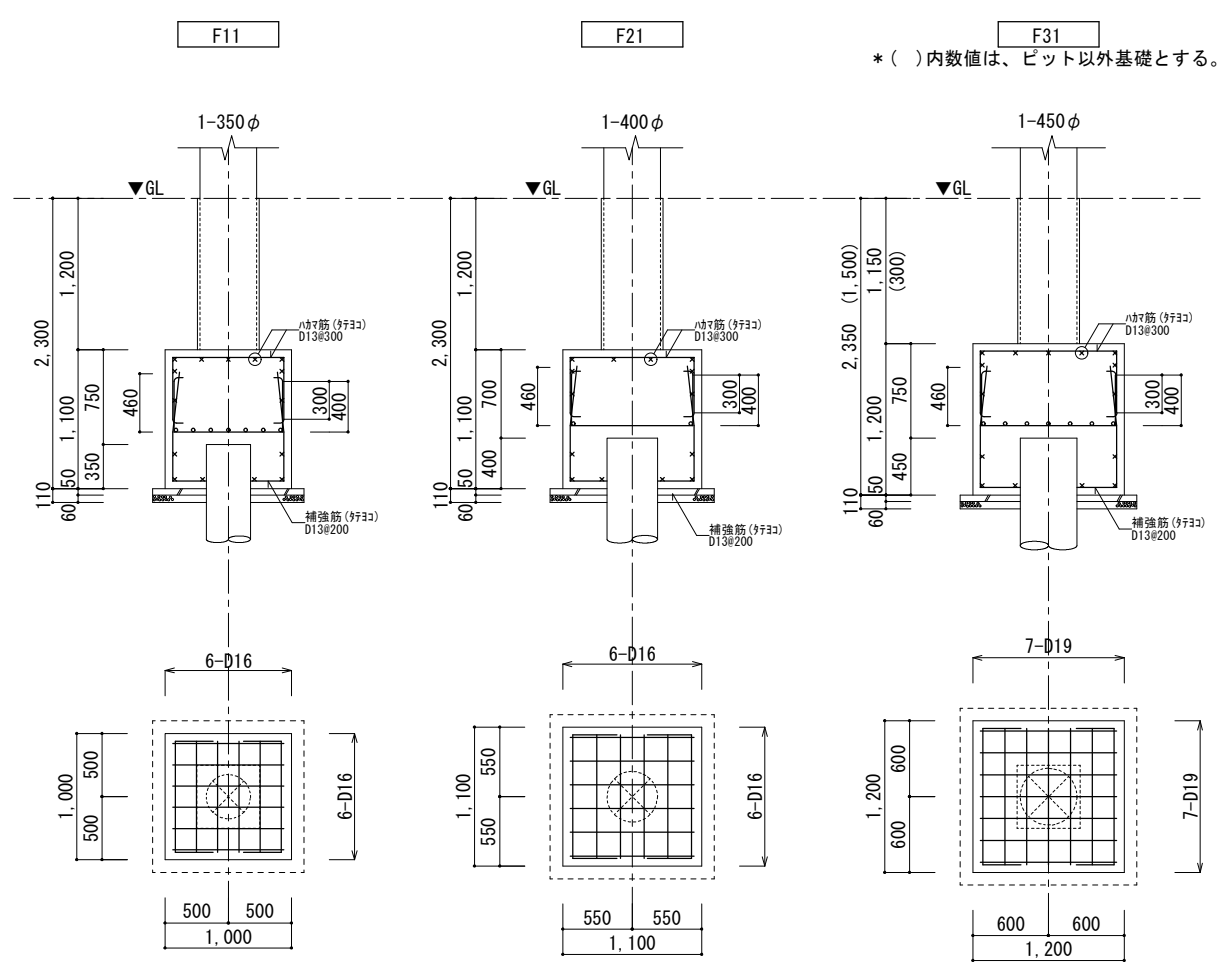


X5通り軸組図

凡例 *特記なき下記による
 柱打増し補強 : [S-06]参照

| | | | |
|-------|-----------------|----------|------------------|
| 工事名称 | 大富団地建替工事(建築) | 工事年度 | 令和7年度 |
| 工事場所 | 竹富町字南風見仲地内 | 図面名称 | 2LDK棟 X4・X5通り軸組図 |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | S=1:50 |
| 摘要 | | 図面番号 | S-17 |
| 検印 | 管理建築士 | 設計 | 製図 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| 名称 | 衛朝吹設計事務所 | | |
| 資格者氏名 | 代表者 | 朝吹 一郎 | |
| 登録番号 | 一級建築士 | 第114962号 | |
| 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 | | |

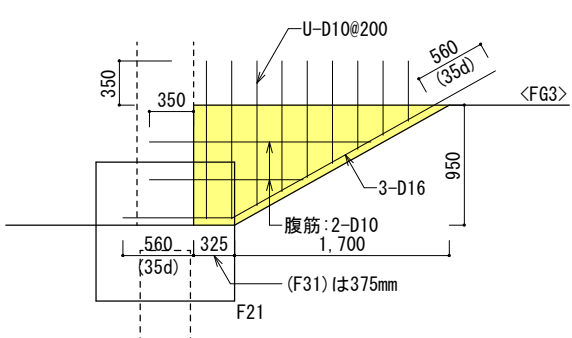
基礎リスト S=1/30 ・杭頭接合部要領：[図1]参照



* ()内数値は、ピット以外基礎とする。

F31基礎底

| | |
|-----------|-----------|
| Y1, Y2/X3 | (GL-1500) |
| Y2/X2, X4 | GL-2350 |



基礎接合部配筋要領 S=1/30
FG3-F21 (F31)、S-15参照

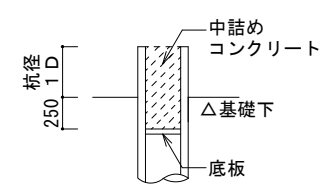


図1. 杭頭接合部要領 S=1/30

基礎大梁リスト S=1/30 ・巾止め筋・段受け筋：D10@1000

| 符号 | X方向梁 | | Y方向梁 | |
|--------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | FG1 | FG2 | FG11 | FG12 |
| 断面名 | 全断面 | 全断面 | 全断面 | 全断面 |
| 断面図 | | | | |
| 上端筋 | 4-D19 | 4-D19 | 3-D19 | 3-D19 |
| 下端筋 | 4-D19 | 4-D19 | 3-D19 | 3-D19 |
| スターラップ | □ - D13@200 | □ - D10@200 | □ - D13@200 | □ - D10@200 |
| 腹筋 | 10-D13 | 2-D10 | 10-D13 | 2-D10 |

凡例 *特記なき下記による
 梁上打増し補強：[S-06]参照

基礎小梁リスト S=1/30 ・巾止め筋・段受け筋：D10@1000

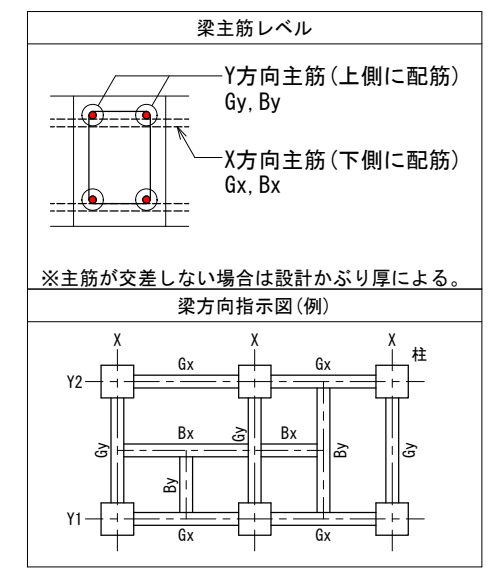
| 符号 | X方向梁 | | Y方向梁 | |
|--------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | FB1 | FB20 | FCG11 | FCG12 |
| 断面名 | 他端・中央 | X3端 | 全断面 | 全断面 |
| 断面図 | | | | |
| 上端筋 | 3-D19 | 3/2-D19 | 2/2-D16 | 3/2-D19 |
| 下端筋 | 3-D19 | 3-D19 | 2/2-D16 | 3-D19 |
| スターラップ | □ - D10@200 | □ - D13@200 | □ - D13@200 | □ - D13@150 |
| 腹筋 | - | - | 14-D13 | 10-D13 |

小梁リスト S=1/50

| 符号 | 1B1 |
|--------|-------------|
| 断面名 | 全断面 |
| 断面図 | |
| 上端筋 | 2-D19 |
| 下端筋 | 2-D19 |
| スターラップ | □ - D10@200 |
| 腹筋 | - |

柱リスト S=1/30 ・仕口内フープ：□-D10@150

| 階 | 符号 | 断面名 | | |
|----|-----|--------|-------------|-------------|
| | | C1 | C2 | |
| 2F | 断面図 | | | |
| | | コンクリート | 450x450 | 450x450 |
| | | 主筋 | 16-D19 | 12-D19 |
| | | フープ | □ - D10@100 | □ - D10@100 |



特記事項 (部材フカシ)

- ・土に面する柱及び基礎梁は、[20mmフカシ]とする。
- ・仕上げフカシは、意匠図参照とする。

有限会社 長嶺総合設計 長嶺 安一
 一級建築士事務所 知事登録 第 128-2236号
 一級建築士 第 141385号
 構造設計一級建築士 第 9036号

| | | | |
|------|-----------------|----------------|----------------|
| 工事名称 | 大富田地建替工事(建築) | 工事年度 | 令和7年度 |
| 工事場所 | 八重山郡竹富町字南風見仲地内 | 図面名称 | 2LDK棟 部材リスト(1) |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | S=1:30 |
| 摘要 | 図面番号 S-18 | | |
| 検印 | 管理建築士 | 設計 | 製図 |
| | 名称 | 衛朝吹設計事務所 | |
| | 資格者氏名 | 代表者 | 朝吹 一郎 |
| | 登録番号 | 一級建築士 第114962号 | |
| 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 | | |

大梁リスト S=1/30 ・巾止め筋・段受け筋：D10@1000

| 階 | 符号 | X方向梁 | | Y方向梁 | | |
|-----|---------------|-------------|-------|-------------|-------|-------------|
| | | G1 | G11 | G11 | G12 | |
| RFL | 断面名 | 全断面 | | 端部 | 中央 | |
| | | | | | | |
| | 上端筋 | 5-D19 | | 4-D19 | | |
| | 下端筋 | 4-D19 | | 4/2-D19 | | 4-D19 |
| | スターラップ | □ - D13@150 | | □ - D10@200 | | □ - D10@200 |
| 腹筋 | 2-D16(定着長35d) | | 2-D10 | | 2-D10 | |

小梁リスト S=1/30

| 階 | 符号 | X方向梁 | |
|------|--------|-------------|-----|
| | | RB1 | 全断面 |
| 2-RF | 断面名 | | |
| | 上端筋 | 3-D19 | |
| | 下端筋 | 3-D19 | |
| | スターラップ | □ - D10@200 | |
| | 腹筋 | — | |

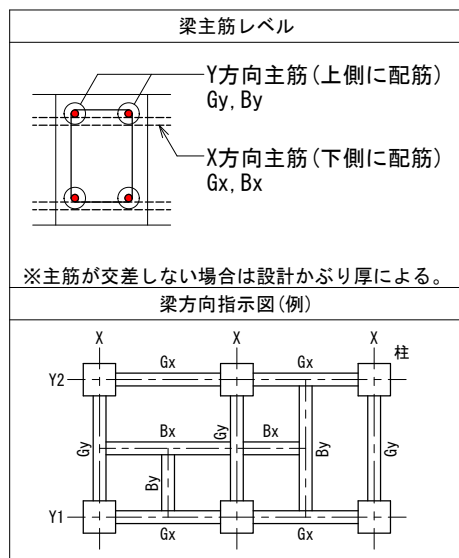
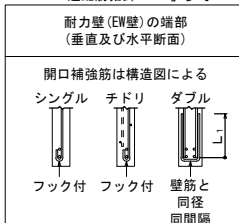
特記事項 (部材フカシ)

・仕上げフカシは、意匠図参照とする。

壁リスト

| 符号 | 壁厚 | 壁配筋 | | | 開口(端部)補強筋 | | | |
|----------|-----|------|---------|---------|-----------|-------|-------|-------|
| | | 配筋 | 縦筋 | 横筋 | 縦 | 横(上) | 横(下) | 斜め |
| W10 | 100 | シングル | D10@150 | D10@150 | 2-D13 | 2-D13 | 2-D13 | - |
| W12 | 120 | シングル | D10@150 | D10@150 | 2-D13 | 2-D13 | 2-D13 | 1-D13 |
| W15・EW15 | 150 | シングル | D10@150 | D10@150 | 2-D13 | 2-D16 | 2-D13 | 1-D13 |

「RC造配筋指針 2021」参考

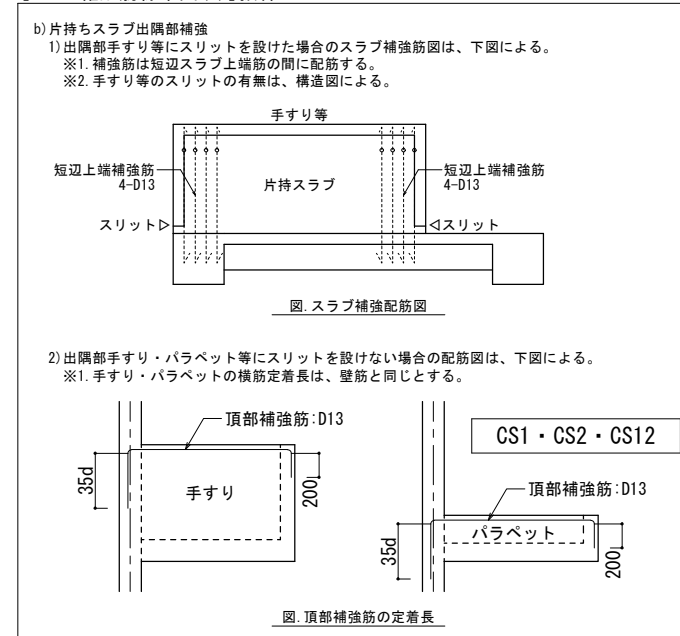


スラブリスト ・特記なき、S・四辺支持、CS・片持支持、FS・土間コンとする。

| 符号 | スラブ厚 | スラブ配筋 | | | 備考 |
|------|---------|-------|------------|------------|-----------|
| | | 配筋 | 短辺方向 | 長辺方向 | |
| S1 | 150 | 上 | D10D13@200 | D10D13@200 | 1F土間構造スラブ |
| S2 | 200 | 上 | D13@150 | D10D13@200 | |
| S11 | 160 | 上 | D10D13@200 | D10D13@200 | 1Fピット下 |
| FS1 | 200 | 上 | D10D13@200 | D10D13@200 | |
| FS11 | 150 | シングル | D10@150 | D10@150 | 1F犬走り |
| CS1 | 220~150 | 上 | D13@150 | D10D13@200 | RF外廊下庇 |
| CS2 | 180~150 | 上 | D13@150 | D10D13@200 | |
| CS11 | 200~150 | 上 | D13@100 | D13@200 | 1F外廊下 |
| CS12 | 200~150 | 上 | D10D13@100 | D10@200 | |
| | | 下 | D10@150 | D10@200 | 1Fベランダ |
| | | 下 | D10@150 | D10@200 | |

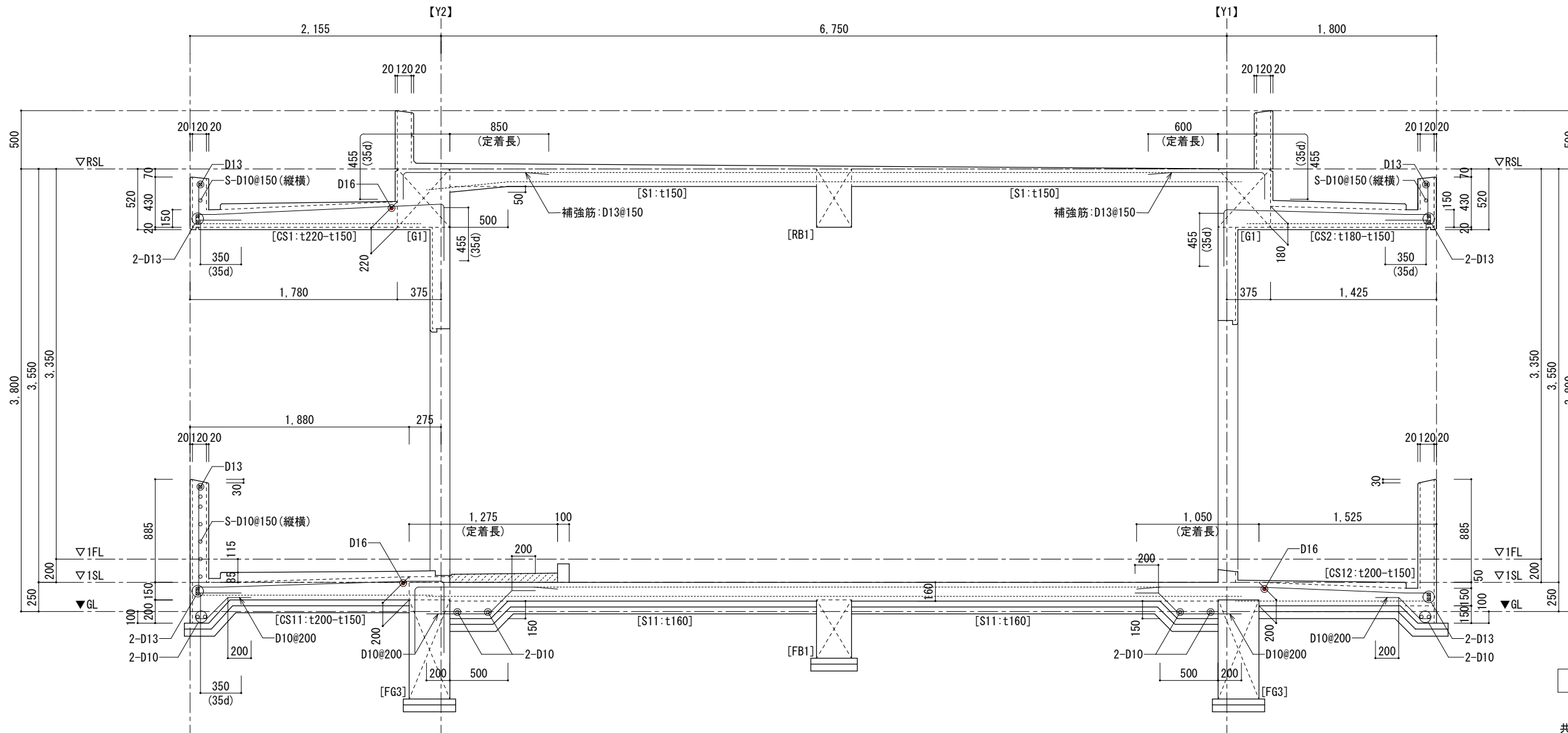
*片持ちスラブ納まりは、S-20による。

[S-06 雑配筋標準図(2)]抜粋 NOSCALE



有限会社 長嶺総合設計 長嶺 安一
 一級建築士事務所 知事登録 第 128-2236号
 一級建築士 第 141385号
 構造設計一級建築士 第 9036号

| | | | |
|------|-----------------|----------------|----------------|
| 工事名称 | 大富団地建替工事 (建築) | 工事年度 | 令和 7 年度 |
| 工事場所 | 八重山郡竹富町字南風見仲地内 | 図面名称 | 3LDK棟 部材リスト(2) |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | S=1:30 |
| 摘要 | 図面番号 S-19 | | |
| 検印 | 管理建築士 | 設計 | 製図 |
| | 名称 | 衛朝吹設計事務所 | |
| | 資格者氏名 | 代表者 | 副次 一部 |
| | 登録番号 | 一級建築士 第114962号 | |
| 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 | | |



雑詳細図 (X2-X4間) S=1/20

- 共通事項
- ・特記なき配筋は、部材リストによる。
 - ・基礎梁天端 = GL+100

有限会社 長嶺総合設計 長嶺 安一
 一級建築士事務所 知事登録 第 128-2236号
 一級建築士 第 141385号
 構造設計一級建築士 第 9036号

| | | | |
|------|----------------|-----------------|------------|
| 工事名称 | 大富団地建替工事 (建築) | 工事年度 | 令和 7 年度 |
| 工事場所 | 八重山郡竹富町字南風見仲地内 | 図面名称 | 2LDK棟 雑詳細図 |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | S=1:20 |
| 摘要 | | 図面番号 | S- 20 |
| 検印 | 管理建築士 | 設計 | 製図 |
| | 名 称 | 衛朝吹設計事務所 | |
| | 資格者氏名 | 代表者 | 朝吹 一郎 |
| | 登録番号 | 一級建築士 第 114962号 | |
| | 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 | |

7節 梁貫通孔及びその他の配筋 *S-05抜粋

基礎梁 人通口補強 S=1/20

・基礎梁FG2

基礎梁 貫通孔補強 S=1/20

・基礎梁FG2

7.1 梁貫通孔の配筋

- (1) 梁貫通孔補強筋の名称等は、図7.1による。
- (2) 孔の径は、梁せいの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこの外接円とする。
- (3) 孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端よりD/3 (Dは梁せい)の範囲には設けてはならない。
- (4) 孔は、柱面から、原則として、1.5D以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。
- (5) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
- (6) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
- (7) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図7.2による。
- (8) 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のもの(軽微な開口)で鉄筋を緩やかに曲げるにより開口部を避けて配筋できる場合において構造図に特記されたものは、補強を省略することができる。
- (9) 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
- (10) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-13φのリング筋を取り付ける。
なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
- (11) 溶接金網の割付け始点は、横筋であばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。

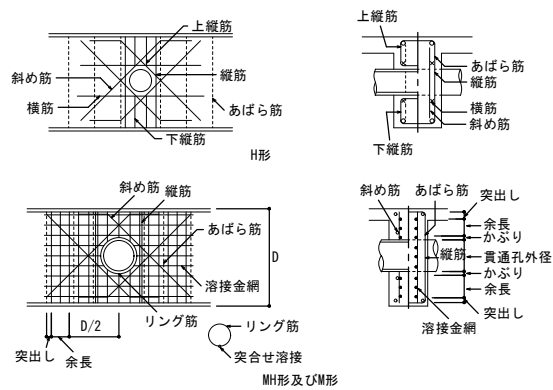
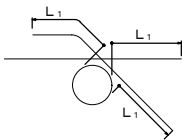
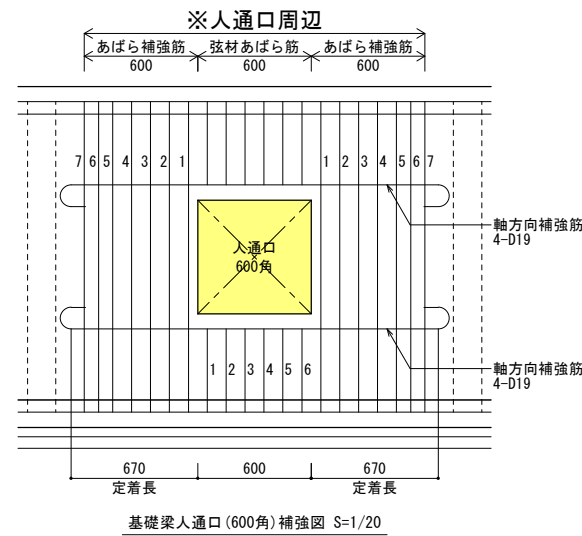


図7.1 梁貫通孔補強筋の名称等



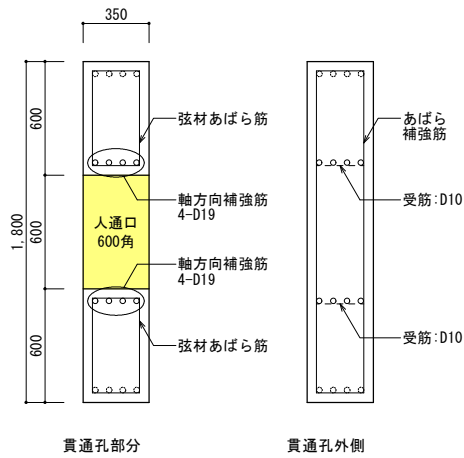
貫通孔が円形の場合
図7.2 補強筋の定着長さ



梁内人通口：600角

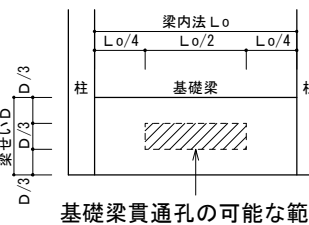
| 梁符号 | 軸方向補強筋 (上下) | 弦材あばら筋 (上下) | あばら補強筋 (片側) |
|-----|----------------|----------------------|----------------------|
| FG2 | 4-D19 (上下) | □-D13@100 x6ヶ(上下) | □-D13@100 x7ヶ(片側) |

・※人通口周辺(縦筋・上下縦筋部分)は、基礎梁のあばら筋は不要とする。

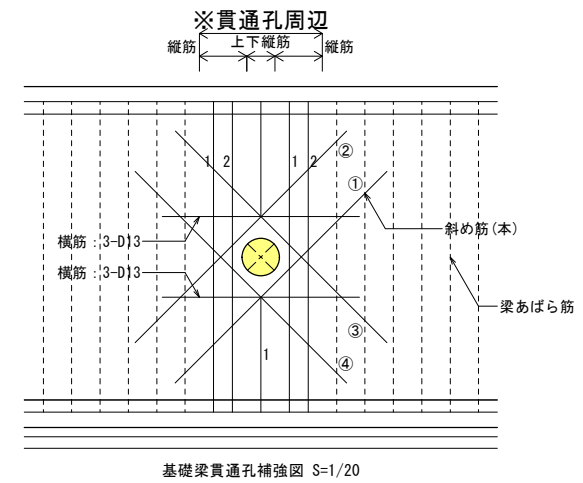


貫通孔部分

貫通孔外側



基礎梁貫通孔の可能な範囲

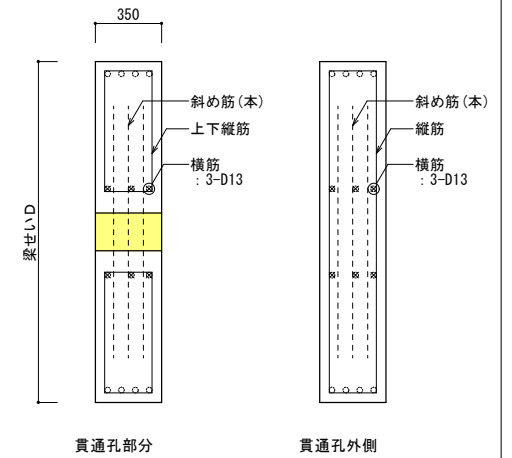


基礎梁貫通孔補強図 S=1/20
(φ150mm以上φ250mm以下)

梁貫通孔：φ150mm以上φ250mm以下

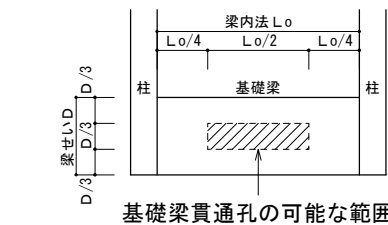
| 梁符号 | 斜め筋 | 縦筋(片側) | 上下縦筋 |
|-----|-----------|----------------------|------------------|
| FG2 | ④ヶx3本-D16 | □-D13@100 x2ヶ(片側) | □-D13 x1ヶ(上下) |

・※貫通孔周辺(縦筋・上下縦筋部分)は、基礎梁のあばら筋は不要とする。

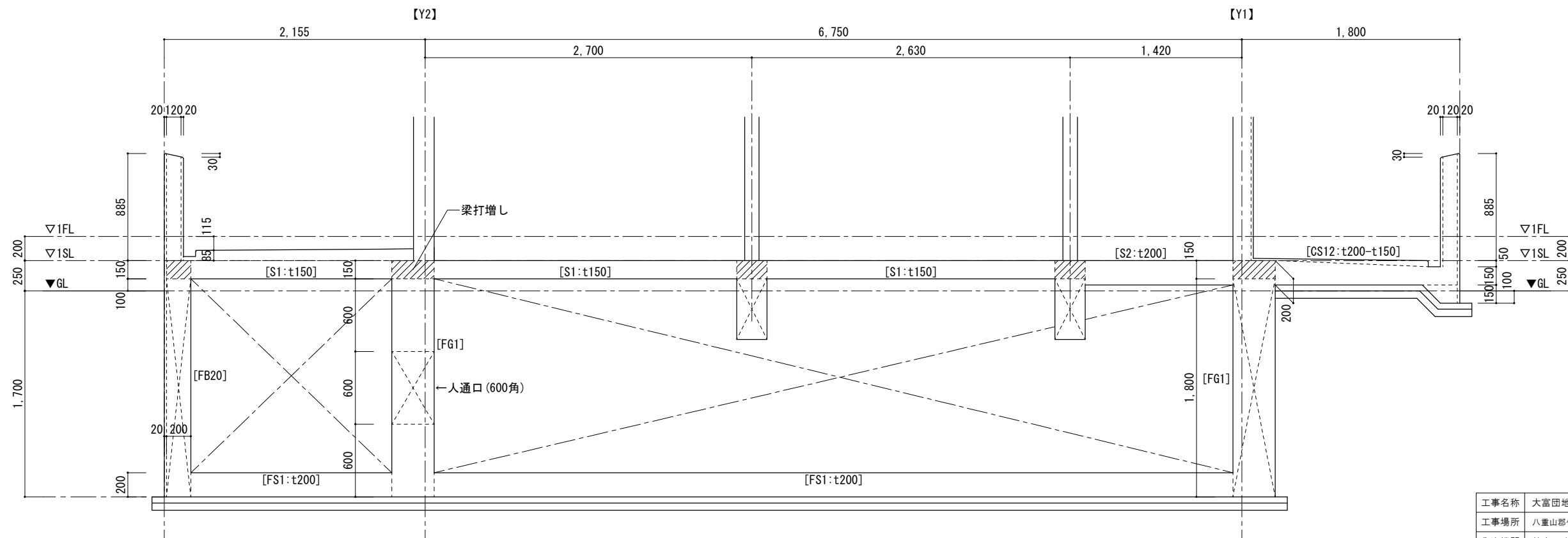


貫通孔部分

貫通孔外側



基礎梁貫通孔の可能な範囲



ピット納まり図 S=1/20
・基礎梁天端 = GL+100

凡例 *特記なき下記による

梁打増し補強：[S-06]参照

有限会社 長嶺総合設計 長嶺 安一
一級建築士事務所 知事登録 第 128-2236号
一級建築士 第 141385号
構造設計一級建築士 第 9036号

| | | | |
|------|----------------|-------|-----------------------|
| 工事名称 | 大富団地建替工事(建築) | 工事年度 | 令和7年度 |
| 工事場所 | 八重山郡竹富町字南風見仲地内 | 図面名称 | 2LDK棟 基礎梁貫通孔補強 S=1/20 |
| 発注機関 | 竹富町まちづくり課 | 縮尺 | |
| 摘要 | | 図面番号 | S-21 |
| 検印 | 管理建築士 設計 製図 | 名称 | 衛朝吹設計事務所 |
| | | 資格者氏名 | 代表者 朝吹 一部 |
| | | 登録番号 | 一級建築士 第114962号 |
| | | 所在地 | 沖縄県石垣市浜崎町2-3-32 |